

令和5（2023）年度

栃木県政世論調査

調査報告書

令和5（2023）年10月

栃木県



# 目次

---

I	調査の概要	1
II	サンプル・デザイン	3
III	調査回答者のプロフィール	7
IV	調査結果の詳細	11
1	暮らしの変化について	
(1)	暮らしの変化	11
(2)	暮らしが悪くなった理由	14
(3)	暮らしの満足度	19
(4)	今後の暮らしの状況	22
(5)	今後の暮らしで力を入れる点	25
2	県政への要望について	
(1)	県政への要望	28
3	日常生活について	
(1)	文化・芸術活動について	34
(2)	スポーツ活動について	37
(3)	住んでいる地域について	41
(4)	社会貢献活動について	44
(5)	県の事業や催し、案内などの情報入手手段	48
(6)	知りたい県政情報	51
4	栃木県への愛着と誇りについて	
(1)	栃木県に対する愛着	54
(2)	栃木県に愛着を感じる理由	57
(3)	栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの	60
5	SDGsについて	
(1)	SDGsの認知度	63
(2)	SDGsのどのようなことを知っているか	66
6	地域防災について	
(1)	災害に対する備え	70
(2)	災害の際に必要な情報について知っていること	73
(3)	防災訓練の参加状況	77

# 目次

---

<b>7 男女平等意識について</b>	
（1）社会全体の中での男女の地位の平等感	80
（2）固定的な性別役割分担意識	83
（3）働く場での男女の地位の平等感	86
<b>8 とちぎの元気な森づくり県民税について</b>	
（1）重要と考える森林の働き	89
（2）「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの	92
<b>9 気候変動対策について</b>	
（1）気候変動による影響について知っていること	96
（2）「カーボンニュートラル」という言葉の認知度	100
（3）実際に行っている気候変動対策	103
<b>10 地域のつながりについて</b>	
（1）現在のご近所との関係	109
（2）日常生活で困ったときに相談できる場所	112
<b>11 地域活動について</b>	
（1）地域活動が活発に行われているか	115
（2）地域活動への参加状況	118
<b>12 ケアラーについて</b>	
（1）「ケアラー」という言葉の認知度	121
（2）ケアラー当事者になる可能性	124
（3）ケアラーへの支援策	127
<b>13 食の安全・安心について</b>	
（1）食品の安全性に対する不安	131
（2）食品の安全性について不安に思うもの	134
（3）食の安全に関する情報を得られているか	137
<b>14 食に関する意識と実践について</b>	
（1）生鮮食品購入の際、産地を確認しているか	140
（2）農業体験をした経験	143
<b>15 犯罪と治安対策について</b>	
（1）県内の治安状況への認識	146
（2）不安を感じる犯罪	149
（3）交通事故を抑止するための対策	154

目 次

---

V 調査票 ..... 159



# I 調査の概要





# I 調査の概要

## 1 調査目的

この調査は、現在あるいは今後解決すべき課題について、県民の県政に対する意識・要望などを的確に把握し、県政施策の企画・立案及び県政執行上の参考とすることを目的とする。

## 2 調査項目

- |                    |                        |
|--------------------|------------------------|
| (1) 暮らしの変化について*    | (6) 地域防災について           |
| (2) 県政への要望について*    | (7) 男女平等意識について         |
| (3) 日常生活について*      | (8) とちぎの元気な森づくり県民税について |
| ア 文化・芸術活動について      | (9) 気候変動対策について         |
| イ スポーツ活動について       | (10) 地域のつながりについて       |
| ウ 住んでいる地域について      | (11) 地域活動について          |
| エ 社会貢献活動について       | (12) ケアラーについて※         |
| オ 県政情報の入手方法について    | (13) 食の安全・安心について       |
| (4) 栃木県への愛着と誇りについて | (14) 食に関する意識と実践について    |
| (5) SDGs について      | (15) 犯罪と治安対策について       |

(※印は時系列調査、※印は新規調査)

## 3 調査設計

- |          |                               |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査地域 | 栃木県全域                         |
| (2) 調査対象 | 満18歳以上の男女個人                   |
| (3) 標本数  | 2,000                         |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法                    |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布－郵送回収又はインターネット回収の選択式） |
| (6) 調査時期 | 令和5（2023）年6月5日～6月30日          |

#### 4 調査機関

株式会社タイム・エージェント

#### 5 回収結果

回収数 1,115件 (うち郵送回収数825件、インターネット回収数290件)

回収率 55.8% (うち郵送回収率41.3%、インターネット回収率14.5%)

#### 6 報告書の見方

- (1) 比率はすべて百分比で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100.0%にならないことがある。
- (2) 基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率は件数を100%として算出した。
- (3) 1人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100%を上回ることがある。
- (4) 図表・本文では、スペースの都合等により回答選択肢を省略して表記している場合がある。
- (5) クロス集計では、分析軸の「無回答」を掲載していないため、分析軸における各項目のnの合計値と全体の数値とが合わない場合がある。
- (6) クロス集計時に、nが小さい数字になる場合は統計的誤差が生じる可能性が高いので注意が必要である。特に、男性18～19歳の回答者は5人、女性18～19歳の回答者は6人と少ないため、グラフの見かけ上、他の性/年齢と比べて顕著な傾向の違いがある場合でも、グラフの説明においては一律にふれていない。また、性別を「回答しない」の回答者が16人と少ないため、図表化していない。
- (7) この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95%とする。

$$b = 2\sqrt{2 \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}} \quad \left( \begin{array}{l} b = \text{標本誤差} \quad N = \text{母集団数} \\ P = \text{回答比率} \quad n = \text{比率算出の基数 (サンプル数)} \end{array} \right)$$

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

回答比率(P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,115 人	±2.54%	±3.39%	±3.88%	±4.15%	±4.24%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
700	±3.21%	±4.28%	±4.90%	±5.24%	±5.35%
400	±4.24%	±5.66%	±6.48%	±6.93%	±7.07%
200	±6.00%	±8.00%	±9.17%	±9.80%	±10.00%
100	±8.49%	±11.31%	±12.96%	±13.86%	±14.14%

※上表は  $\frac{N-n}{N-1} \div 1$  として算出している。

<注/この表の見方>

例えば、「ある設問の回答者数が1,115人あり、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±4.15%以内(55.85%～64.15%)である」とみることができる。

## Ⅱ サンプル・デザイン



## II サンプル・デザイン

母集団：栃木県内の市町に居住する満18歳以上の男女

標本数：2,000

地点数：市部 118地点

町部 17地点

計 135地点

抽出法：層化二段無作為抽出法

### [層化]

1. 県内を市町単位に、次の3地域に分類した。

地域名	該 当 市 町 名
県北地域	那 須 {大田原市、那須塩原市、那須町} 日 光 {日光市} 塩 谷 {矢板市、さくら市、塩谷町、高根沢町} 南那須 {那須烏山市、那珂川町}
県央地域	宇都宮 {宇都宮市、上三川町、壬生町} 鹿 沼 {鹿沼市} 芳 賀 {真岡市、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町}
県南地域	小 山 {小山市、下野市、野木町} 栃 木 {栃木市} 両 毛 {足利市、佐野市}

2. 各地域内においては、さらに市町規模によって「宇都宮市」「宇都宮市以外の市」「町」に分類し、層化した。

(注) ここでいう市とは、令和5(2023)年4月1日現在市制施行の地域である。

### [標本数の配分]

各地域・市町規模の層における18歳以上の人口数(令和4(2022)年10月1日現在)により、2,000の標本数を比例配分した。

[抽出]

1. 平成27（2015）年国勢調査時に設定された調査区を、第1次抽出単位となる調査地点として使用した。
2. 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が14から16になるように、各層に割り当てられた標本数により算出し、調査地点数を決定した。
3. 調査地点の抽出は、調査地点が2地点以上に割り当てられた層については、  

$$\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
4. 抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、令和5（2023）年4月1日現在における「市区町村コード一覧」に従った。
5. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地・字等を指定）の住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
6. 以上の結果、各地域・市町別（層別）の標本数・調査地点数は次のとおりである。

市町 地域	宇都宮市	宇都宮市以外の市	町	計
県北		305,636	66,875	372,511
		380	84	464
		(25)	(6)	(31)
県央	422,075	143,829	108,147	674,051
	526	182	132	840
	(36)	(12)	(9)	(57)
県南		537,129	21,105	558,234
		668	28	696
		(45)	(2)	(47)
計	422,075	986,594	196,127	1,604,796
	526	1,230	244	2,000
	(36)	(82)	(17)	(135)

(注) 上段：令和4（2022）年10月1日現在の母集団数

中段：対象数

下段：（ ）内は地点数

調査地点一覧

地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)	地域	対象地点名	標本数(人)
県北 (那須)	大田原市城山2丁目	15	県中央 (宇都宮)	宇都宮市石井町	15	県南 (小山)	小山市八幡町2丁目	14
	大田原市本町1丁目	15		宇都宮市平出町	15		小山市駅南町1丁目	14
	大田原市加治屋	15		宇都宮市上横田町	15		小山市神鳥谷2丁目	14
	大田原市大神	15		宇都宮市平松本町	15		小山市城東6丁目	14
	大田原市黒羽向町	15		宇都宮市東木代町	15		小山市大字横倉新田	14
	那須塩原市住吉町	15		宇都宮市竹林町	15		小山市大字乙女	14
	那須塩原市豊浦	15		宇都宮市横山町	15		小山市大字南小林	14
	那須塩原市越堀	15		宇都宮市大谷町	15		小山市扶桑2丁目	14
	那須塩原市大字沓掛	15		宇都宮市上欠町	15		小山市西城南6丁目	14
	那須塩原市永田町	15		宇都宮市鶴田町	15		小山市東間々田1丁目	14
	那須塩原市一区町	15		宇都宮市西川田1丁目	15		小山市犬塚5丁目	14
	那須塩原市太夫塚2丁目	15		宇都宮市西川田南1丁目	15		小山市美しが丘1丁目	15
	那須塩原市下田野	15		宇都宮市五代1丁目	15		下野市緑2丁目	16
	那須郡那須町大字高久乙	14		宇都宮市雀の宮2丁目	15		下野市柴	16
那須郡那須町大字伊王野	14	宇都宮市みどり野町	15	下野市駅東5丁目	16			
県北 (日光)	日光市清滝安良沢町	16	宇都宮市峰1丁目	15	下野市文教1丁目	16		
	日光市瀬川	16	宇都宮市陽東4丁目	15	下野市野木町大字野木	14		
	日光市板橋	16	宇都宮市富士見が丘1丁目	15	下野市野木町大字佐川野	14		
	日光市塩野室町	16	宇都宮市清原台5丁目	15	栃木市城内町2丁目	15		
	日光市中央町	16	宇都宮市中里町	15	栃木市片柳町1丁目	15		
県北 (塩谷)	矢板市東町	16	宇都宮市東岡本町	15	栃木市平井町	15		
	矢板市平野	16	宇都宮市中今泉1丁目	15	栃木市箱森町	15		
	さくら市上阿久津	15	河内郡上三川町大字上蒲生	16	栃木市大宮町	15		
	さくら市喜連川	15	河内郡上三川町大字石田	16	栃木市今泉町1丁目	15		
	さくら市鷺宿	15	下都賀郡壬生町大字安塚	14	栃木市大光寺町	15		
	塩谷郡塩谷町大字玉生	14	下都賀郡壬生町元町	14	栃木市大平町蔵井	15		
	塩谷郡高根沢町大字平田	14	下都賀郡壬生町寿町	14	栃木市藤岡町蛭沼	15		
	塩谷郡高根沢町光陽台2丁目	14	鹿沼市睦町	14	栃木市都賀町原宿	15		
県北 (南那須)	那須烏山市旭2丁目	14	鹿沼市見野	14	栃木市岩舟町新里	15		
	那須烏山市三箇	14	鹿沼市上殿町	14	足利市通2丁目	15		
	那須郡那珂川町馬頭	14	鹿沼市西茂呂1丁目	15	足利市旭町	15		
県中央 (宇都宮)	宇都宮市泉が丘7丁目	14	鹿沼市茂呂	15	足利市錦町	15		
	宇都宮市上野町	14	鹿沼市楡木町	15	足利市山川町	15		
	宇都宮市越戸町	14	鹿沼市北半田	15	足利市朝倉町2丁目	15		
	宇都宮市宿郷5丁目	14	真岡市荒町4丁目	16	足利市大前町	15		
	宇都宮市戸祭1丁目	14	真岡市亀山1丁目	16	足利市菅田町	15		
	宇都宮市花園町	14	真岡市八條	16	足利市駒場町	15		
	宇都宮市東塙田1丁目	14	真岡市上大沼	16	足利市南大町	15		
	宇都宮市南大通り2丁目	14	真岡市古山	16	足利市久保田町	15		
	宇都宮市元今泉1丁目	14	芳賀郡益子町大字生田目	16	佐野市高砂町	15		
	宇都宮市築瀬3丁目	14	芳賀郡茂木町大字小井戸	14	佐野市植上町	15		
	宇都宮市上戸祭町	14	芳賀郡市貝町大字赤羽	14	佐野市犬伏上町	15		
	宇都宮市中戸祭町	14	芳賀郡芳賀町大字下高根沢	14	佐野市奈良淵町	15		
	宇都宮市今宮4丁目	14			佐野市石塚町	15		
	宇都宮市双葉3丁目	14			佐野市栃本町	15		
				佐野市梅園町	15			
				佐野市富士見町	15			





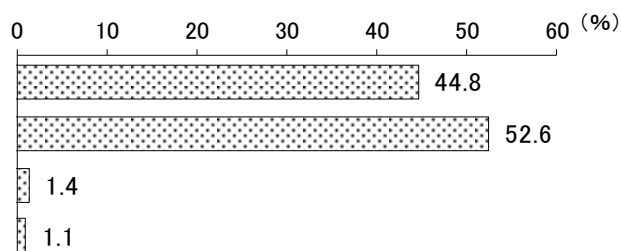
### Ⅲ 調査回答者のプロフィール



### Ⅲ 調査回答者のプロフィール

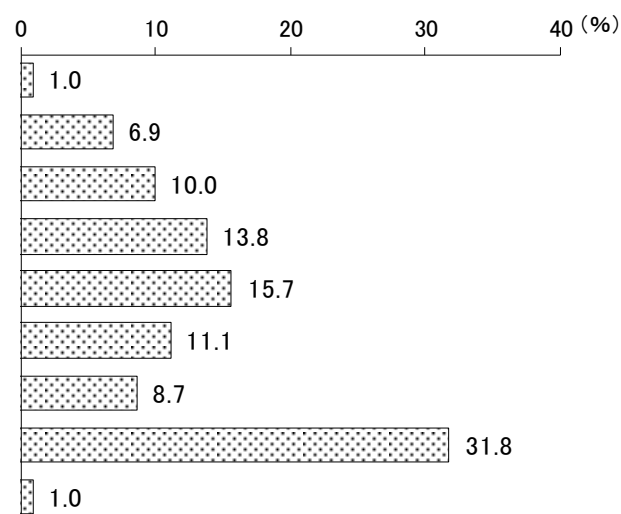
#### (F1) 性別

	件数	構成比
1 男性	500	44.8 %
2 女性	587	52.6
3 回答しない	16	1.4
(無回答)	12	1.1
全 体	1,115	



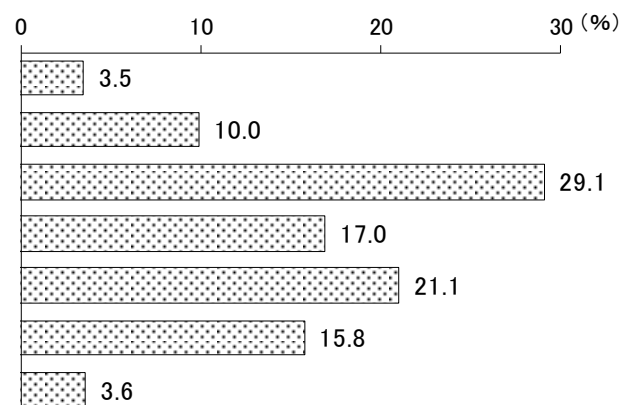
#### (F2) 年齢

	件数	構成比
1 18歳～19歳	11	1.0 %
2 20歳～29歳	77	6.9
3 30歳～39歳	111	10.0
4 40歳～49歳	154	13.8
5 50歳～59歳	175	15.7
6 60歳～64歳	124	11.1
7 65歳～69歳	97	8.7
8 70歳以上	355	31.8
(無回答)	11	1.0
全 体	1,115	



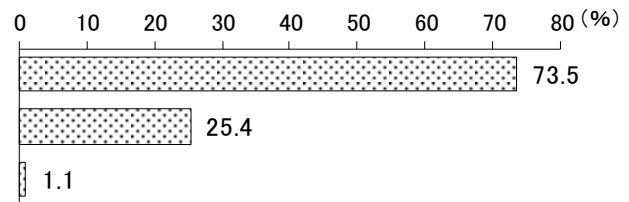
#### (F3) 本人の職業

	件数	構成比
1 農林漁業	39	3.5 %
2 商工サービス業・自由業	111	10.0
3 管理職・事務職・専門技術職	325	29.1
4 労務職	189	17.0
5 家事	235	21.1
6 その他の無職・学生	176	15.8
(無回答)	40	3.6
全 体	1,115	



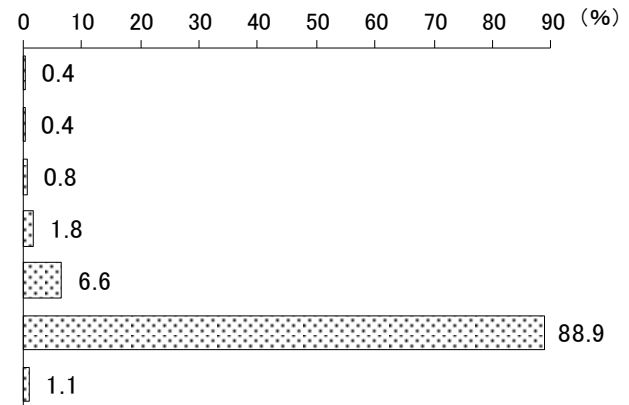
(F4) 出生地

	件数	構成比
1 県内	820	73.5 %
2 県外	283	25.4
(無回答)	12	1.1
全 体	1,115	



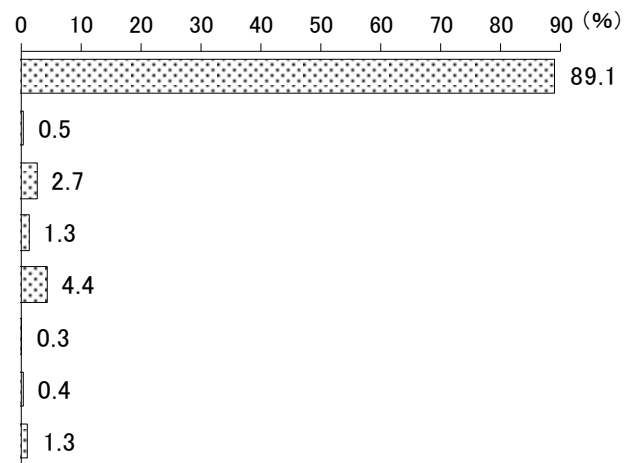
(F5) 栃木県居住年数

	件数	構成比
1 1年未満	5	0.4 %
2 1年～2年	4	0.4
3 3年～4年	9	0.8
4 5年～9年	20	1.8
5 10年～19年	74	6.6
6 20年以上	991	88.9
(無回答)	12	1.1
全 体	1,115	



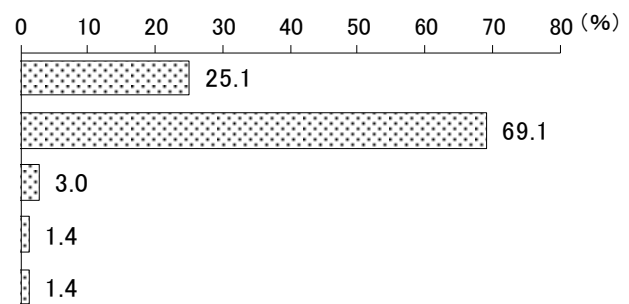
(F6) 住居形態

	件数	構成比
1 持家の一戸建	993	89.1 %
2 持家の集合住宅(分譲マンションなど)	6	0.5
3 借家の一戸建	30	2.7
4 公社・公営の賃貸住宅	15	1.3
5 民間の賃貸アパート・マンション	49	4.4
6 社宅・官舎	3	0.3
7 その他	5	0.4
(無回答)	14	1.3
全 体	1,115	



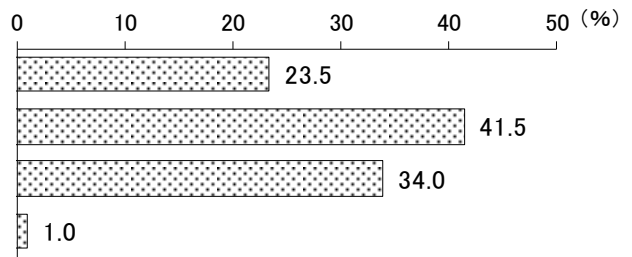
(F7) 居住環境

	件数	構成比
1 農山村	280	25.1 %
2 住宅地	770	69.1
3 商店街	33	3.0
4 その他	16	1.4
(無回答)	16	1.4
全 体	1,115	



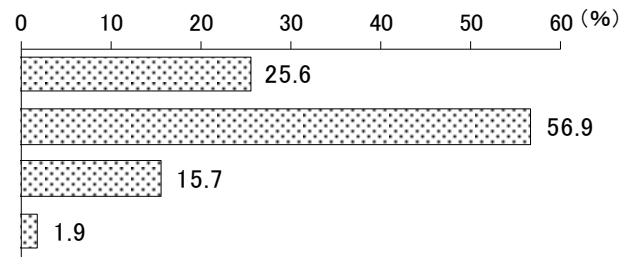
(F8) 居住地域／地域別

	件数	構成比
1 県北地域	262	23.5 %
2 県央地域	463	41.5
3 県南地域	379	34.0
(無回答)	11	1.0
全 体	1,115	



(F9) 居住地域／市町別

	件数	構成比
1 宇都宮市	285	25.6 %
2 宇都宮市以外の市	634	56.9
3 町	175	15.7
(無回答)	21	1.9
全 体	1,115	





## IV 調査結果の詳細





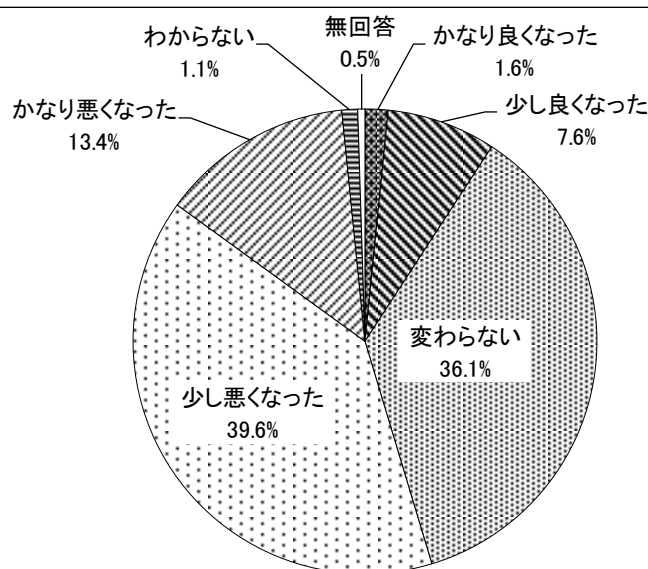
## IV 調査結果の詳細

### 1 暮らしの変化について

#### (1) 暮らしの変化

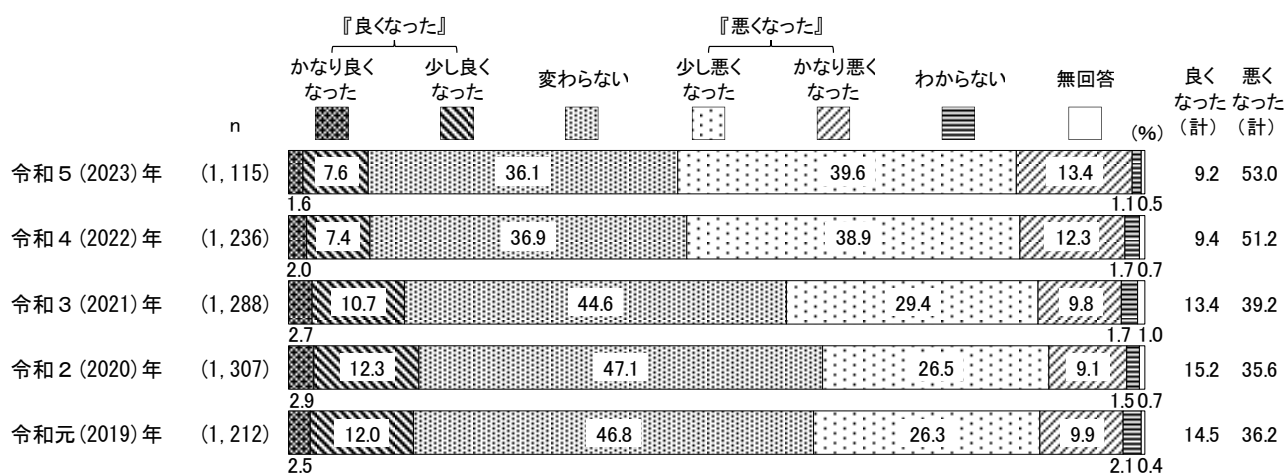
問1 あなたの暮らしは、この5～6年の間にどう変わりましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 かなり良くなった	1.6%	4 少し悪くなった	39.6%
2 少し良くなった	7.6%	5 かなり悪くなった	13.4%
3 変わらない	36.1%	6 わからない	1.1%
		(無回答)	0.5%



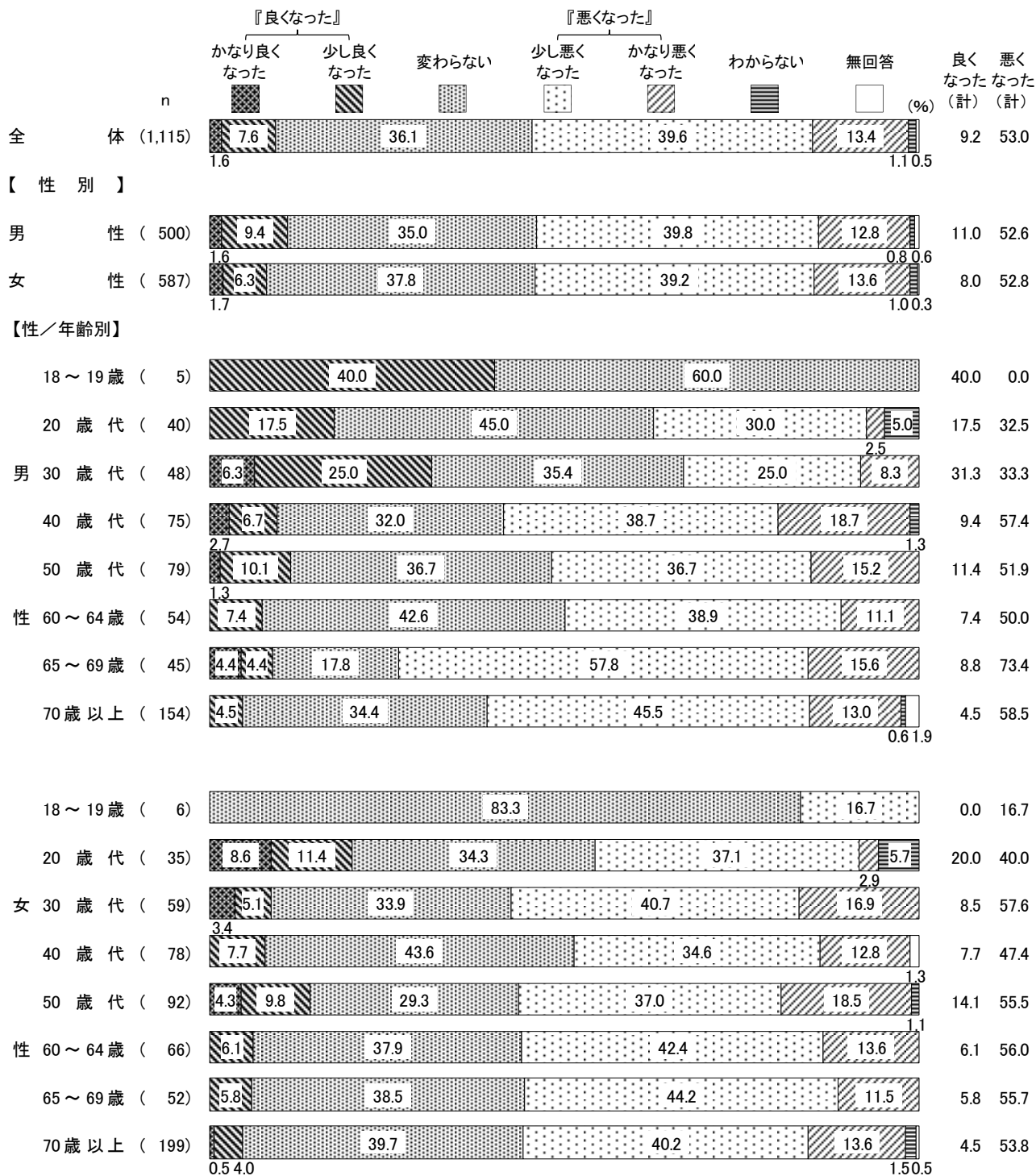
(n=1,115)

全体で見ると、「かなり良くなった」(1.6%)と「少し良くなった」(7.6%)の2つを合わせた『良くなった』(9.2%)が1割弱となっている。一方、「少し悪くなった」(39.6%)と「かなり悪くなった」(13.4%)の2つを合わせた『悪くなった』(53.0%)が5割台半ば近くとなっている。また、「変わらない」(36.1%)が3割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、『悪くなった』が令和2(2020)年より増加傾向が続き、令和2(2020)年より17.4ポイント増加している。

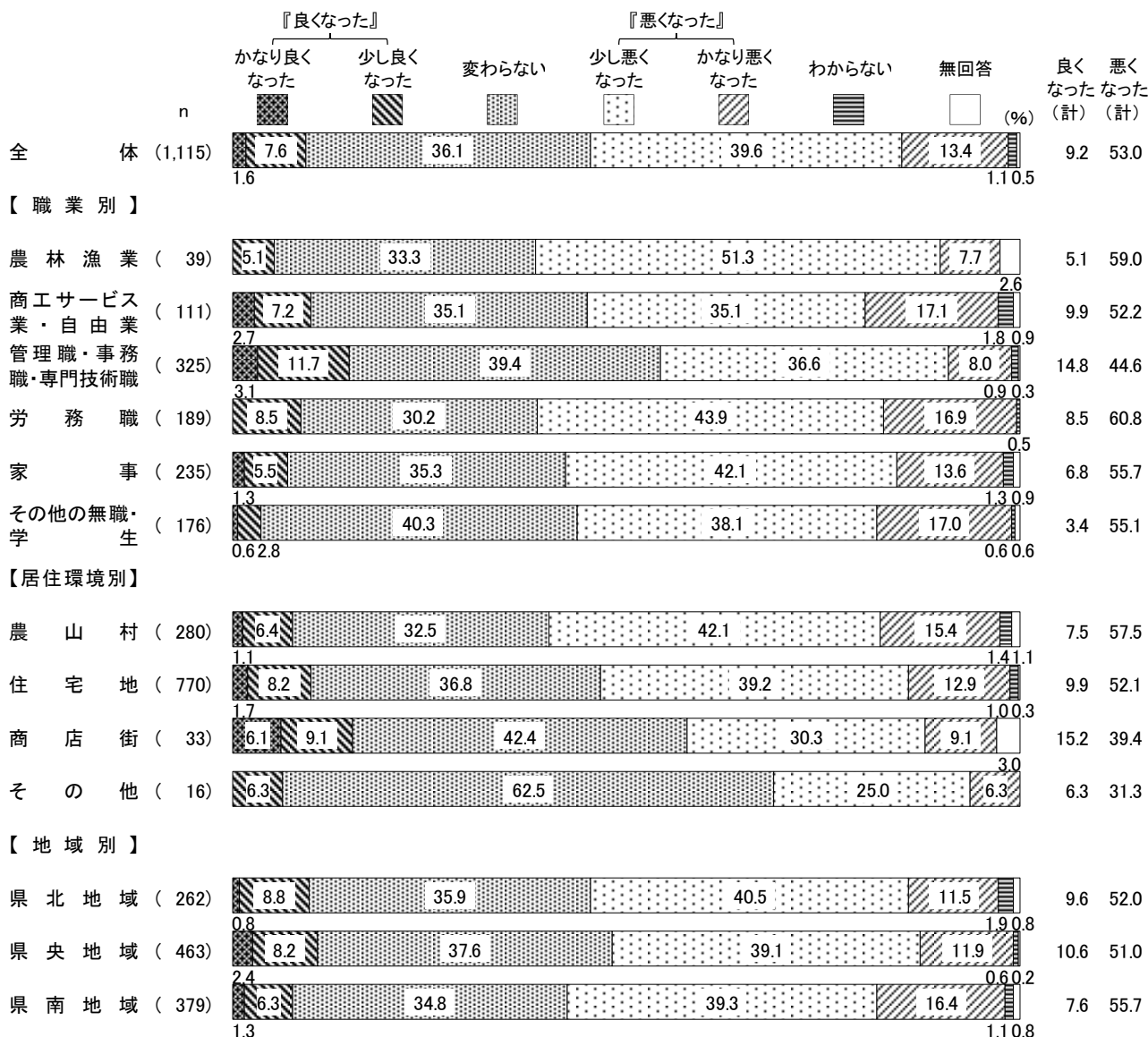
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『良くなった』では〈男性30歳代〉が31.3%、〈女性20歳代〉が20.0%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈男性65～69歳〉が73.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『良くなった』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が14.8%と高くなっている。一方、『悪くなった』では〈労務職〉が60.8%、〈農林漁業〉が59.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、『良くなった』では〈商店街〉が15.2%と高くなっている。

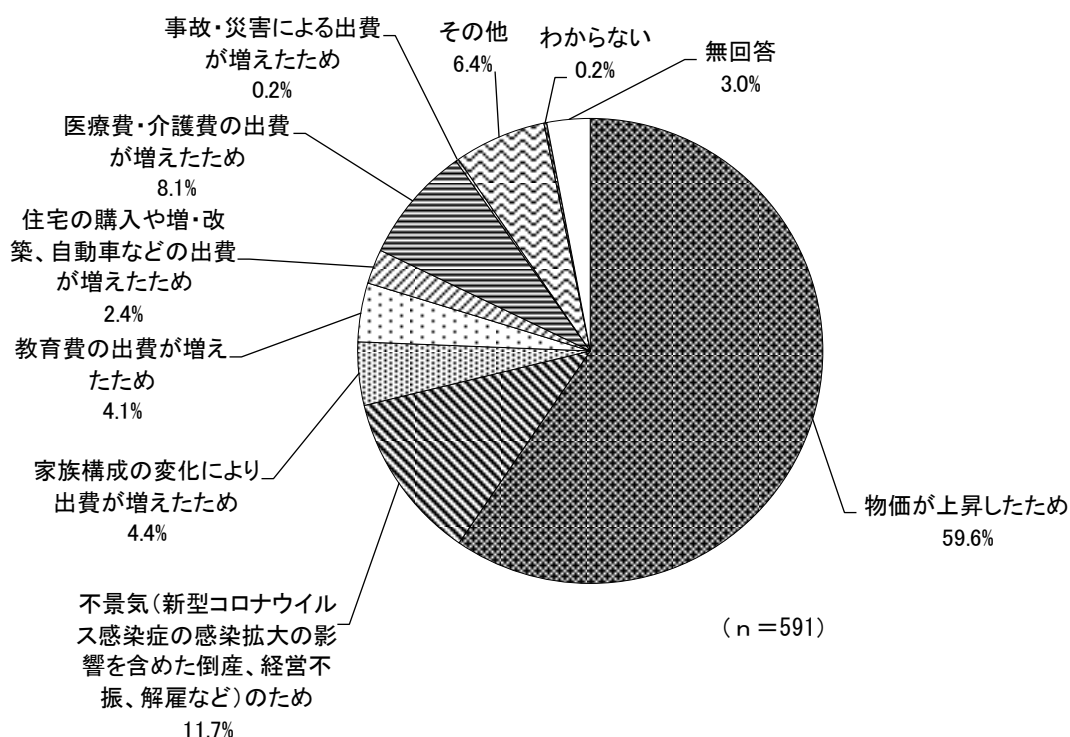
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 暮らしが悪くなった理由

(問1で選択肢「少し悪くなった」、「かなり悪くなった」を選んだ方のみお答えください)

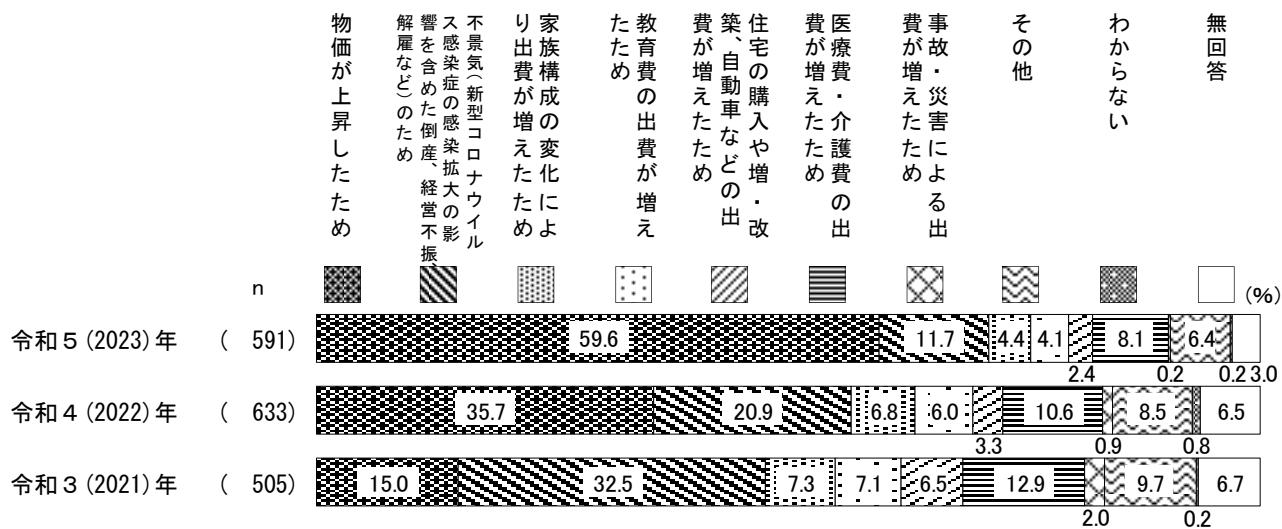
問2 悪くなったのは、主にどのようなことからですか。もっとも大きな要因を1つ選んでください。 [n=591]

1	物価が上昇したため	59.6%
2	不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため	11.7
3	家族構成の変化により出費が増えたため	4.4
4	教育費の出費が増えたため	4.1
5	住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため	2.4
6	医療費・介護費の出費が増えたため	8.1
7	事故・災害による出費が増えたため	0.2
8	その他	6.4
9	わからない (無回答)	0.2 3.0



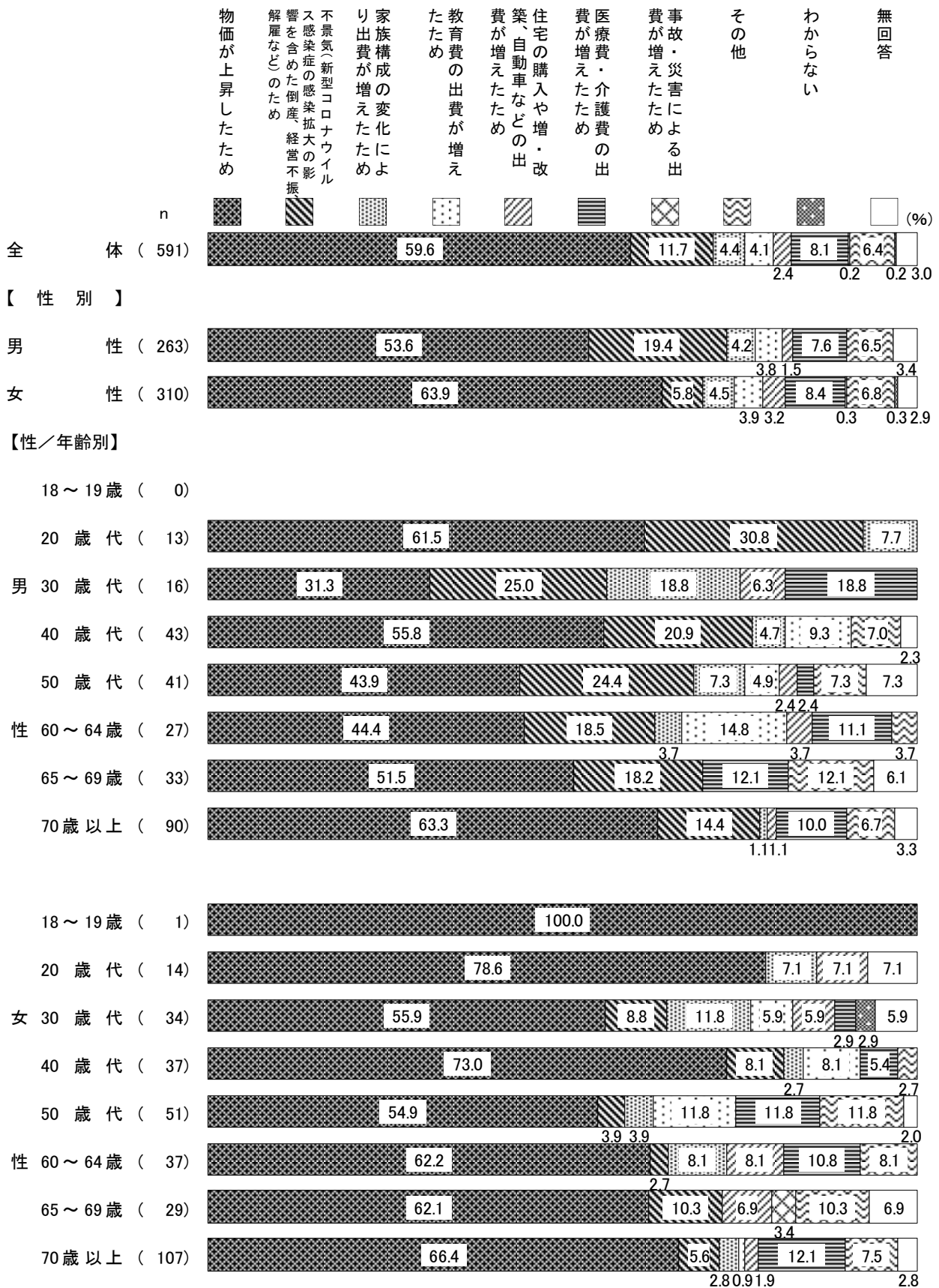
全体で見ると、「物価が上昇したため」(59.6%)が6割弱で最も高く、次いで「不景気(新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を含めた倒産、経営不振、解雇など)のため(以下『不景気のため』という。)」(11.7%)、「医療費・介護費の出費が増えたため」(8.1%)の順となっている。

[過去の調査結果]



前回（令和4（2022）年）の調査結果と比較すると、「物価が上昇したため」が23.9ポイント増加している。一方、『不景気のため』が9.2ポイント減少している。

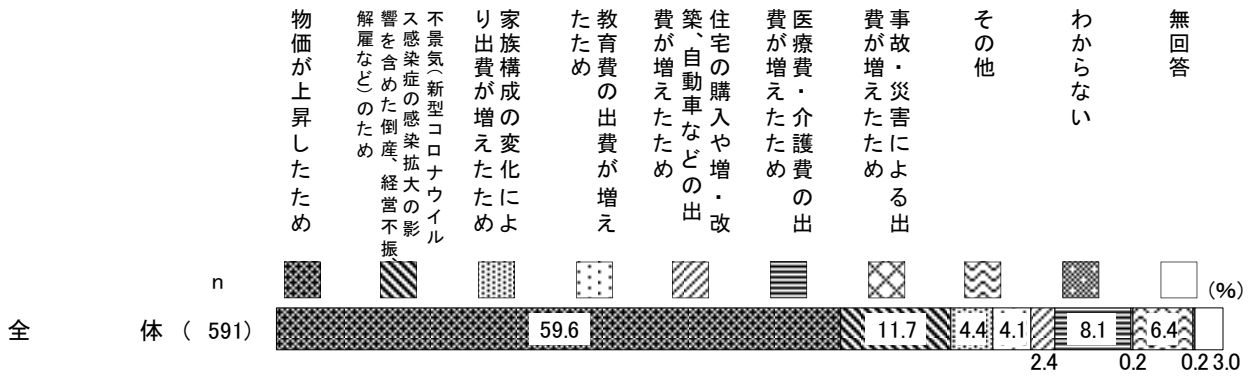
[性別・性／年齢別]



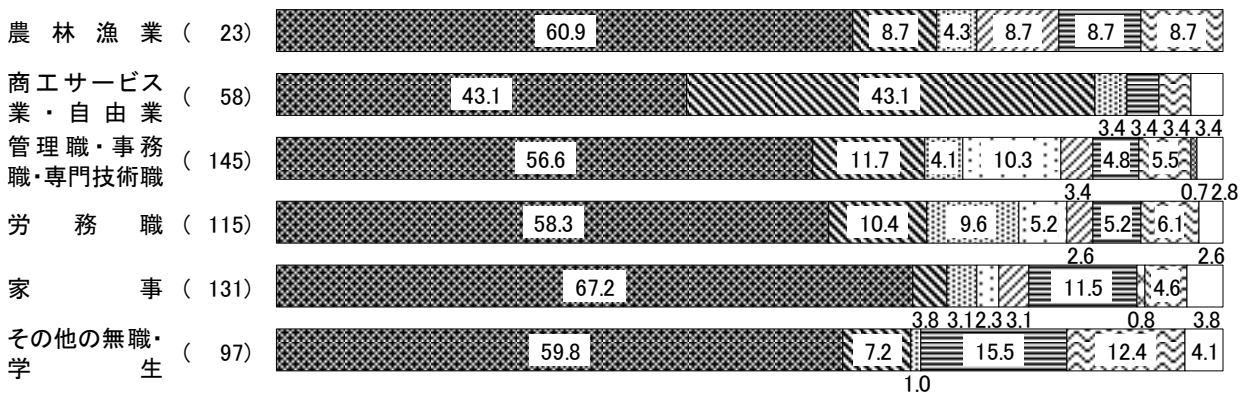
性別で見ると、『不景気のため』では〈男性〉(19.4%)が〈女性〉(5.8%)より13.6ポイント高くなっている。「物価が上昇したため」では〈女性〉(63.9%)が〈男性〉(53.6%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「物価が上昇したため」では〈女性20歳代〉が78.6%、〈女性40歳代〉が73.0%と高くなっている。『不景気のため』では〈男性20歳代〉が30.8%、〈男性30歳代〉が25.0%、〈男性50歳代〉が24.4%と高くなっている。「家族構成の変化により出費が増えたため」では〈男性30歳代〉が18.8%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈男性60～64歳〉が14.8%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈男性30歳代〉が18.8%と高くなっている。

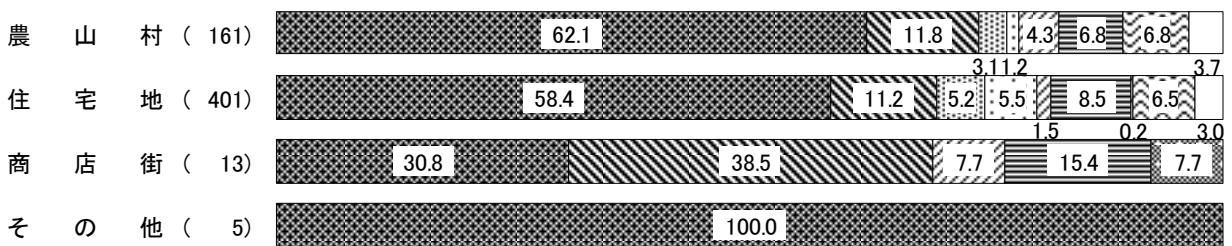
[職業別・居住環境別]



【職業別】



【居住環境別】



職業別でみると、「物価が上昇したため」では〈家事〉が67.2%と高くなっている。『不景気のため』では〈商工サービス業・自由業〉が43.1%と高くなっている。「家族構成の変化により出費が増えたため」では〈労務職〉が9.6%と高くなっている。「教育費の出費が増えたため」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が10.3%と高くなっている。「住宅の購入や増・改築、自動車などの出費が増えたため」では〈農林漁業〉が8.7%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈その他の無職・学生〉が15.5%と高くなっている。

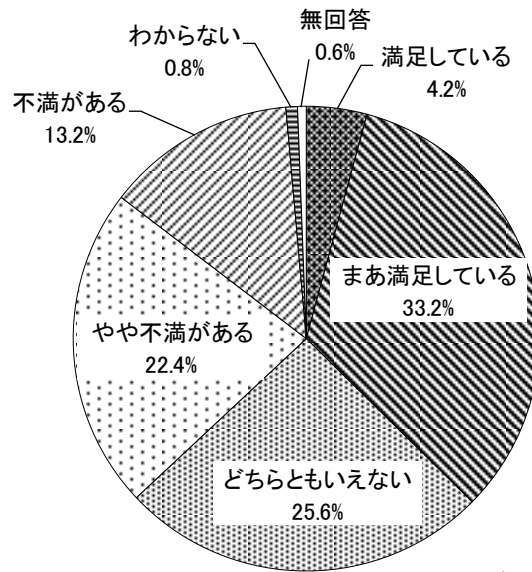
居住環境別でみると、『不景気のため』では〈商店街〉が38.5%と高くなっている。「医療費・介護費の出費が増えたため」では〈商店街〉が15.4%と高くなっている。



### (3) 暮らしの満足度

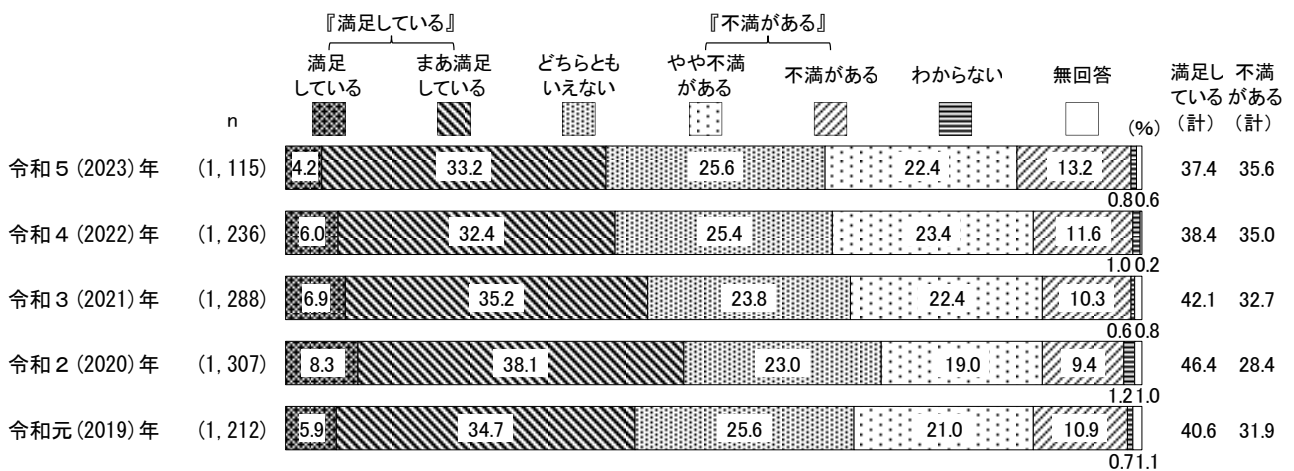
問3 あなたは、今の暮らしについてどの程度満足していますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 満足している	4.2%	4 やや不満がある	22.4%
2 まあ満足している	33.2%	5 不満がある	13.2%
3 どちらともいえない	25.6%	6 わからない	0.8%
		(無回答)	0.6%



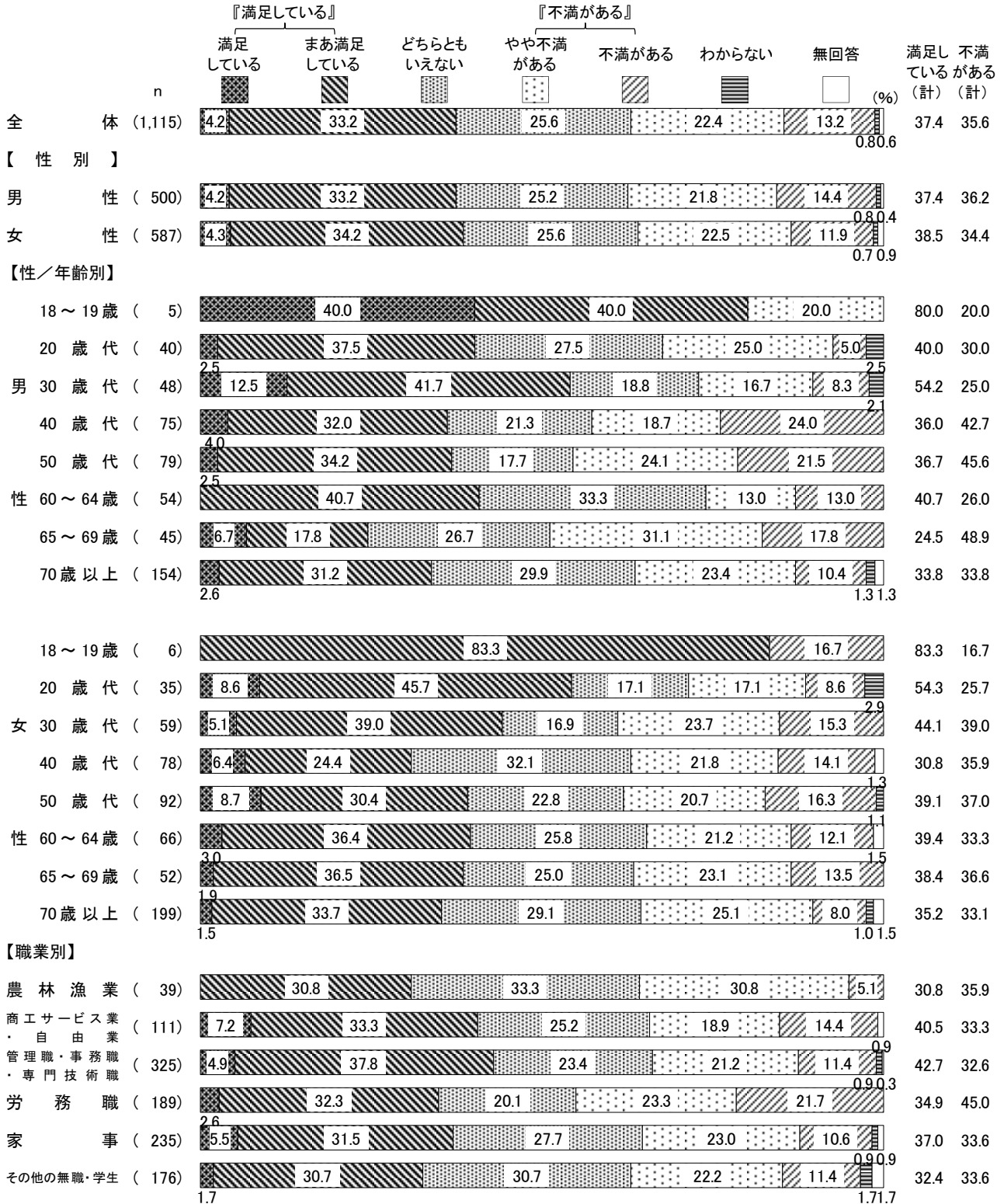
(n=1,115)

全体で見ると、「満足している」(4.2%)と「まあ満足している」(33.2%)の2つを合わせた『満足している』(37.4%)が3割台半ばを超えている。一方、「やや不満がある」(22.4%)と「不満がある」(13.2%)の2つを合わせた『不満がある』(35.6%)は3割台半ばとなっている。また、「どちらともいえない」(25.6%)が2割台半ばとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『満足している』が令和2(2020)年より減少傾向が続き、令和2(2020)年より9.0ポイント減少している。

【性別・性／年齢別・職業別】

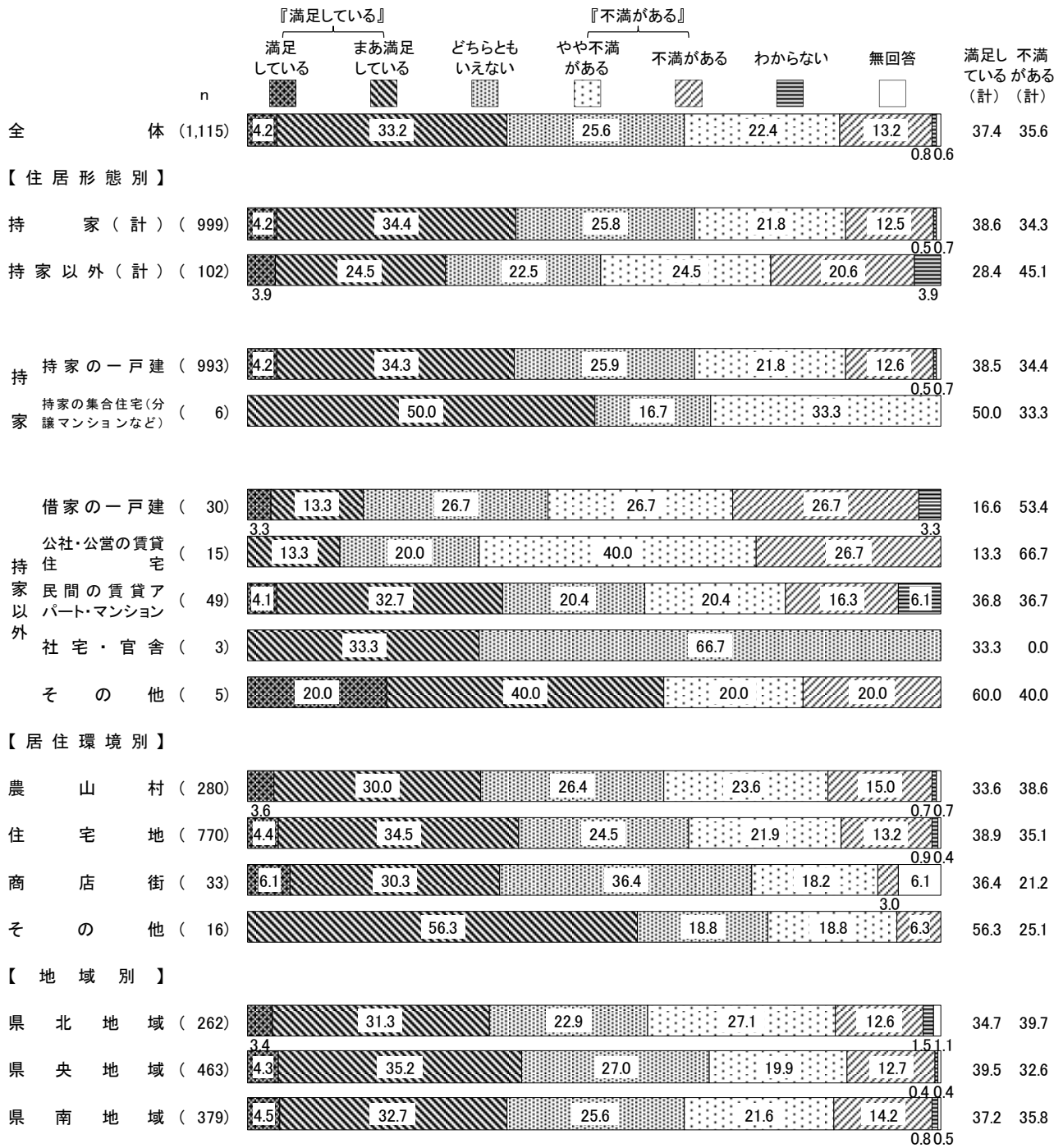


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『満足している』では〈女性20歳代〉が54.3%、〈男性30歳代〉が54.2%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈男性65～69歳〉が48.9%、〈男性50歳代〉が45.6%と高くなっている。

職業別でみると、『満足している』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が42.7%と高くなっている。一方、『不満がある』では〈労務職〉が45.0%と高くなっている。

[住居形態別・居住環境別・地域別]



住居形態別でみると、『不満がある』では〈持家以外 (計)〉(45.1%) が〈持家 (計)〉(34.3%) より10.8ポイント高くなっている。

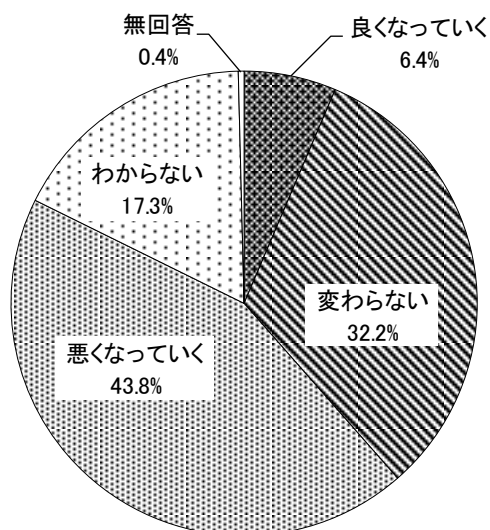
居住環境別でみると、『不満がある』では〈商店街〉が21.2%と低くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

#### (4) 今後の暮らしの状況

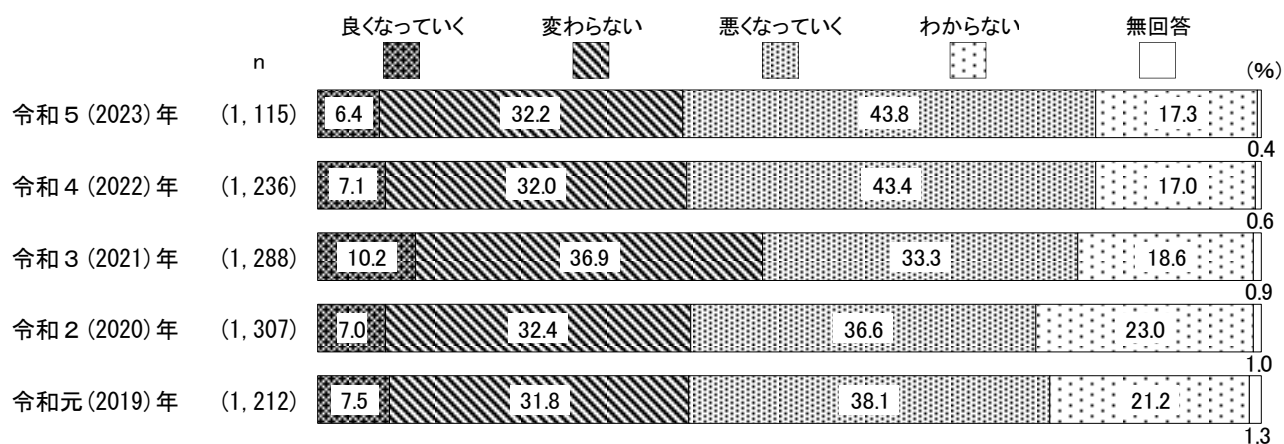
問4 あなたの暮らしは、これから先どうなっていくと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 良くなっていく	6.4%	3 悪くなっていく	43.8%
2 変わらない	32.2	4 わからない	17.3
		(無回答)	0.4



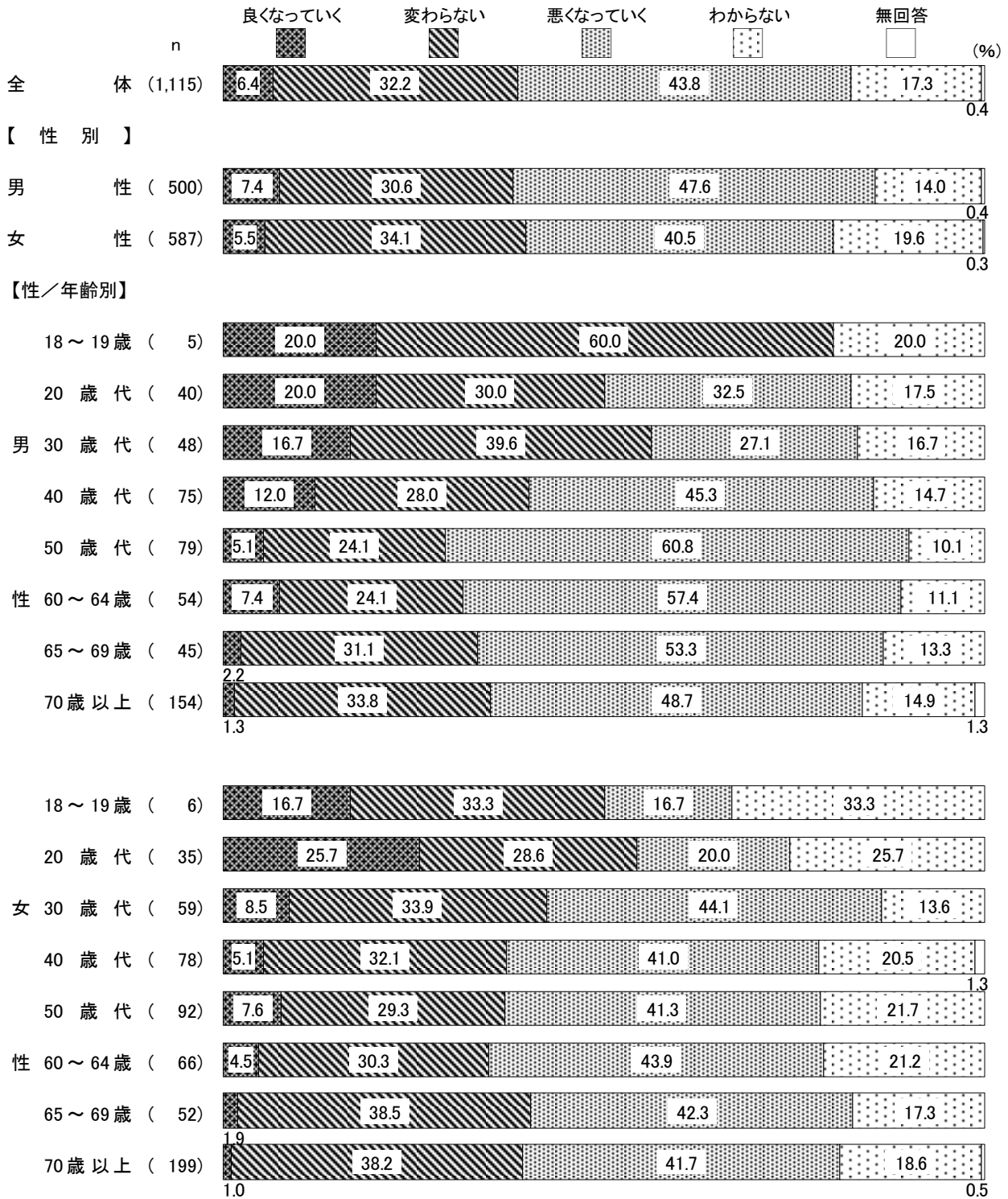
(n=1,115)

全体でみると、「悪くなっていく」(43.8%)が4割台半ば近くとなっており、「変わらない」(32.2%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、「悪くなっていく」が令和3(2021)年より増加傾向が続き、令和3(2021)年より10.5ポイント増加している。

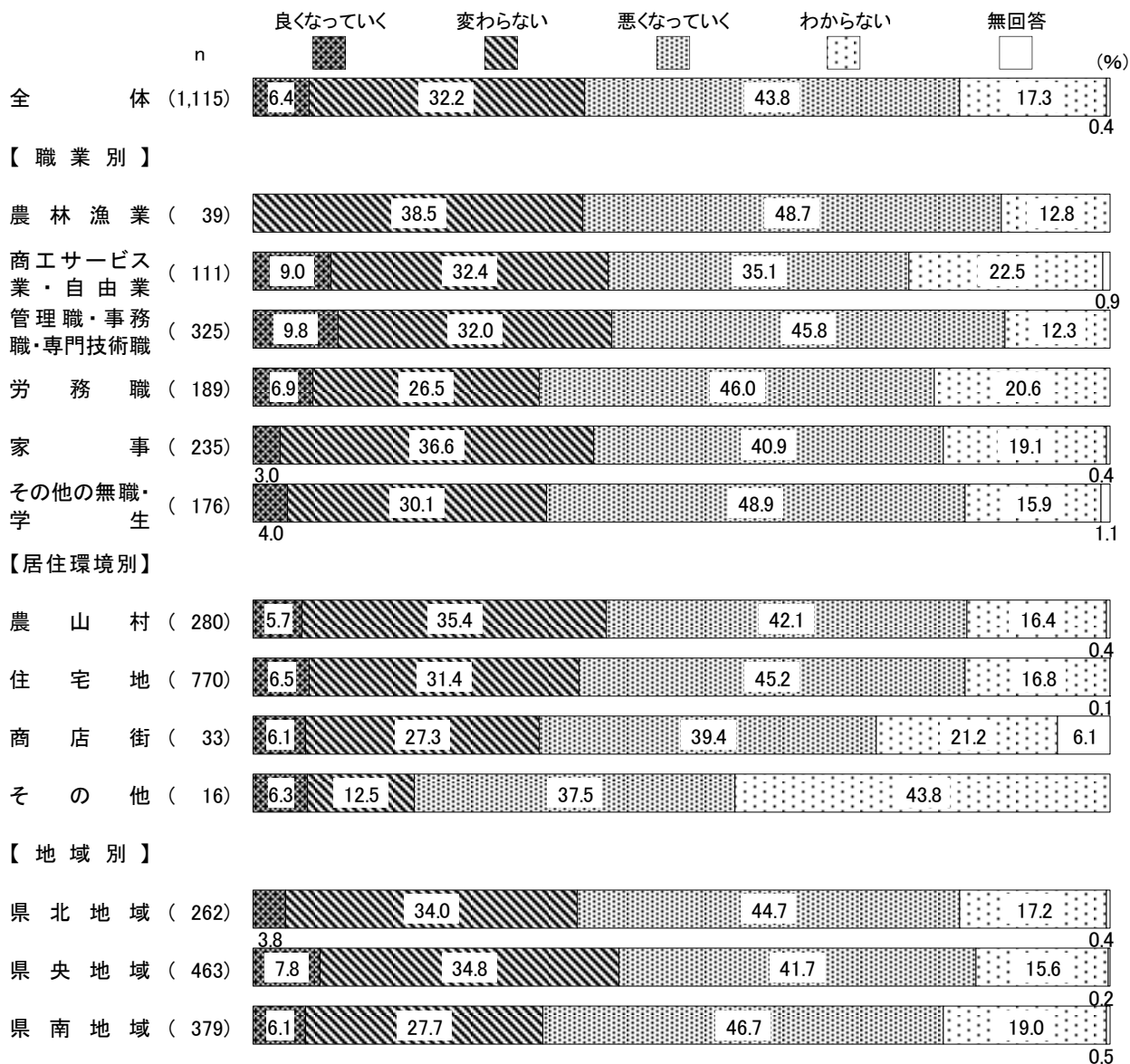
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「悪くなっていく」では、〈男性〉(47.6%)が〈女性〉(40.5%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「良くなっていく」では〈女性20歳代〉が25.7%、〈男性20歳代〉が20.0%、〈男性30歳代〉が16.7%と高くなっている。一方、「悪くなっていく」では〈男性50歳代〉が60.8%、〈男性60～64歳〉が57.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別で見ると、「悪くなっていく」では〈その他の無職・学生〉が48.9%と高くなっている。「変わらない」では〈農林漁業〉が38.5%と高くなっている。

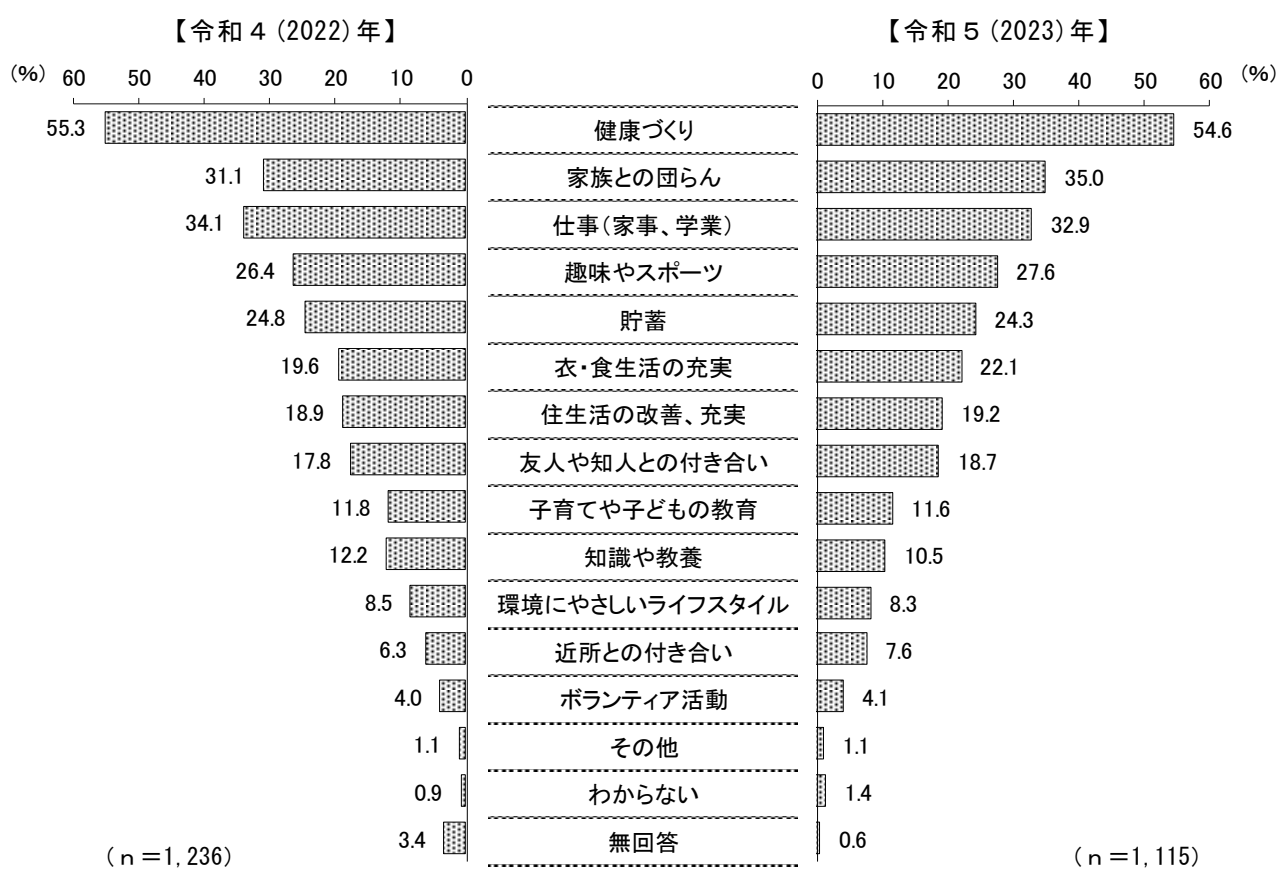
居住環境別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

## (5) 今後の暮らしで力を入れる点

問5 あなたは、今後の暮らしの中で、どのような点に力を入れていきたいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

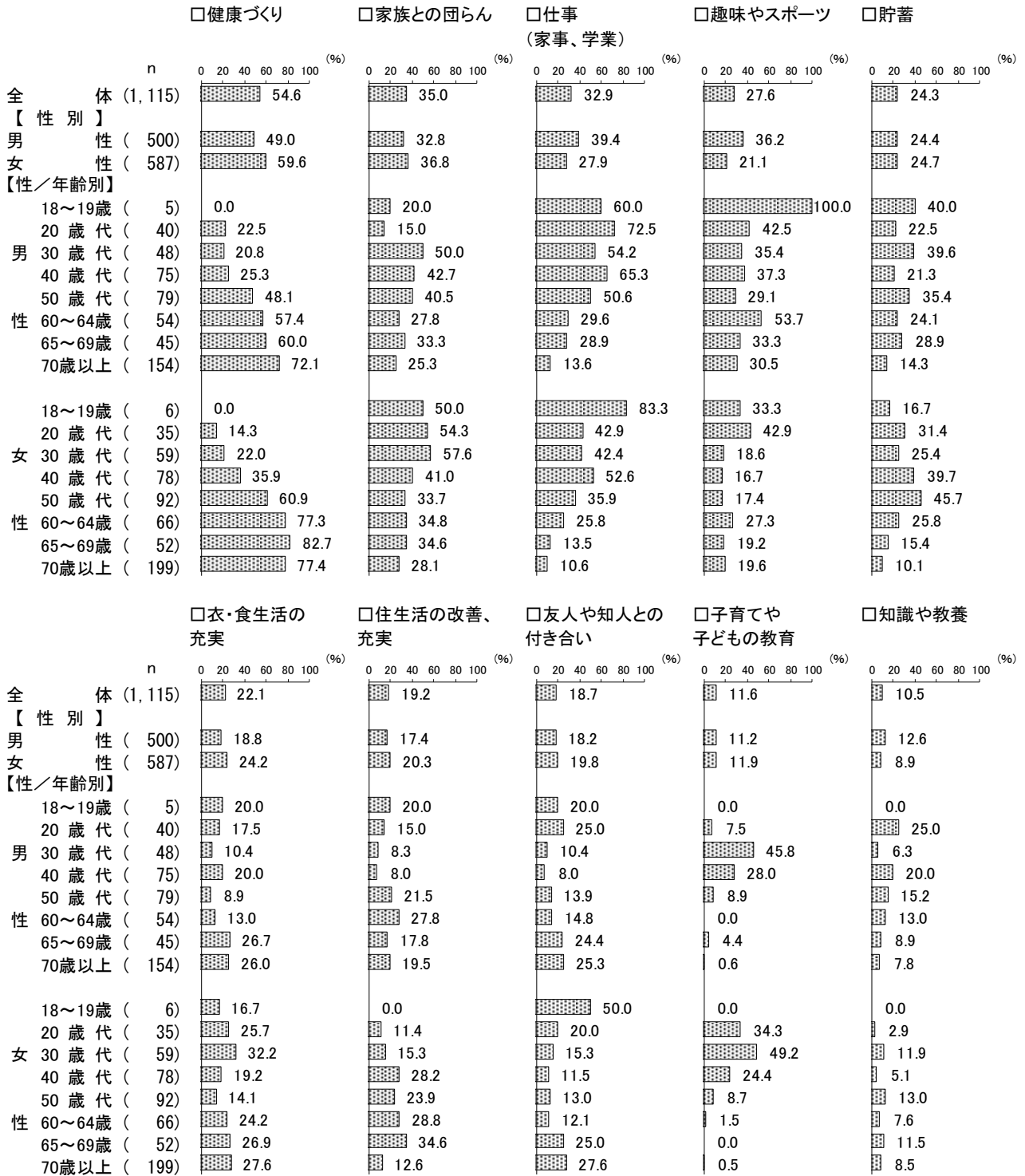
1	仕事(家事、学業)	32.9%	9	家族との団らん	35.0%
2	知識や教養	10.5	10	近所との付き合い	7.6
3	貯蓄	24.3	11	友人や知人との付き合い	18.7
4	趣味やスポーツ	27.6	12	子育てや子どもの教育	11.6
5	ボランティア活動	4.1	13	健康づくり	54.6
6	衣・食生活の充実	22.1	14	その他	1.1
7	住生活の改善、充実	19.2	15	わからない	1.4
8	環境にやさしいライフスタイル	8.3		(無回答)	0.6



全体でみると、「健康づくり」(54.6%)が5割台半ば近くと最も高く、次いで「家族との団らん」(35.0%)、「仕事(家事、学業)」(32.9%)、「趣味やスポーツ」(27.6%)、「貯蓄」(24.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



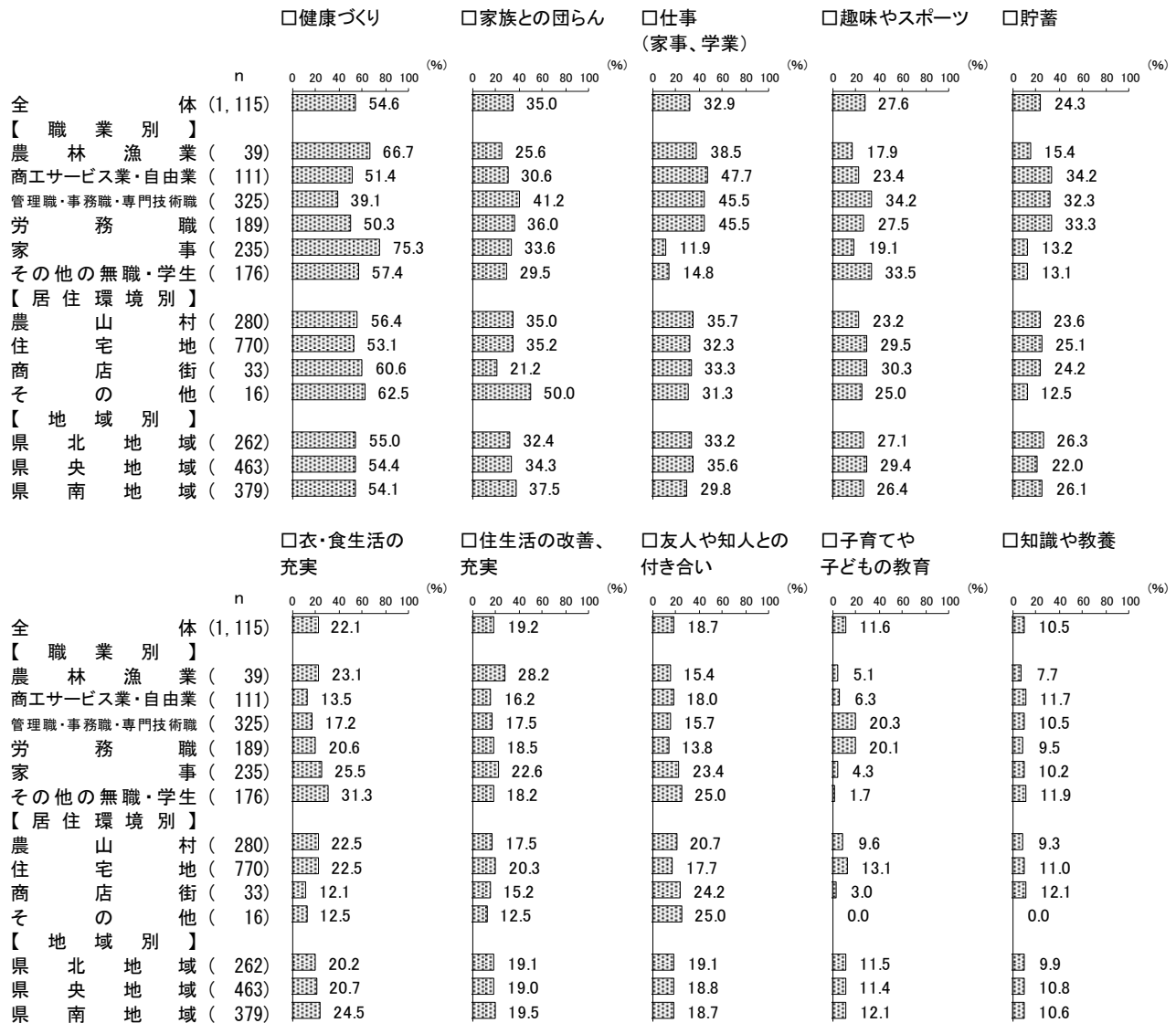
性別でみると、「趣味やスポーツ」では〈男性〉(36.2%)が〈女性〉(21.1%)より15.1ポイント高くなっている。また、「仕事(家事、学業)」では〈男性〉(39.4%)が〈女性〉(27.9%)より11.5ポイント高くなっている。一方、「健康づくり」では〈女性〉(59.6%)が〈男性〉(49.0%)より10.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「健康づくり」では〈女性65~69歳〉が82.7%と高くなっている。「家族との団らん」では〈女性30歳代〉が57.6%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈男性20歳代〉が72.5%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈男性60~64歳〉が53.7%と高くなっている。「貯蓄」では〈女性50歳代〉が45.7%と高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈女性30歳代〉が32.2%と高く



なっている。「住生活の改善、充実」では〈女性65～69歳〉が34.6%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「知識や教養」では〈男性20歳代〉が25.0%と高くなっている。

【職業別・居住環境別・地域別】（上位10項目）



職業別でみると、「健康づくり」では〈家事〉が75.3%と高くなっている。「家族との団らん」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が41.2%と高くなっている。「仕事(家事、学業)」では〈商工サービス業・自由業〉が47.7%と高くなっている。「趣味やスポーツ」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が34.2%と高くなっている。「貯蓄」では〈商工サービス業・自由業〉が34.2%と高くなっている。「衣・食生活の充実」では〈その他の無職・学生〉が31.3%と高くなっている。「住生活の改善、充実」では〈農林漁業〉が28.2%と高くなっている。「友人や知人との付き合い」では〈その他の無職・学生〉が25.0%と高くなっている。「子育てや子どもの教育」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が20.3%、〈労務職〉が20.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「健康づくり」では〈商店街〉が60.6%と高くなっている。

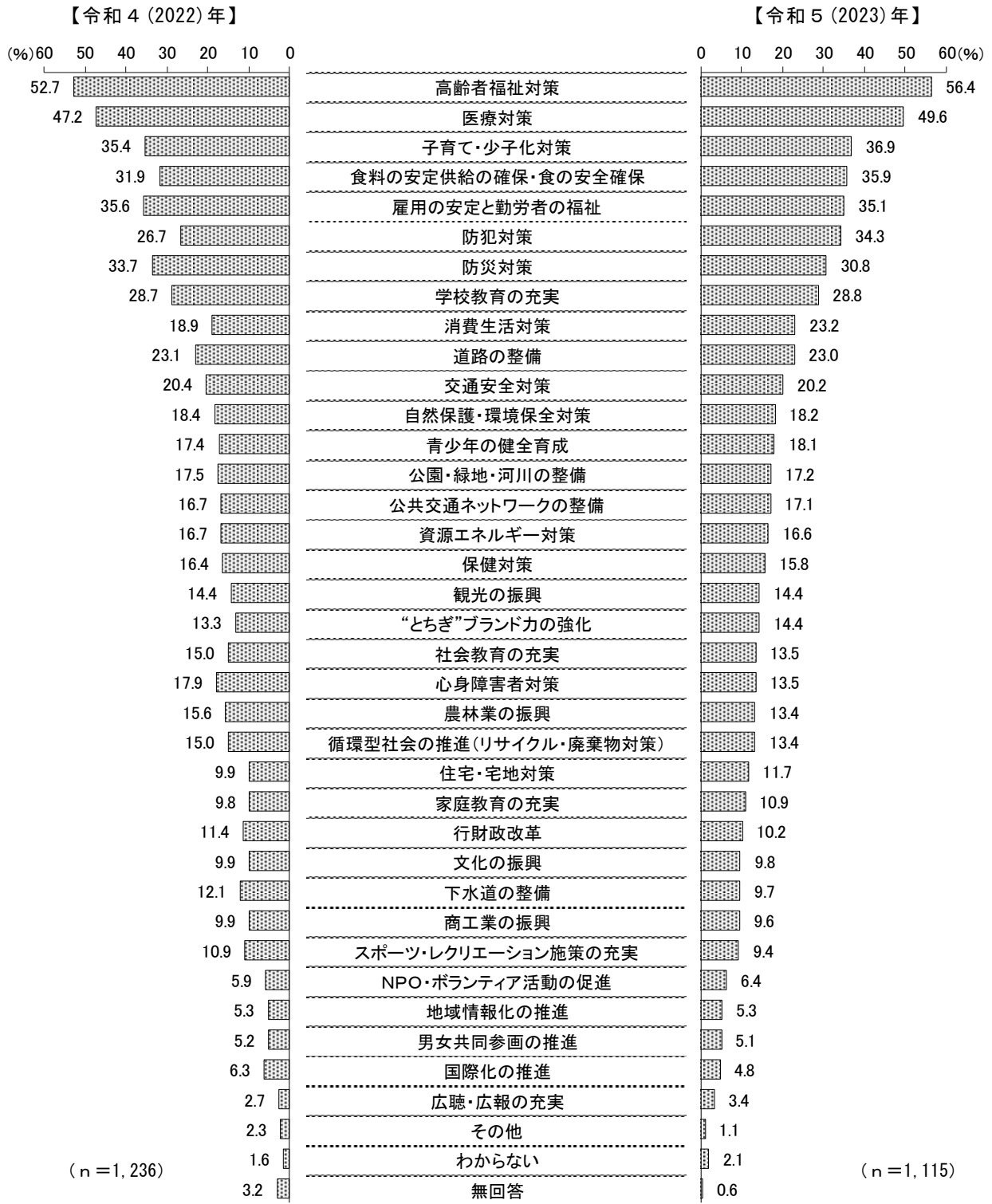
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## 2 県政への要望について

### (1) 県政への要望

問6 県では、皆様のご理解とご協力を得ながら、「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気な“とちぎ”」をめざして様々な仕事をしています。あなたが、県政に対して、特に力を入れてほしいことは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

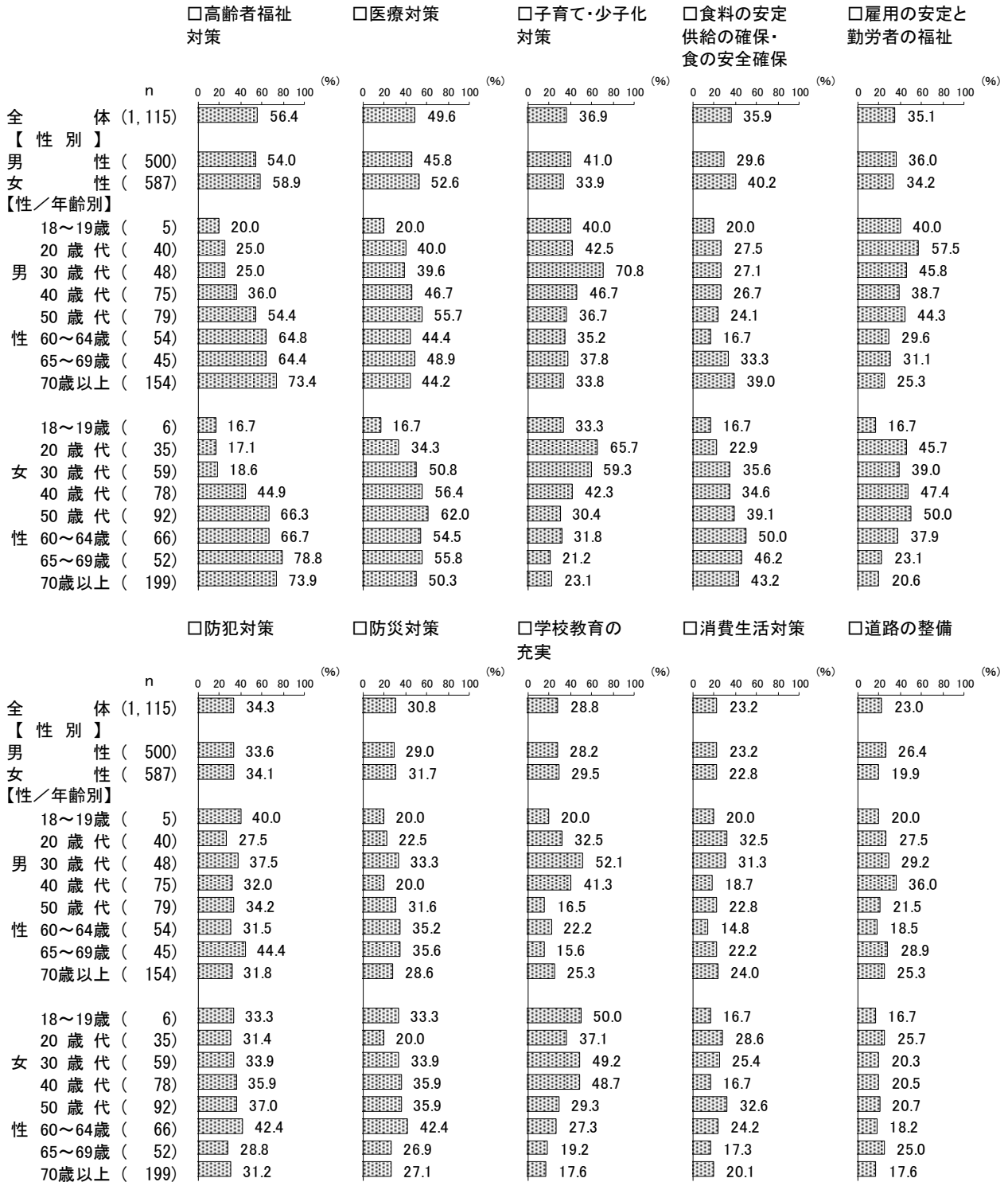
1	学校教育の充実	28.8%
2	青少年の健全育成	18.1
3	家庭教育の充実	10.9
4	社会教育の充実	13.5
5	文化の振興	9.8
6	スポーツ・レクリエーション施策の充実	9.4
7	NPO・ボランティア活動の促進	6.4
8	広聴・広報の充実	3.4
9	国際化の推進	4.8
10	子育て・少子化対策	36.9
11	高齢者福祉対策	56.4
12	心身障害者対策	13.5
13	医療対策	49.6
14	保健対策	15.8
15	男女共同参画の推進	5.1
16	農林業の振興	13.4
17	食料の安定供給の確保・食の安全確保	35.9
18	商工業の振興	9.6
19	観光の振興	14.4
20	雇用の安定と勤労者の福祉	35.1
21	住宅・宅地対策	11.7
22	資源エネルギー対策	16.6
23	下水道の整備	9.7
24	公園・緑地・河川の整備	17.2
25	公共交通ネットワークの整備	17.1
26	道路の整備	23.0
27	地域情報化の推進	5.3
28	防災対策	30.8
29	防犯対策	34.3
30	交通安全対策	20.2
31	消費生活対策	23.2
32	自然保護・環境保全対策	18.2
33	循環型社会の推進（リサイクル・廃棄物対策）	13.4
34	行財政改革	10.2
35	“とちぎ”ブランド力の強化	14.4
36	その他	1.1
37	わからない	2.1
	(無回答)	0.6



全体で見ると、「高齢者福祉対策」(56.4%)が5割台半ばを超えて最も高く、次いで「医療対策」(49.6%)、「子育て・少子化対策」(36.9%)、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」(35.9%)、「雇用の安定と勤労者の福祉」(35.1%)、「防犯対策」(34.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「防犯対策」が7.6ポイント、「消費生活対策」が4.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「心身障害者対策」が4.4ポイント減少している。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)

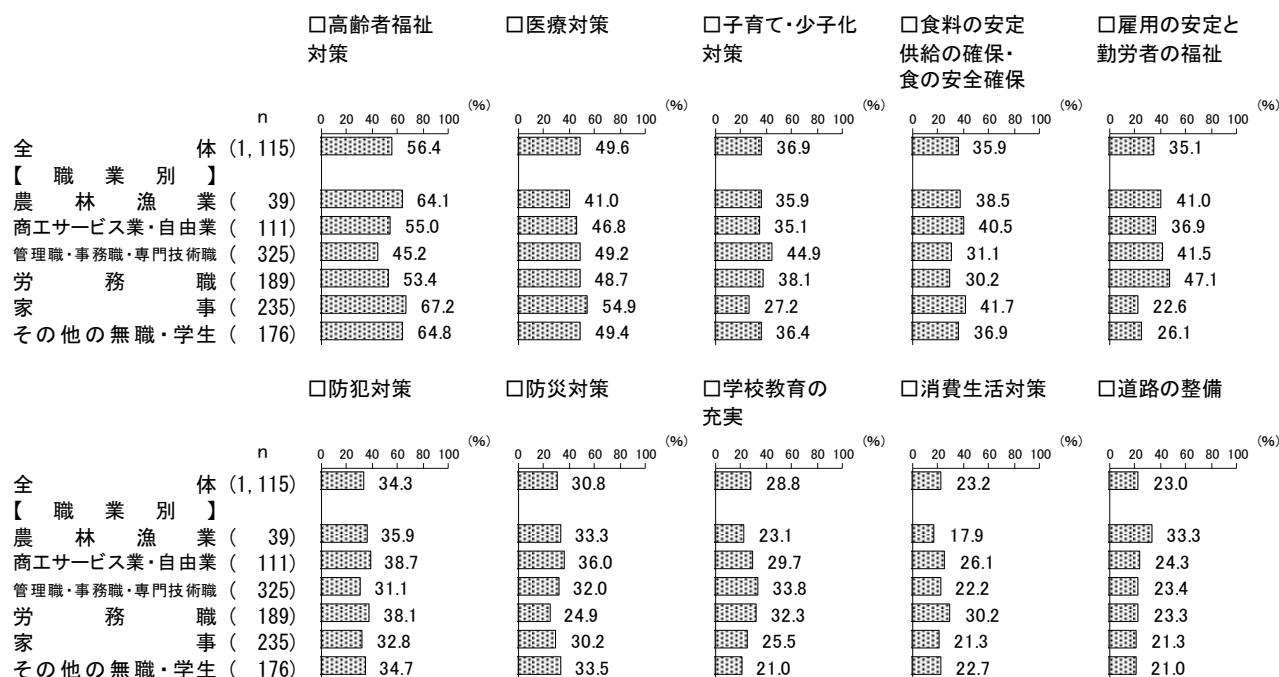


性別でみると、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性〉(40.2%)が〈男性〉(29.6%)より10.6ポイント高くなっている。「医療対策」では〈女性〉(52.6%)が〈男性〉(45.8%)より6.8ポイント高くなっている。一方、「子育て・少子化対策」では〈男性〉(41.0%)が〈女性〉(33.9%)より7.1ポイント高くなっている。「道路の整備」では〈男性〉(26.4%)が〈女性〉(19.9%)より6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢者福祉対策」では〈女性65~69歳〉が78.8%と高くなっている。「医療対策」では〈女性50歳代〉が62.0%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈男性30歳代〉が70.8%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈女性60~64歳〉が50.0%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈男性20歳代〉が57.5%と高くなっている。「防犯対策」

では〈男性65～69歳〉が44.4%と高くなっている。「防災対策」では〈女性60～64歳〉が42.4%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈男性30歳代〉が52.1%と高くなっている。「道路の整備」では〈男性40歳代〉が36.0%と高くなっている。

〔職業別〕（上位10項目）



職業別でみると、「高齢者福祉対策」では〈家事〉が67.2%と高くなっている。「医療対策」では〈家事〉が54.9%と高くなっている。「子育て・少子化対策」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が44.9%と高くなっている。「食料の安定供給の確保・食の安全確保」では〈家事〉が41.7%と高くなっている。「雇用の安定と勤労者の福祉」では〈労務職〉が47.1%と高くなっている。「防犯対策」では〈商工サービス業・自由業〉が36.0%と高くなっている。「学校教育の充実」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が33.8%と高くなっている。「消費生活対策」では〈労務職〉が30.2%と高くなっている。「道路の整備」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。

[過去の調査結果一年齢別]

(上位5項目)

年齢	年	順位					
		1位	2位	3位	4位	5位	
全体	令和5(2023)年 (n=1,115)	高齢者福祉対策 56.4%	医療対策 49.6%	子育て・少子化対策 36.9%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 35.9%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.1%	
	令和4(2022)年 (n=1,236)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 47.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 35.6%	子育て・少子化対策 35.4%	防災対策 33.7%	
	令和3(2021)年 (n=1,288)	高齢者福祉対策 52.7%	医療対策 51.9%	防災対策 38.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 35.2%	
	令和2(2020)年 (n=1,307)	高齢者福祉対策/医療対策		53.3%	防災対策 40.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.3%	子育て・少子化対策 31.9%
	令和元(2019)年 (n=1,212)	高齢者福祉対策 59.1%	医療対策 50.7%	子育て・少子化対策 37.5%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.5%	防犯対策 34.7%	
20 〜 39 歳	令和5(2023)年 (n=188)	子育て・少子化対策 59.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.3%	学校教育の充実 44.1%	医療対策 43.1%	防犯対策 33.5%	
	令和4(2022)年 (n=213)	子育て・少子化対策 52.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 43.7%	医療対策 41.8%	学校教育の充実 40.4%	防災対策 37.6%	
	令和3(2021)年 (n=288)	子育て・少子化対策 58.7%	学校教育の充実 44.8%	医療対策 42.4%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.0%	防災対策 37.5%	
	令和2(2020)年 (n=218)	子育て・少子化対策 52.3%	医療対策 46.8%	学校教育の充実 46.3%	雇用の安定と勤労者 の福祉 41.3%	防災対策 37.2%	
	令和元(2019)年 (n=234)	子育て・少子化対策 56.4%	医療対策 49.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 44.9%	学校教育の充実 42.3%	交通安全対策 41.5%	
40 〜 59 歳	令和5(2023)年 (n=329)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 51.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 45.0%	子育て・少子化対策 38.6%	防犯対策 34.7%	
	令和4(2022)年 (n=379)	医療対策 53.6%	高齢者福祉対策 50.1%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.2%	子育て・少子化対策 39.6%	学校教育の充実/ 防災対策 34.8%	
	令和3(2021)年 (n=398)	医療対策 54.5%	高齢者福祉対策 48.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 42.2%	防災対策 38.7%	子育て・少子化対策 33.2%	
	令和2(2020)年 (n=449)	医療対策 55.0%	高齢者福祉対策 49.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 46.3%	防災対策 43.4%	学校教育の充実 34.7%	
	令和元(2019)年 (n=392)	高齢者福祉対策 54.8%	医療対策 51.8%	雇用の安定と勤労者 の福祉 42.1%	子育て・少子化対策 39.0%	防犯対策 35.5%	
60 〜 69 歳	令和5(2023)年 (n=221)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 51.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 38.0%	防犯対策 37.6%	防災対策 35.7%	
	令和4(2022)年 (n=228)	高齢者福祉対策 61.4%	医療対策 46.9%	防災対策 32.0%	雇用の安定と勤労者 の福祉 31.6%	子育て・少子化対策 30.7%	
	令和3(2021)年 (n=247)	高齢者福祉対策 67.6%	医療対策 59.5%	防災対策 41.7%	雇用の安定と勤労者 の福祉 36.0%	防犯対策 30.8%	
	令和2(2020)年 (n=271)	高齢者福祉対策 62.7%	医療対策 55.4%	防災対策 43.2%	雇用の安定と勤労者 の福祉 30.3%	防犯対策 26.9%	
	令和元(2019)年 (n=258)	高齢者福祉対策 67.4%	医療対策 52.7%	防災対策 33.7%	子育て・少子化対策/防犯対策 32.9%		
70 歳 以上	令和5(2023)年 (n=355)	高齢者福祉対策 73.8%	医療対策 47.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 41.4%	防犯対策 31.8%	防災対策 27.9%	
	令和4(2022)年 (n=379)	高齢者福祉対策 67.5%	医療対策 44.1%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 37.2%	防災対策 33.0%	防犯対策 26.9%	
	令和3(2021)年 (n=312)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 51.0%	防災対策 37.8%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 30.8%	防犯対策 28.2%	
	令和2(2020)年 (n=315)	高齢者福祉対策 67.9%	医療対策 54.3%	防災対策 34.6%	防犯対策 28.6%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 26.0%	
	令和元(2019)年 (n=299)	高齢者福祉対策 75.6%	医療対策 49.2%	食料の安定供給の確保・ 食の安全確保 33.4%	交通安全対策 32.4%	防犯対策 30.1%	

上位5項目について、全体及び4区分した年齢層別に過去の調査結果と比較すると、全体では、令和元(2019)年以降「高齢者福祉対策」が同率も含め1位となっている。「医療対策」が令和元(2019)年以降、令和2(2020)年の同率1位を除いて2位となっている。順位に変動はあるが、令和2(2020)年から令和4(2022)年まで上位5項目に変動はみられなかったが、今回調査では、「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が4位に上がってきた。

20～39歳では、「子育て・少子化対策」が令和元(2019)年以降1位となっている。令和2(2020)年以降、上位5項目は同じものであるが、「医療対策」は2位から4位に順位を下げ、一方、「雇用の安定と勤労者の福祉」は4位から2位に順位が上がっている。

40～59歳では、令和2(2020)年以降、「医療対策」が1位、「高齢者福祉対策」が2位、「雇用の安定と勤労者の福祉」が3位となっている。今回調査では、「防犯対策」が5位に上がってきた。

60～69歳では、令和元(2019)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和4(2022)年まで3位だった「防災対策」が今回調査では5位となり、代わって「食料の安定供給の確保・食の安全確保」が3位に、「防犯対策」が4位に上がってきた。

70歳以上では、令和元(2019)年以降、「高齢者福祉対策」が1位、「医療対策」が2位となっている。令和2(2020)年以降、上位5項目に変動はみられなかったが、今回調査では令和4(2022)年と比べ「防犯対策」が5位から4位に、「防災対策」が4位から5位になっている。

### 3 日常生活について

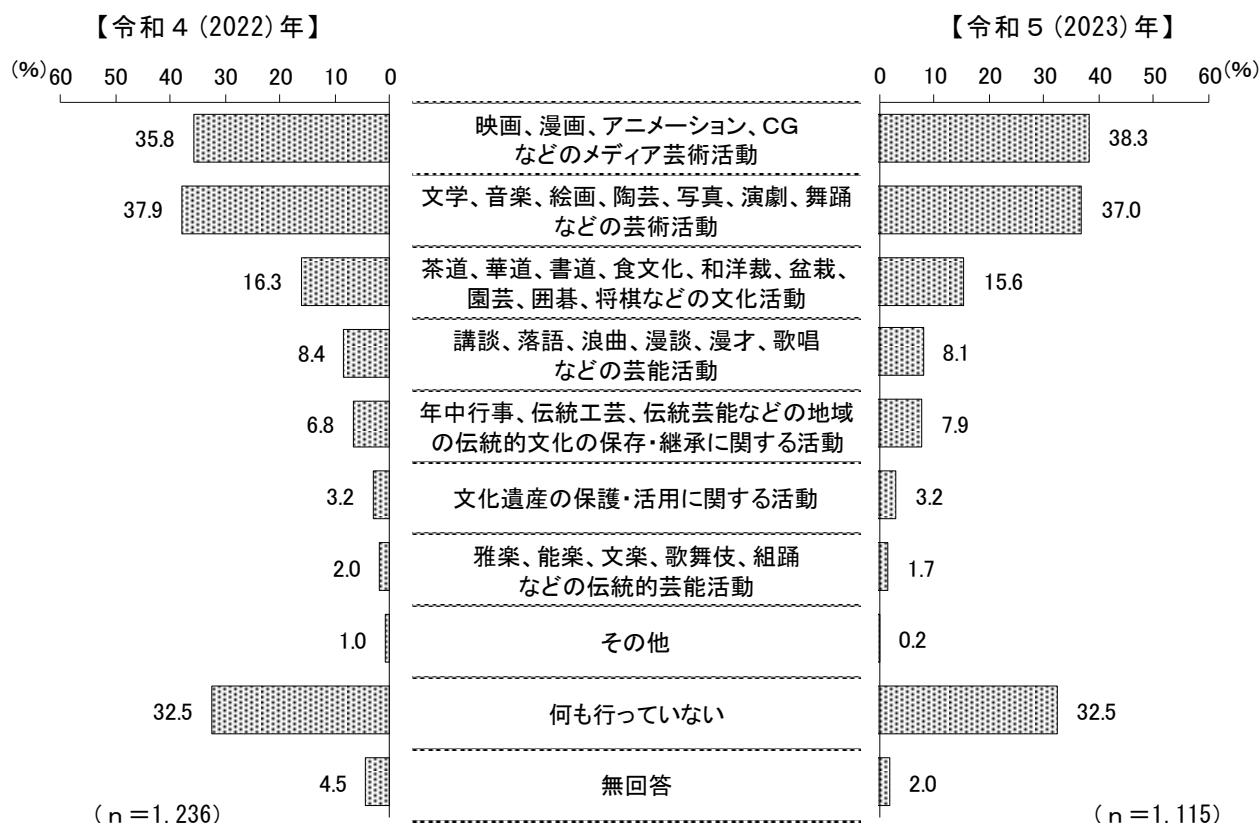
#### (1) 文化・芸術活動について

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,115]

1	文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動	37.0%
2	映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動	38.3
3	雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動	1.7
4	講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動	8.1
5	茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動	15.6
6	年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化的の保存・継承に関する活動	7.9
7	文化遺産の保護・活用に関する活動	3.2
8	その他	0.2
9	何も行っていない	32.5
	(無回答)	2.0

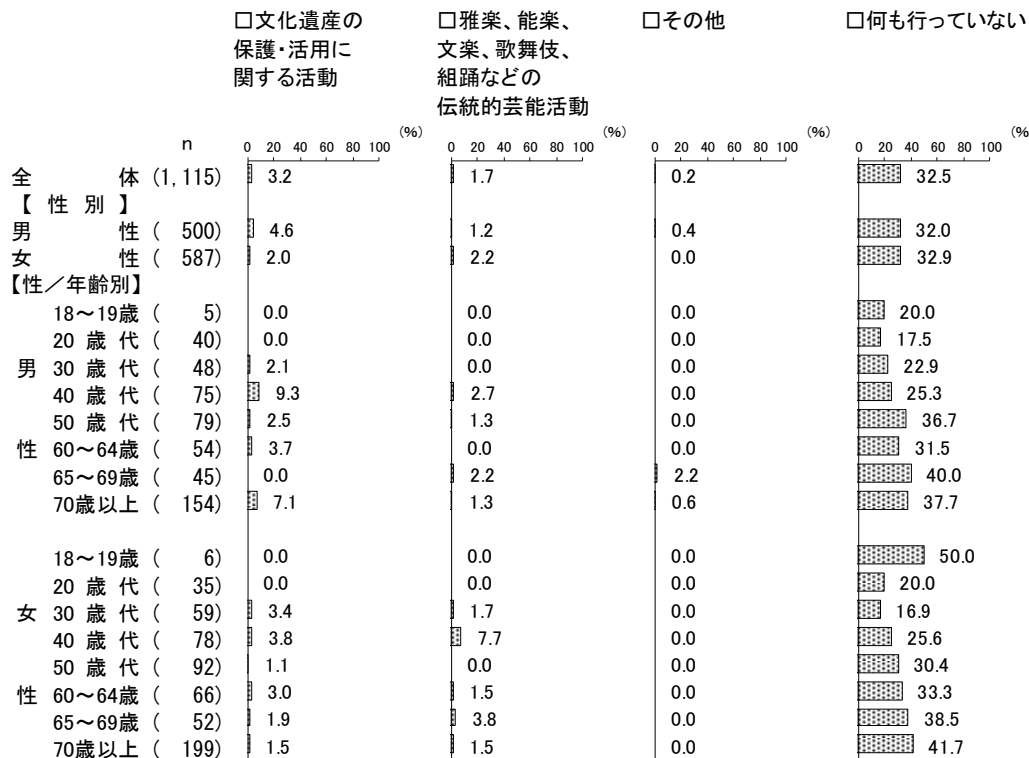
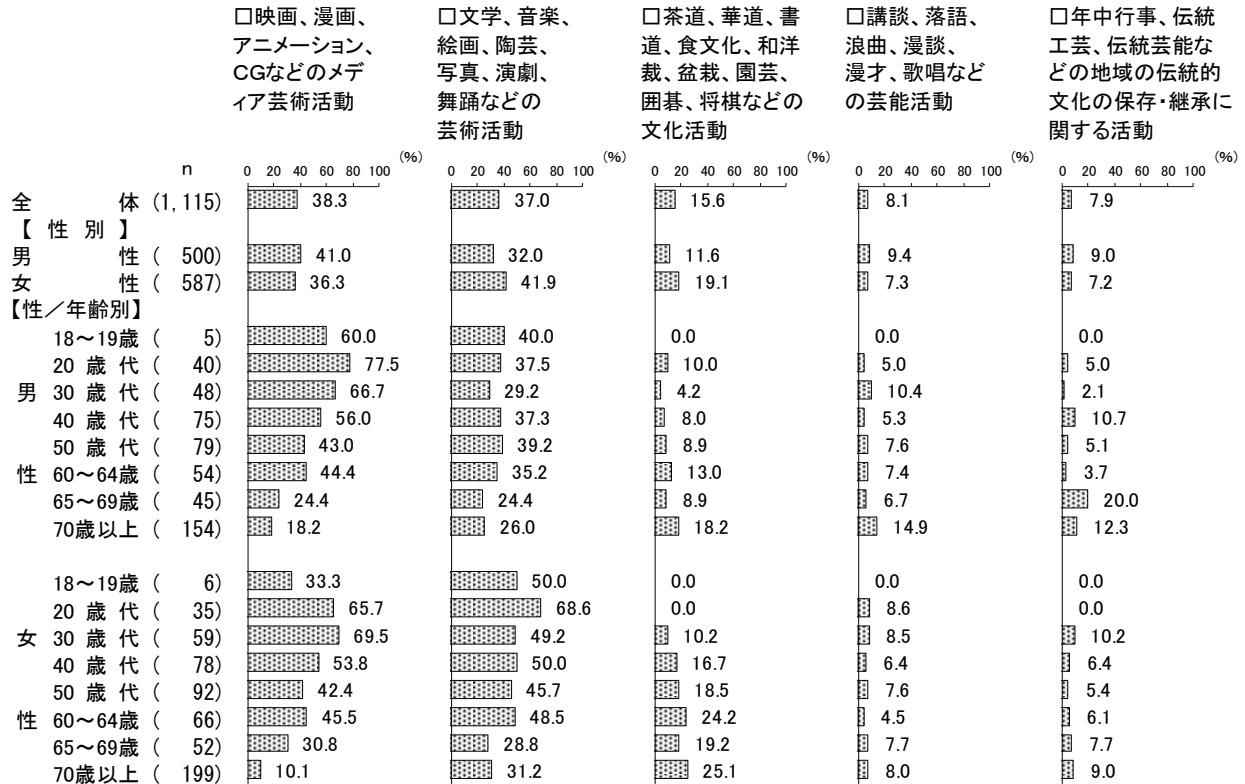


全体で見ると、「映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動（以下『メディア芸術活動』という。）」（38.3%）が4割近くで最も高く、次いで「文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動（以下『芸術活動』という。）」（37.0%）の順となっている。一方、「何も行っていない」（32.5%）が3割強となっている。

前回（令和4(2022)年）の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。



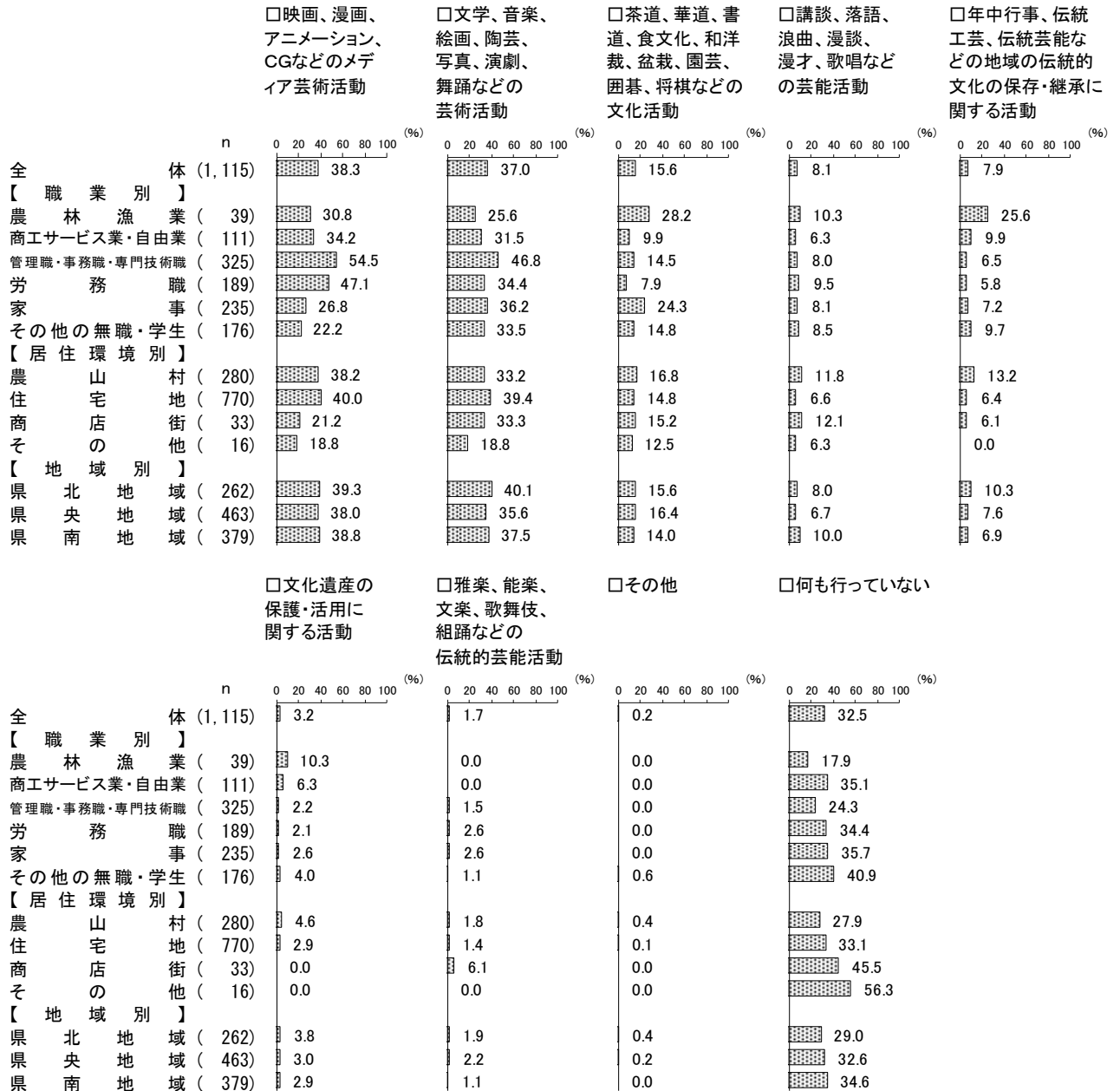
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『芸術活動』では〈女性〉(41.9%)が〈男性〉(32.0%)より9.9ポイント高く、「茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動(以下『文化活動』という。)」では〈女性〉(19.1%)が〈男性〉(11.6%)より7.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『メディア芸術活動』では〈男性20歳代〉が77.5%と高くなっている。『芸術活動』では〈女性20歳代〉が68.6%と高くなっている。「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈男性65～69歳〉が20.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『メディア芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.5%と高くなっている。『芸術活動』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.8%と高くなっている。『文化活動』では〈農林漁業〉が28.2%と高くなっている。「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈農林漁業〉が25.6%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈その他の無職・学生〉が40.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、「年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動」では〈農山村〉が13.2%と高くなっている。一方、「何も行っていない」では〈商店街〉が45.5%と高くなっている。

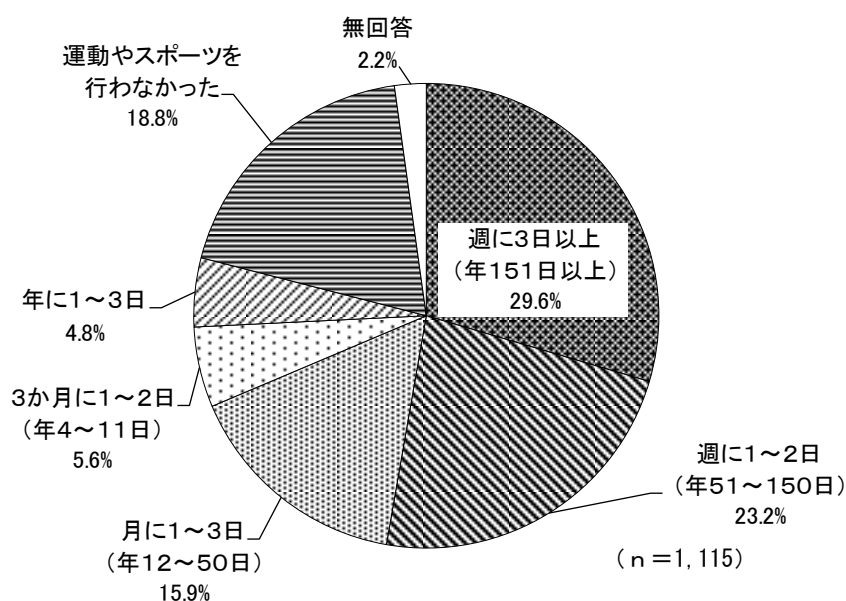
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) スポーツ活動について

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ(※)を行いましたか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

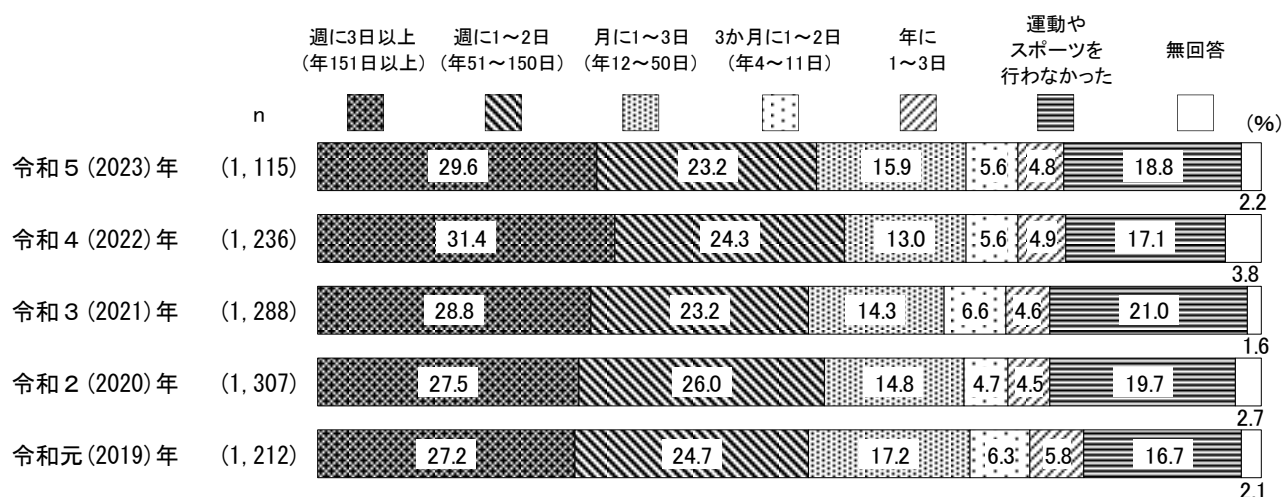
※ 運動やスポーツには、ウォーキング(散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど)、階段昇降(2アップ3ダウンなど)、ジョギング、水泳、体操(ラジオ体操、エアロビクスなど)、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ(フライングディスク、スポーツチャンバラなど)、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含まれます。

1 週に3日以上(年151日以上)	29.6%	4 3か月に1~2日(年4~11日)	5.6%
2 週に1~2日(年51~150日)	23.2%	5 年に1~3日	4.8%
3 月に1~3日(年12~50日)	15.9%	6 運動やスポーツを行わなかった	18.8%
		(無回答)	2.2%



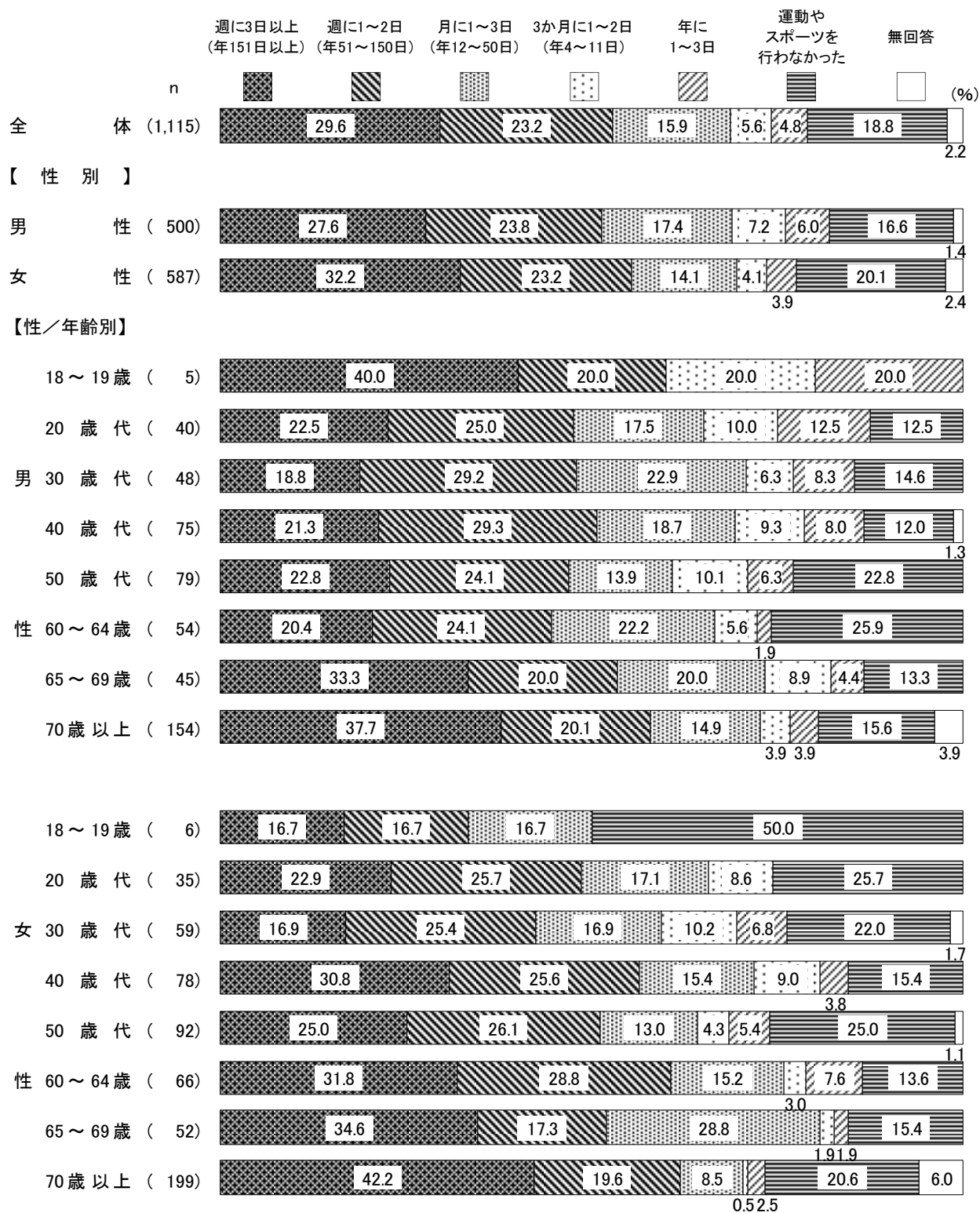
全体で見ると、「週に3日以上(年151日以上)」(29.6%)が3割弱で最も高く、次いで「週に1~2日(年51~150日)」(23.2%)、「月に1~3日(年12~50日)」(15.9%)の順となっている。一方、「運動やスポーツを行わなかった」(18.8%)が2割近くとなっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、「月に1~3日 (年12~50日)」が前回 (令和4 (2022)年) より2.9ポイント増加している。一方、「週に3日以上 (年151日以上)」が前回 (令和4 (2022)年) より1.8ポイント減少している。

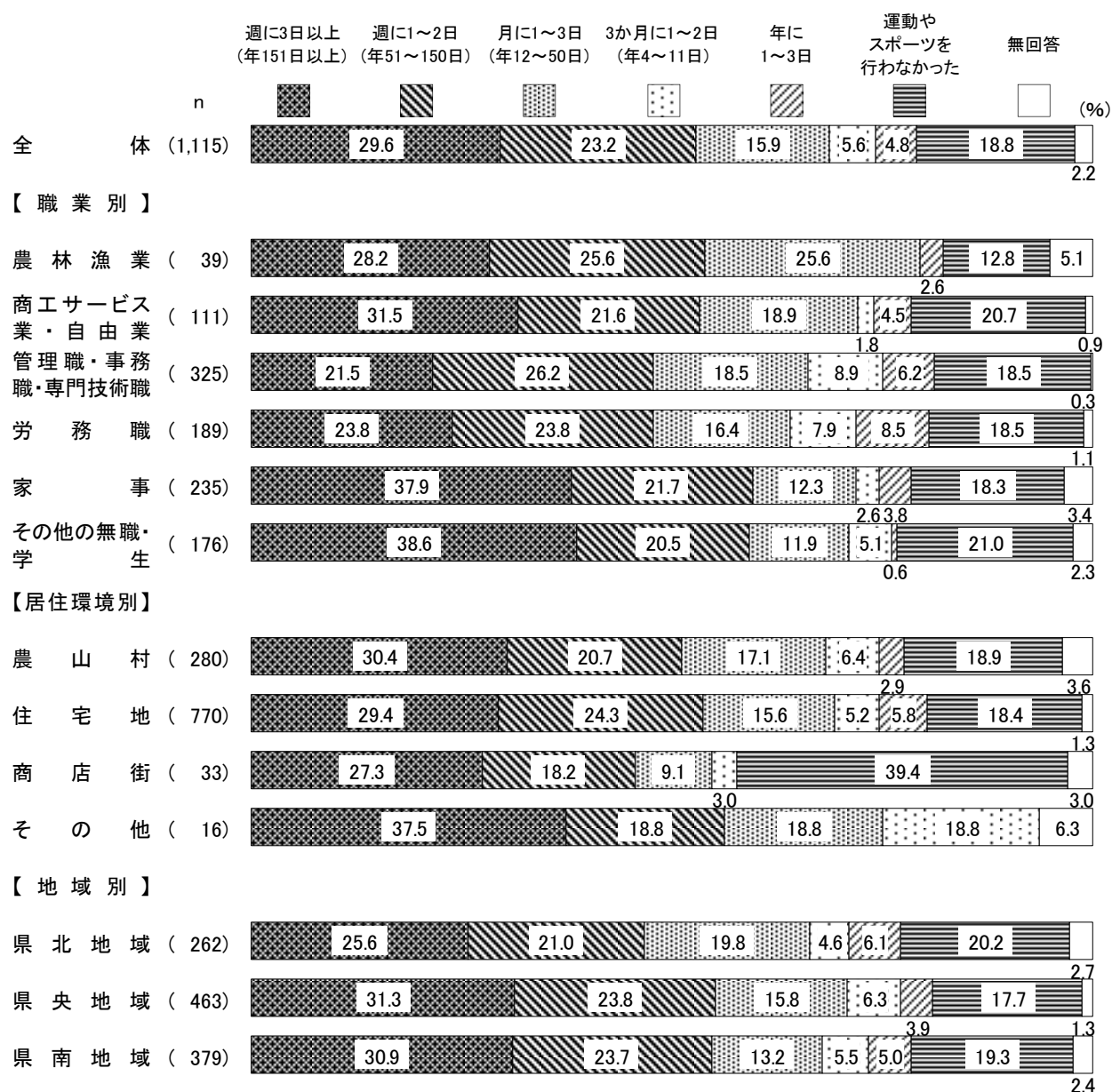
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「週3日以上 (年151日以上)」では〈女性70歳以上〉が42.2%と高くなっている。「月に1~3日 (年12~50日)」では〈女性65~69歳〉が28.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別]



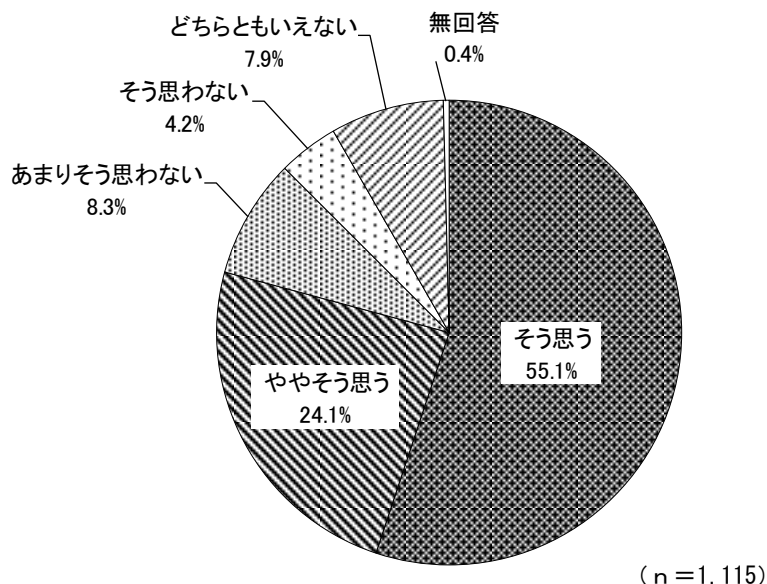
職業別でみると、「週に3日以上（年151日以上）」では〈その他の無職・学生〉が38.6%、〈家事〉が37.9%と高くなっている。「月に1～3日（年12～50日）」では〈農林漁業〉が25.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「運動やスポーツを行わなかった」では〈商店街〉が39.4%と高くなっている。地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

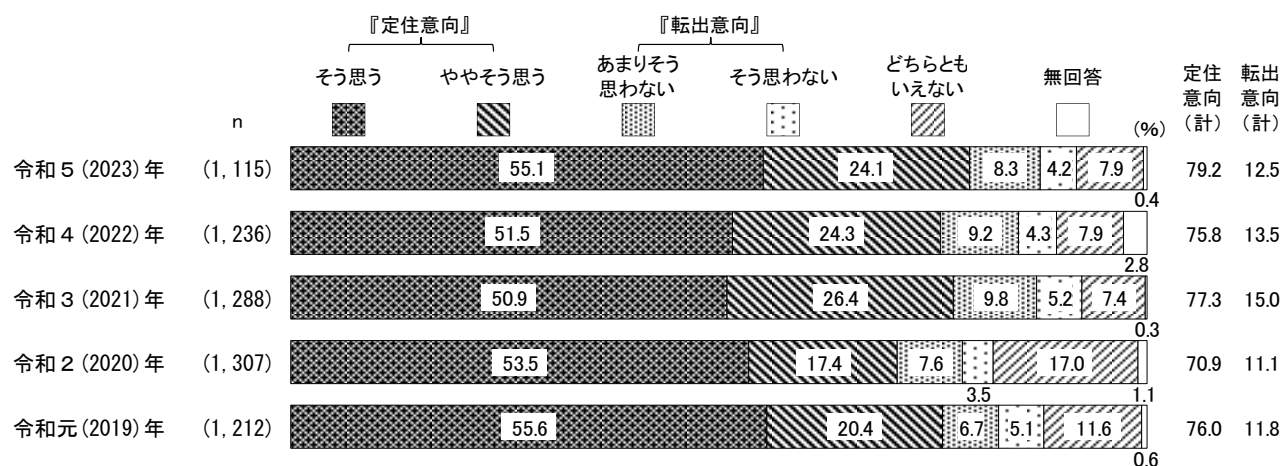
### (3) 住んでいる地域について

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1	そう思う	55.1%	4	そう思わない	4.2%
2	ややそう思う	24.1	5	どちらともいえない	7.9
3	あまりそう思わない	8.3		(無回答)	0.4

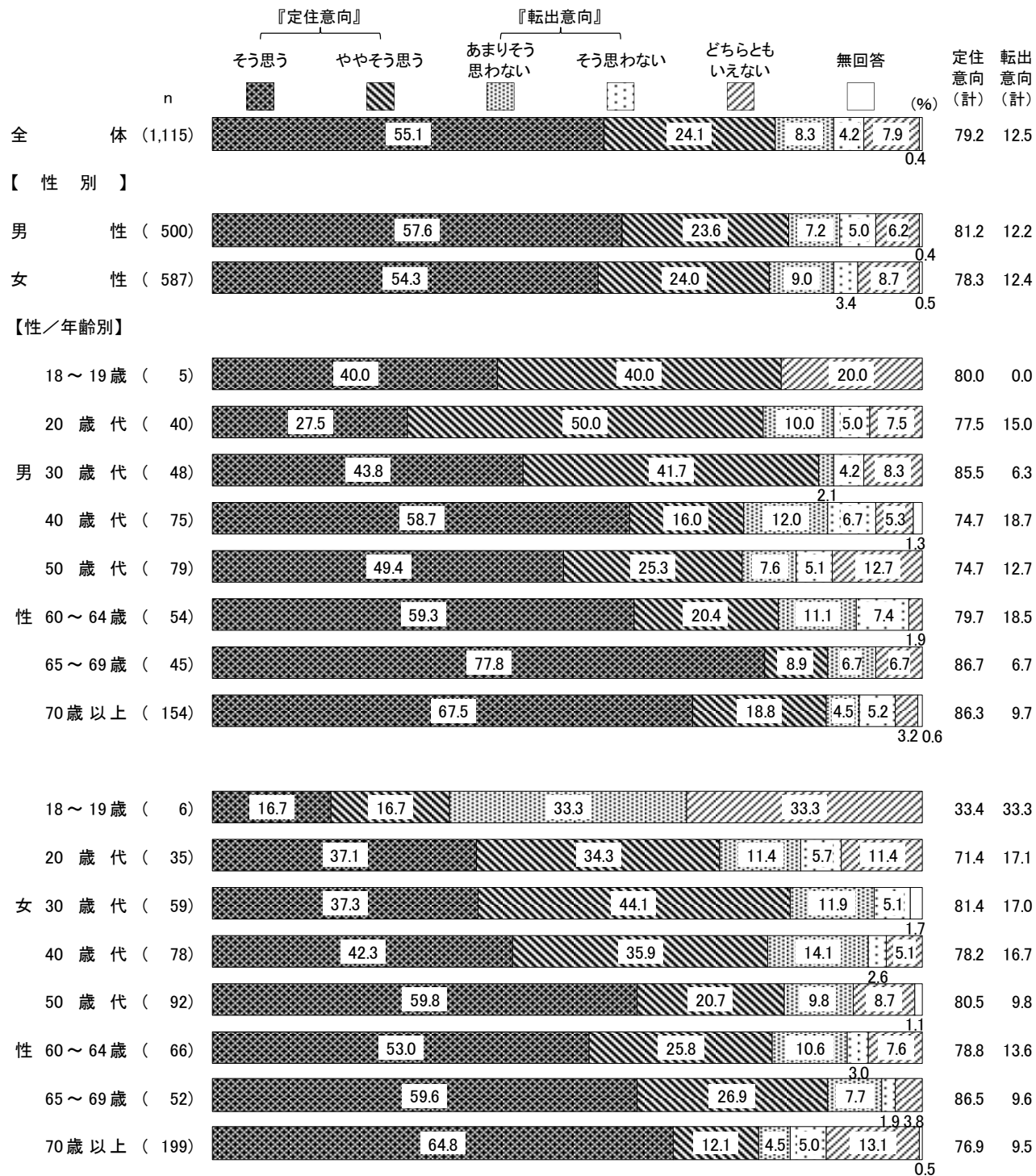


全体でみると、「そう思う」(55.1%)と「ややそう思う」(24.1%)の2つを合わせた『定住意向』(79.2%)が8割弱となっている。一方、「あまりそう思わない」(8.3%)と「そう思わない」(4.2%)の2つを合わせた『転出意向』(12.5%)が1割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、「そう思う」が前回(令和4(2022)年)より3.6ポイント増加している。

[性別・性／年齢別]

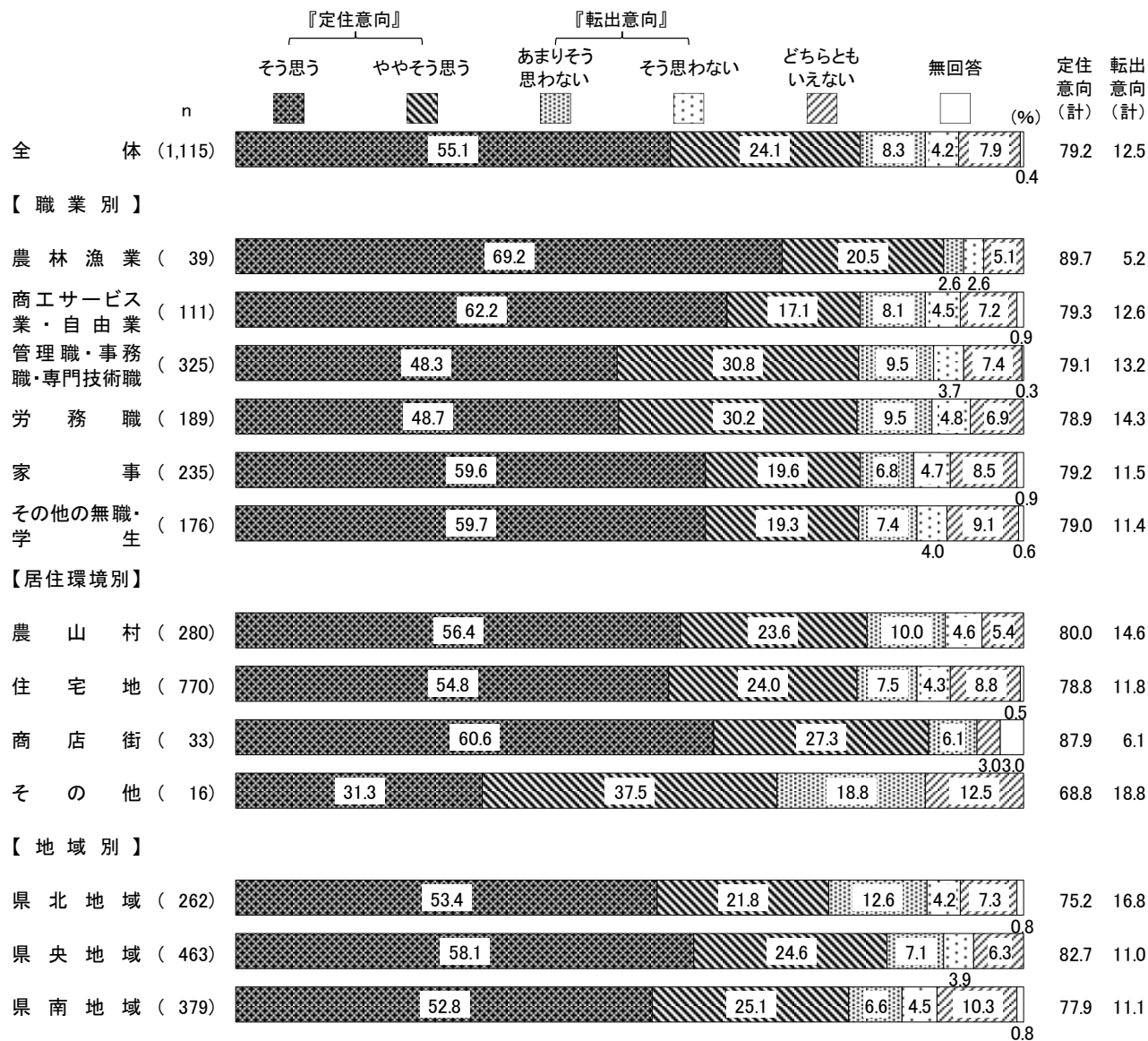


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「そう思う」では〈男性65～69歳〉が77.8%、〈男性70歳以上〉が67.5%と高くなっている。「ややそう思う」では〈男性20歳代〉が50.0%、〈女性30歳代〉が44.1%、〈男性30歳代〉が41.7%、〈女性40歳代〉が35.9%、〈女性20歳代〉が34.3%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別]



職業別でみると、『定住意向』は〈農林漁業〉が89.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『定住意向』では〈商店街〉が87.9%と高くなっている。

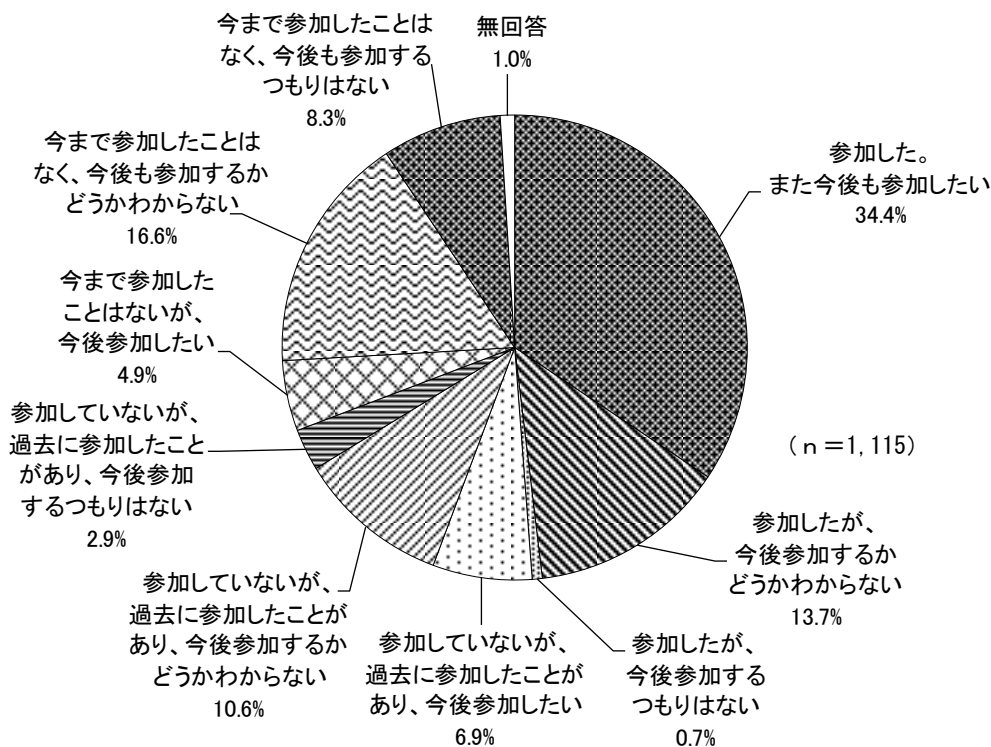
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

#### (4) 社会貢献活動について

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動(※)に参加しましたか。また、今後参加したいと思えますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO(非営利活動団体)活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

1	参加した。また今後も参加したい	34.4%
2	参加したが、今後参加するかどうかわからない	13.7
3	参加したが、今後参加するつもりはない	0.7
4	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい	6.9
5	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない	10.6
6	参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない	2.9
7	今まで参加したことはないが、今後参加したい	4.9
8	今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない	16.6
9	今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	8.3
	(無回答)	1.0

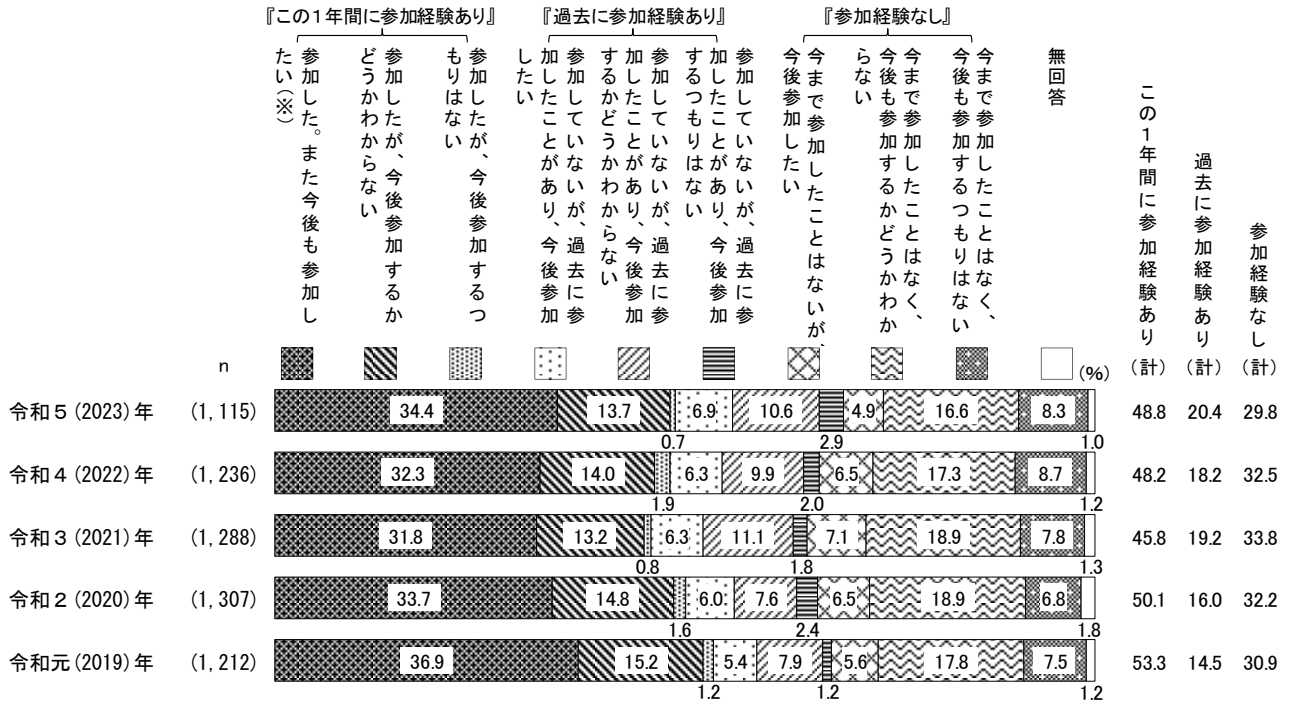


全体でみると、「参加した。また今後も参加したい」(34.4%)と「参加したが、今後参加するかどうかわからない」(13.7%)、「参加したが、今後参加するつもりはない」(0.7%)の3つを合わせた『この1年間に参加経験あり』(48.8%)が5割近くとなっている。

「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい」(6.9%)と「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない」(10.6%)、「参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない」(2.9%)の3つを合わせた『過去に参加経験あり』(20.4%)が約2割となっている。

「今まで参加したことはないが、今後参加したい」(4.9%)と「今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない」(16.6%)、「今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」(8.3%)の3つを合わせた『参加経験なし』(29.8%)が3割弱となっている。

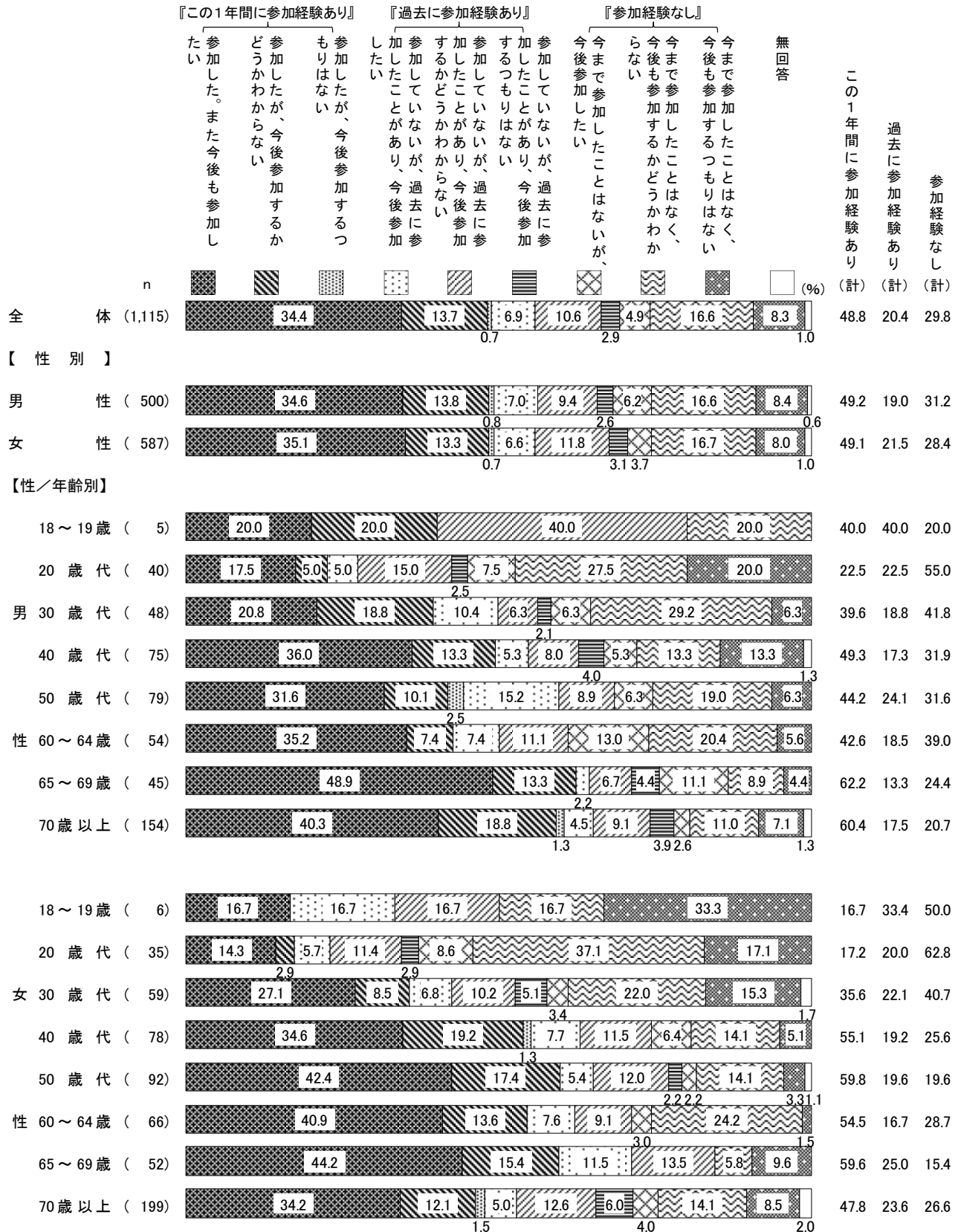
[過去の調査結果]



(※) 「参加した。また今後も参加したい」は、令和2(2020)年までは「参加し、今後も参加したい」としていた。

過去の調査結果と比較すると、前回(令和4(2022)年)と大きな傾向の違いはみられない。

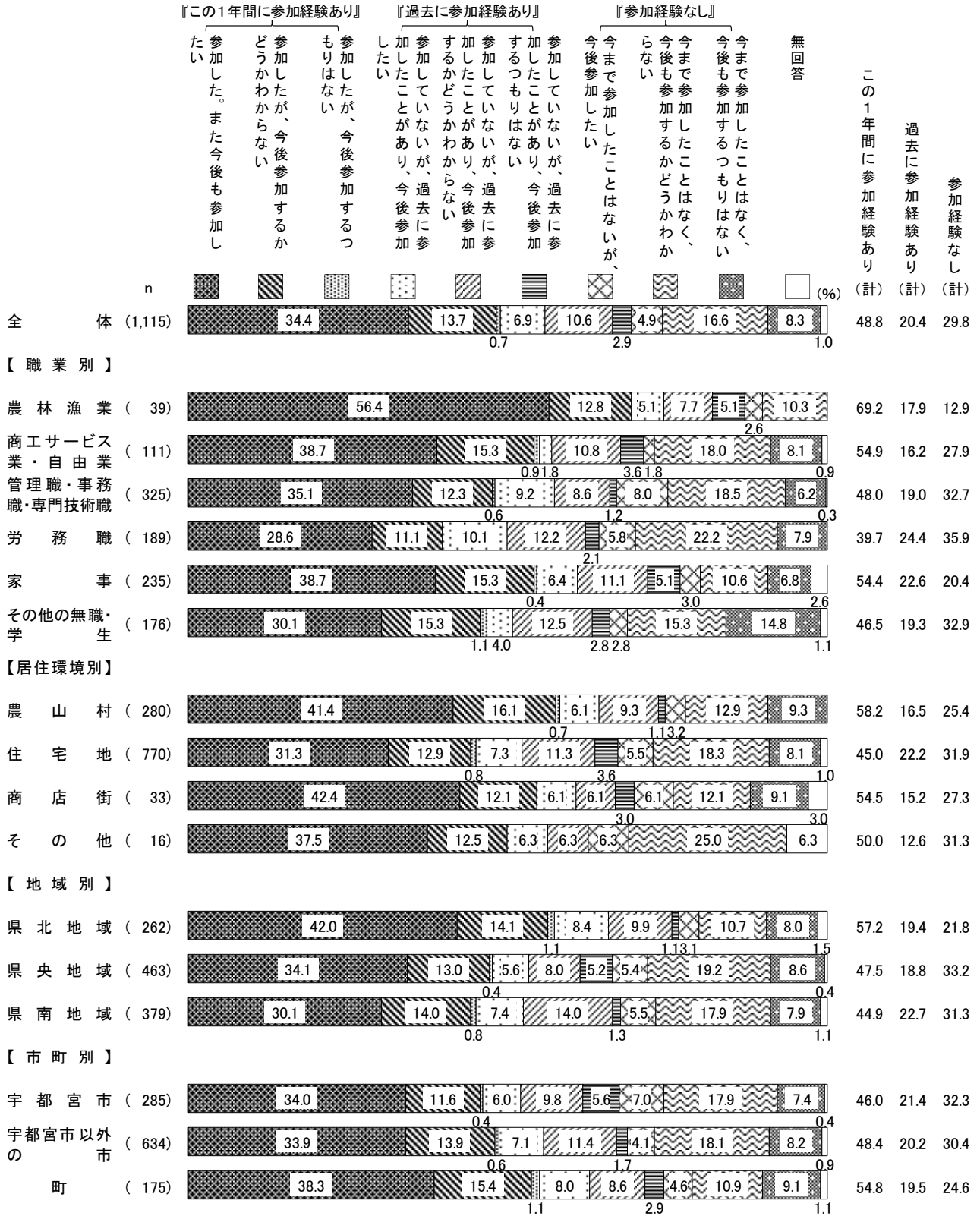
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈男性65～69歳〉が62.2%、〈男性70歳以上〉が60.4%、〈女性50歳代〉が59.8%、〈女性65～69歳〉が59.6%と高くなっている。一方、『参加経験なし』では〈女性20歳代〉が62.8%、〈男性20歳代〉が55.0%、〈男性30歳代〉が41.8%、〈女性30歳代〉が40.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農林漁業〉が69.2%、〈商工サービス業・自由業〉が54.9%、〈家事〉が54.4%と高くなっている。一方、『参加経験なし』では〈労務職〉が35.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈農山村〉が58.2%、〈商店街〉が54.5%と高くなっている。

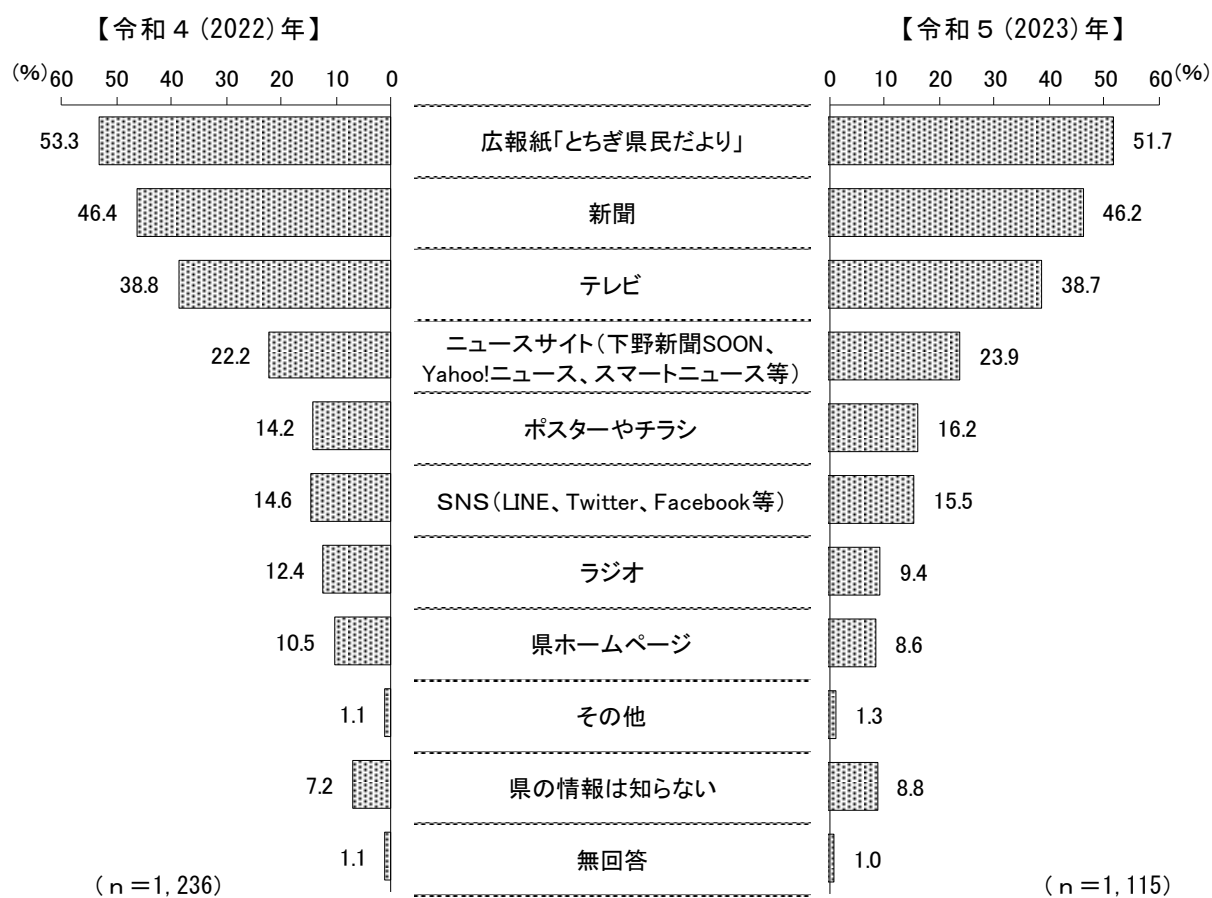
地域別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈県北地域〉が57.2%と高くなっている。

市町別でみると、『この1年間に参加経験あり』では〈町〉が54.8%と高くなっている。

(5) 県の事業や催し、案内などの情報入手手段

問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。  
次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

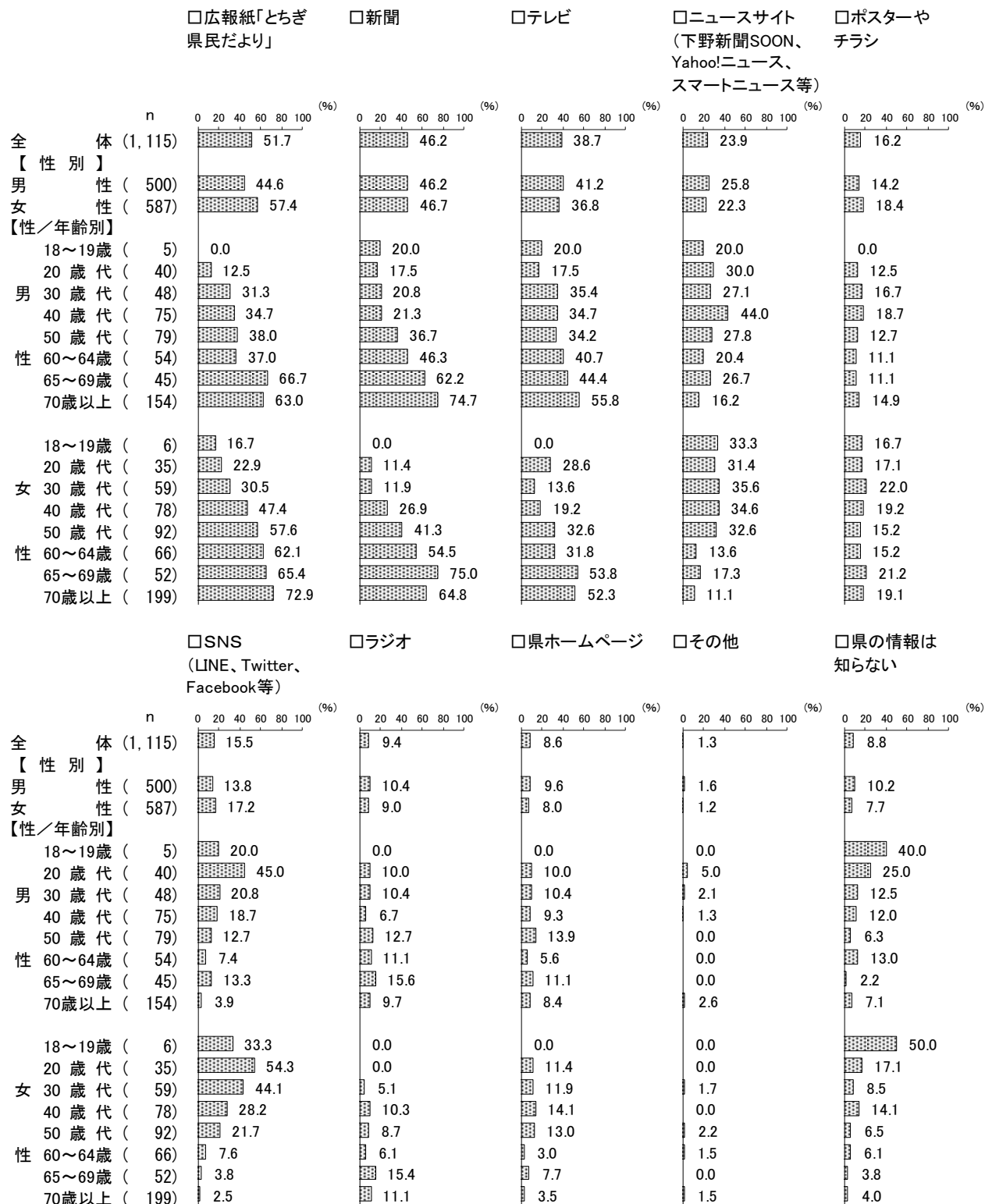
1	広報紙「とちぎ県民だより」	51.7%	7	ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)	23.9%
2	テレビ	38.7	8	ポスターやチラシ	16.2
3	ラジオ	9.4	9	その他	1.3
4	県ホームページ	8.6	10	県の情報は知らない	8.8
5	SNS(LINE、Twitter、Facebook等)	15.5		(無回答)	1.0
6	新聞	46.2			



全体で見ると、「広報紙『とちぎ県民だより』」(51.7%)が5割強で最も高く、次いで「新聞」(46.2%)、「テレビ」(38.7%)、「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」(23.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

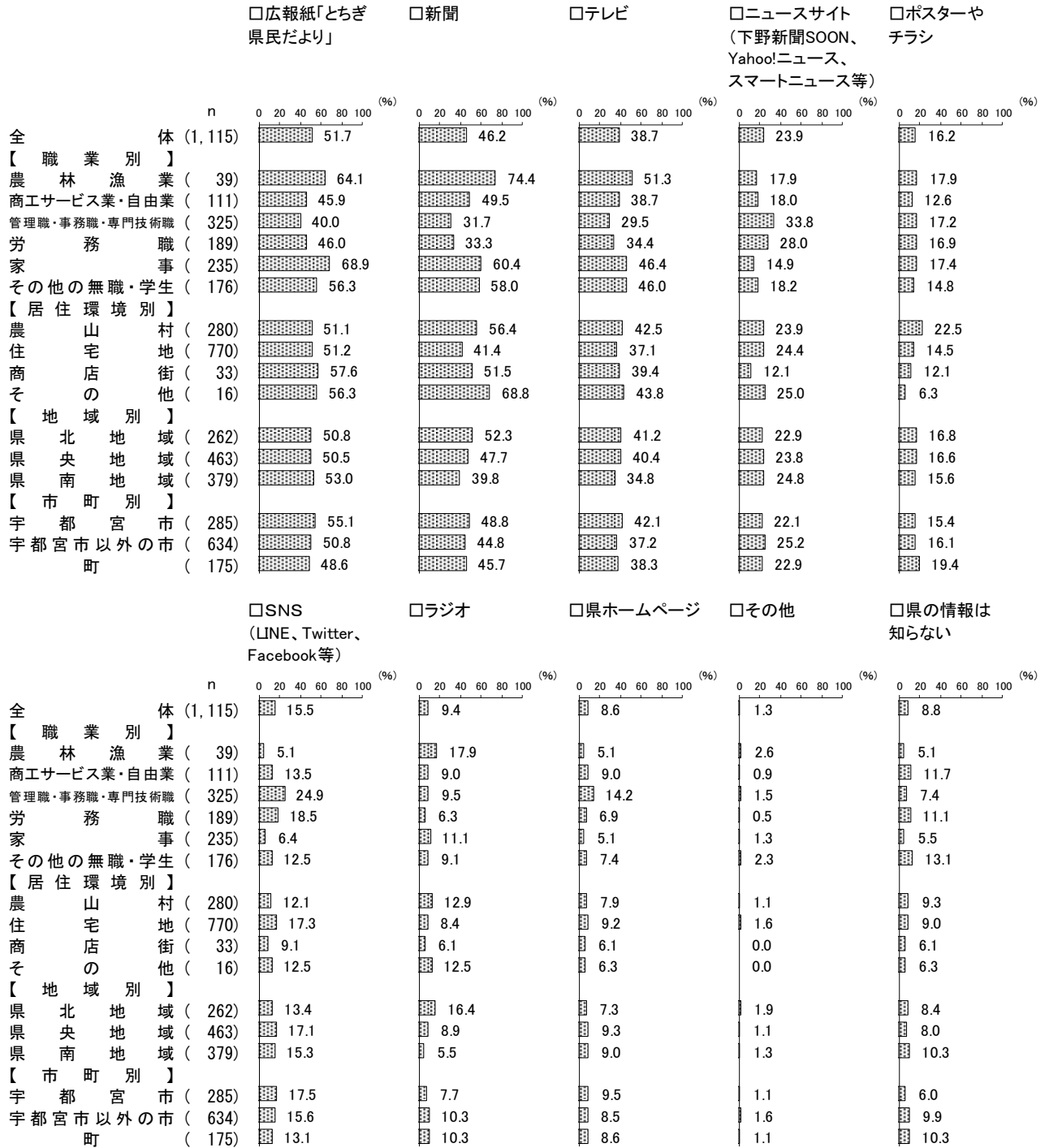
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性〉(57.4%)が〈男性〉(44.6%)より12.8ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈女性70歳以上〉が72.9%と高くなっている。「新聞」では〈女性65～69歳〉が75.0%と高くなっている。「テレビ」では〈男性70歳以上〉が55.8%と高くなっている。「ニュースサイト(下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等)」では〈男性40歳代〉が44.0%と高くなっている。「SNS(LINE、Twitter、Facebook等)」では〈女性20歳代〉が54.3%と高くなっている。一方、「県の情報は知らない」では〈男性20歳代〉が25.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈家事〉が68.9%と高くなっている。「新聞」、「テレビ」では〈農林漁業〉がそれぞれ74.4%、51.3%と高くなっている。「ニュースサイト（下野新聞SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）」、「SNS（LINE、Twitter、Facebook等）」では〈管理職・事務職・専門技術職〉がそれぞれ33.8%、24.9%と高くなっている。

居住環境別でみると、「広報紙『とちぎ県民だより』」では〈商店街〉が57.6%と高くなっている。「新聞」、「ポスターやチラシ」では〈農山村〉がそれぞれ56.4%、22.5%と高くなっている。

地域別でみると、「新聞」、「ラジオ」では〈県北地域〉がそれぞれ52.3%、16.4%と高くなっている。

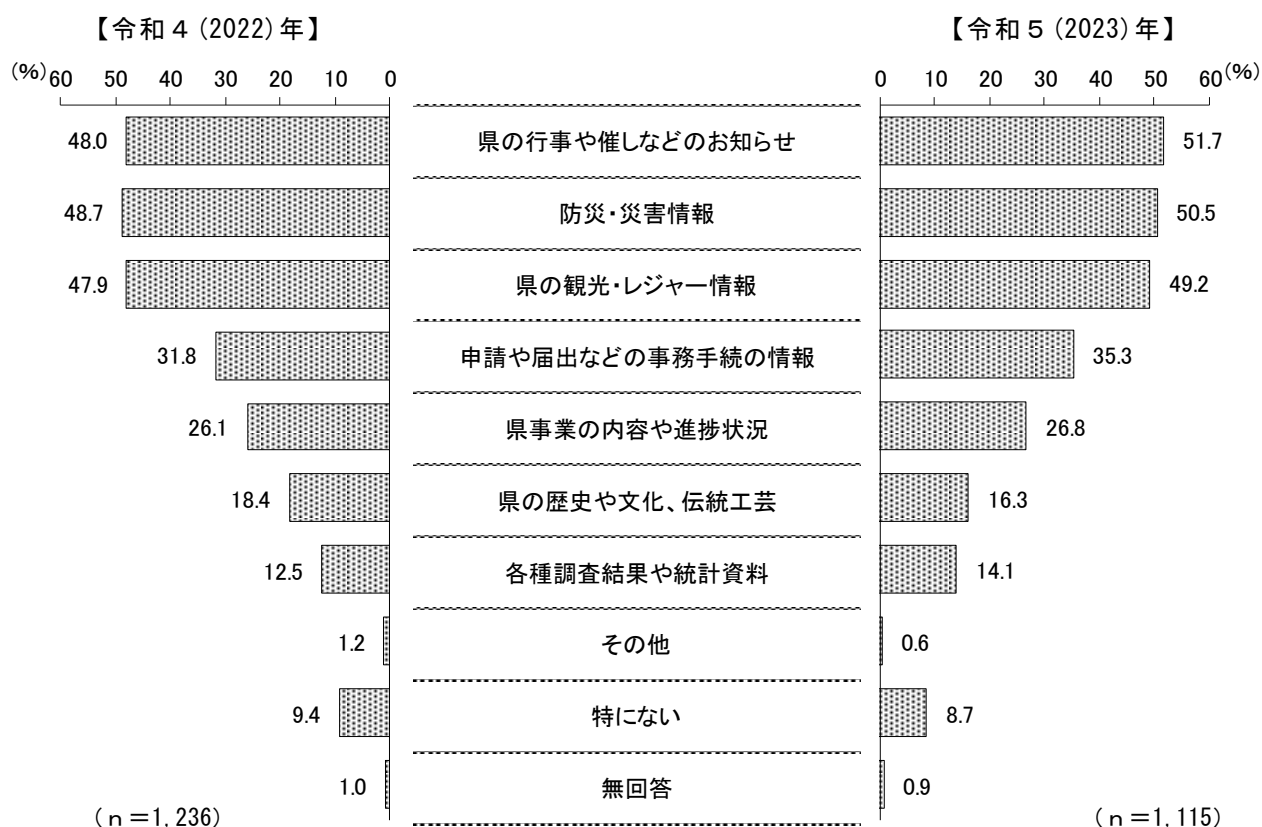
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。



## (6) 知りたい県政情報

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

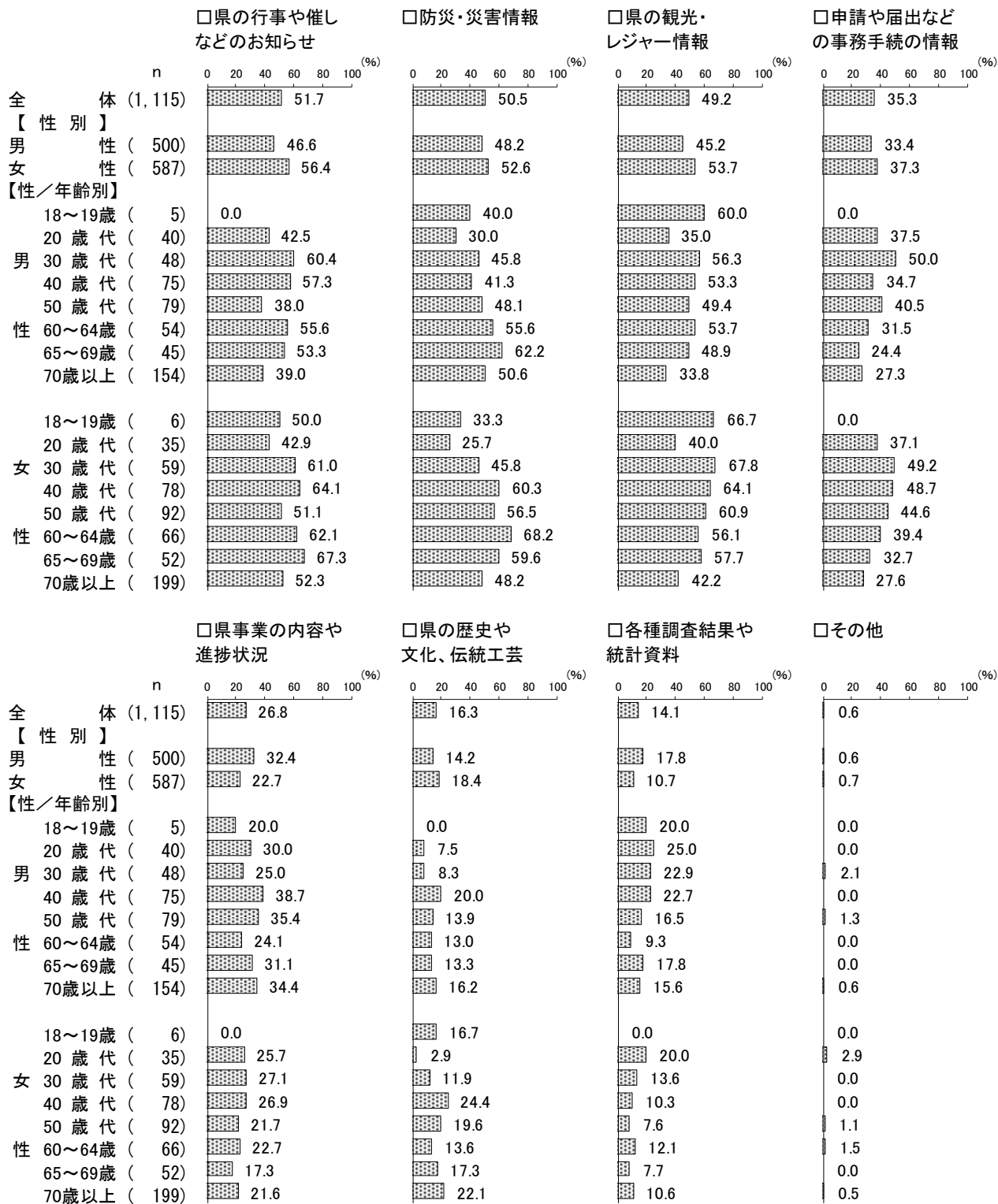
1	県事業の内容や進捗状況	26.8%	6	県の観光・レジャー情報	49.2%
2	申請や届出などの事務手続の情報	35.3	7	防災・災害情報	50.5
3	各種調査結果や統計資料	14.1	8	その他	0.6
4	県の行事や催しなどのお知らせ	51.7	9	特にない	8.7
5	県の歴史や文化、伝統工芸	16.3		(無回答)	0.9



全体で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」(51.7%)が5割強で最も高く、次いで「防災・災害情報」(50.5%)、「県の観光・レジャー情報」(49.2%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別]

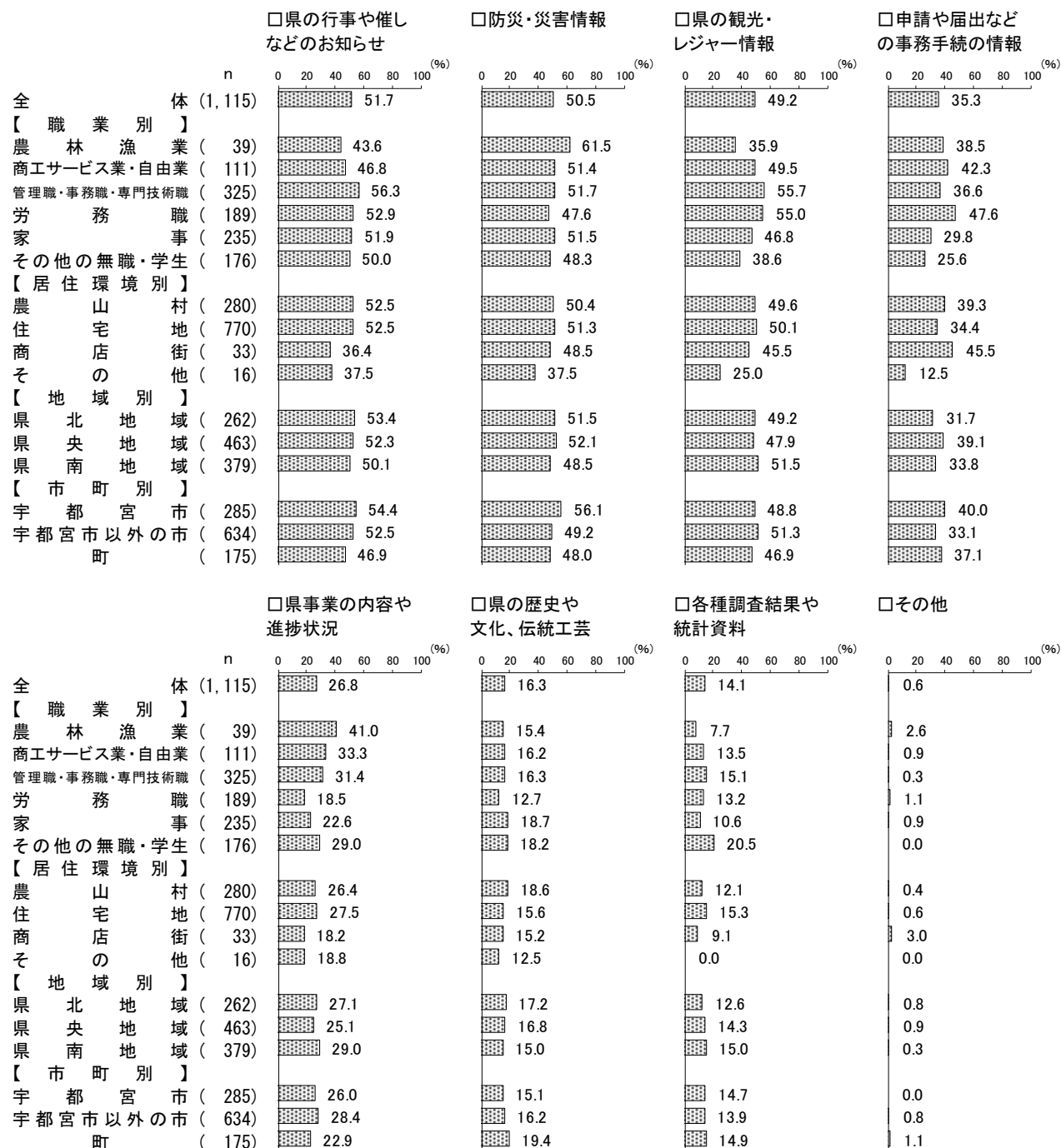


性別で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性〉(56.4%)が〈男性〉(46.6%)より9.8ポイント高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性〉(53.7%)が〈男性〉(45.2%)より8.5ポイント高くなっている。一方、「県事業の内容や進捗状況」では〈男性〉(32.4%)が〈女性〉(22.7%)より9.7ポイント高くなっている。「各種調査結果や統計資料」では〈男性〉(17.8%)が〈女性〉(10.7%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「県の行事や催しなどのお知らせ」では〈女性65～69歳〉が67.3%と高くなっている。「防災・災害情報」では〈女性60～64歳〉が68.2%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈女性30歳代〉が67.8%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈男性

30歳代)が50.0%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈男性40歳代)が38.7%と高くなっている。「各種調査結果や統計資料」では〈男性20歳代)が25.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「防災・災害情報」では〈農林漁業)が61.5%と高くなっている。「県の観光・レジャー情報」では〈管理職・事務職・専門技術職)が55.7%と高くなっている。「申請や届出などの事務手続の情報」では〈労務職)が47.6%と高くなっている。「県事業の内容や進捗状況」では〈農林漁業)が41.0%と高くなっている。「各種調査結果や統計資料」では〈その他の無職・学生)が20.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「申請や届出などの事務手続の情報」では〈商店街)が45.5%と高くなっている。地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

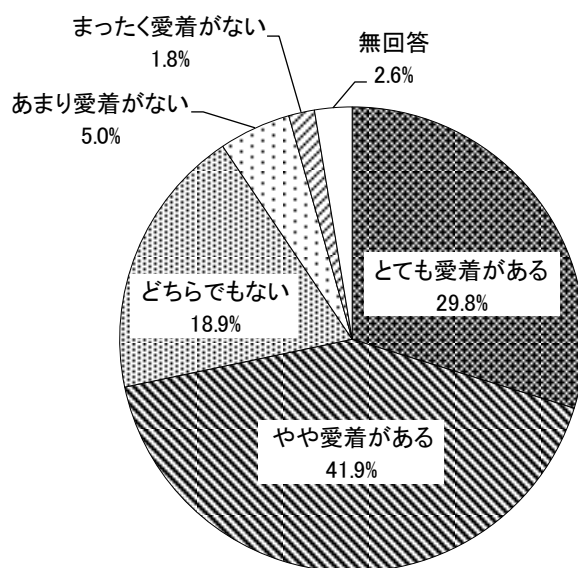
市町別でみると、「防災・災害情報」では〈宇都宮市)が56.1%と高くなっている。

## 4 栃木県への愛着と誇りについて

### (1) 栃木県に対する愛着

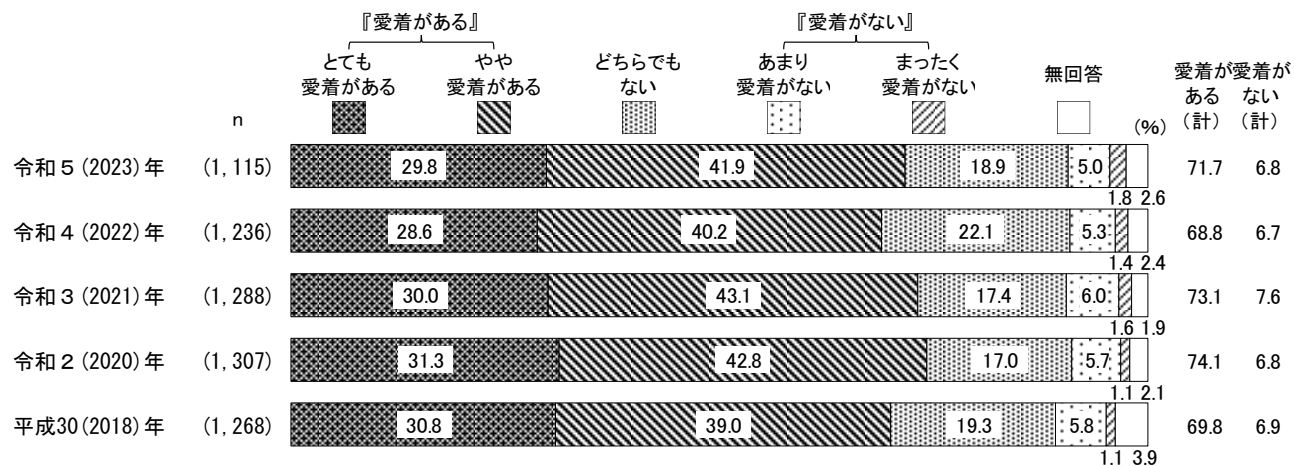
問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1	とても愛着がある	29.8%	4	あまり愛着がない	5.0%
2	やや愛着がある	41.9%	5	まったく愛着がない	1.8%
3	どちらでもない	18.9%		(無回答)	2.6%



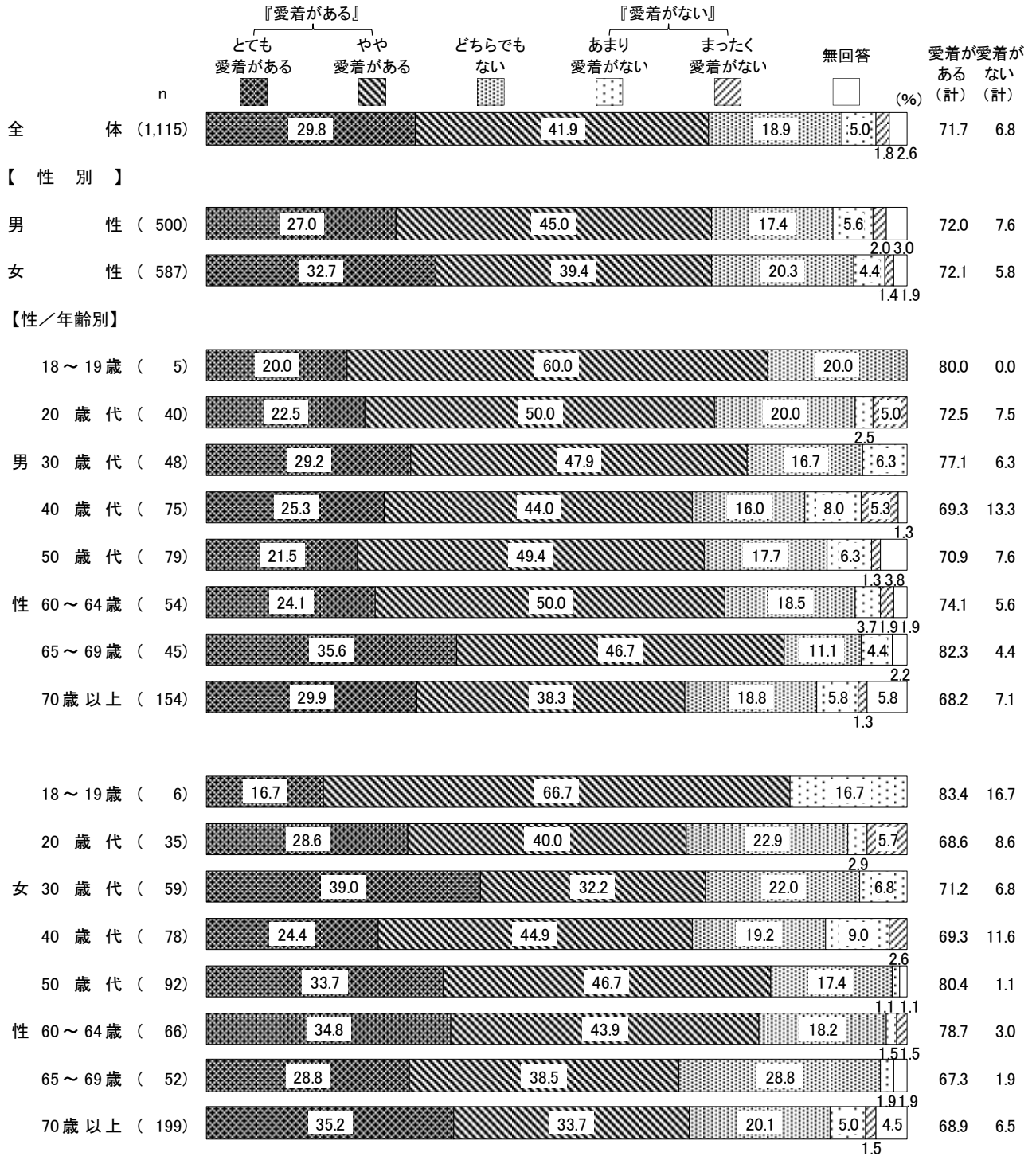
(n=1,115)

全体でみると、「とても愛着がある」(29.8%)と「やや愛着がある」(41.9%)の2つを合わせた『愛着がある』(71.7%)が7割強となっている。一方、「あまり愛着がない」(5.0%)と「まったく愛着がない」(1.8%)の2つを合わせた『愛着がない』(6.8%)が1割未満となっている。また、「どちらでもない」(18.9%)が2割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

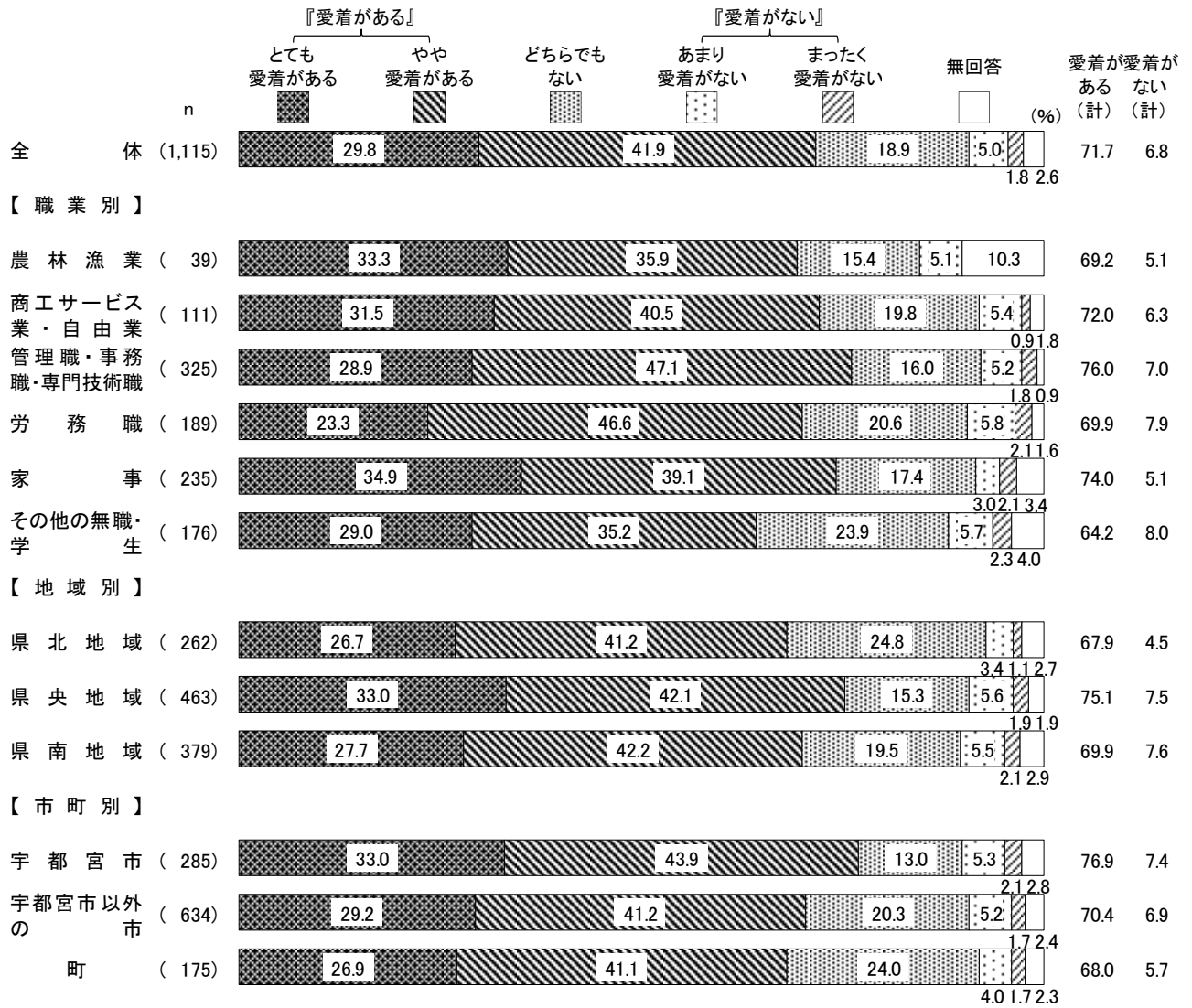
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「とても愛着がある」では〈女性〉(32.7%)が〈男性〉(27.0%)より5.7ポイント高くなっている。「やや愛着がある」では〈男性〉(45.0%)が〈女性〉(39.4%)より5.6ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『愛着がある』では〈男性65～69歳〉が82.3%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、「とても愛着がある」では〈家事〉が34.9%と高くなっている。「やや愛着がある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が47.1%と高くなっている。「どちらでもない」では〈その他の無職・学生〉が23.9%と高くなっている。

地域別でみると、「どちらでもない」では〈県北地域〉が24.8%と高くなっている。

市町別でみると、『愛着がある』では〈宇都宮市〉が76.9%と高くなっている。「どちらでもない」では〈町〉が24.0%と高くなっている。

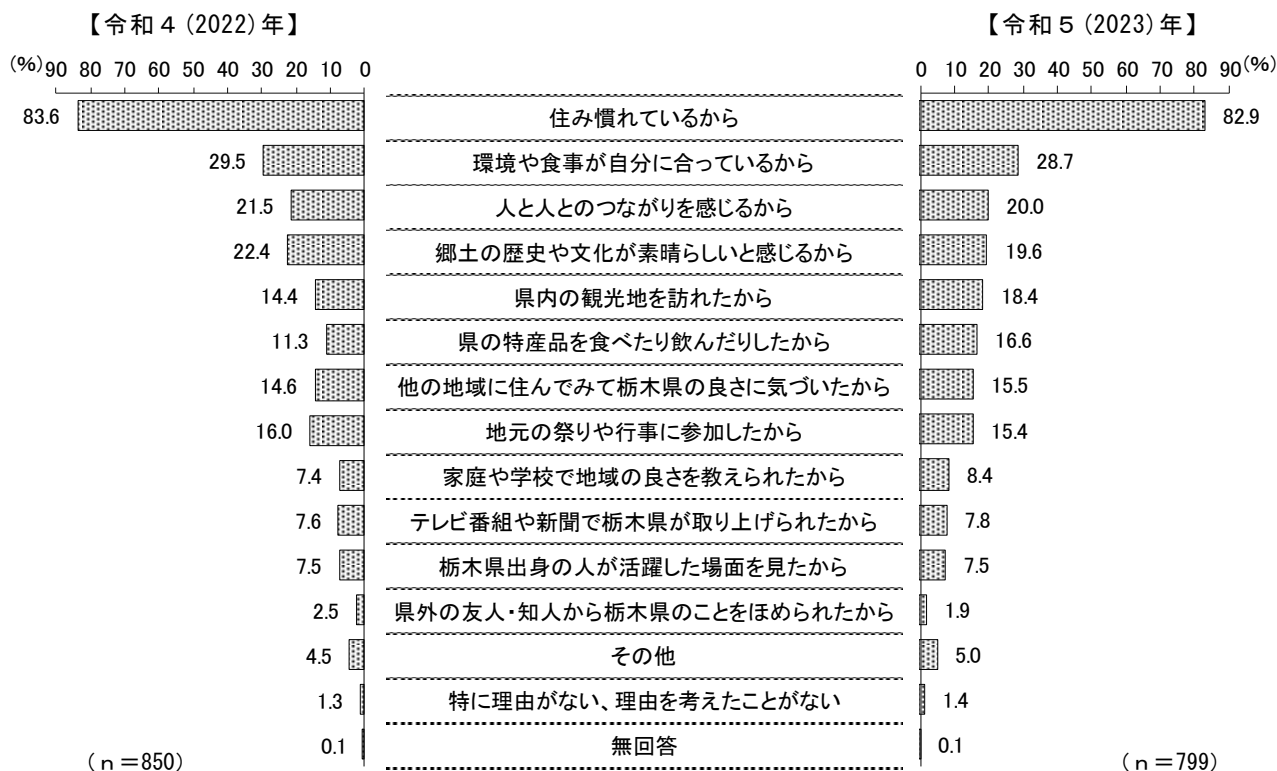
## (2) 栃木県に愛着を感じる理由

(問13で選択肢「とても愛着がある」、「やや愛着がある」を選んだ方のみお答えください)

問14 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

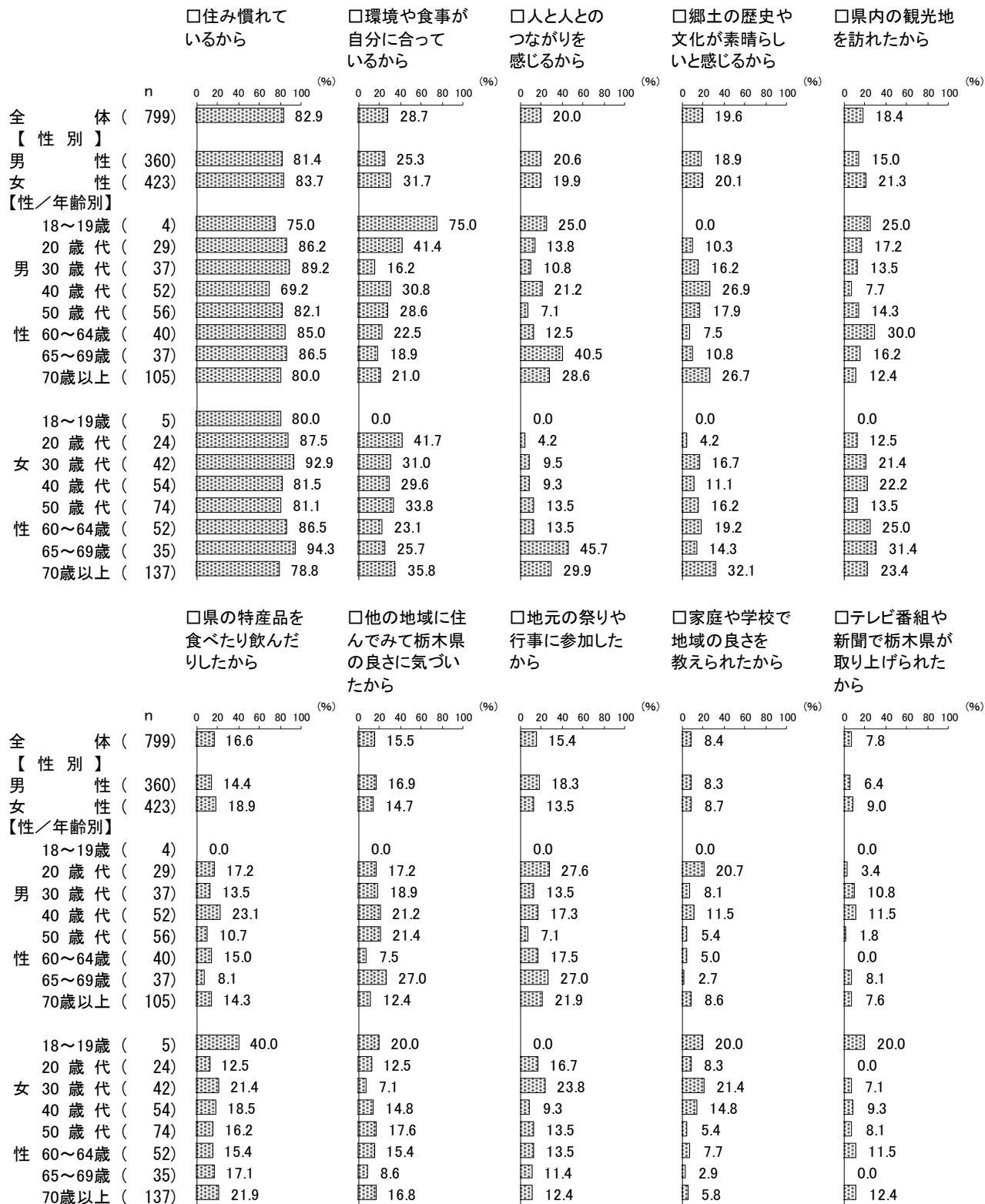
[n = 799]

1	地元の祭りや行事に参加したから	15.4%
2	家庭や学校で地域の良さを教えられたから	8.4
3	郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから	19.6
4	他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから	15.5
5	住み慣れているから	82.9
6	人と人とのつながりを感じるから	20.0
7	環境や食事が自分に合っているから	28.7
8	テレビ番組や新聞で栃木県が取り上げられたから	7.8
9	県外の友人・知人から栃木県のことをほめられたから	1.9
10	県内の観光地を訪れたから	18.4
11	県の特産品を食べたり飲んだりしたから	16.6
12	栃木県出身の人が活躍した場面を見たから	7.5
13	その他	5.0
14	特に理由がない、理由を考えたことがない (無回答)	1.4 0.1



全体で見ると、「住み慣れているから」(82.9%)が8割強で最も高くなっている。前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



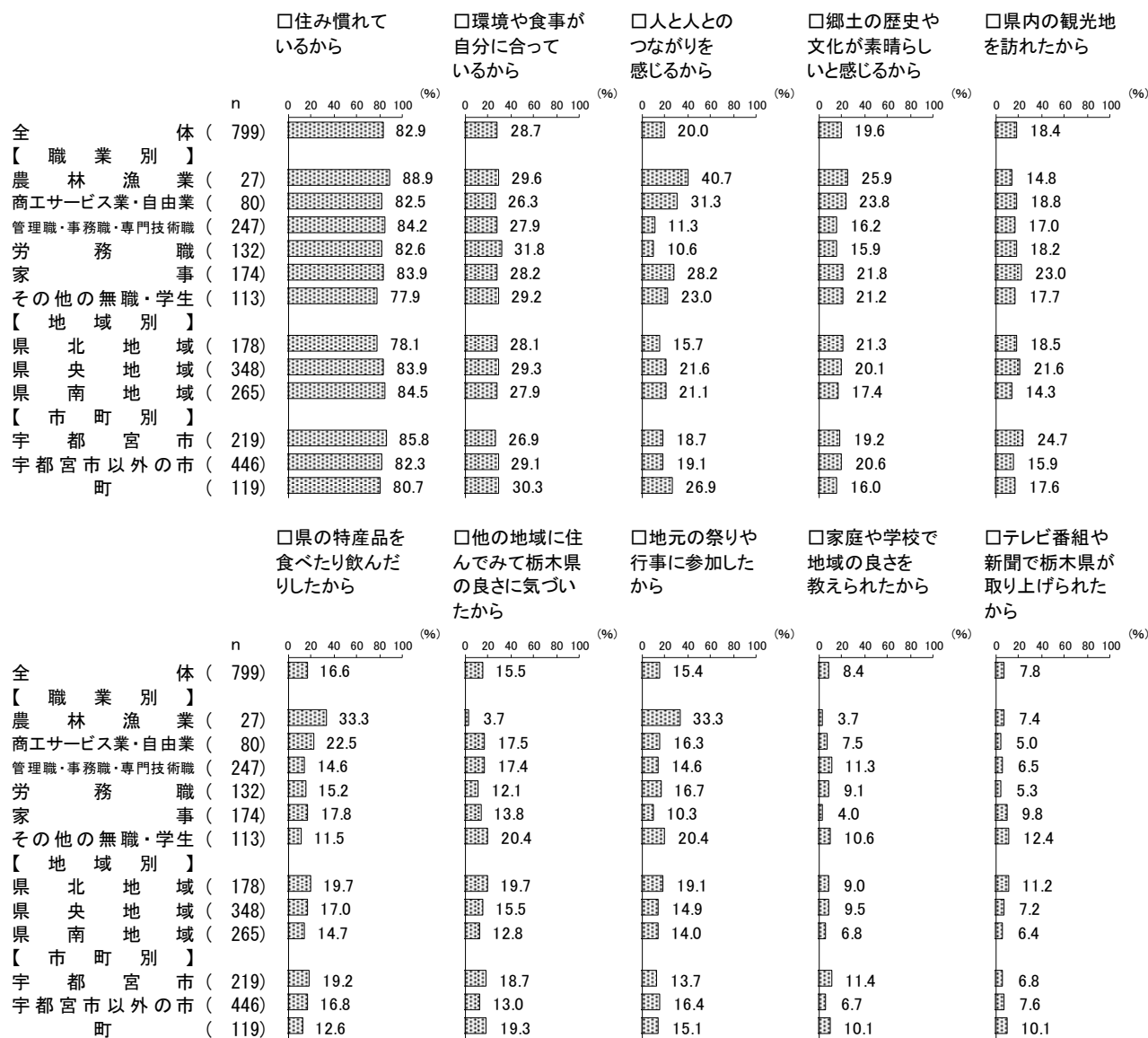
性別でみると、「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性〉(31.7%)が〈男性〉(25.3%)より6.4ポイント高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性〉(21.3%)が〈男性〉(15.0%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「住み慣れているから」では〈女性65~69歳〉が94.3%と高くなっている。「環境や食事が自分に合っているから」では〈女性20歳代〉が41.7%と高くなっている。「人と人とのつながりを感じるから」では〈女性65~69歳〉が45.7%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈女性65~69歳〉が45.7%と高くなっている。



いと感じるから」では〈女性70歳以上〉が32.1%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈女性65～69歳〉が31.4%と高くなっている。「他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから」では〈男性65～69歳〉が27.0%と高くなっている。「地元の祭りや行事に参加したから」では〈男性20歳代〉が27.6%と高くなっている。「家庭や学校で地域の良さを教えられたから」では〈女性30歳代〉が21.4%と高くなっている。

【職業別・地域別・市町別】（上位10項目）



職業別でみると、「住み慣れているから」では〈農林漁業〉が88.9%と高くなっている。「人と人とのつながりを感じるから」では〈農林漁業〉が40.7%と高くなっている。「郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから」では〈農林漁業〉が25.9%と高くなっている。「県の特産品を食べたり飲んだりしたから」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。「地元の祭りや行事に参加したから」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。

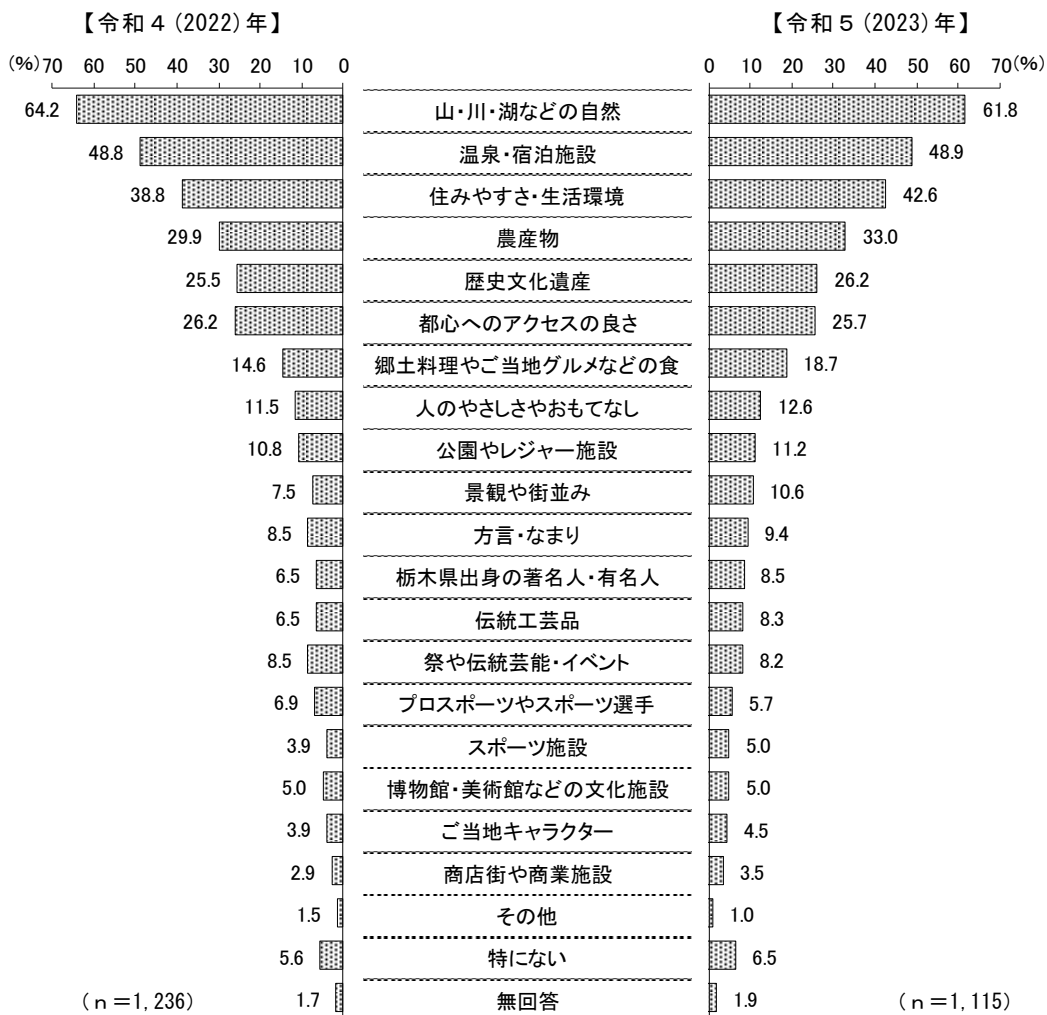
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「人と人とのつながりを感じるから」では〈町〉が26.9%と高くなっている。「県内の観光地を訪れたから」では〈宇都宮市〉が24.7%と高くなっている。

### (3) 栃木県の魅力あるものとして自慢できるもの

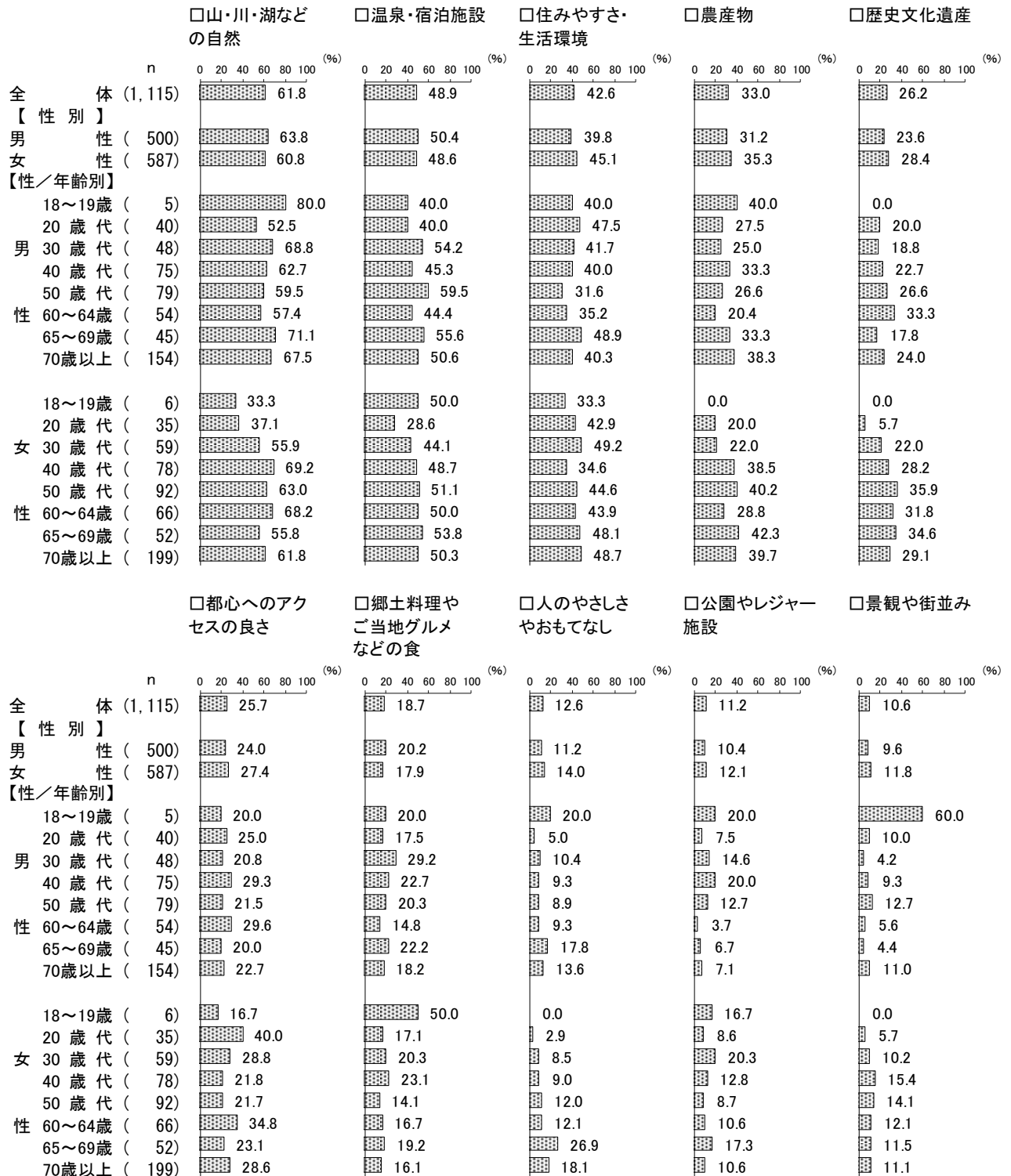
問15 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

1	山・川・湖などの自然	61.8%	12	郷土料理やご当地グルメなどの食	18.7%
2	温泉・宿泊施設	48.9	13	人のやさしさやおもてなし	12.6
3	公園やレジャー施設	11.2	14	方言・なまり	9.4
4	スポーツ施設	5.0	15	住みやすさ・生活環境	42.6
5	商店街や商業施設	3.5	16	都心へのアクセスの良さ	25.7
6	博物館・美術館などの文化施設	5.0	17	ご当地キャラクター	4.5
7	祭や伝統芸能・イベント	8.2	18	プロスポーツやスポーツ選手	5.7
8	景観や街並み	10.6	19	栃木県出身の著名人・有名人	8.5
9	歴史文化遺産	26.2	20	その他	1.0
10	伝統工芸品	8.3	21	特にない	6.5
11	農産物	33.0		(無回答)	1.9



全体で見ると、「山・川・湖などの自然」(61.8%)が6割強で最も高く、次いで「温泉・宿泊施設」(48.9%)、「住みやすさ・生活環境」(42.6%)、「農産物」(33.0%)の順となっている。前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

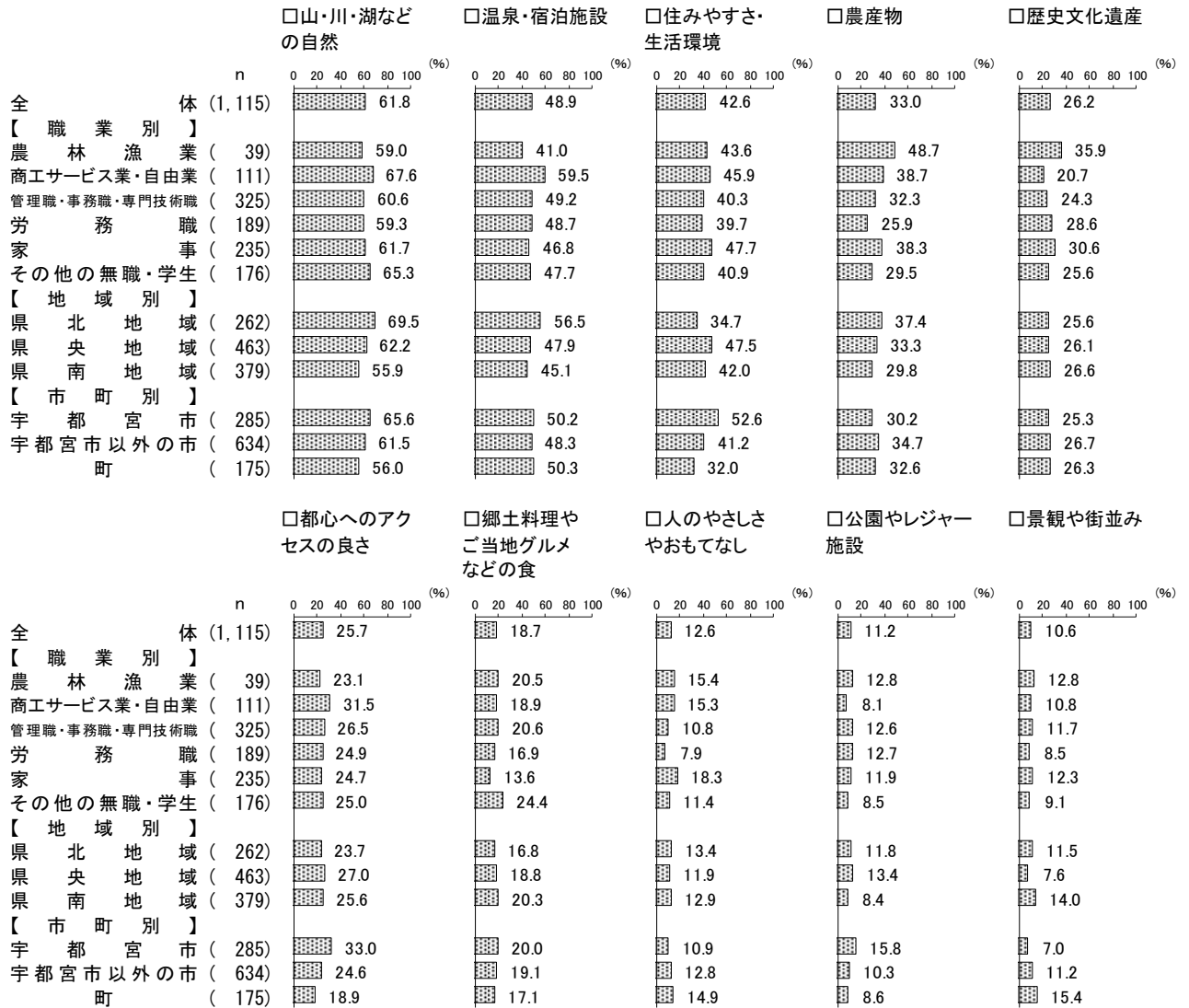
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別でみると、「住みやすさ・生活環境」では〈女性〉(45.1%)が〈男性〉(39.8%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「温泉・宿泊施設」では〈男性50歳代〉が59.5%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈女性20歳代〉が40.0%と高くなっている。「郷土料理やご当地グルメなどの食」では〈男性30歳代〉が29.2%と高くなっている。「人のやさしさやおもてなし」では〈女性65～69歳〉が26.9%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)



職業別でみると、「山・川・湖などの自然」では〈商工サービス業・自由業〉が67.6%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈商工サービス業・自由業〉が59.5%と高くなっている。「住みやすさ・生活環境」では〈家事〉が47.7%と高くなっている。「農産物」では〈農林漁業〉が48.7%と高くなっている。「歴史文化遺産」では〈農林漁業〉が35.9%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈商工サービス業・自由業〉が31.5%と高くなっている。「郷土料理やご当地グルメなどの食」では〈その他の無職・学生〉が24.4%と高くなっている。「人のやさしさやおもてなし」では〈家事〉が18.3%と高くなっている。

地域別でみると、「山・川・湖などの自然」では〈県北地域〉が69.5%と高くなっている。「温泉・宿泊施設」では〈県北地域〉が56.5%と高くなっている。

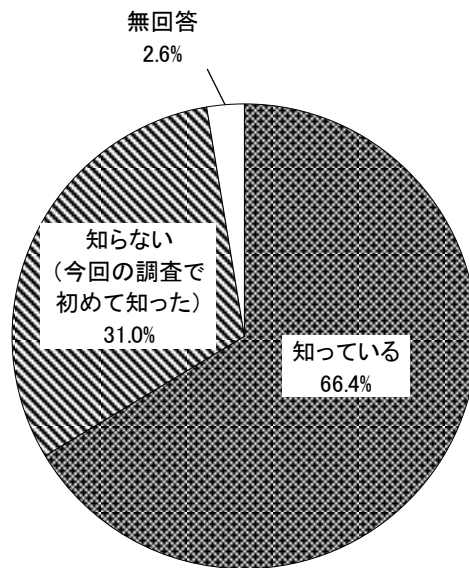
市町別でみると、「住みやすさ・生活環境」では〈宇都宮市〉が52.6%と高くなっている。「都心へのアクセスの良さ」では〈宇都宮市〉が33.0%と高くなっている。

## 5 SDGsについて

### (1) SDGsの認知度

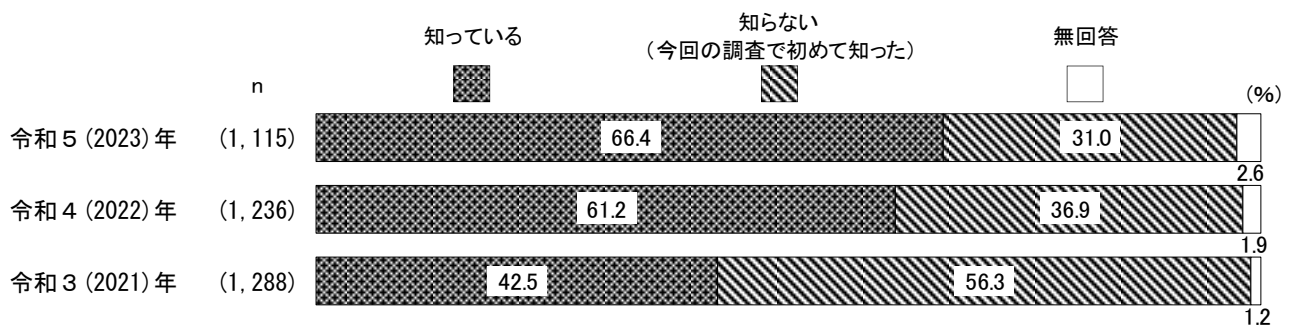
問16 あなたは、SDGs(エスディージーズ)という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 知っている	66.4%
2 知らない(今回の調査で初めて知った)	31.0
(無回答)	2.6



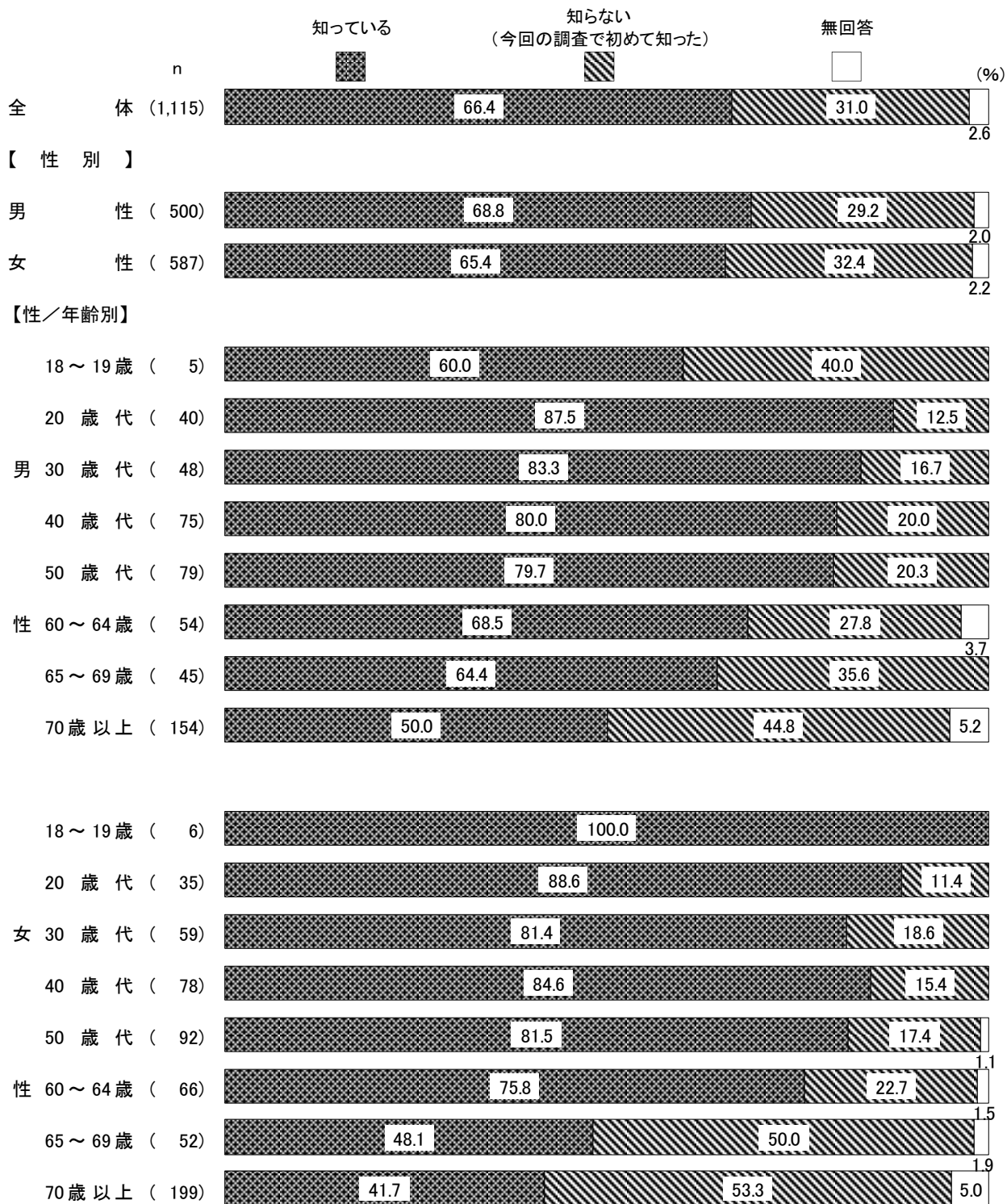
(n=1,115)

全体で見ると、「知っている」(66.4%)が6割台半ばを超え、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(31.0%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、「知っている」が令和3(2021)年より増加傾向が続き、令和3(2021)年より23.9ポイント増加している。

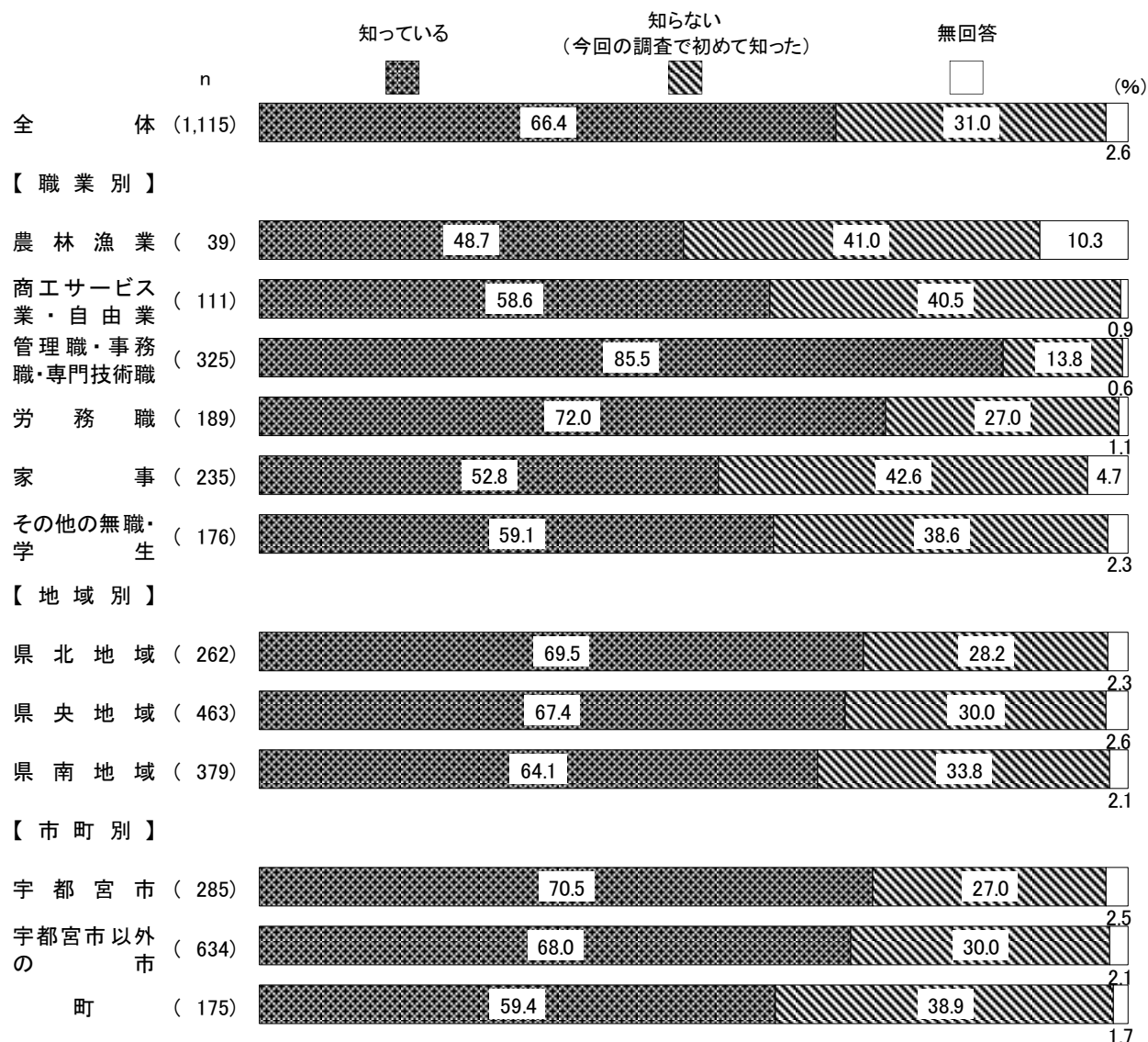
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「知っている」では〈女性20歳代〉が88.6%、〈男性20歳代〉が87.5%、〈女性40歳代〉が84.6%、〈男性30歳代〉が83.3%、〈女性50歳代〉が81.5%、〈女性30歳代〉が81.4%、〈男性40歳代〉が80.0%、〈男性50歳代〉が79.7%と高くなっている。一方、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈女性70歳以上〉が53.3%、〈女性65～69歳〉が50.0%、〈男性70歳以上〉が44.8%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が85.5%、〈労務職〉が72.0%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈家事〉が42.6%、〈農林漁業〉が41.0%、〈商工サービス業・自由業〉が40.5%、〈その他の無職・学生〉が38.6%と高くなっている。

地域別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

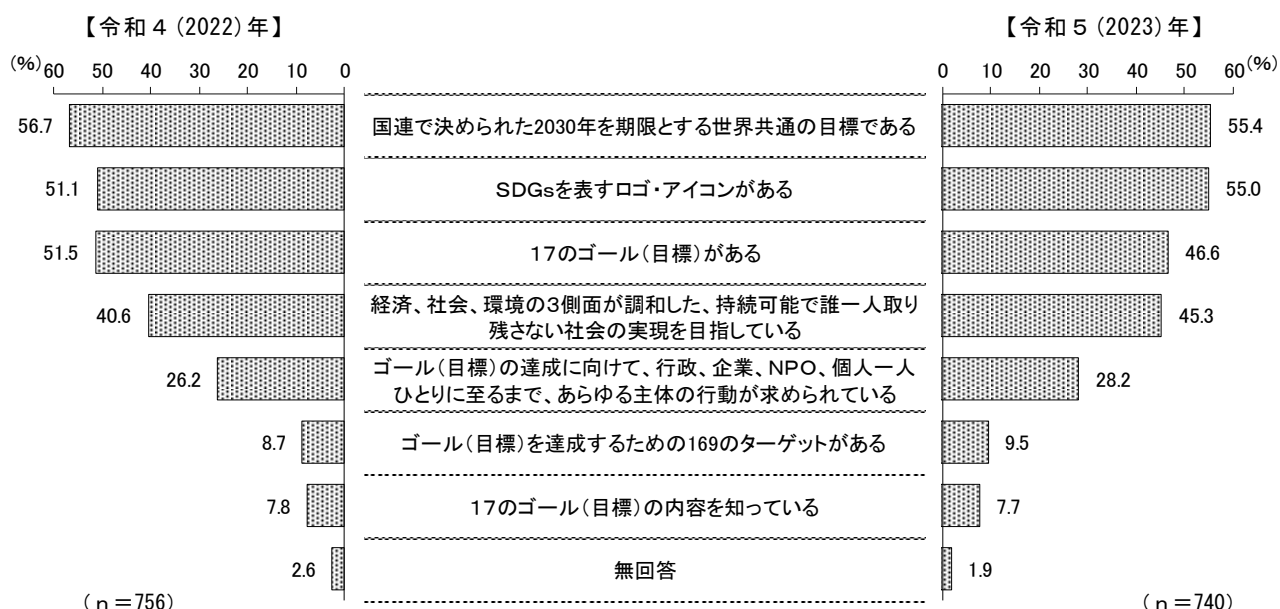
市町別で見ると、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈町〉が38.9%と高くなっている。

## (2) SDGsのどのようなことを知っているか

(問16で選択肢「知っている」を選んだ方のみお答えください)

問17 SDGs(イデオロギー)について、どのようなことを知っていますか。次の中からいくつかでも選んでください。 [n=740]

1	国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である	55.4%
2	SDGsを表すロゴ・アイコンがある	55.0
3	17のゴール(目標)がある	46.6
4	ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある	9.5
5	経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している	45.3
6	ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている	28.2
7	17のゴール(目標)の内容を知っている	7.7
	(無回答)	1.9

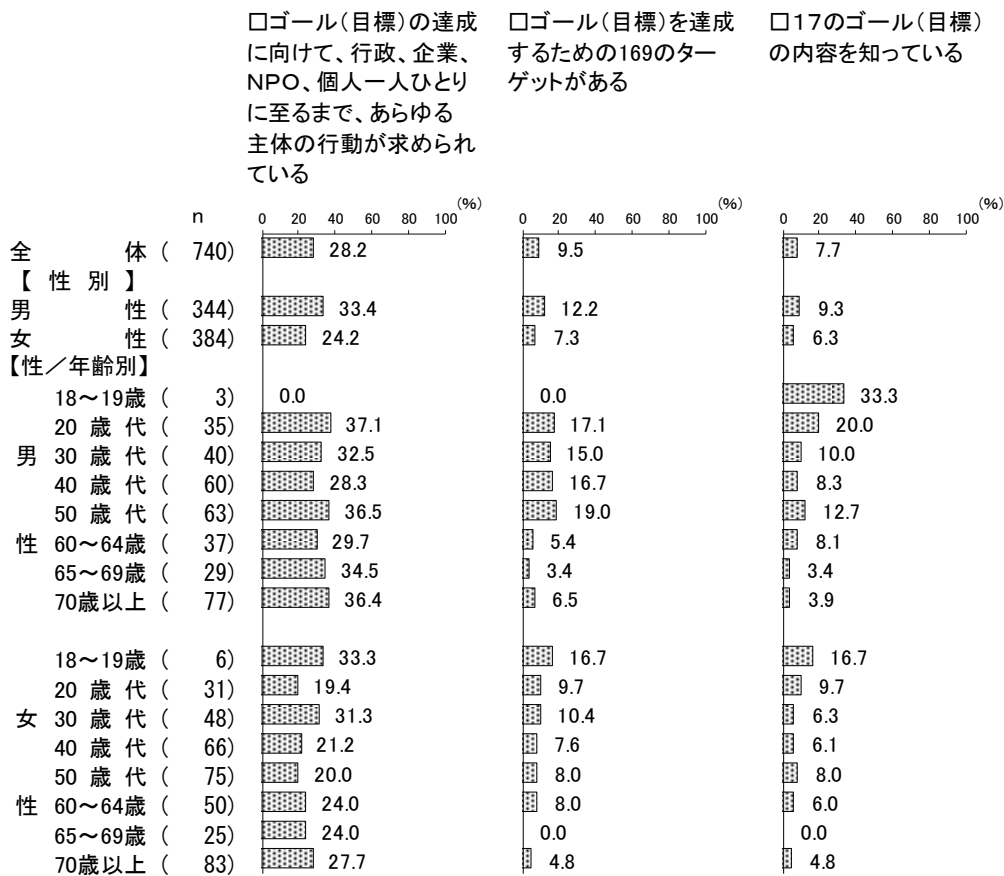
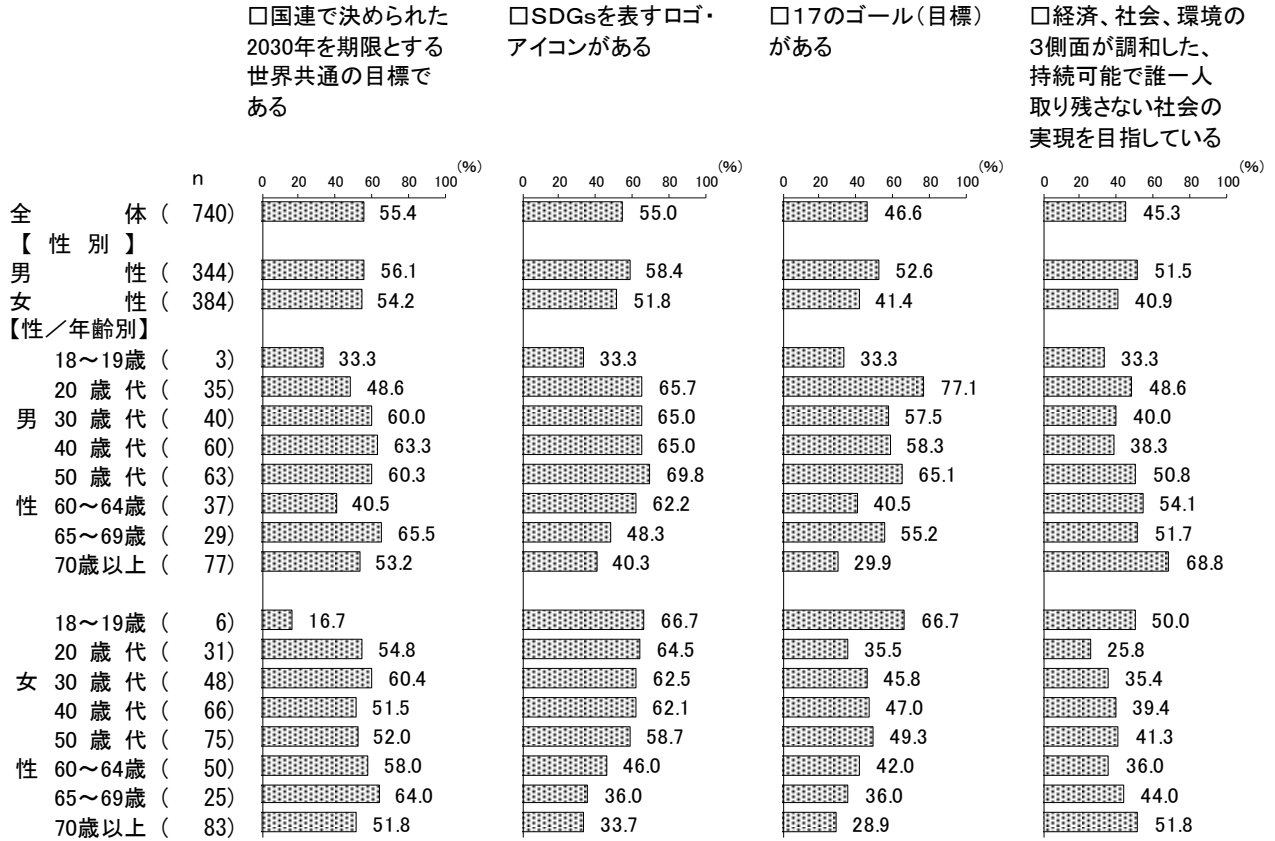


全体で見ると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」(55.4%)が5割台半ばで最も高く、次いで「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」(55.0%)、「17のゴール(目標)がある」(46.6%)、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」(45.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」が4.7ポイント増加しており、「17のゴール(目標)がある」が4.9ポイント減少している。



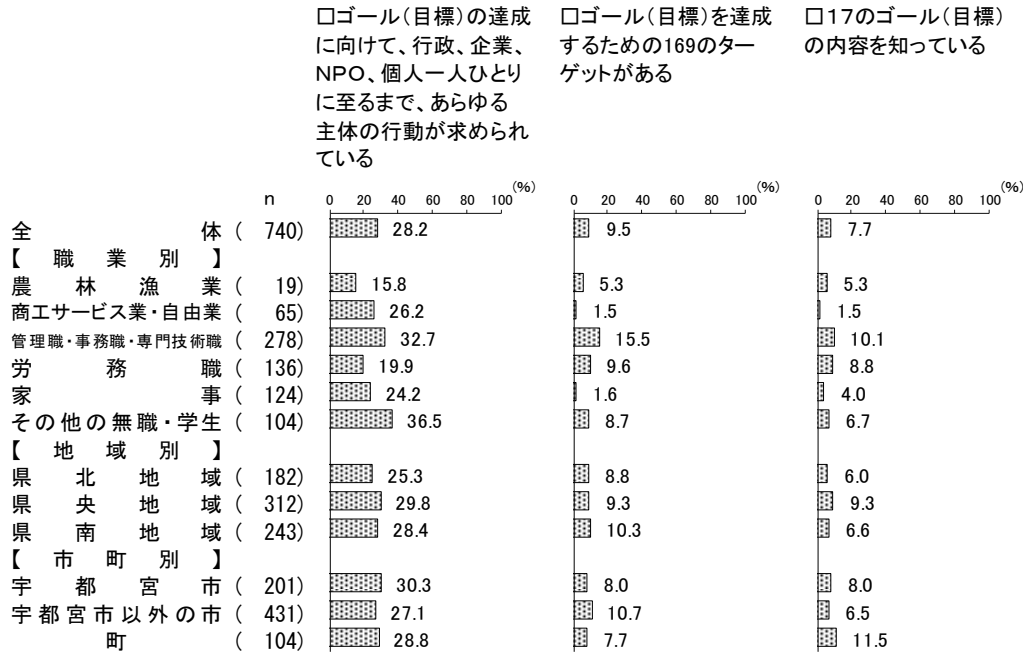
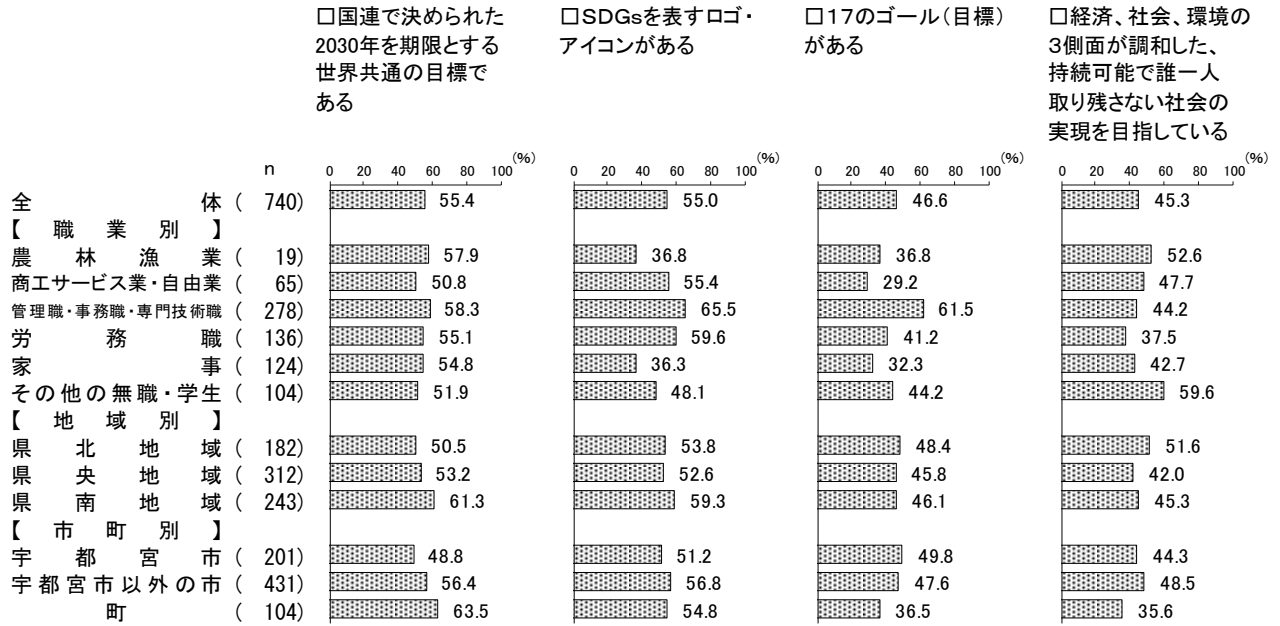
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「17のゴール（目標）がある」では〈男性〉（52.6%）が〈女性〉（41.4%）より11.2ポイント高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈男性〉（51.5%）が〈女性〉（40.9%）より10.6ポイント高くなっている。「ゴール（目標）の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」では〈男性〉（33.4%）が〈女性〉（24.2%）より9.2ポイント高くなっている。「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈男性〉（58.4%）が〈女性〉（51.8%）より6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」では〈男性65～69歳〉が65.5%と高くなっている。「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈男性50歳代〉が69.8%、〈男性20歳代〉が65.7%、〈男性30歳代〉および〈男性40歳代〉がそれぞれ65.0%と高くなっている。「17のゴール（目標）がある」では〈男性20歳代〉が77.1%、〈男性50歳代〉が65.1%、〈男性40歳代〉が58.3%、〈男性30歳代〉が57.5%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈男性70歳以上〉が68.8%と高くなっている。「17のゴール（目標）の内容を知っている」では〈男性20歳代〉が20.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「SDGsを表すロゴ・アイコンがある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が65.5%と高くなっている。「17のゴール(目標)がある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が61.5%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈その他の無職・学生〉が59.6%、〈農林漁業〉が52.6%と高くなっている。「ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている」では〈その他の無職・学生〉が36.5%と高くなっている。「ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が15.5%と高くなっている。

地域別で見ると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」では〈県南地域〉が61.3%と高くなっている。「経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している」では〈県北地域〉が51.6%と高くなっている。

市町別で見ると、「国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である」では〈町〉が63.5%と高くなっている。

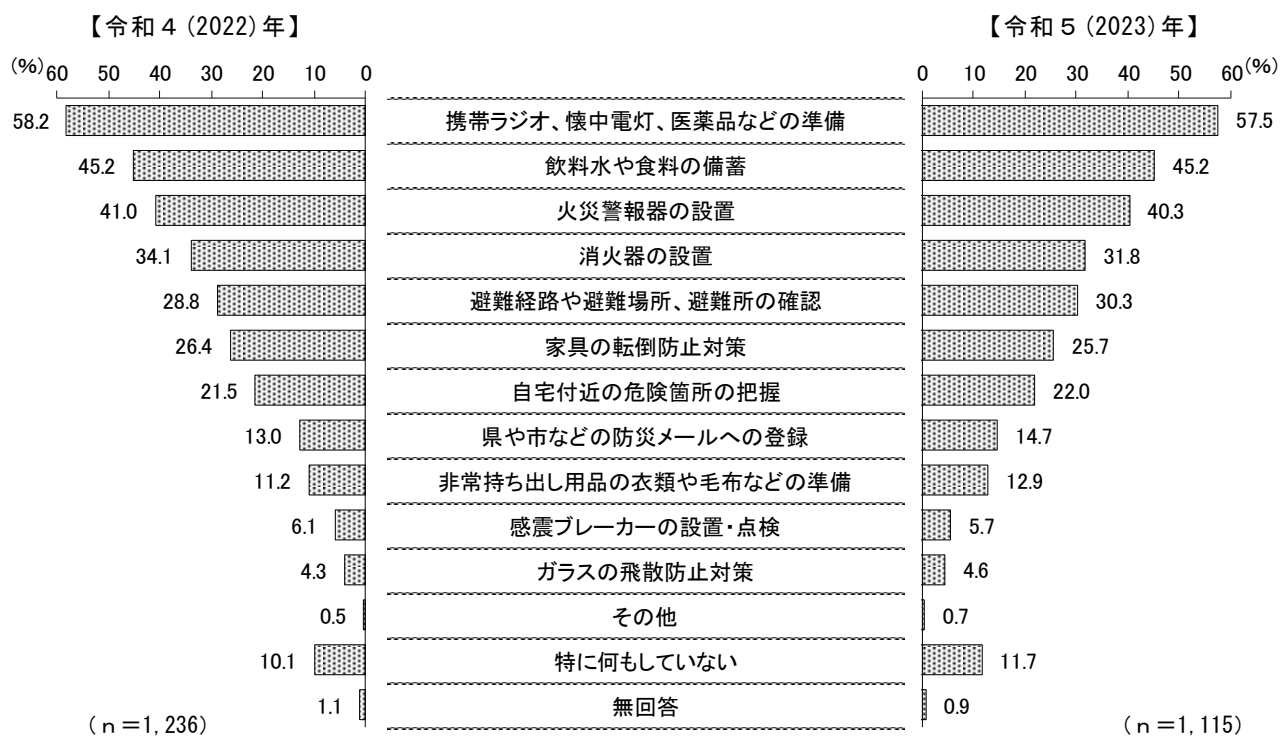
## 6 地域防災について

### (1) 災害に対する備え

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中からいくつか選んでください。 [n=1,115]

1 消火器の設置	31.8%	8 感震ブレーカー（※）の設置・点検	5.7%
2 火災警報器の設置	40.3	9 避難経路や避難場所、避難所の確認	30.3
3 家具の転倒防止対策	25.7	10 県や市などの防災メールへの登録	14.7
4 ガラスの飛散防止対策	4.6	11 自宅付近の危険箇所の把握	22.0
5 飲料水や食料の備蓄	45.2	12 その他	0.7
6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備	57.5	13 特に何もしていない	11.7
7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備	12.9	(無回答)	0.9

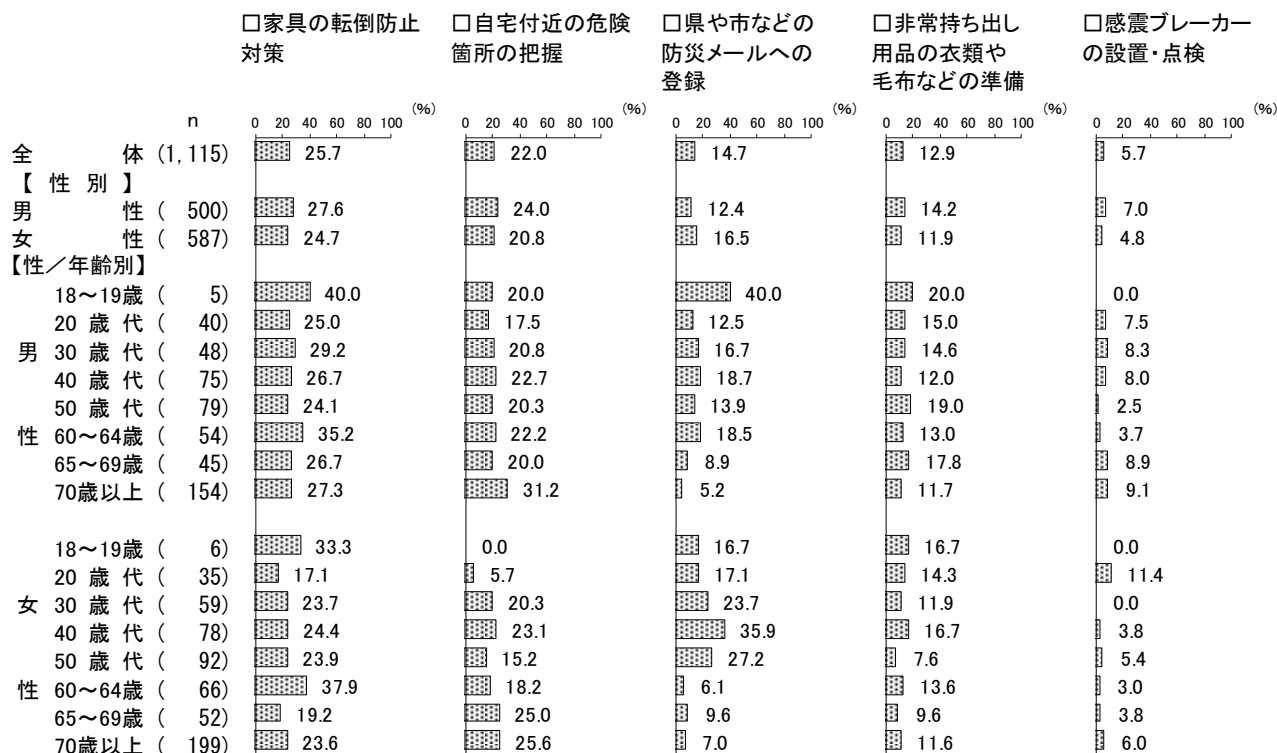
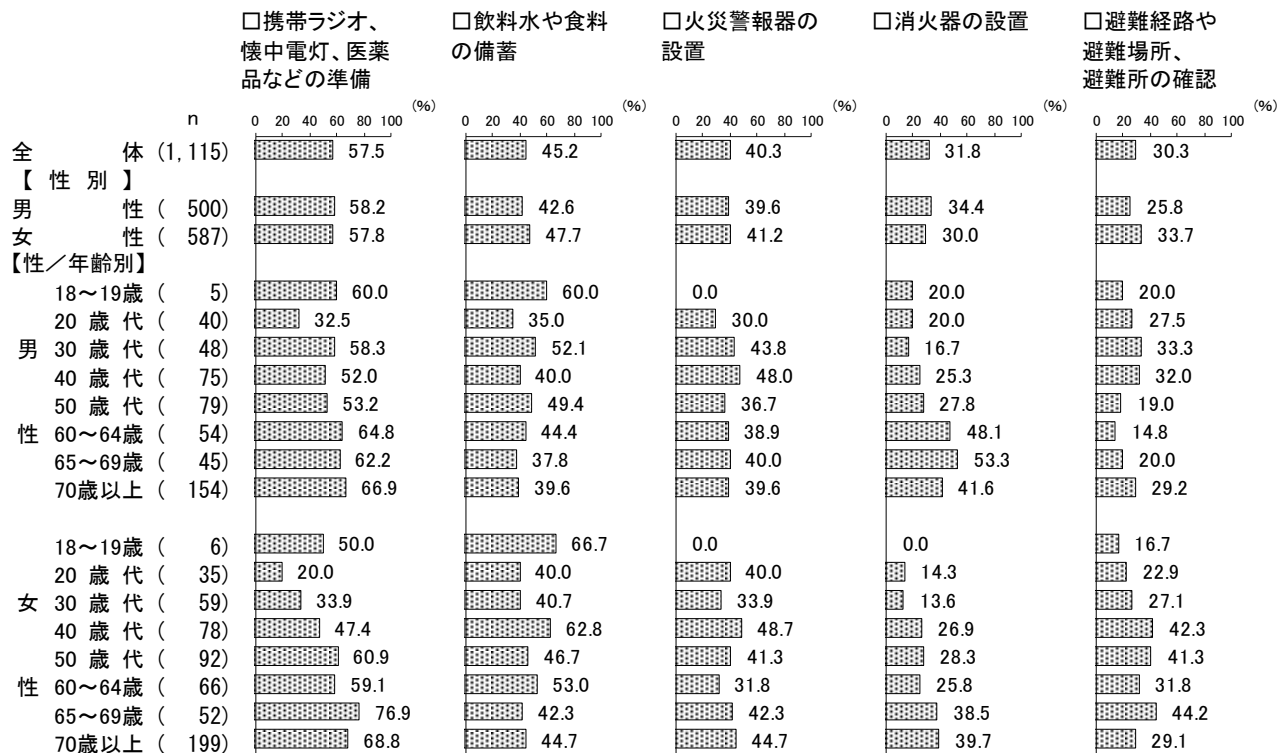
※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。



全体で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」(57.5%)が5割台半ばを超え最も高く、次いで「飲料水や食料の備蓄」(45.2%)、「火災警報器の設置」(40.3%)、「消火器の設置」(31.8%)、「避難経路や避難場所、避難所の確認」(30.3%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、大きな傾向の違いはみられない。

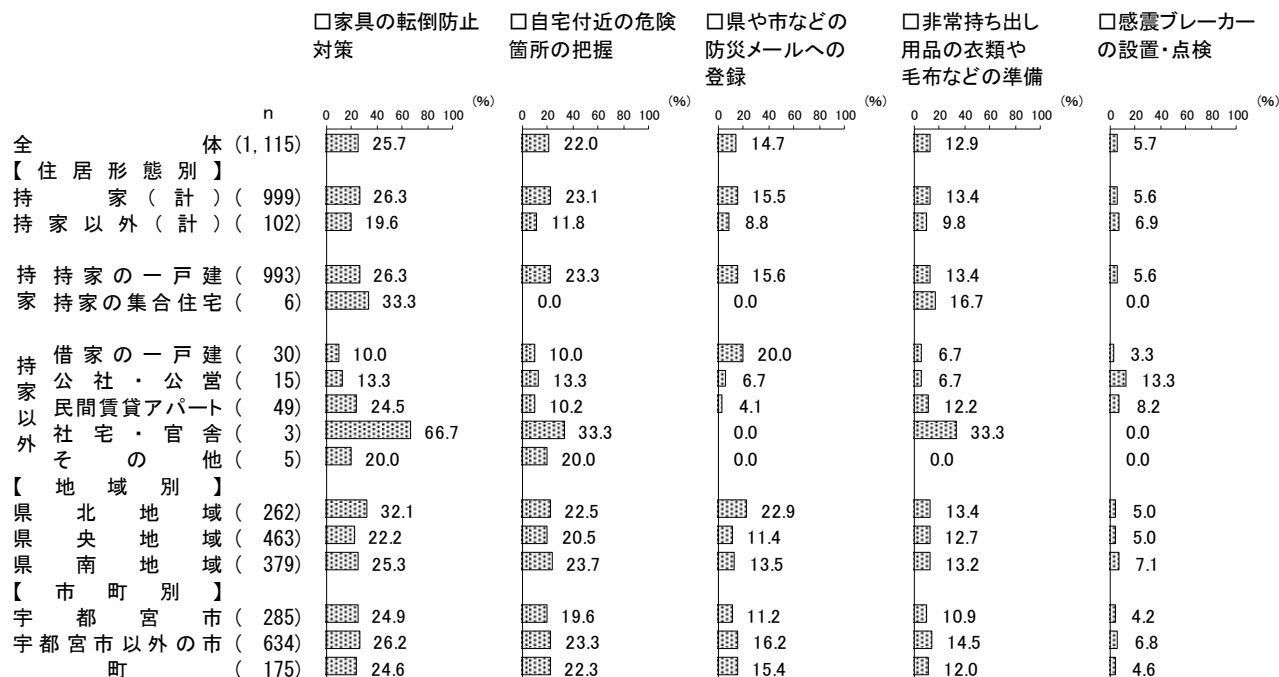
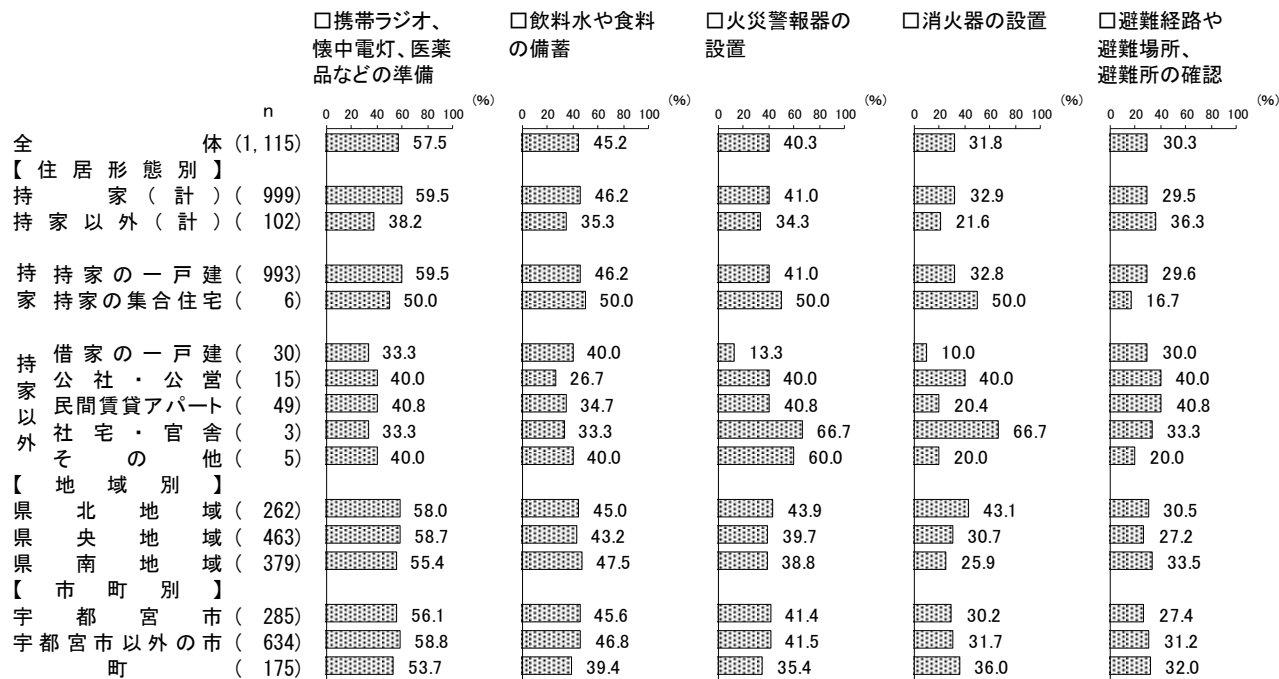
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別で見ると、「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性〉(33.7%)が〈男性〉(25.8%)より7.9ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性〉(47.7%)が〈男性〉(42.6%)より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈女性65～69歳〉が76.9%と高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈女性40歳代〉が62.8%と高くなっている。「消火器の設置」では〈男性65～69歳〉が53.3%と高くなっている。「避難経路や避難場所、避難所の確認」では〈女性65～69歳〉が44.2%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈女性60～64歳〉が37.9%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈女性40歳代〉が35.9%と高くなっている。

[住居形態別・地域別・市町別] (上位10項目)



住居形態別でみると、「携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備」では〈持家(計)〉(59.5%)が〈持家以外(計)〉(38.2%)より21.3ポイント高くなっている。「消火器の設置」では〈持家(計)〉(32.9%)が〈持家以外(計)〉(21.6%)より11.3ポイント高くなっている。「自宅付近の危険箇所の把握」では〈持家(計)〉(23.1%)が〈持家以外(計)〉(11.8%)より11.3ポイント高くなっている。「飲料水や食料の備蓄」では〈持家(計)〉(46.2%)が〈持家以外(計)〉(35.3%)より10.9ポイント高くなっている。

地域別でみると、「消火器の設置」では〈県北地域〉が43.1%と高くなっている。「家具の転倒防止対策」では〈県北地域〉が32.1%と高くなっている。「県や市などの防災メールへの登録」では〈県北地域〉が22.9%と高くなっている。

市町別でみると、「飲料水や食料の備蓄」では〈町〉が39.4%と低くなっている。

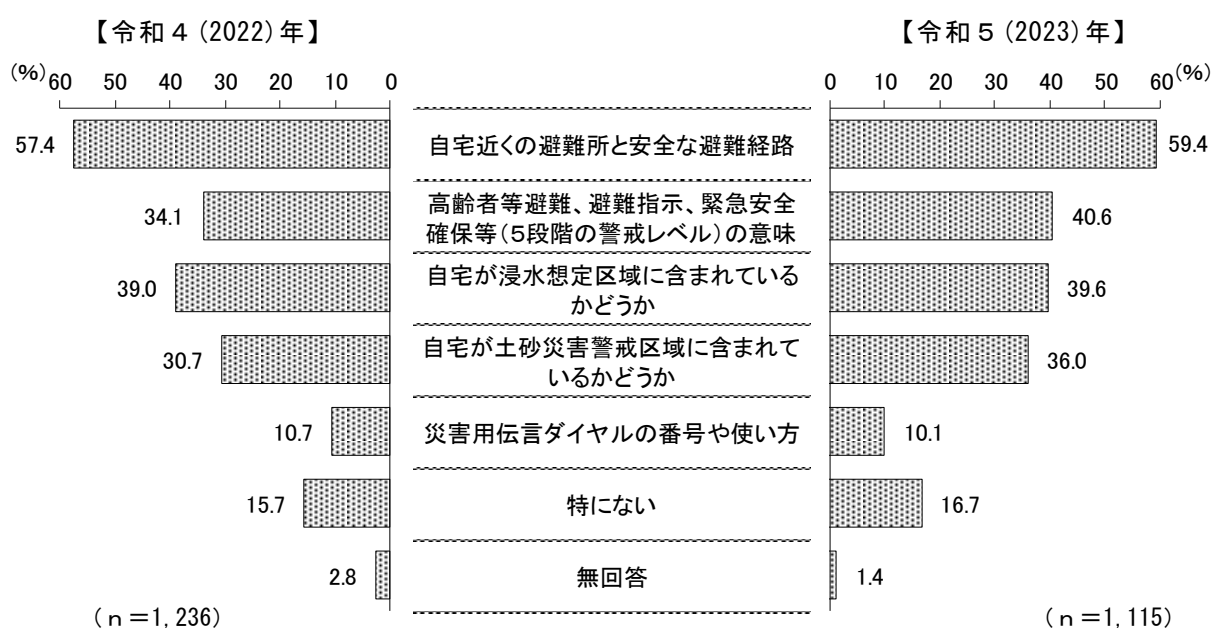
## (2) 災害の際に必要となる情報について知っていること

問19 あなたは、災害の際に必要となる情報について、どのようなことを知っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

[n=1,115]

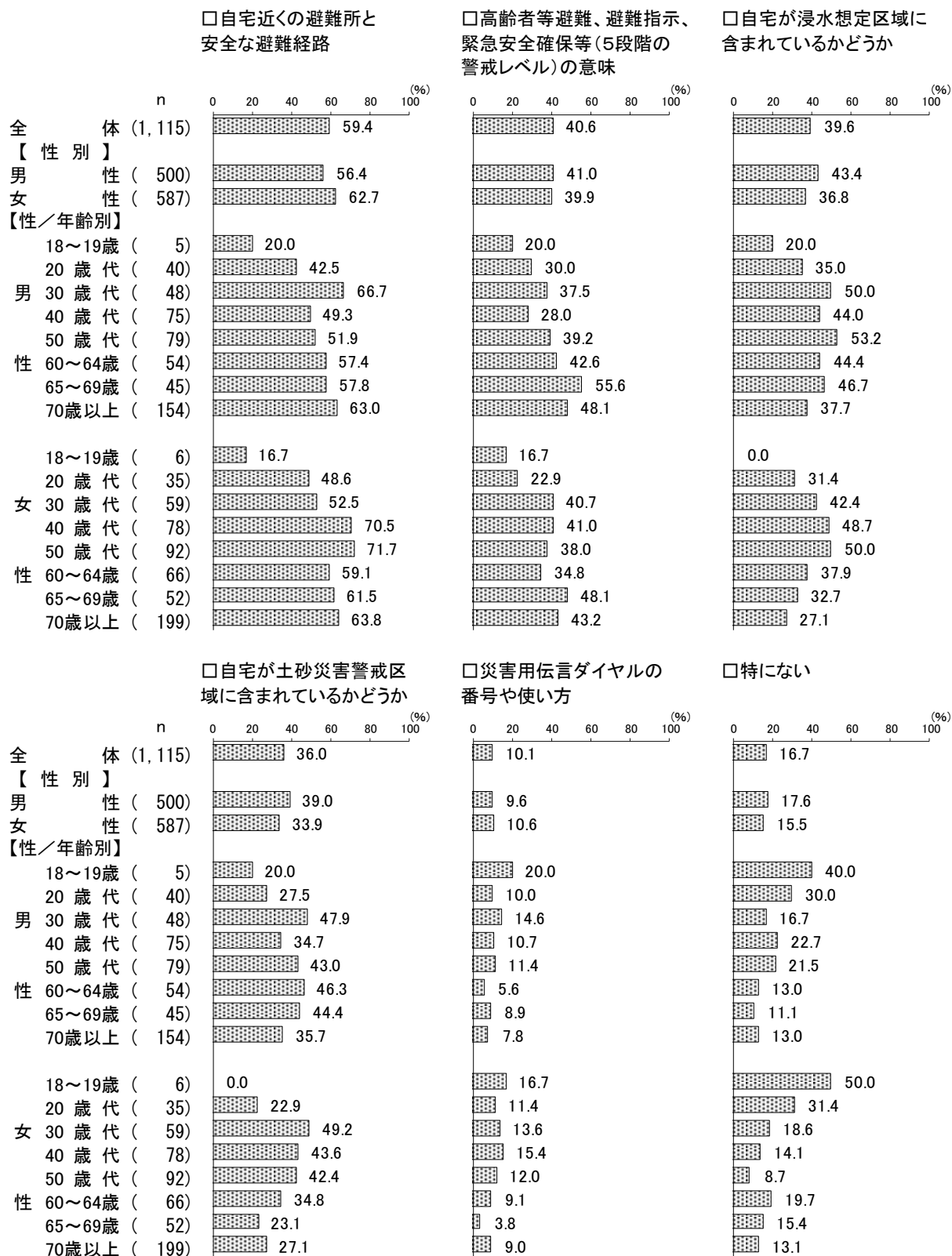
1	高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味	40.6%
2	自宅近くの避難所と安全な避難経路	59.4
3	自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか	36.0
4	自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか	39.6
5	災害用伝言ダイヤルの番号や使い方	10.1
6	特にない	16.7
	(無回答)	1.4



全体で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等(5段階の警戒レベル)の意味」(40.6%)、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」(39.6%)、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」(36.0%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等(5段階の警戒レベル)の意味」が6.5ポイント、「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」が5.3ポイント、それぞれ増加している。

[性別・性／年齢別]



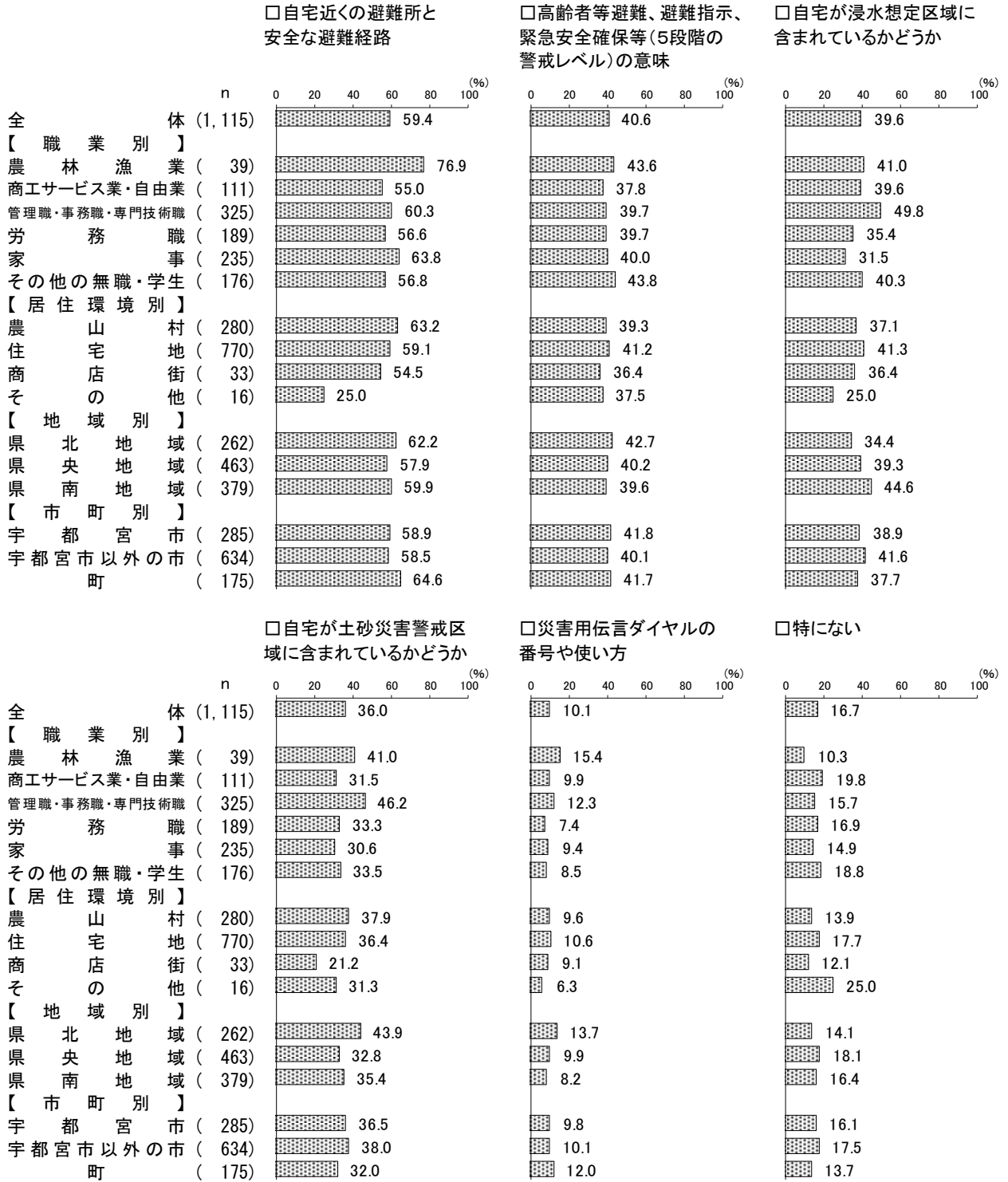
性別で見ると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(43.4%)が〈女性〉(36.8%)より6.6ポイント高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈男性〉(39.0%)が〈女性〉(33.9%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈女性〉(62.7%)が〈男性〉(56.4%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈女性50歳代〉が71.7%と高くな



っている。「高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味」では〈男性65～69歳〉が55.6%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈男性50歳代〉が53.2%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。「特にない」では〈女性20歳代〉が31.4%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈農林漁業〉が76.9%と高くなっている。「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が49.8%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.2%と高くなっている。「災害用伝言ダイヤルの番号や使い方」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

地域別でみると、「自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか」では〈県南地域〉が44.6%と高くなっている。「自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか」では〈県北地域〉が43.9%と高くなっている。

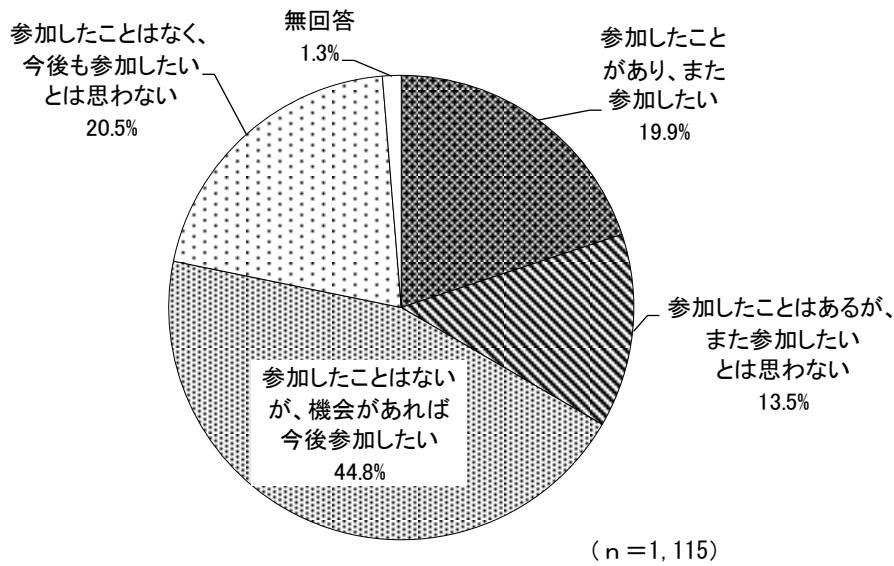
市町別でみると、「自宅近くの避難所と安全な避難経路」では〈町〉が64.6%と高くなっている。

### (3) 防災訓練の参加状況

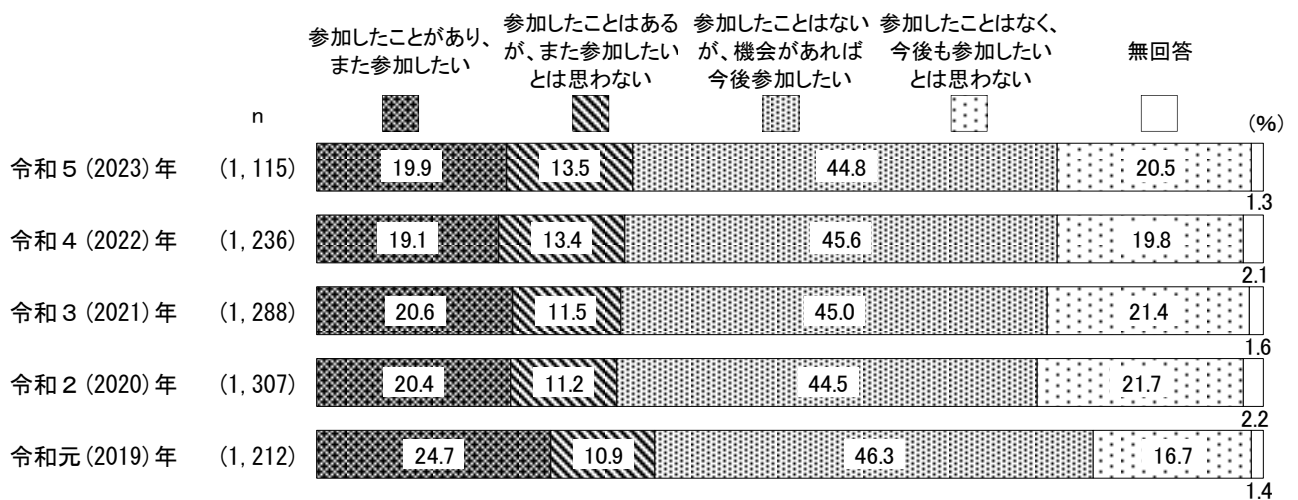
問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,115]

1	参加したことがあります、また参加したい	19.9%
2	参加したことはあるが、また参加したいとは思わない	13.5
3	参加したことはないが、機会があれば今後参加したい	44.8
4	参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない	20.5
	(無回答)	1.3

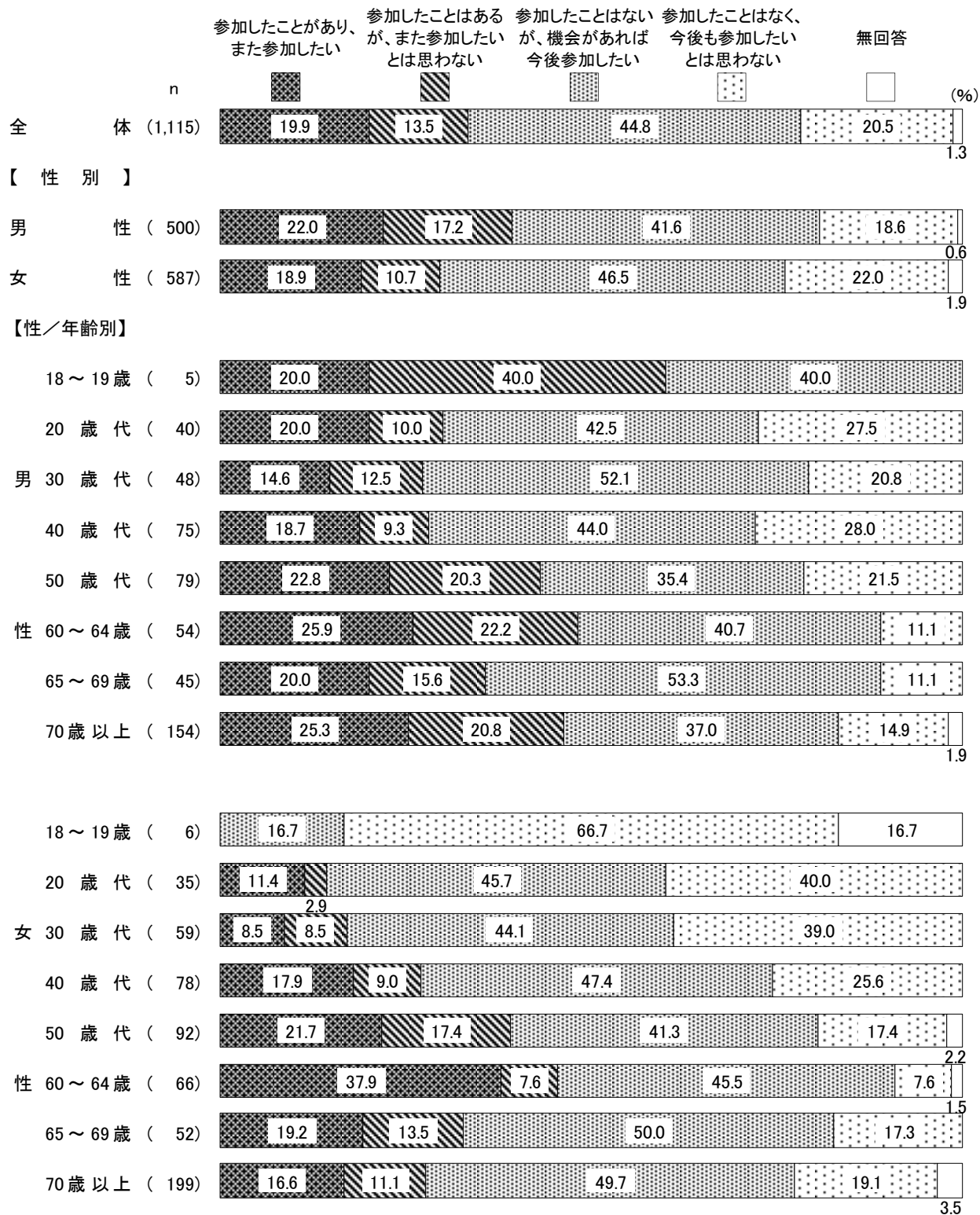


全体でみると、「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」(44.8%)が4割台半ば近く、「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」(20.5%)が約2割、「参加したことがあります、また参加したい」(19.9%)が2割弱、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」(13.5%)が1割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和4(2022)年)と大きな傾向の違いはみられない。

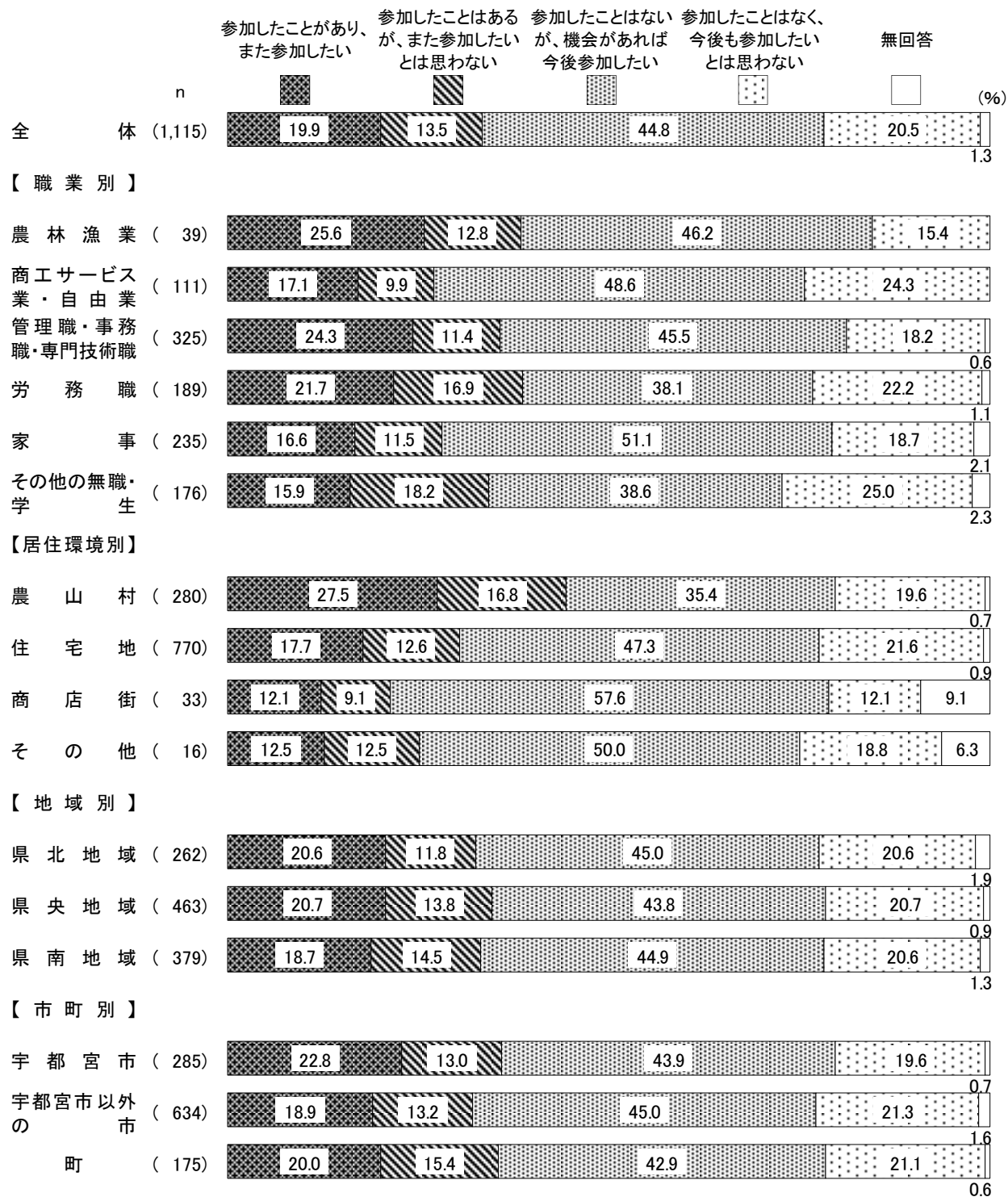
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「参加したことはあるが、また参加したいとは思わない」では〈男性〉(17.2%)が〈女性〉(10.7%)より6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈女性60～64歳〉が37.9%と高くなっている。「参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない」では〈女性20歳代〉が40.0%、〈女性30歳代〉が39.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈農林漁業〉が25.6%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈家事〉が51.1%と高くなっている。

居住環境別でみると、「参加したことがあり、また参加したい」では〈農山村〉が27.5%と高くなっている。「参加したことはないが、機会があれば今後参加したい」では〈商店街〉が57.6%と高くなっている。

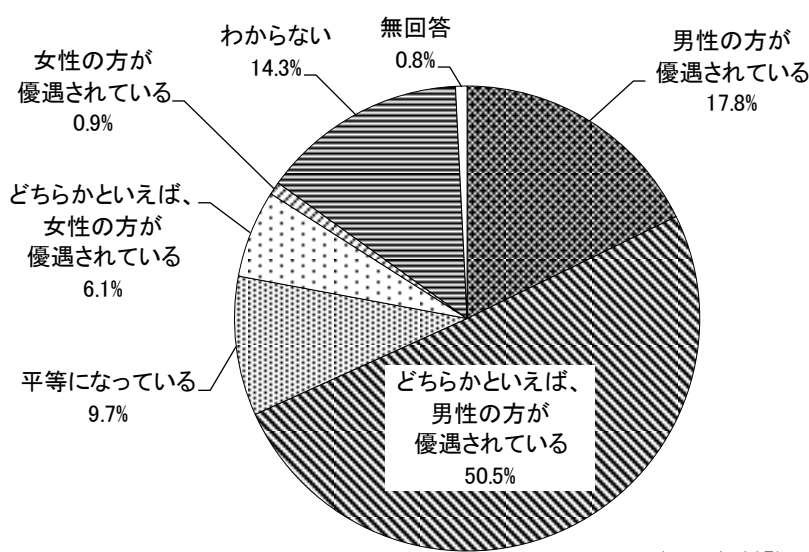
地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## 7 男女平等意識について

### (1) 社会全体の中での男女の地位の平等感

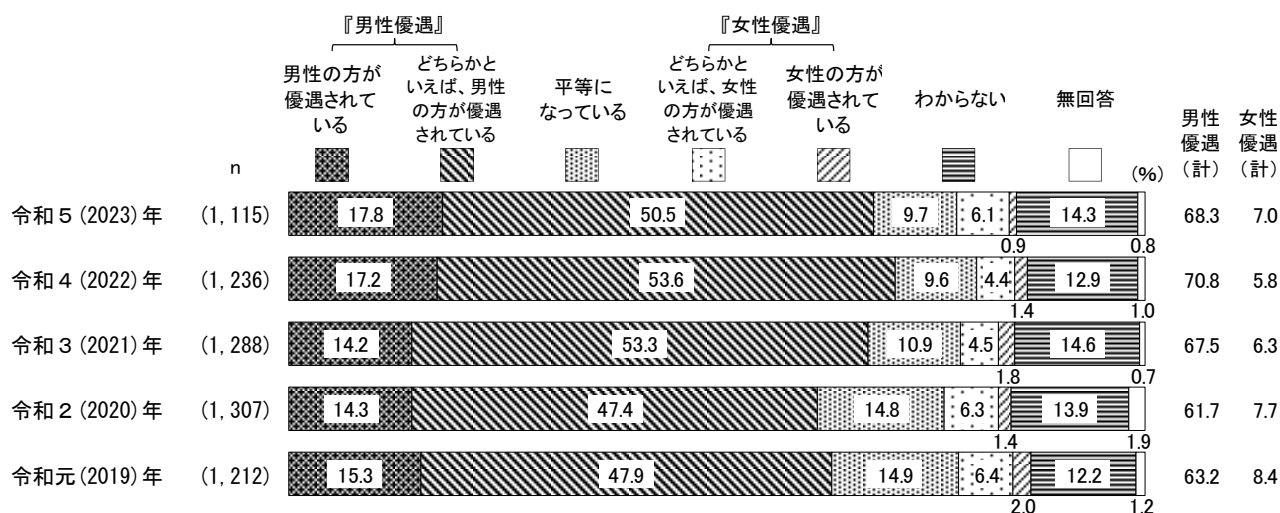
問21 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 男性の方が優遇されている	17.8%	5 女性の方が優遇されている	0.9%
2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている	50.5	6 わからない	14.3
3 平等になっている	9.7	(無回答)	0.8
4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている	6.1		



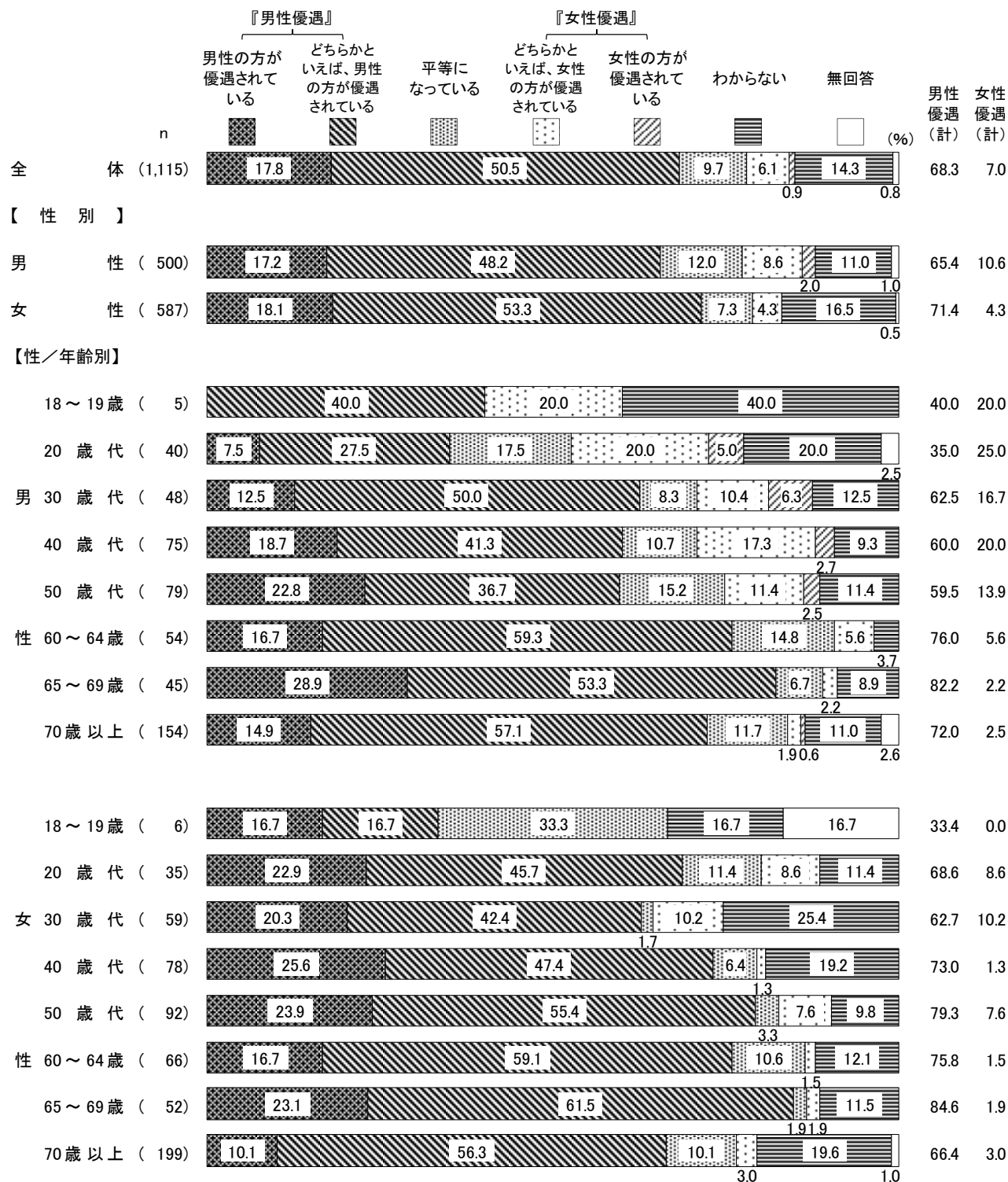
(n=1,115)

全体でみると、「男性の方が優遇されている」(17.8%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(50.5%)の2つを合わせた『男性優遇』(68.3%)が7割近くとなっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(6.1%)と「女性の方が優遇されている」(0.9%)の2つを合わせた『女性優遇』(7.0%)が1割未満となっている。また、「平等になっている」(9.7%)が1割弱となっている。



過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前回(令和4(2022)年)より2.5ポイント減少している。

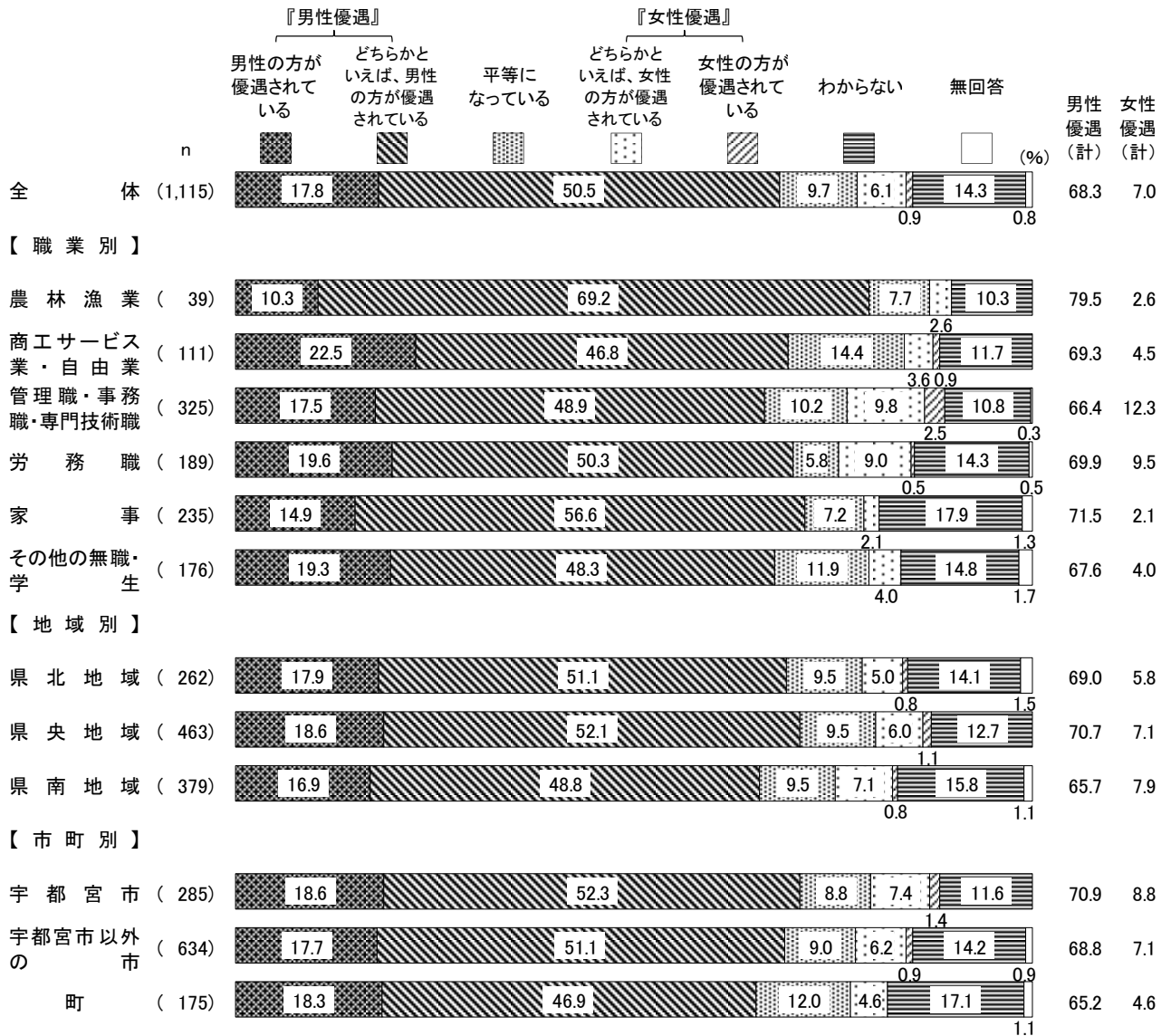
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『男性優遇』では〈女性〉(71.4%)が〈男性〉(65.4%)より6.0ポイント高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性〉(10.6%)が〈女性〉(4.3%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『男性優遇』では〈女性65～69歳〉が84.6%、〈男性65～69歳〉が82.2%、〈女性50歳代〉が79.3%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈男性20歳代〉が25.0%、〈男性40歳代〉が20.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『男性優遇』では〈農林漁業〉が79.5%と高くなっている。一方、『女性優遇』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が12.3%と高くなっている。

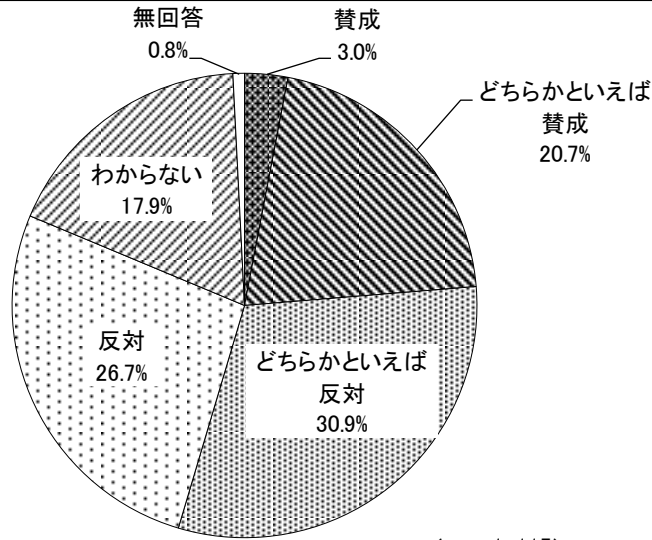
地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。



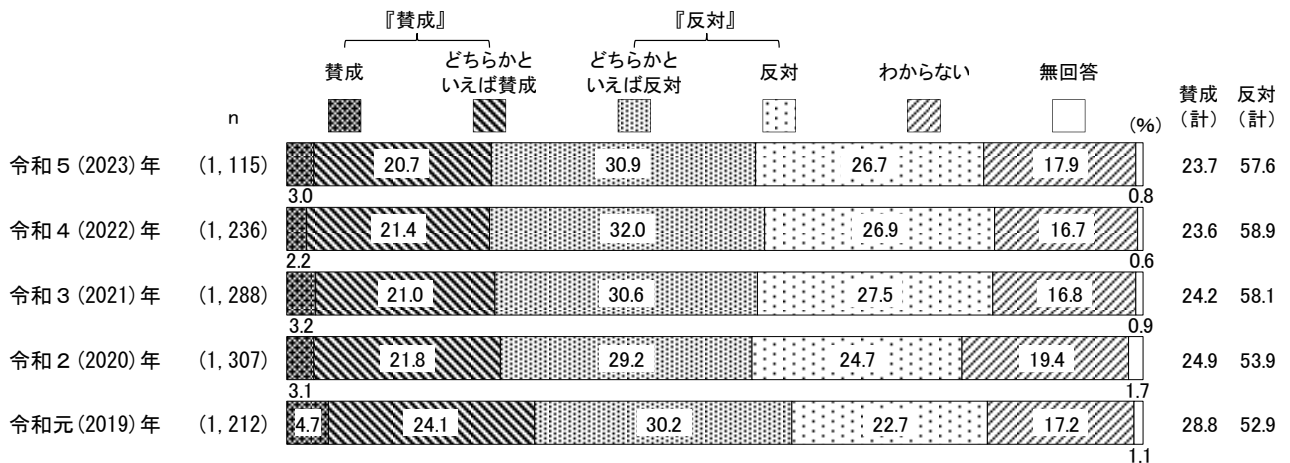
(2) 固定的な性別役割分担意識

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 賛成	3.0%	4 反対	26.7%
2 どちらかといえば賛成	20.7	5 わからない	17.9
3 どちらかといえば反対	30.9	(無回答)	0.8

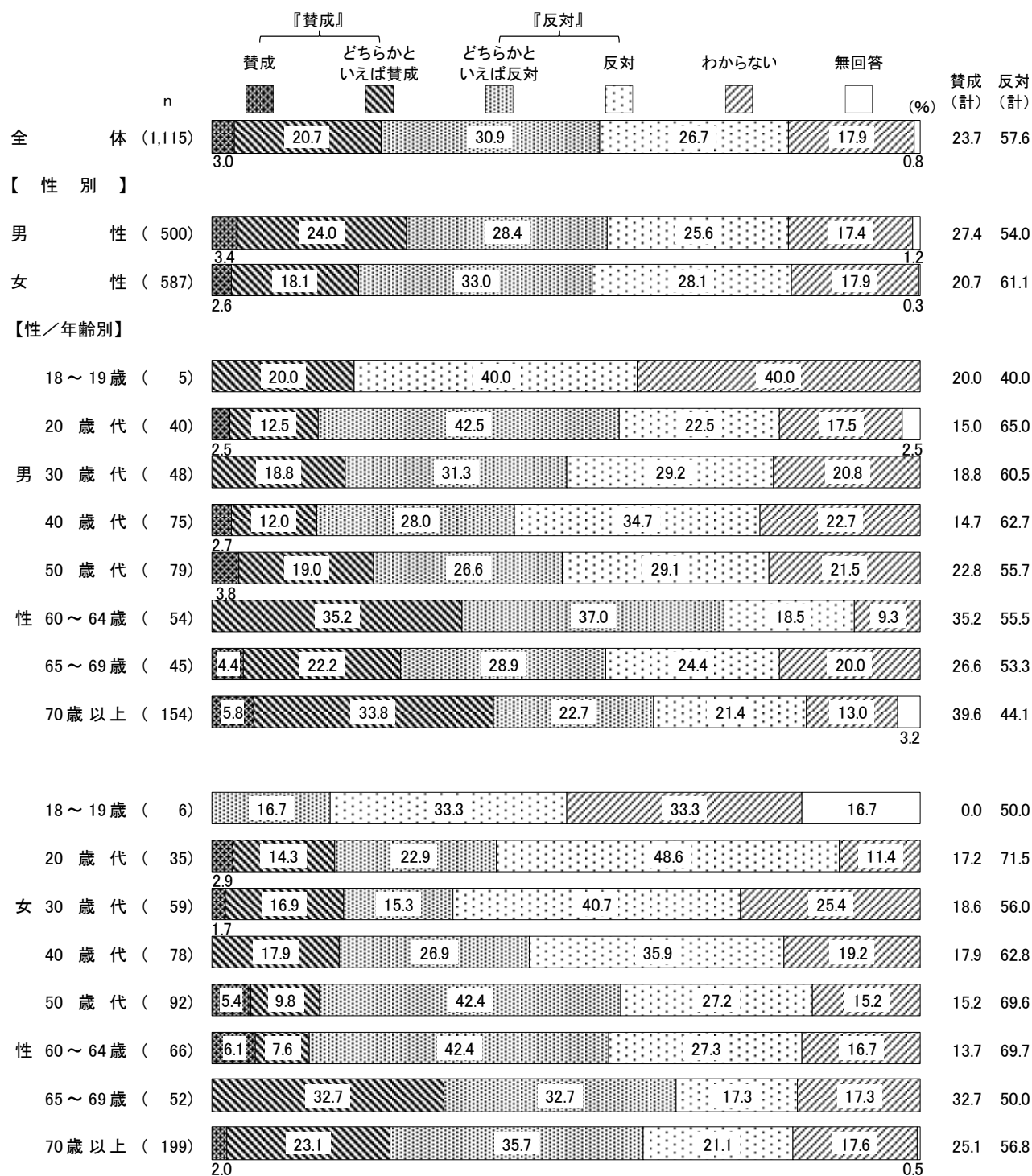


全体で見ると、「賛成」(3.0%)と「どちらかといえば賛成」(20.7%)の2つを合わせた『賛成』(23.7%)が2割台半ば近くとなっている。一方、「どちらかといえば反対」(30.9%)と「反対」(26.7%)の2つを合わせた『反対』(57.6%)が5割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、前回(令和4(2022)年)と大きな傾向の違いはみられない。

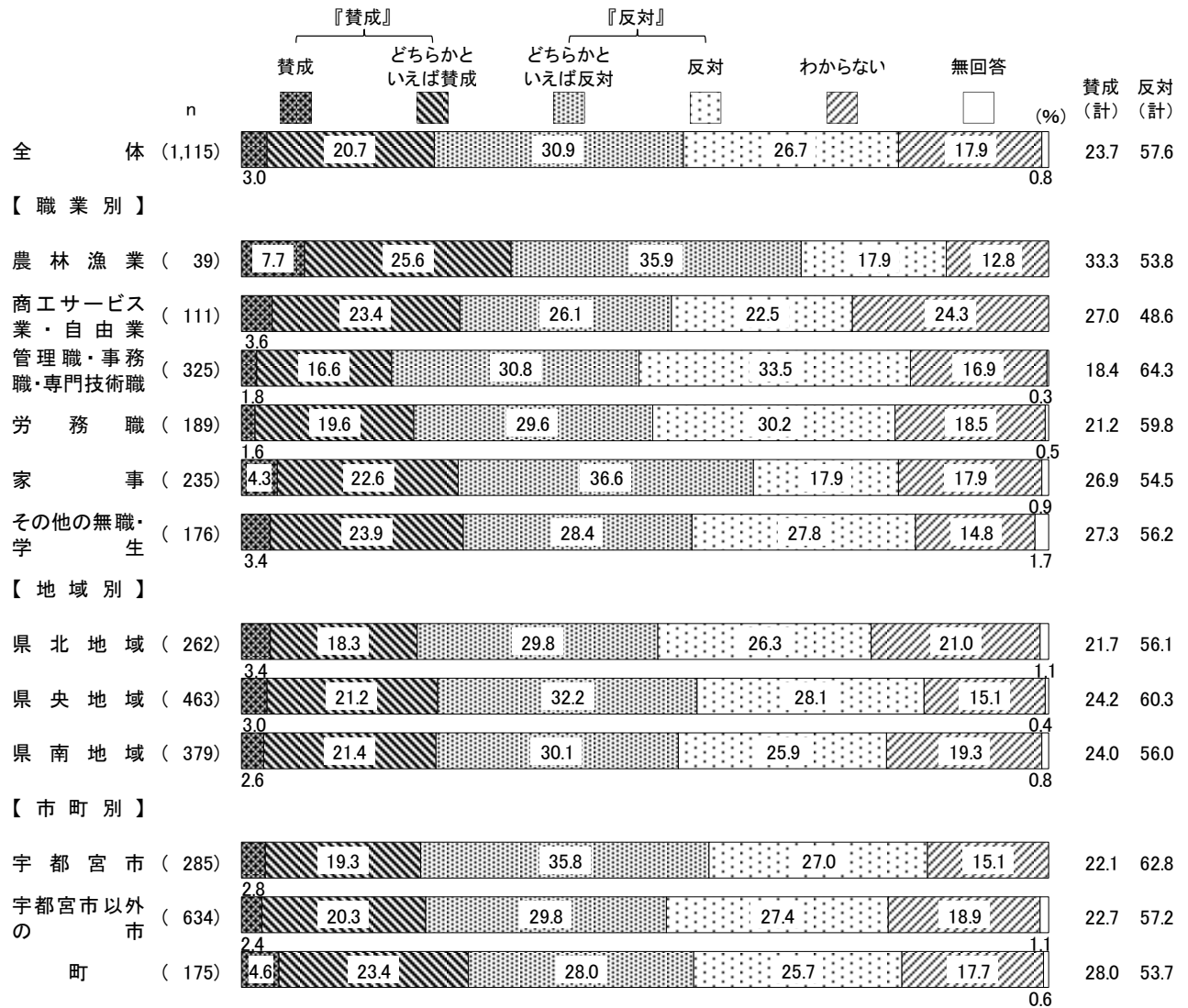
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『賛成』では〈男性〉(27.4%)が〈女性〉(20.7%)より6.7ポイント高くなっている。一方、『反対』では〈女性〉(61.1%)が〈男性〉(54.0%)より7.1ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『賛成』では〈男性70歳以上〉が39.6%、〈男性60～64歳〉が35.2%と高くなっている。一方、『反対』では〈女性20歳代〉が71.5%、〈女性60～64歳〉が69.7%、〈女性50歳代〉が69.6%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別でみると、『賛成』では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。一方、『反対』では〈管理職・事務職・専門技術職〉が64.3%と高くなっている。

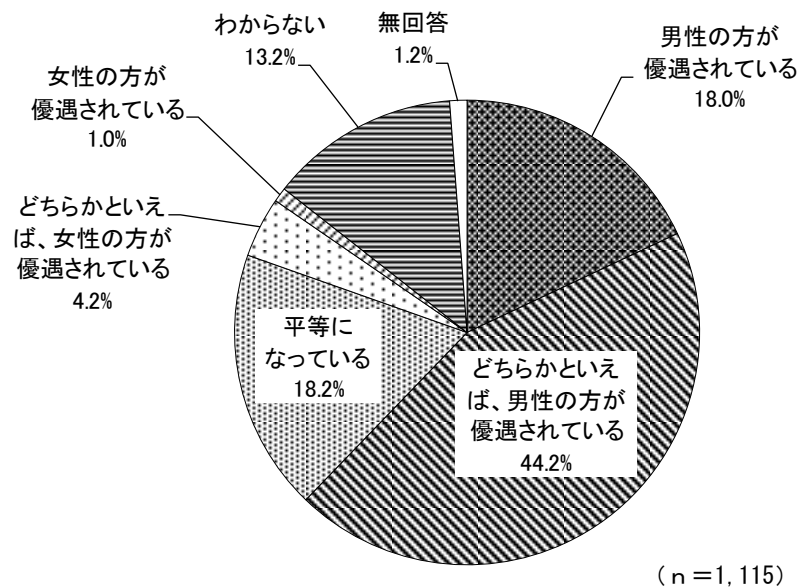
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、『反対』では〈宇都宮市〉が62.8%と高くなっている。

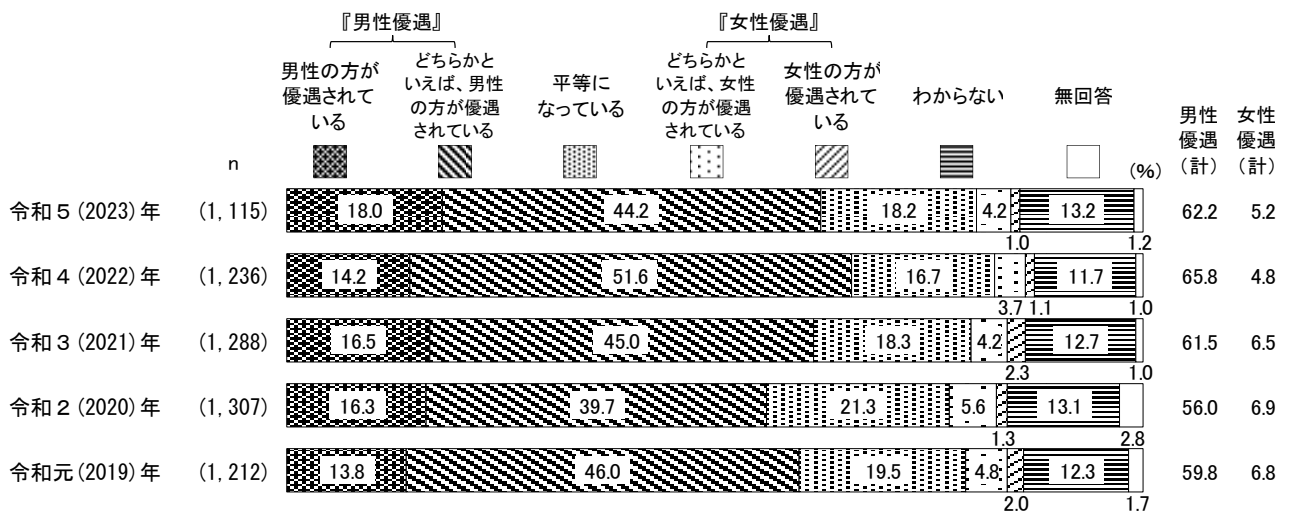
### (3) 働く場での男女の地位の平等感

問23 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。次の中から1つ選んでください。(現在働いていない方も、イメージでお答えください。)  
[n=1,115]

1	男性の方が優遇されている	18.0%	5	女性の方が優遇されている	1.0%
2	どちらかといえば、男性の方が優遇されている	44.2	6	わからない	13.2
3	平等になっている	18.2		(無回答)	1.2
4	どちらかといえば、女性の方が優遇されている	4.2			

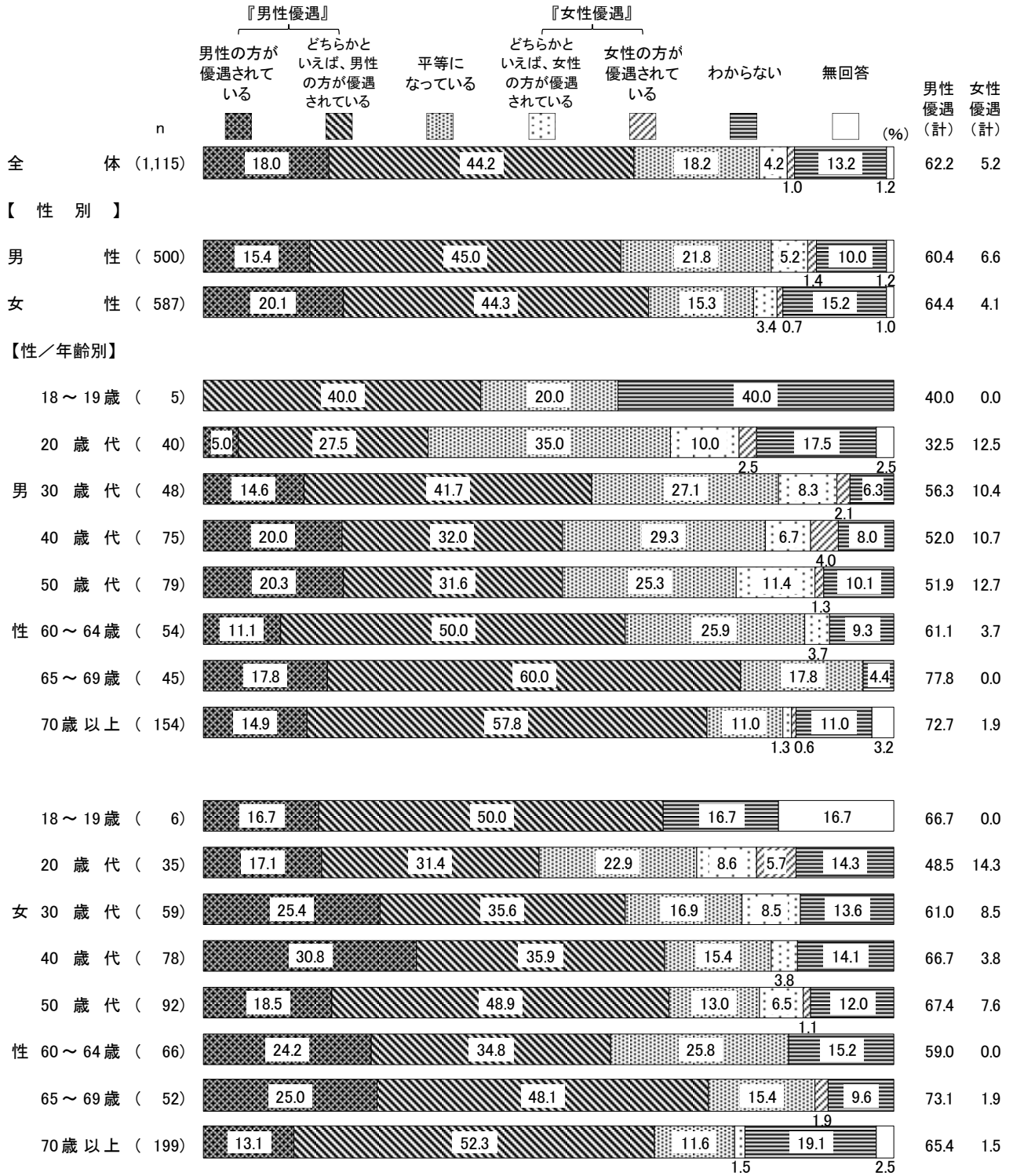


全体でみると、「男性の方が優遇されている」(18.0%)と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(44.2%)の2つを合わせた『男性優遇』(62.2%)が6割強となっている。一方、「どちらかといえば、女性の方が優遇されている」(4.2%)と「女性の方が優遇されている」(1.0%)の2つを合わせた『女性優遇』(5.2%)が1割未満となっている。「平等になっている」(18.2%)は2割近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『男性優遇』が前回(令和4(2022年))より3.6ポイント減少している。

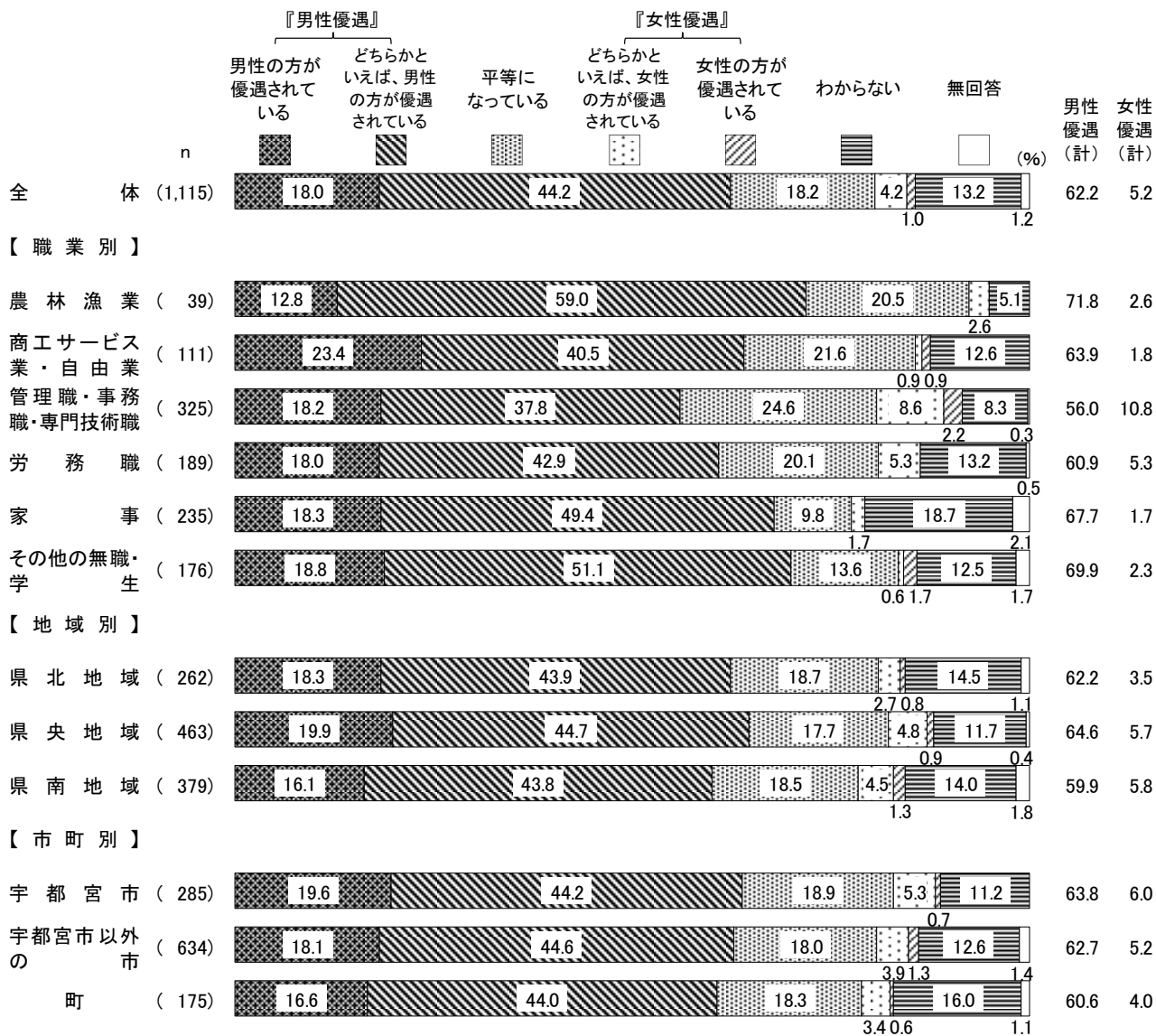
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「平等になっている」では〈男性〉(21.8%)が〈女性〉(15.3%)より6.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『男性優遇』では〈男性65～69歳〉が77.8%、〈女性65～69歳〉が73.1%、〈男性70歳以上〉が72.7%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



職業別で見ると、『男性優遇』では〈農林漁業〉が71.8%、〈その他の無職・学生〉が69.9%、〈家事〉が67.7%と高くなっている。

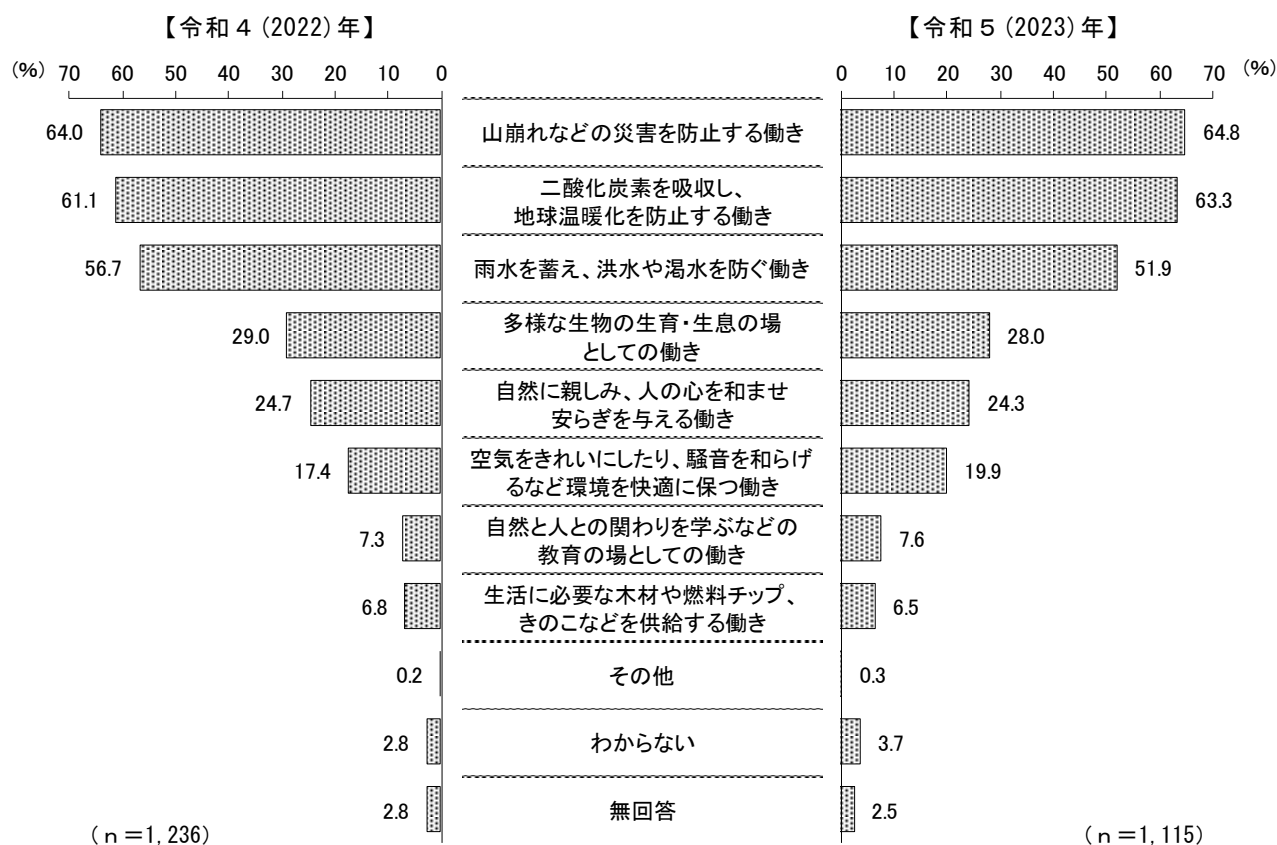
地域別・市町別で見ると、大きな傾向の違いはみられない。

## 8 とちぎの元気な森づくり県民税について

### (1) 重要と考える森林の働き

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

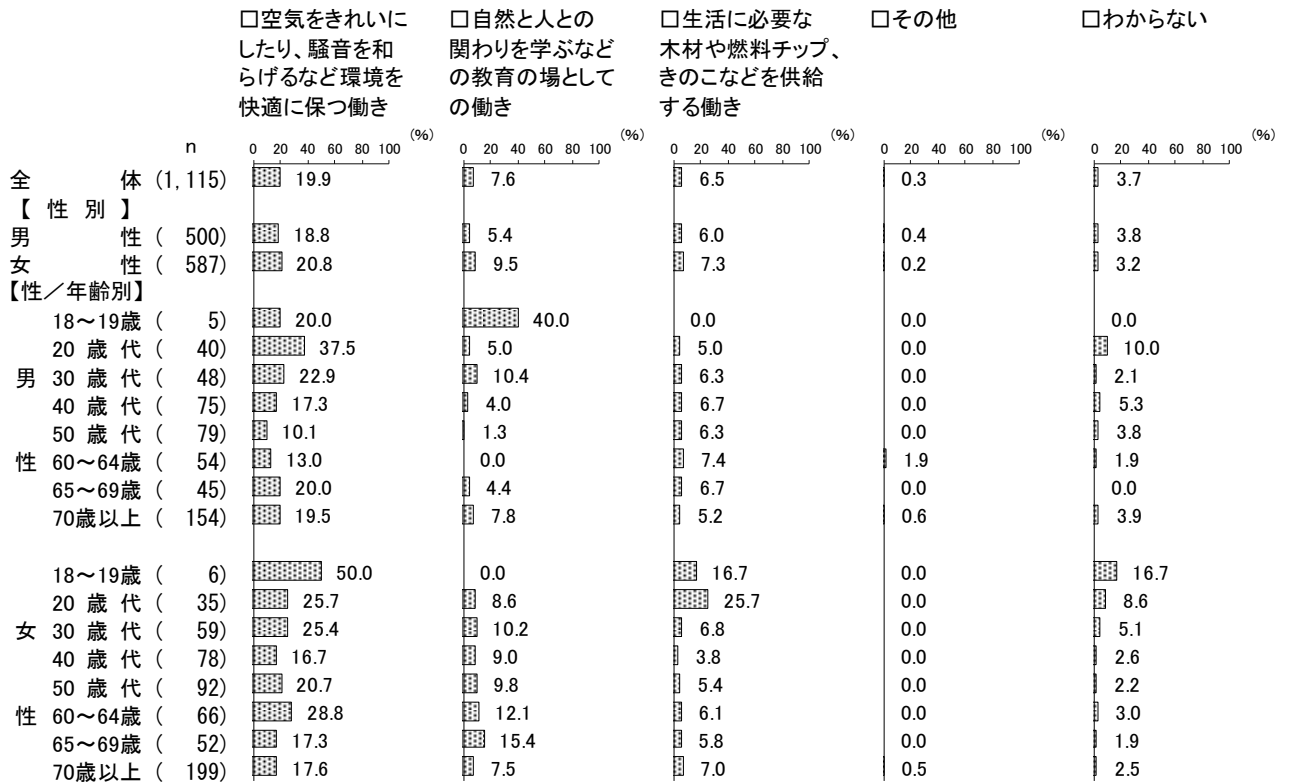
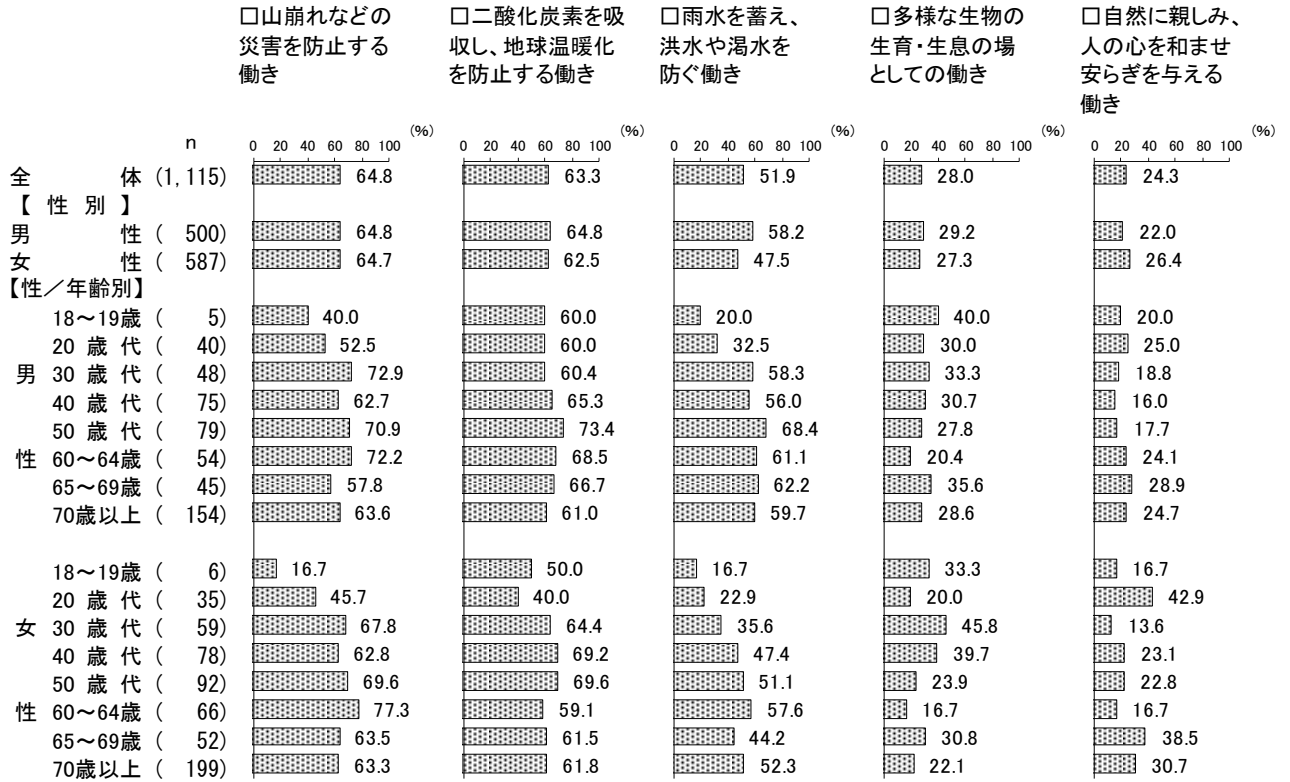
1	山崩れなどの災害を防止する働き	64.8%
2	雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き	51.9
3	二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き	63.3
4	空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き	19.9
5	生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き	6.5
6	多様な生物の生育・生息の場としての働き	28.0
7	自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き	24.3
8	自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き	7.6
9	その他	0.3
10	わからない	3.7
	(無回答)	2.5



全体で見ると、「山崩れなどの災害を防止する働き」(64.8%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」(63.3%)、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」(51.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」が4.8ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]



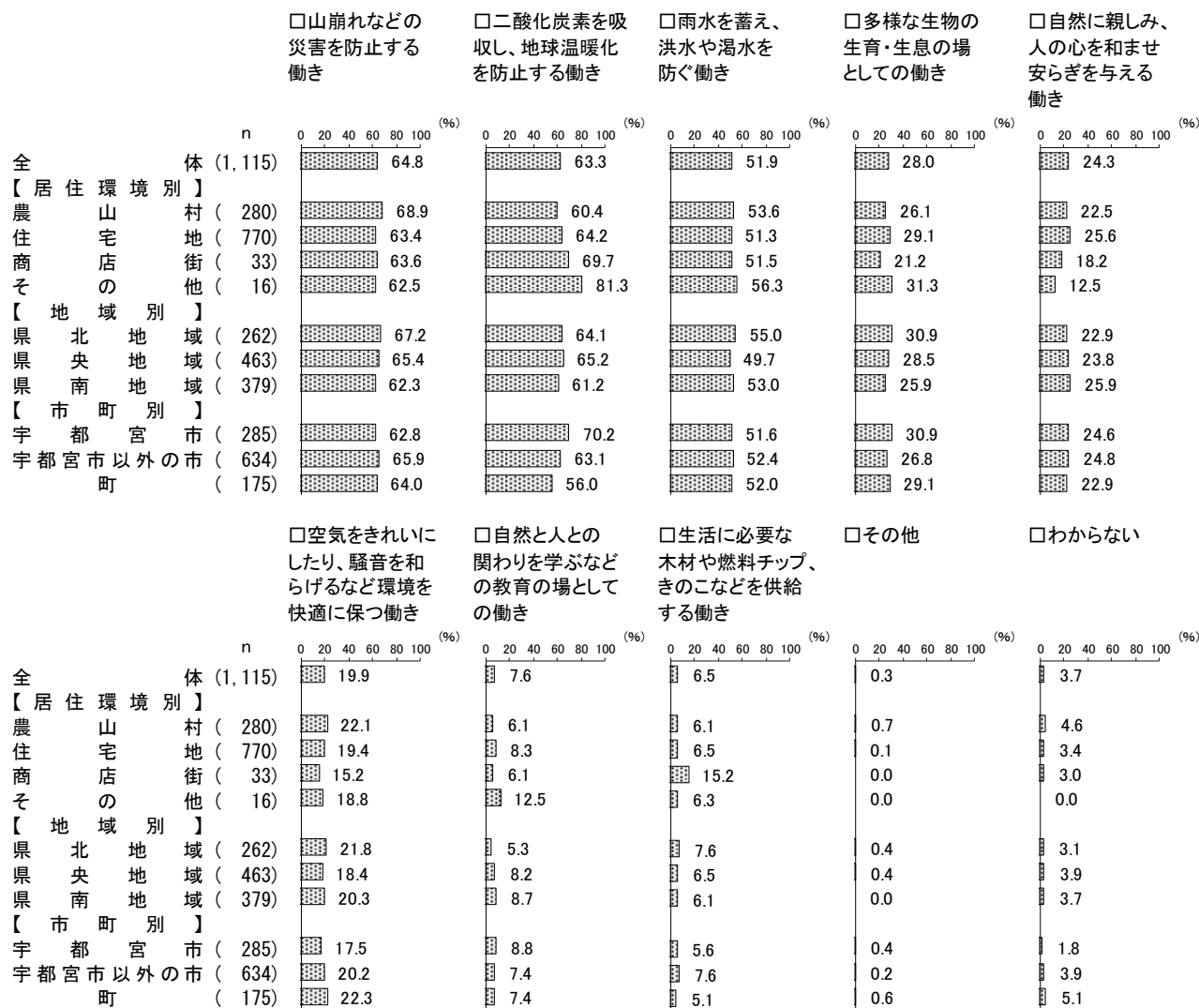
性別でみると、「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性〉(58.2%)が〈女性〉(47.5%)より10.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈男性50歳代〉が73.4%と高くなっている。「雨水を蓄え、洪水や濁水を防ぐ働き」では〈男性50歳代〉が68.4%、〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。「多様な生物の生育・生息の場としての働き」では〈女性30歳代〉が



45.8%、〈女性40歳代〉が39.7%と高くなっている。「自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き」では〈女性20歳代〉が42.9%、〈女性65～69歳〉が38.5%と高くなっている。「空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き」では〈男性20歳代〉が37.5%と高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き」では〈女性20歳代〉が25.7%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈商店街〉が69.7%と高くなっている。「生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き」では〈商店街〉が15.2%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

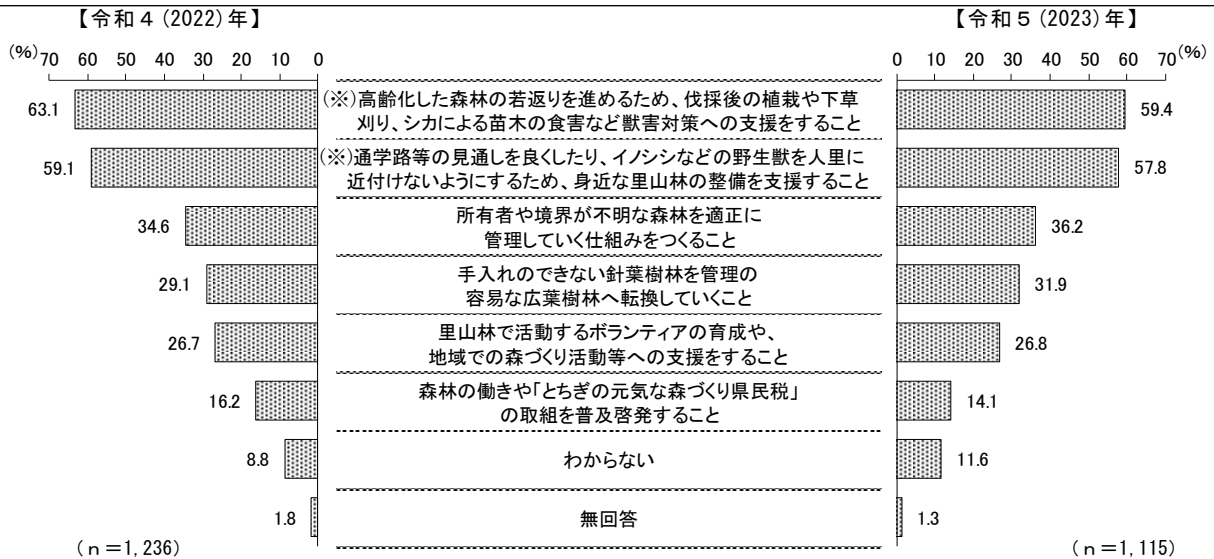
市町別でみると、「二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き」では〈宇都宮市〉が70.2%と高くなっている。

(2) 「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で重要なもの

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

1	高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること	59.4%
2	手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと	31.9
3	通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること	57.8
4	里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること	26.8
5	所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること	36.2
6	森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること	14.1
7	わからない	11.6
	(無回答)	1.3



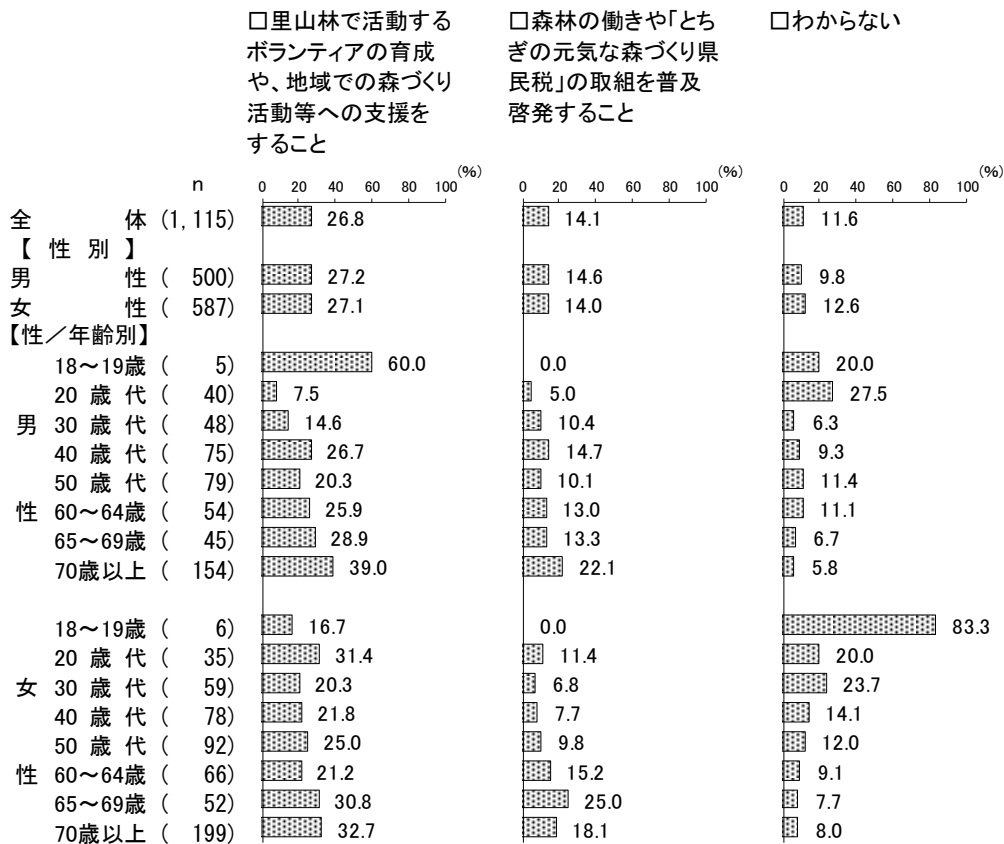
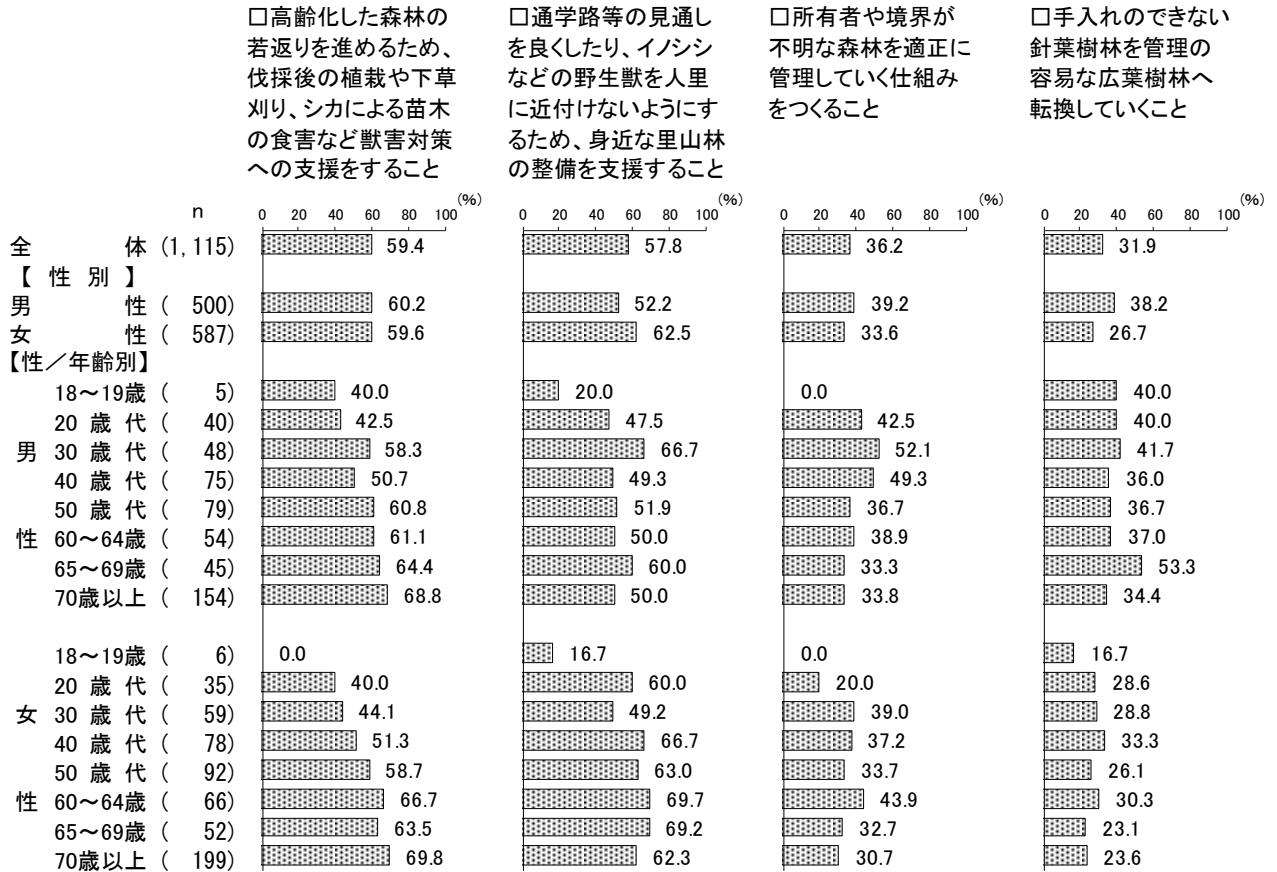
(※) 今回の調査では、前回(令和4(2022)年)の調査から以下の選択肢が変更になっている。

- ・(R4) 「高齢化した森林の若返りを進めるため、皆伐後の植栽や下草刈り、獣害対策などへの支援をすること」  
⇒(R5) 「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」
- ・(R4) 「通学路等の見通しを良くしたり、野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」  
⇒(R5) 「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」

全体で見ると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」(59.4%)が6割弱で最も高く、次いで「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」(57.8%)、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」(36.2%)、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」(31.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」が2.8ポイント増加している。一方、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」が3.7ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

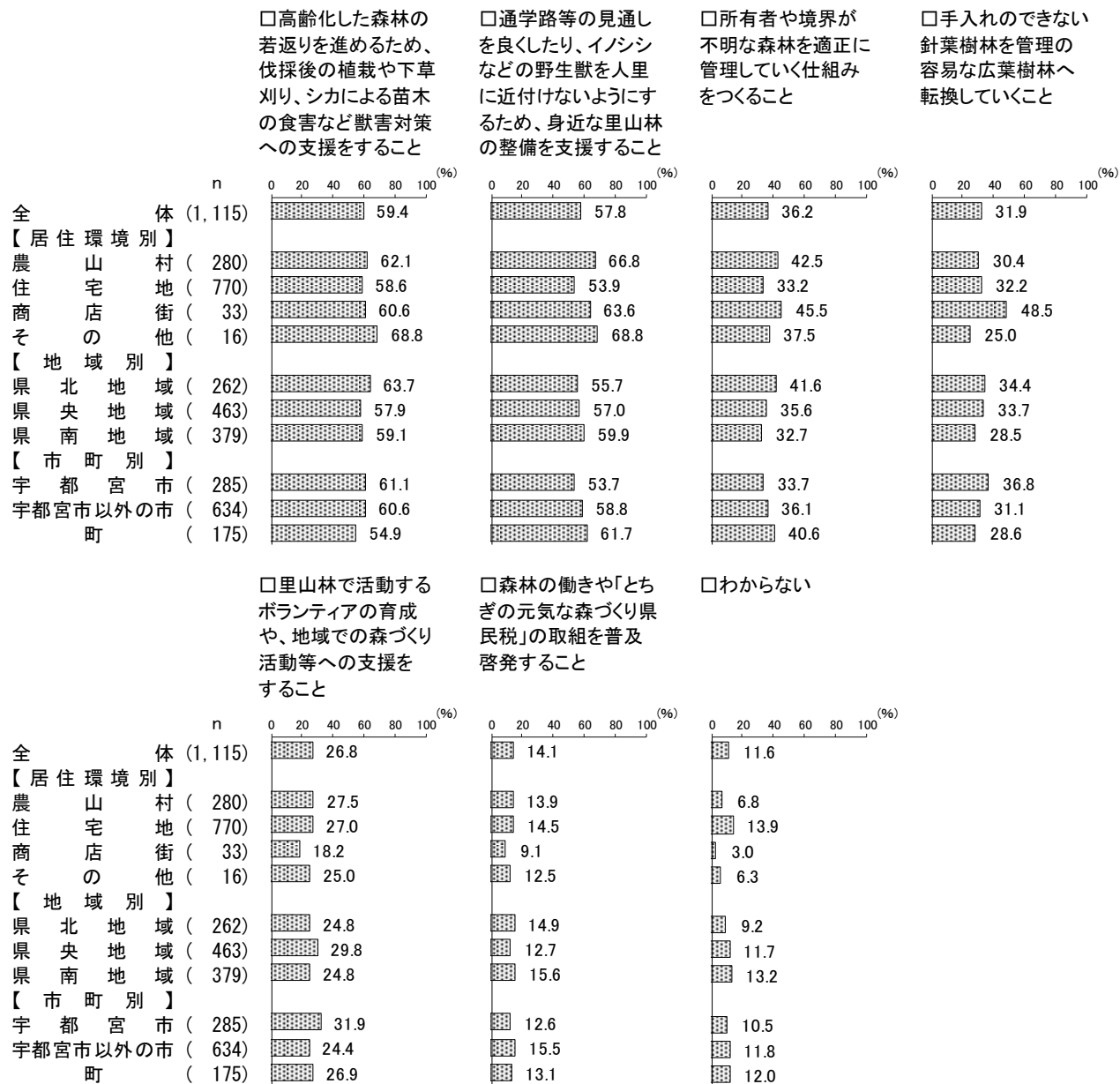


性別でみると、「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性〉(38.2%)が〈女性〉(26.7%)より11.5ポイント高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を

適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性〉(39.2%)が〈女性〉(33.6%)より5.6ポイント高くなっている。一方、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性〉(62.5%)が〈男性〉(52.2%)より10.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の食害など獣害対策への支援をすること」では〈女性70歳以上〉が69.8%と高くなっている。「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈女性60～64歳〉が69.7%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈男性30歳代〉が52.1%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈男性65～69歳〉が53.3%と高くなっている。「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈男性70歳以上〉が39.0%と高くなっている。「森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること」では〈女性65～69歳〉が25.0%と高くなっている。

[居住環境別・地域別・市町別]



居住環境別でみると、「通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること」では〈農山村〉が66.8%と高くなっている。「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈商店街〉が45.5%と高くなっている。「手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと」では〈商店街〉が48.5%と高くなっている。

地域別でみると、「所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること」では〈県北地域〉が41.6%と高くなっている。

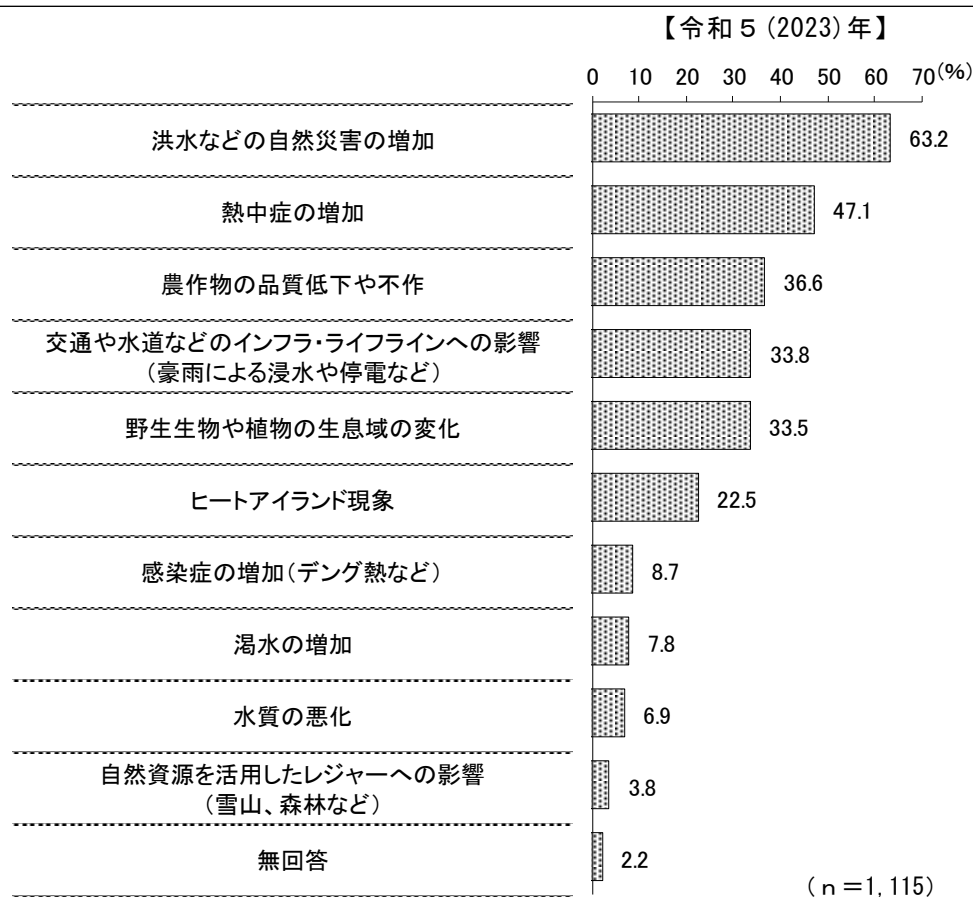
市町別でみると、「里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること」では〈宇都宮市〉が31.9%と高くなっている。

## 9 気候変動対策について

### (1) 気候変動による影響について知っていること

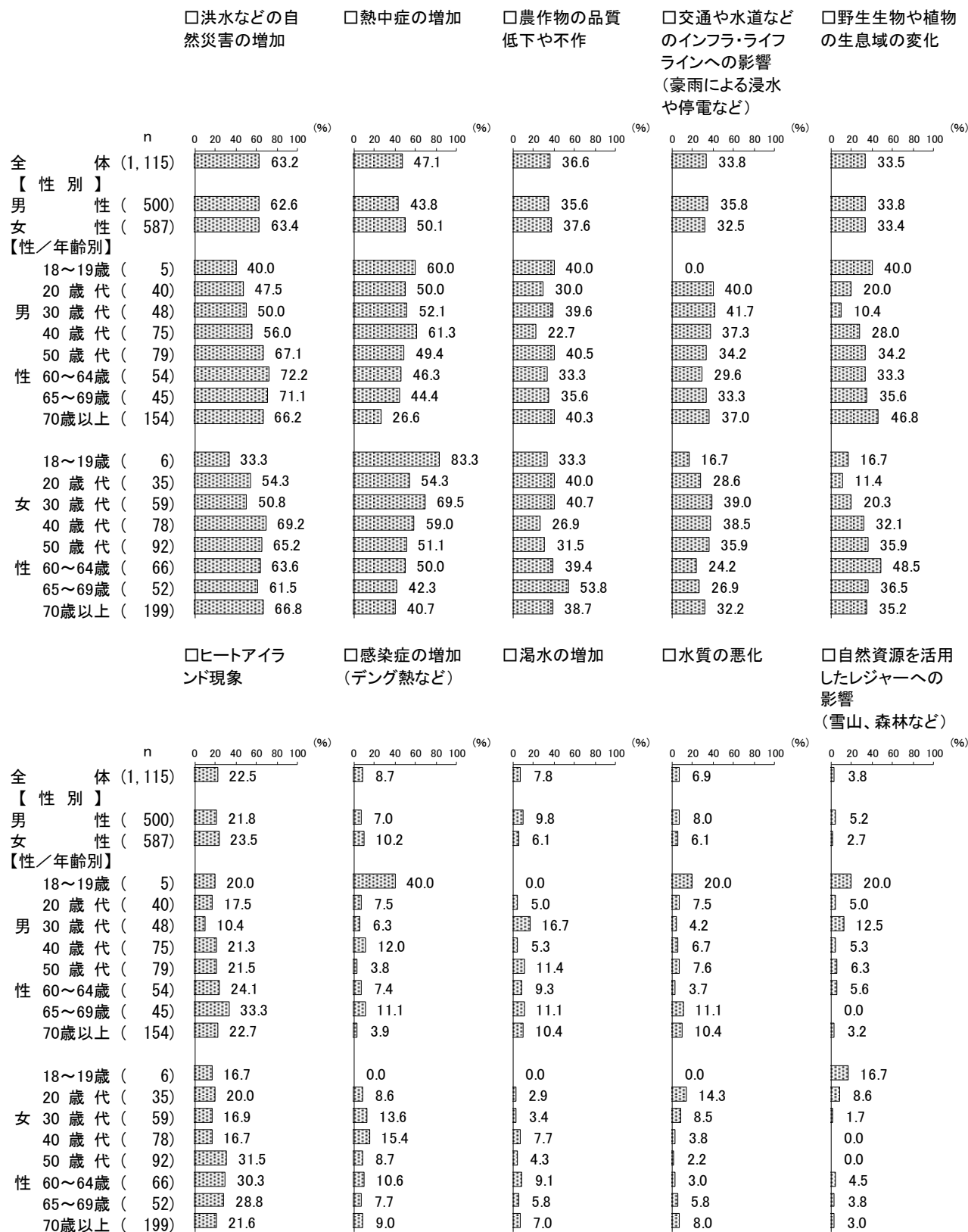
問26 近年、地球温暖化による気候変動の影響と思われる事象などが、栃木県でも発生しています。あなたが強く感じている気候変動による影響は何ですか。次の中から3つまで選んでください。 [n=1,115]

1	農作物の品質低下や不作	36.6%	8	自然資源を活用したレジャー	
2	水質の悪化	6.9		への影響（雪山、森林など）	3.8%
3	渇水の増加	7.8	9	交通や水道などのインフラ・ライフ	
4	野生生物や植物の生息域の変化	33.5		ラインへの影響	
5	洪水などの自然災害の増加	63.2		（豪雨による浸水や停電など）	33.8
6	熱中症の増加	47.1	10	ヒートアイランド現象	22.5
7	感染症の増加（ Dengue熱など）	8.7		（無回答）	2.2



全体で見ると、「洪水などの自然災害の増加」（63.2%）が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「熱中症の増加」（47.1%）、「農作物の品質低下や不作」（36.6%）、「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」（33.8%）、「野生生物や植物の生息域の変化」（33.5%）の順となっている。

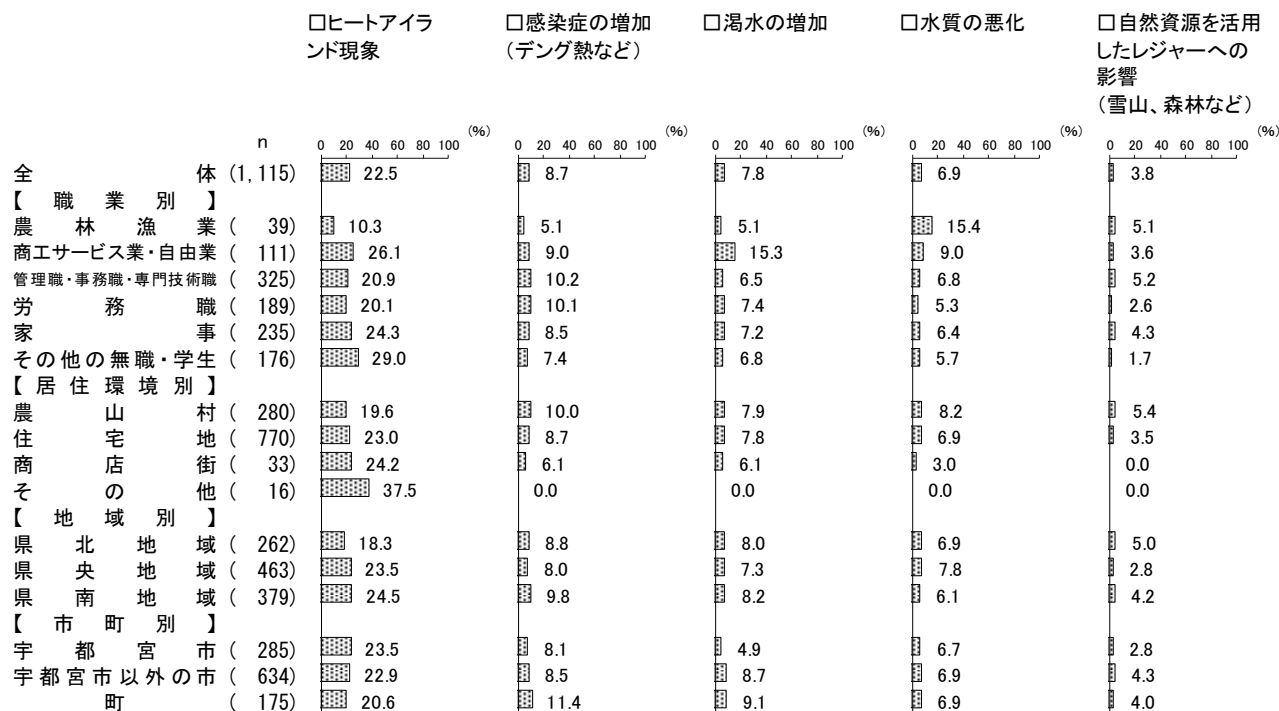
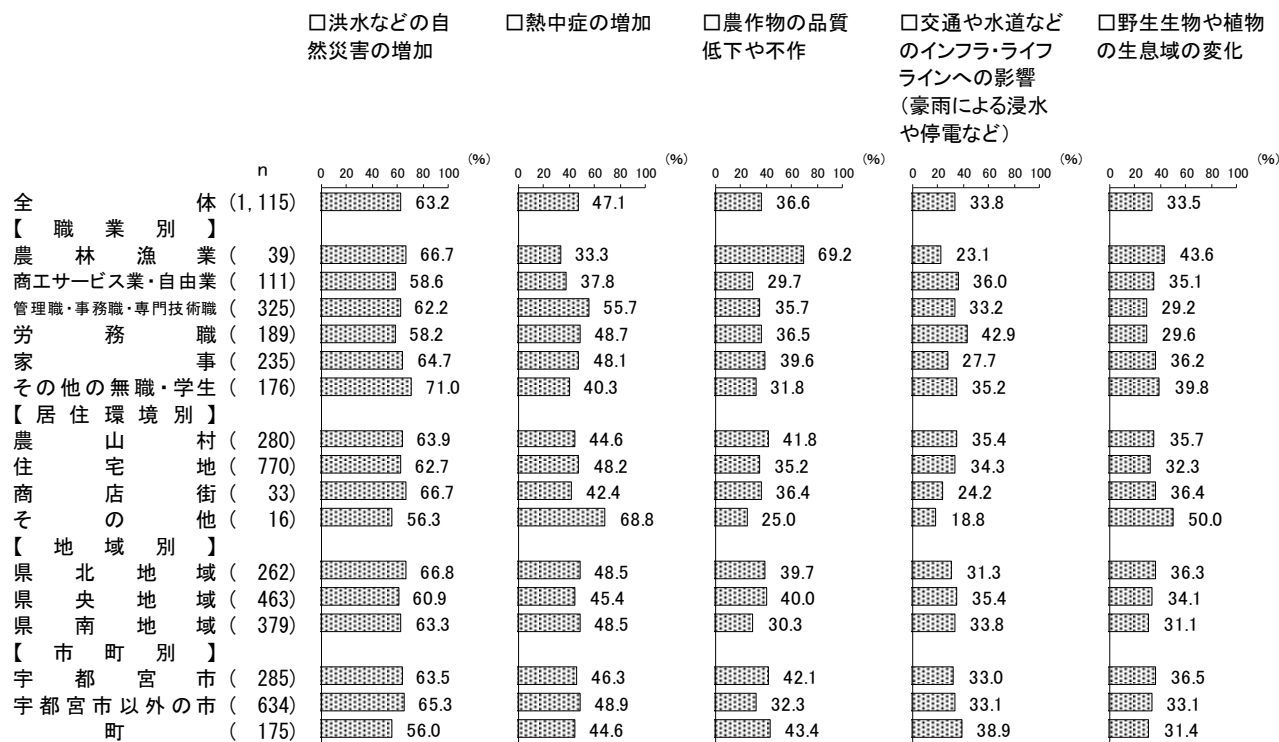
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「熱中症の増加」では〈女性〉(50.1%)が〈男性〉(43.8%)より6.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「熱中症の増加」では〈女性30歳代〉が69.5%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈女性65～69歳〉が53.8%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈女性60～64歳〉が48.5%と高くなっている。「ヒートアイランド現象」では〈男性65～69歳〉が33.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「洪水などの自然災害の増加」では〈その他の無職・学生〉が71.0%と高くなっている。「熱中症の増加」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が55.7%と高くなっている。「農作物の品質低下や不作」では〈農林漁業〉が69.2%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」では〈労務職〉が42.9%と高くなっている。「野生生物や植物の生息域の変化」では〈農林漁業〉が43.6%と高くなっている。「ヒートアイランド現象」では〈その他の無職・学生〉が29.0%と高くなっている。「渇水の増加」では〈商工サービス業・自由業〉が15.3%と高くなっている。「水質の悪化」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。

居住環境別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈農山村〉が41.8%と高くなっている。



地域別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈県南地域〉が30.3%と低くなっている。

市町別でみると、「農作物の品質低下や不作」では〈町〉が43.4%と高くなっている。「交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）」では〈町〉が38.9%と高くなっている。

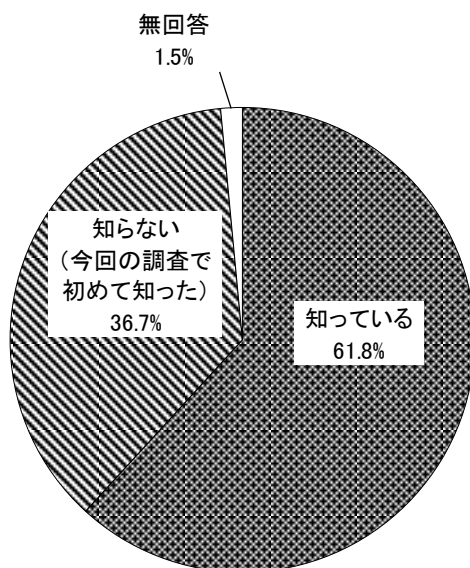
## (2) 「カーボンニュートラル」という言葉の認知度

問27 気候変動に対処するためには、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量削減のための取組（緩和策）を行うことが必要です。あなたは、緩和策の長期的な目標である「カーボンニュートラル」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,115]

※ カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガス排出量を実質的にゼロにする考え方で、栃木県では、2050年までのカーボンニュートラル実現を目指し、県や事業者・県民の皆さんのオールとちぎで取り組んでいく行動などを条例に定めています（栃木県カーボンニュートラル実現条例：令和5年4月1日施行）。

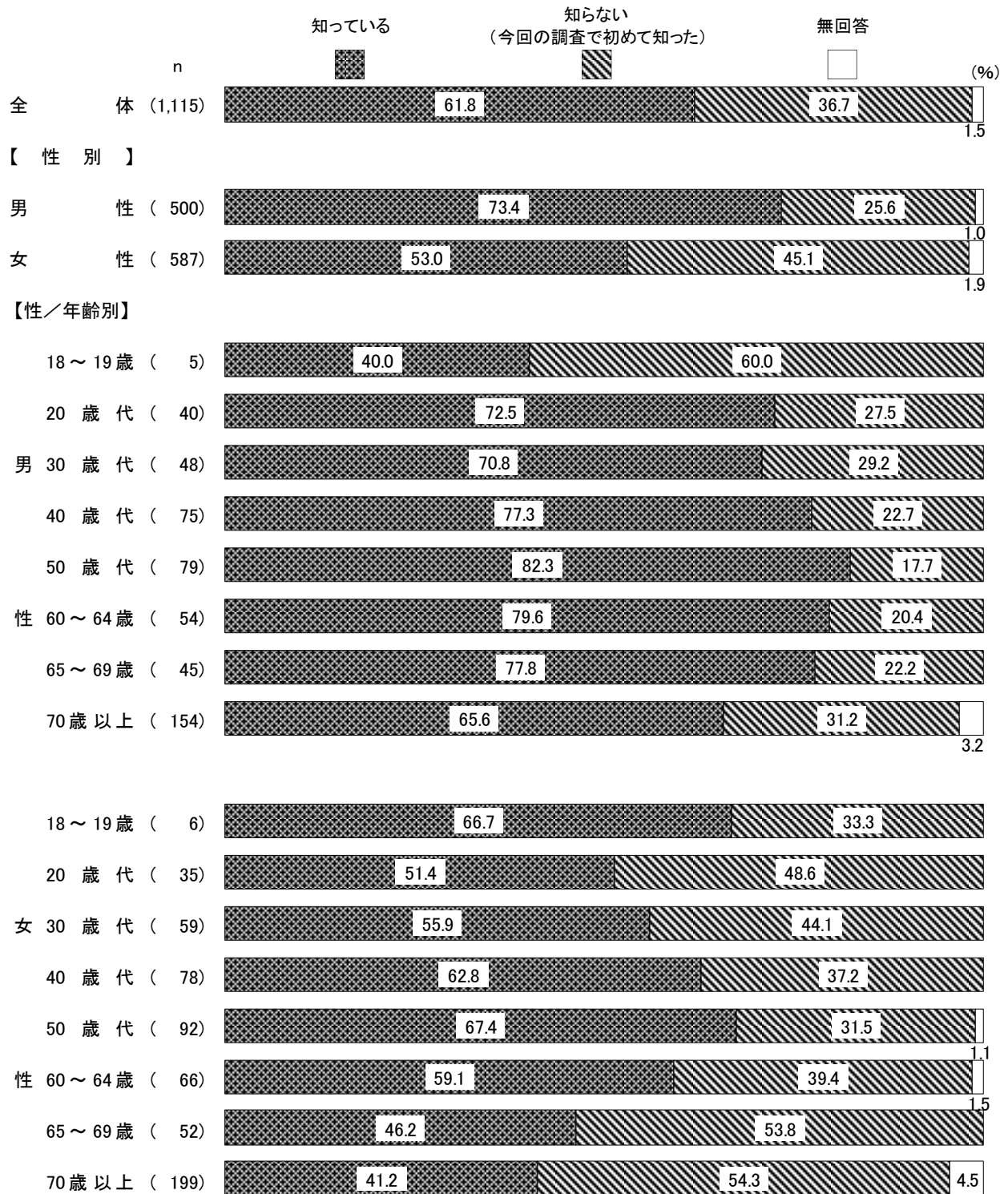
1 知っている	61.8%
2 知らない（今回の調査で初めて知った）	36.7
（無回答）	1.5



(n=1,115)

全体でみると、「知っている」(61.8%)が6割強、「知らない(今回の調査で初めて知った)」(36.7%)が3割台半ばを超えている。

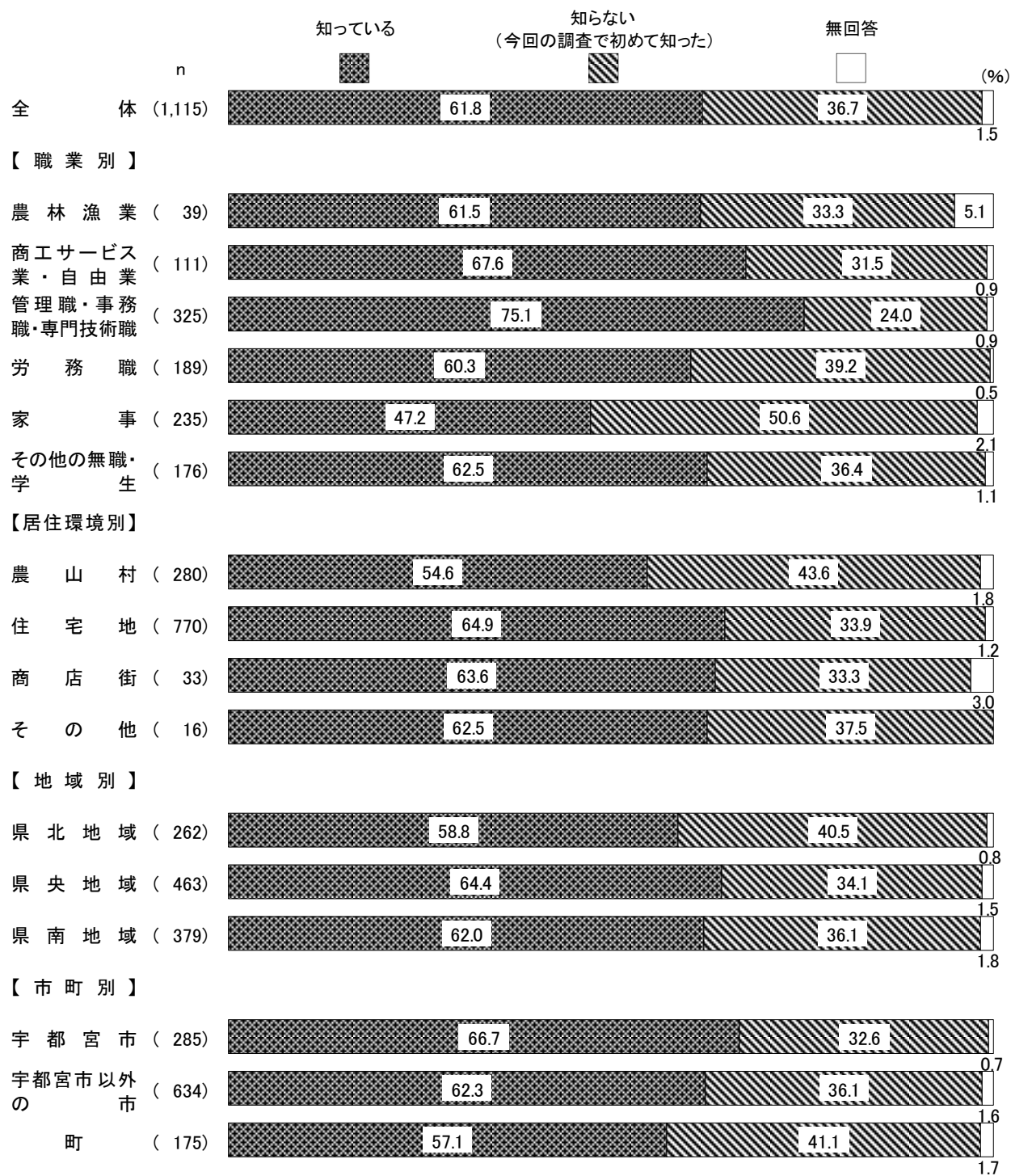
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「知っている」では〈男性〉(73.4%)が〈女性〉(53.0%)より20.4ポイント高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性〉(45.1%)が〈男性〉(25.6%)より19.5ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「知っている」では〈男性50歳代〉が82.3%、〈男性60～64歳〉が79.6%、〈男性65～69歳〉が77.8%、〈男性40歳代〉が77.3%、〈男性20歳代〉が72.5%と高くなっている。一方、「知らない(今回の調査で初めて知った)」では〈女性70歳以上〉が54.3%、〈女性65～69歳〉が53.8%、〈女性20歳代〉が48.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が75.1%、〈商工サービス業・自由業〉が67.6%と高くなっている。一方、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈家事〉が50.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「知らない（今回の調査で初めて知った）」では〈農山村〉が43.6%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

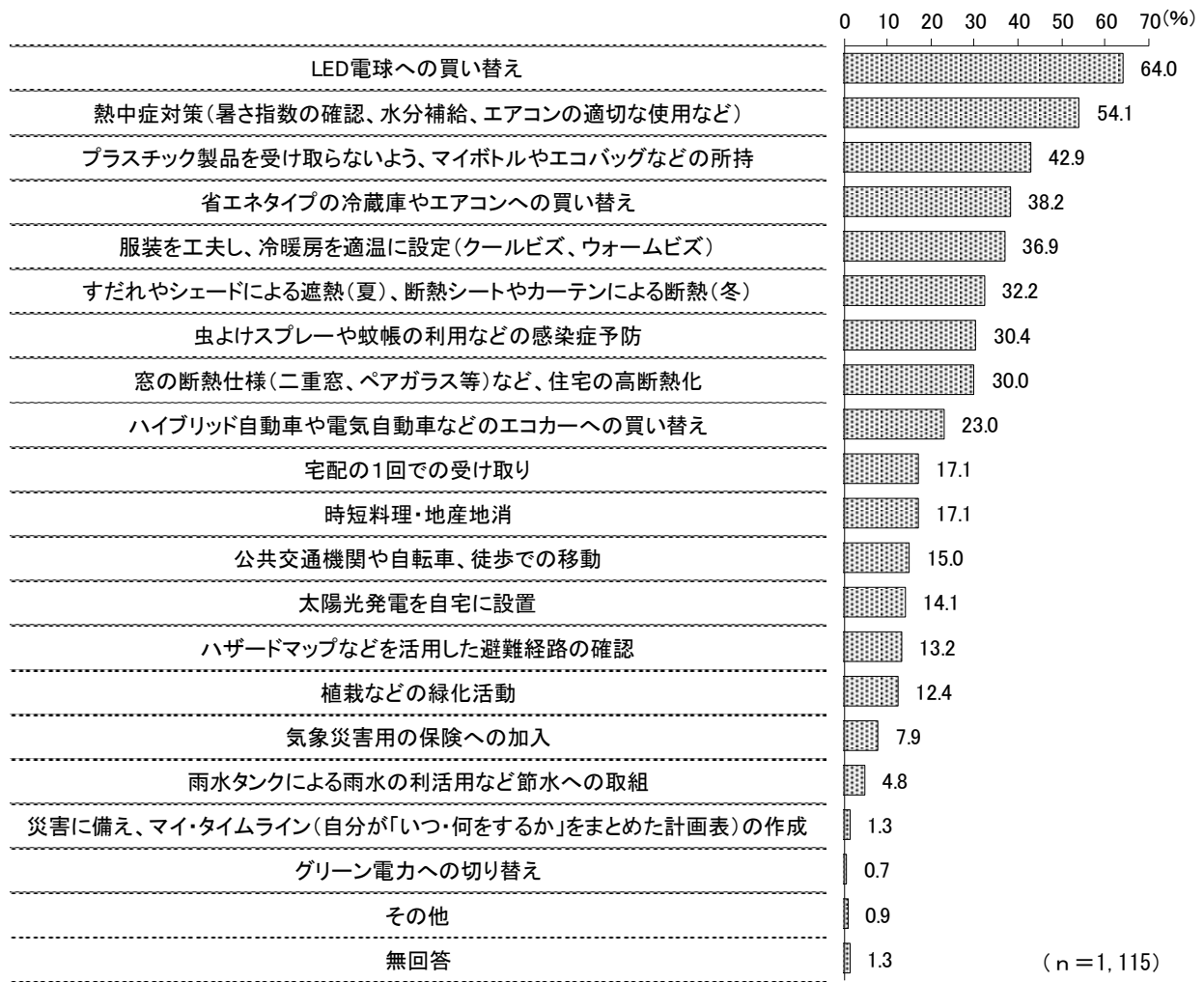
### (3) 実際に行っている気候変動対策

問28 あなたが実際に行っている気候変動対策は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

※ 気候変動対策には、温室効果ガスの排出を削減する取組〔緩和策〕や気候変動の影響による被害を回避・軽減する取組〔適応策〕があります。

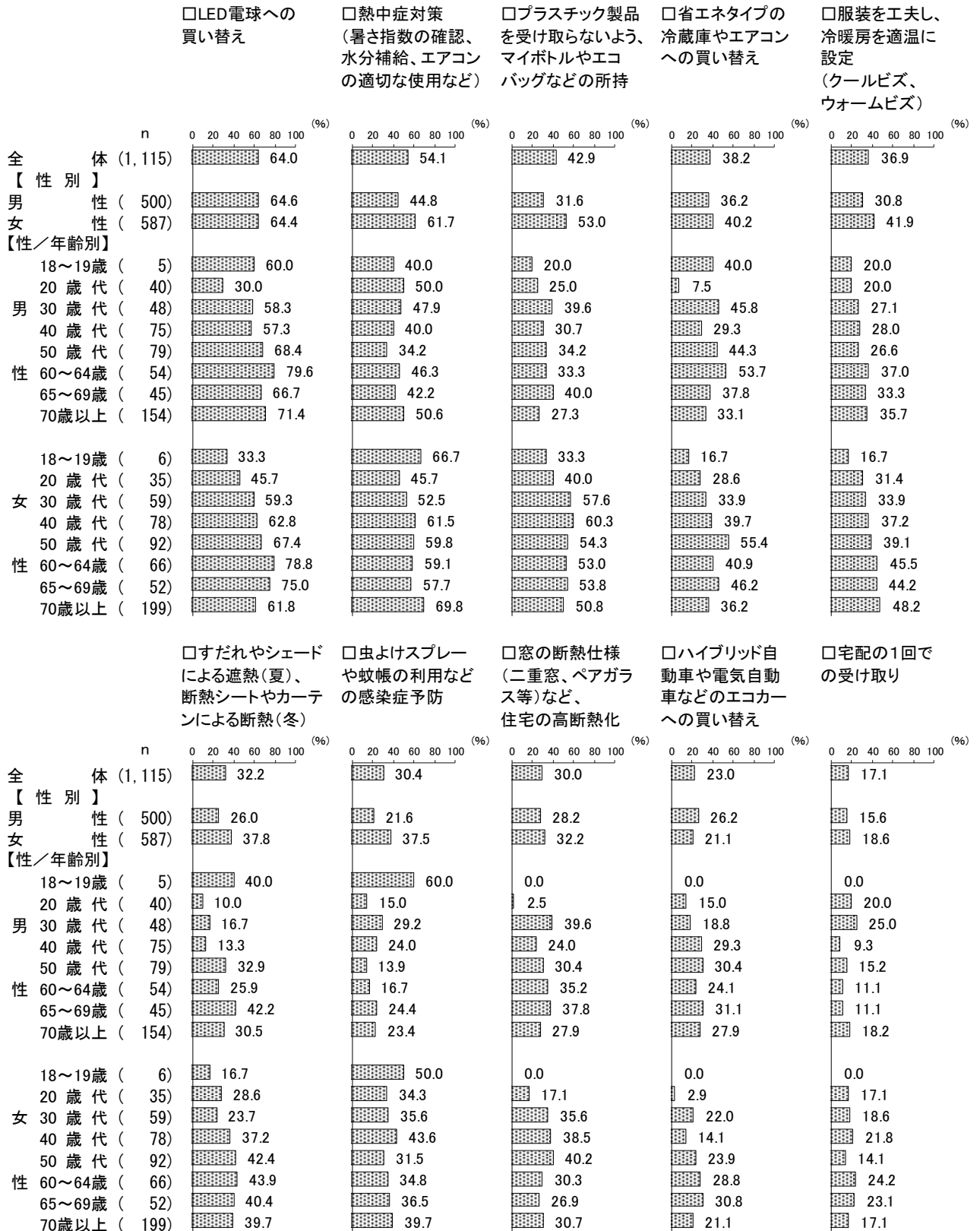
1	LED電球への買い替え	64.0%
2	省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え	38.2
3	窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化	30.0
4	公共交通機関や自転車、徒歩での移動	15.0
5	宅配の1回での受け取り	17.1
6	プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持	42.9
7	すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）	32.2
8	時短料理・地産地消	17.1
9	ハイブリッド自動車や電気自動車などのエコカーへの買い替え	23.0
10	服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）	36.9
11	太陽光発電を自宅に設置	14.1
12	グリーン電力への切り替え	0.7
13	植栽などの緑化活動	12.4
14	熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）	54.1
15	ハザードマップなどを活用した避難経路の確認	13.2
16	災害に備え、マイ・タイムライン（自分が「いつ・何をするか」をまとめた計画表）の作成	1.3
17	雨水タンクによる雨水の利活用など節水への取組	4.8
18	虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防	30.4
19	気象災害用の保険への加入	7.9
20	その他	0.9
	（無回答）	1.3

【令和5(2023)年】



全体で見ると、「LED電球への買い替え」(64.0%)が6割台半ば近くで最も高く、次いで、「熱中症対策(暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など)」(54.1%)、「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」(42.9%)、「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」(38.2%)、「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定(クールビズ、ウォームビズ)」(36.9%)、「すだれやシェードによる遮熱(夏)、断熱シートやカーテンによる断熱(冬)」(32.2%)、「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」(30.4%)、「窓の断熱仕様(二重窓、ペアガラス等)など、住宅の高断熱化」(30.0%)の順となっている。

[性別・性／年齢別] (上位10項目)



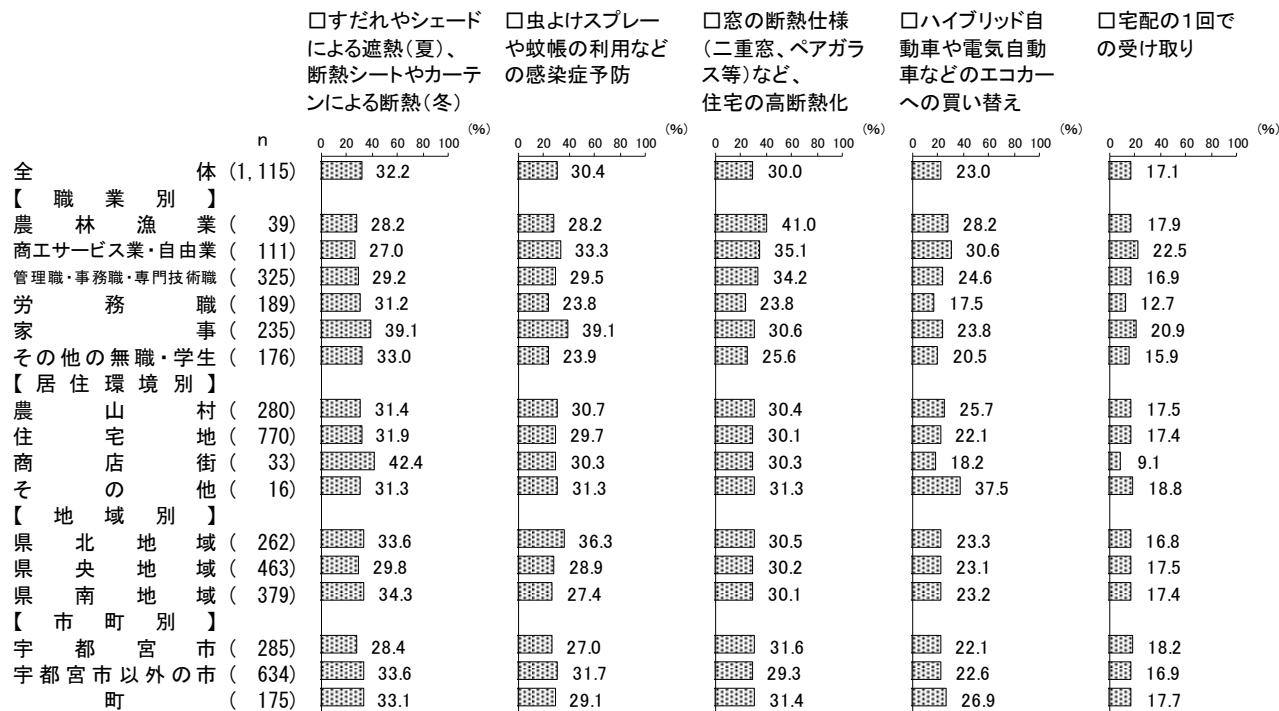
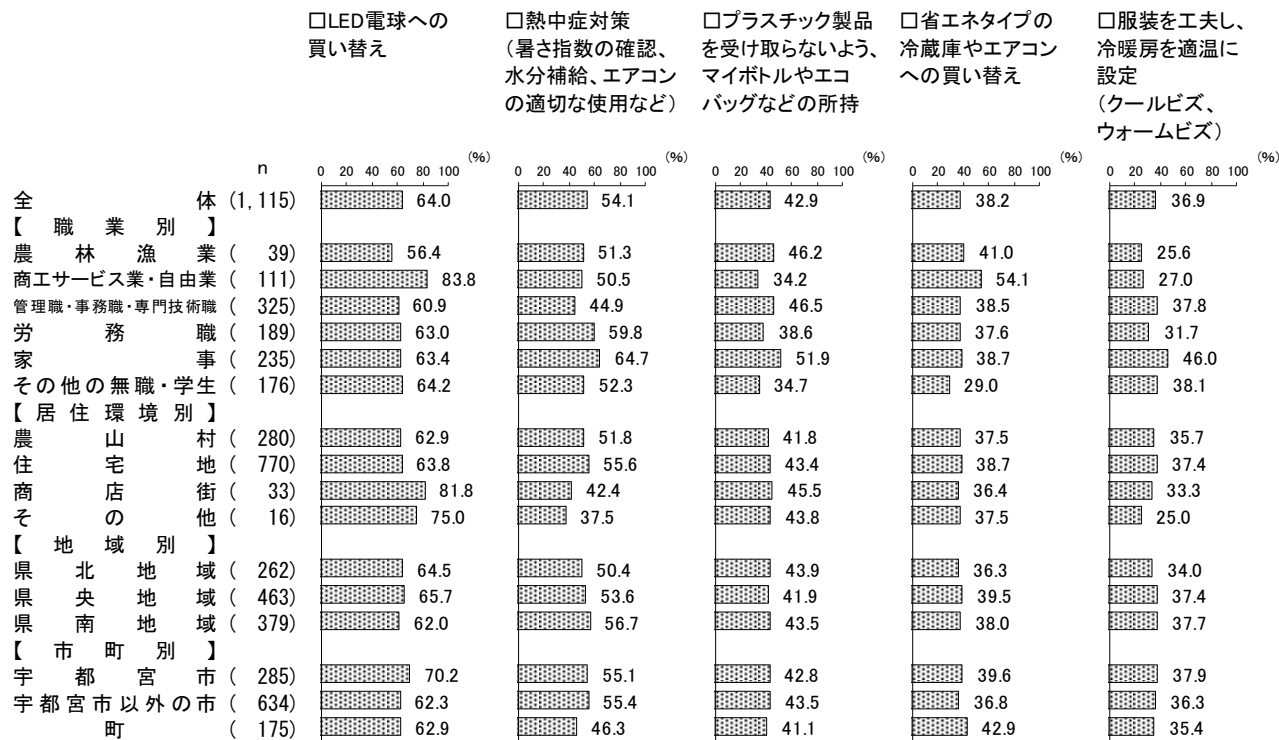
性別で見ると、「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」では〈女性〉(53.0%)が〈男性〉(31.6%)より21.4ポイント高くなっている。「熱中症対策(暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など)」では〈女性〉(61.7%)が〈男性〉(44.8%)より16.9ポイント高くなっている。「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈女性〉(37.5%)が〈男性〉(21.6%)より15.9ポイント高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱(夏)、断熱シー

トやカーテンによる断熱（冬）」では〈女性〉（37.8%）が〈男性〉（26.0%）より11.8ポイント高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈女性〉（41.9%）が〈男性〉（30.8%）より11.1ポイント高くなっている。一方、「ハイブリッド自動車や電気自動車などのエコカーへの買い替え」では〈男性〉（26.2%）が〈女性〉（21.1%）より5.1ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「LED電球への買い替え」では〈男性60～64歳〉が79.6%と高くなっている。「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」では〈女性70歳以上〉が69.8%と高くなっている。「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」では〈女性40歳代〉が60.3%と高くなっている。「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」では〈女性50歳代〉が55.4%と高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈女性70歳以上〉が48.2%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈女性60～64歳〉が43.9%と高くなっている。「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈女性40歳代〉が43.6%と高くなっている。「窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化」では〈女性50歳代〉が40.2%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別] (上位10項目)



職業別でみると、「LED電球への買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が83.8%と高くなっている。「熱中症対策（暑さ指数の確認、水分補給、エアコンの適切な使用など）」では〈家事〉が64.7%と高くなっている。「プラスチック製品を受け取らないよう、マイボトルやエコバッグなどの所持」では〈家事〉が51.9%と高くなっている。「省エネタイプの冷蔵庫やエアコンへの買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が54.1%と高くなっている。「服装を工夫し、冷暖房を適温に設定（クールビズ、ウォームビズ）」では〈家事〉が46.0%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈家事〉が39.1%と高くなっている。「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈家事〉が39.1%と高くなっている。「窓の断熱仕様（二重窓、ペアガラス等）など、住宅の高断熱化」では〈農林漁業〉が41.0%と高くなっている。「ハイブリッド自動車

や電気自動車などのエコカーへの買い替え」では〈商工サービス業・自由業〉が30.6%と高くなっている。「宅配の1回での受け取り」では〈商工サービス業・自由業〉が22.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「LED電球への買い替え」では〈商店街〉が81.8%と高くなっている。「すだれやシェードによる遮熱（夏）、断熱シートやカーテンによる断熱（冬）」では〈商店街〉が42.4%と高くなっている。

地域別でみると、「虫よけスプレーや蚊帳の利用などの感染症予防」では〈県北地域〉が36.3%と高くなっている。

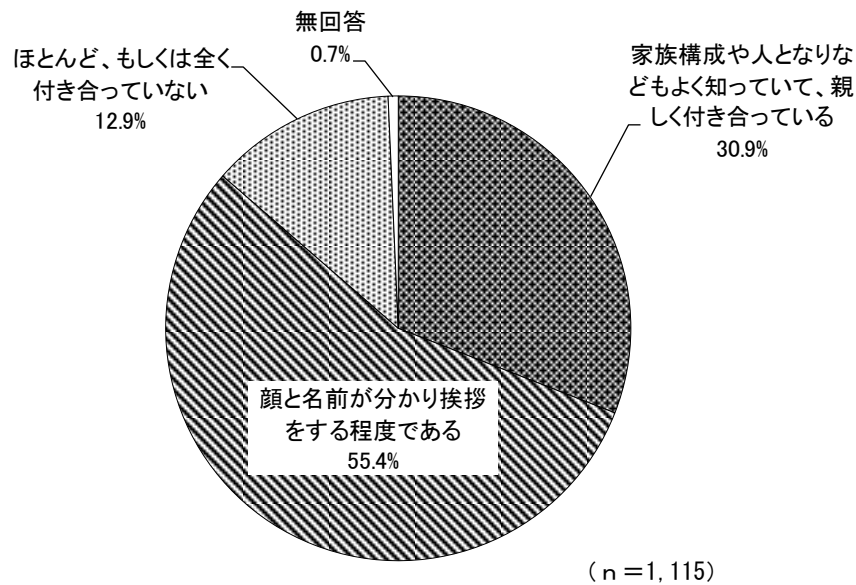
市町別でみると、「LED電球への買い替え」では〈宇都宮市〉が70.2%と高くなっている。

## 10 地域のつながりについて

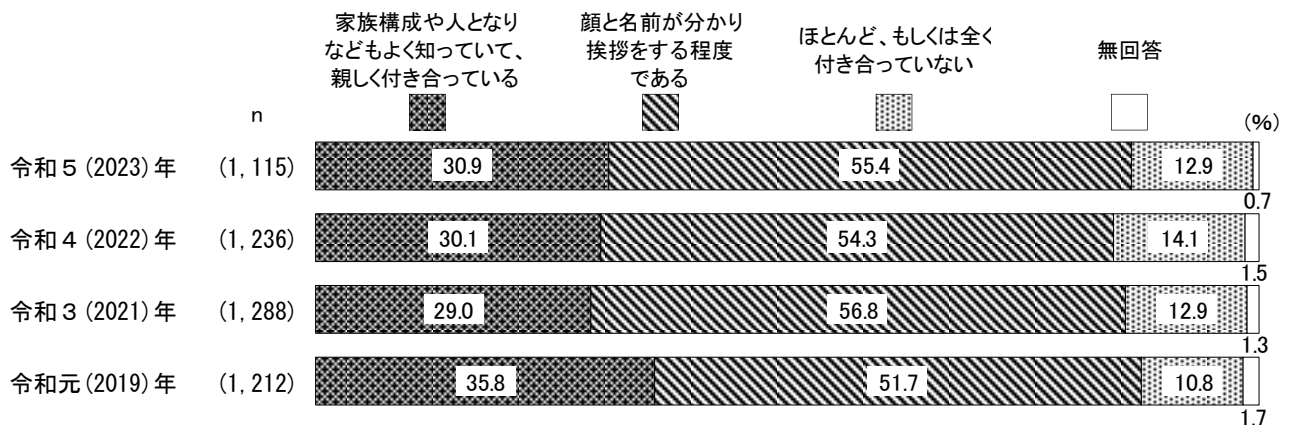
### (1) 現在のご近所との関係

問29 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1	家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている	30.9%
2	顔と名前が分かり挨拶をする程度である	55.4
3	ほとんど、もしくは全く付き合っていない	12.9
	(無回答)	0.7

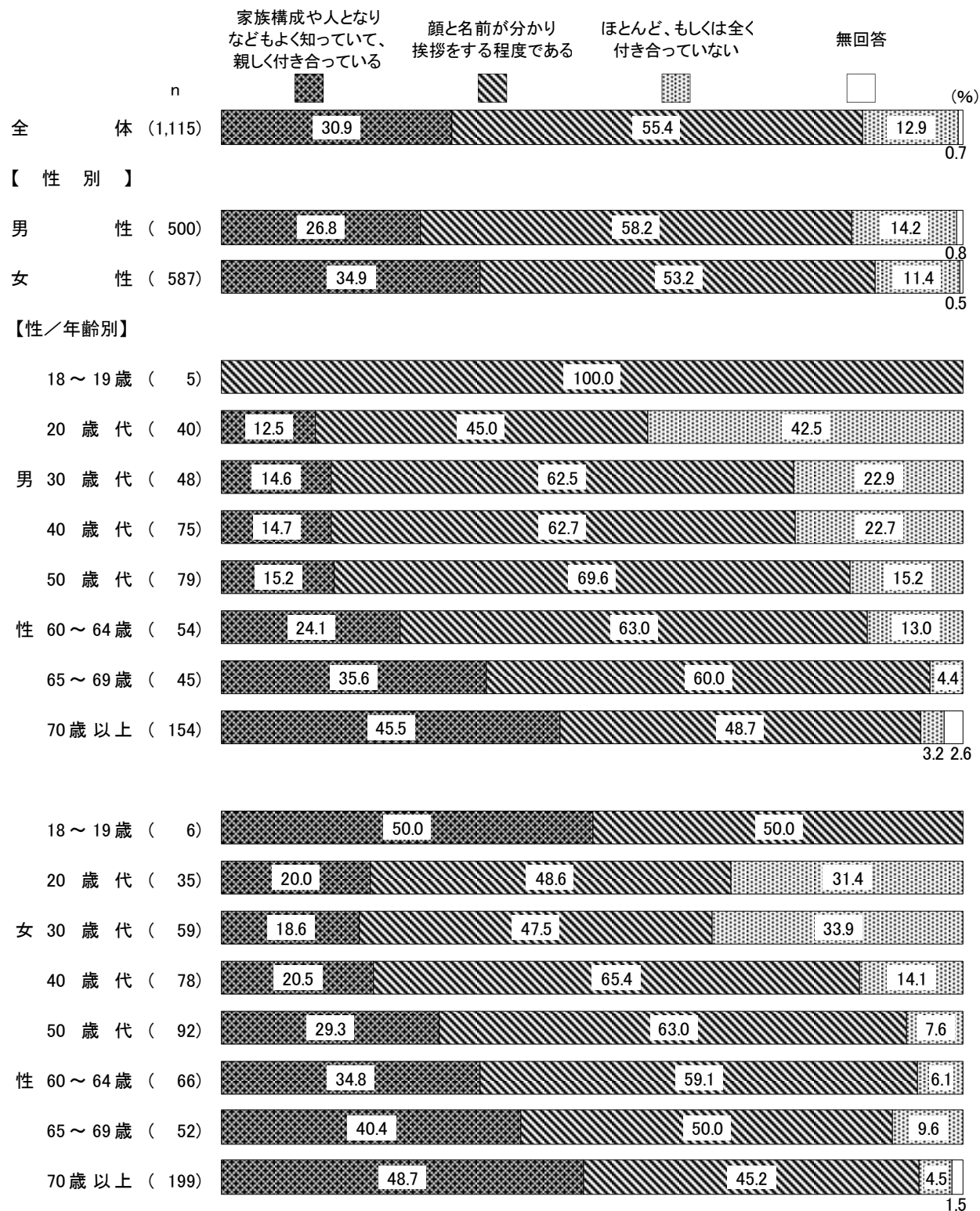


全体でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」（30.9%）が約3割、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」（55.4%）が5割台半ば、「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」（12.9%）が1割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、前回（令和4（2022）年）と大きな傾向の違いはみられない。

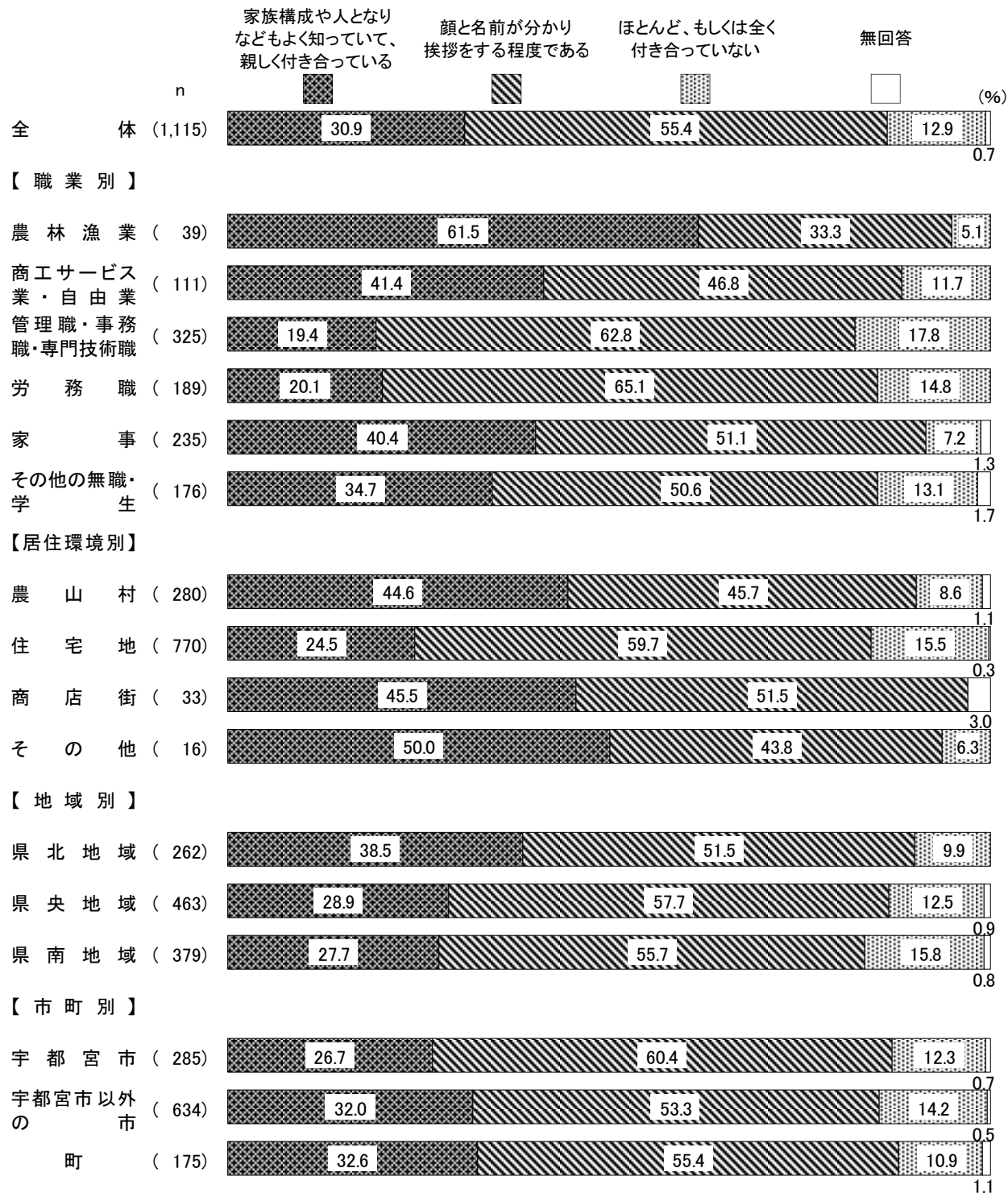
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性〉(34.9%)が〈男性〉(26.8%)より8.1ポイント高くなっている。一方、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性〉(58.2%)が〈女性〉(53.2%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈女性70歳以上〉が48.7%、〈男性70歳以上〉が45.5%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈男性50歳代〉が69.6%、〈女性40歳代〉が65.4%と高くなっている。「ほとんど、もしくは全く付き合っていない」では〈男性20歳代〉が42.5%、〈女性30歳代〉が33.9%、〈女性20歳代〉が31.4%、〈男性30歳代〉が22.9%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈農林漁業〉が61.5%、〈商工サービス業・自由業〉が41.4%、〈家事〉が40.4%と高くなっている。「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈労務職〉が65.1%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が62.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈商店街〉が45.5%、〈農山村〉が44.6%と高くなっている。

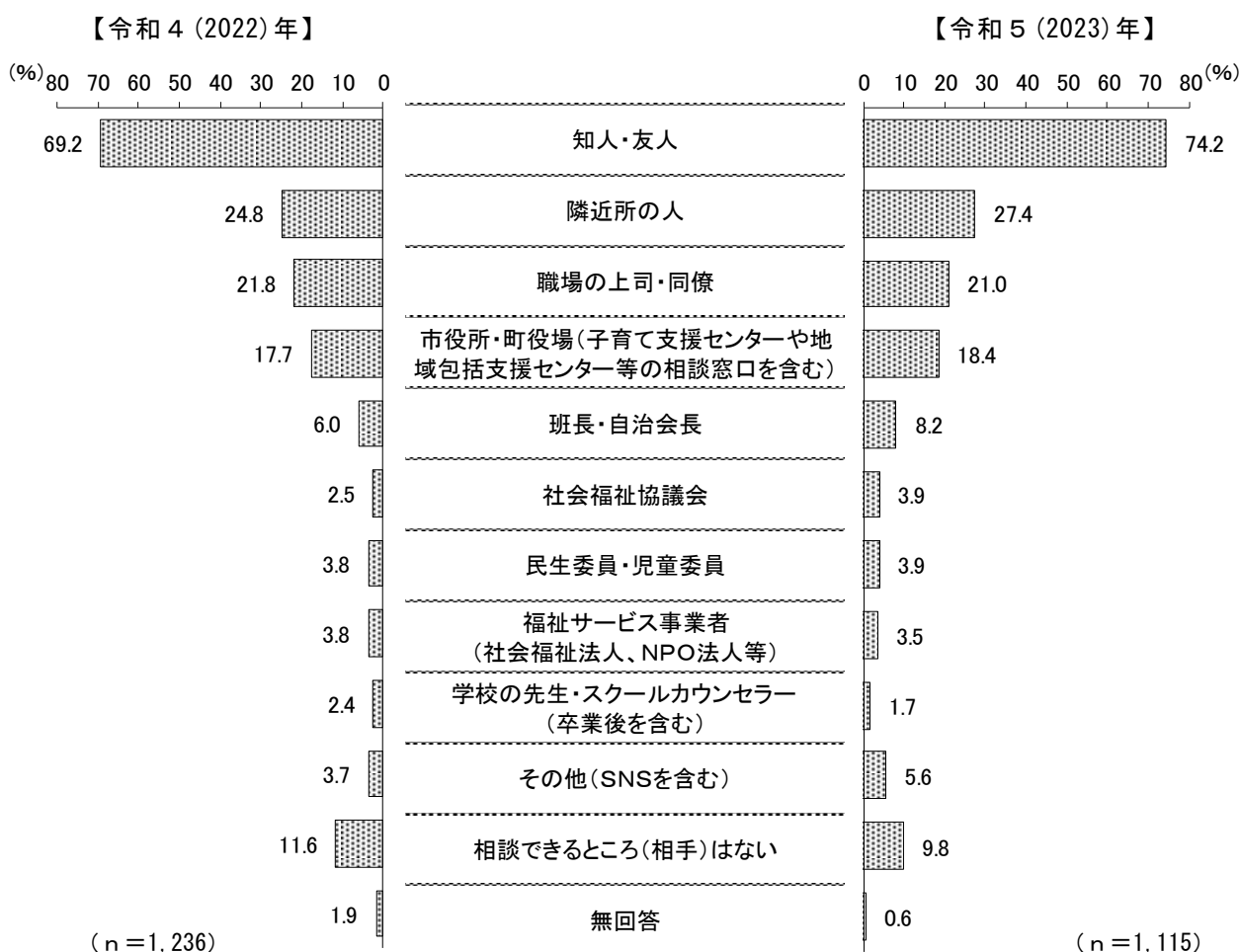
地域別でみると、「家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている」では〈県北地域〉が38.5%と高くなっている。

市町別でみると、「顔と名前が分かり挨拶をする程度である」では〈宇都宮市〉が60.4%と高くなっている。

## (2) 日常生活で困ったときに相談できるところ

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

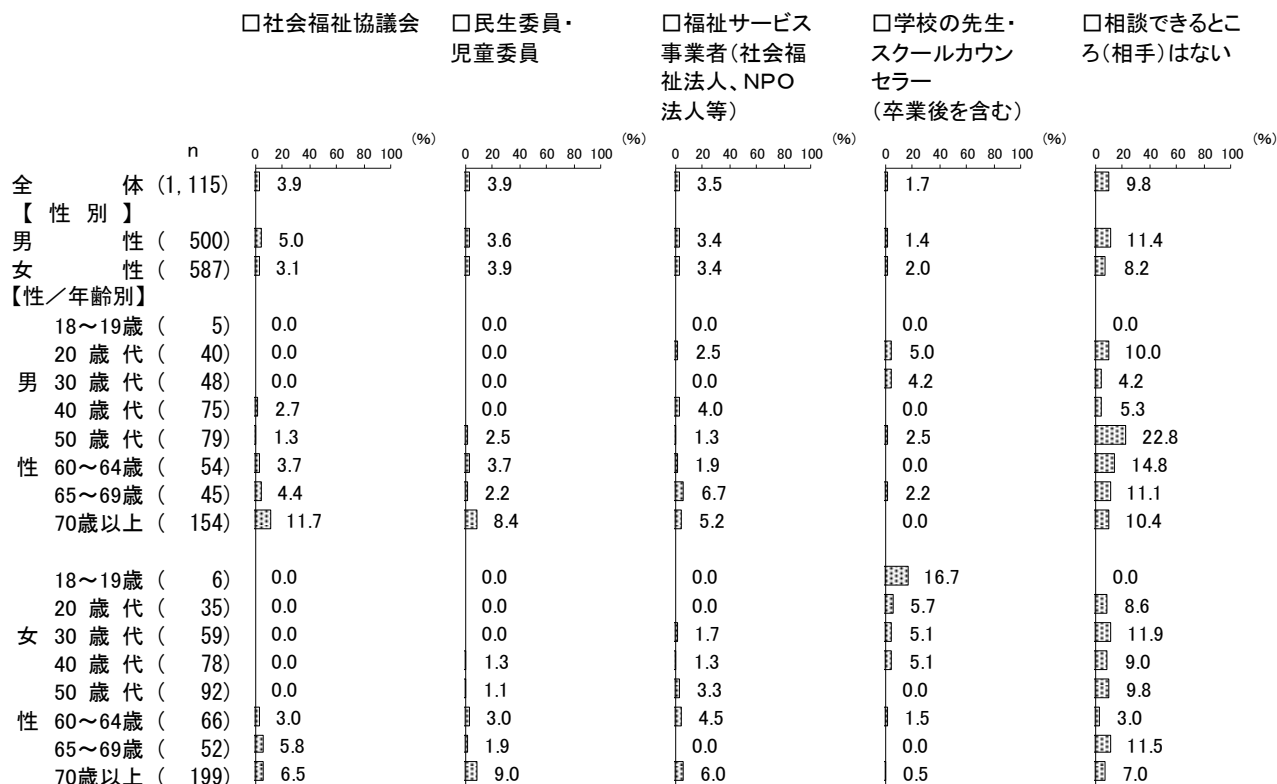
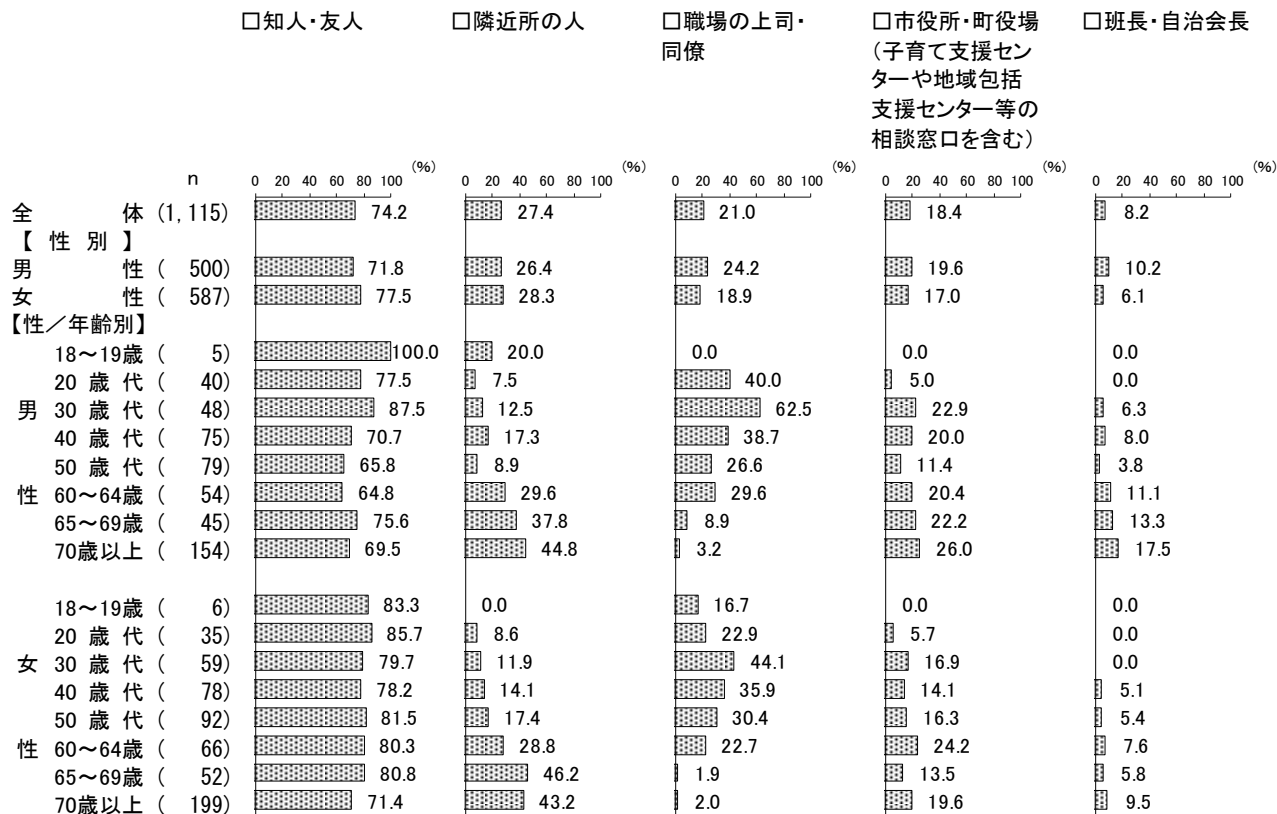
1	知人・友人	74.2%	7	福祉サービス事業者	
2	隣近所の人	27.4		(社会福祉法人、NPO法人等)	3.5%
3	民生委員・児童委員	3.9	8	学校の先生・スクールカウンセラー	
4	班長・自治会長	8.2		(卒業後を含む)	1.7
5	社会福祉協議会	3.9	9	職場の上司・同僚	21.0
6	市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）	18.4	10	その他（SNSを含む）	5.6
			11	相談できるところ（相手）はない	9.8
				(無回答)	0.6



全体で見ると、「知人・友人」(74.2%)が7割台半ば近くで最も高くなっている。次いで、「隣近所の人」(27.4%)、「職場の上司・同僚」(21.0%)、「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」(18.4%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「知人・友人」が5.0ポイント増加している。また、「相談できるところ（相手）はない」(9.8%)は、1.8ポイント減少している。

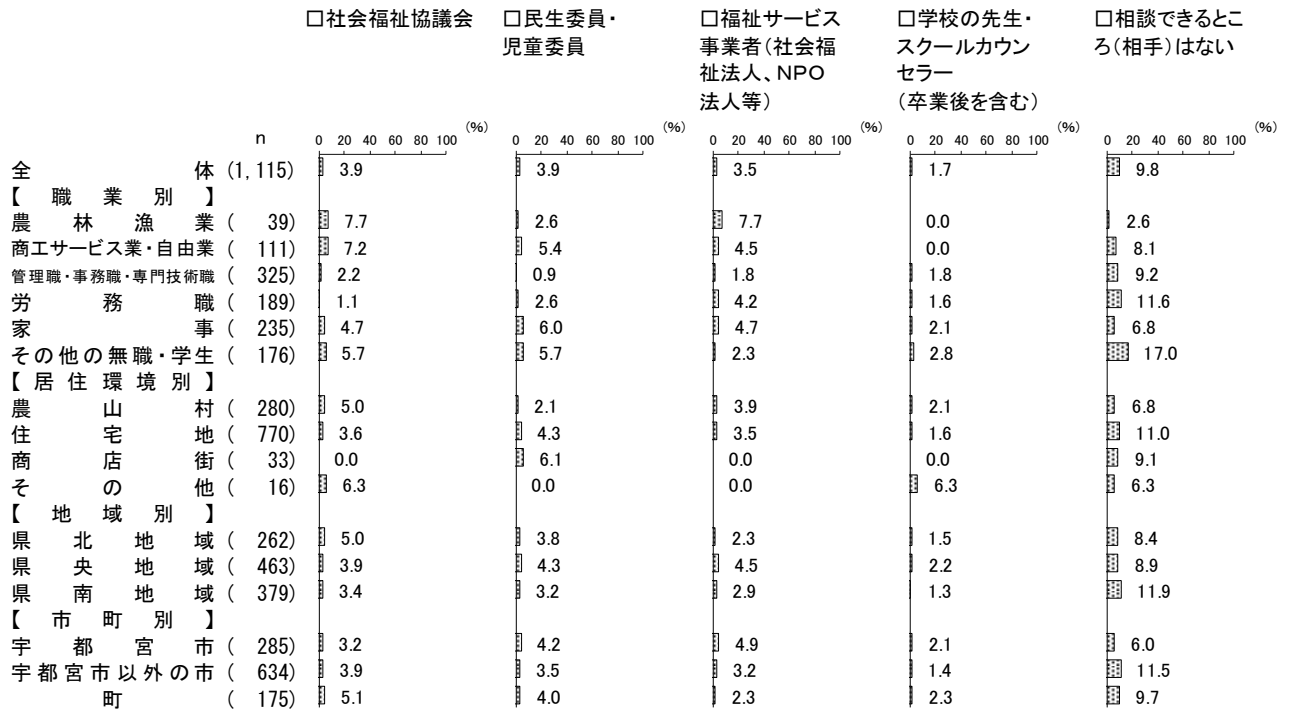
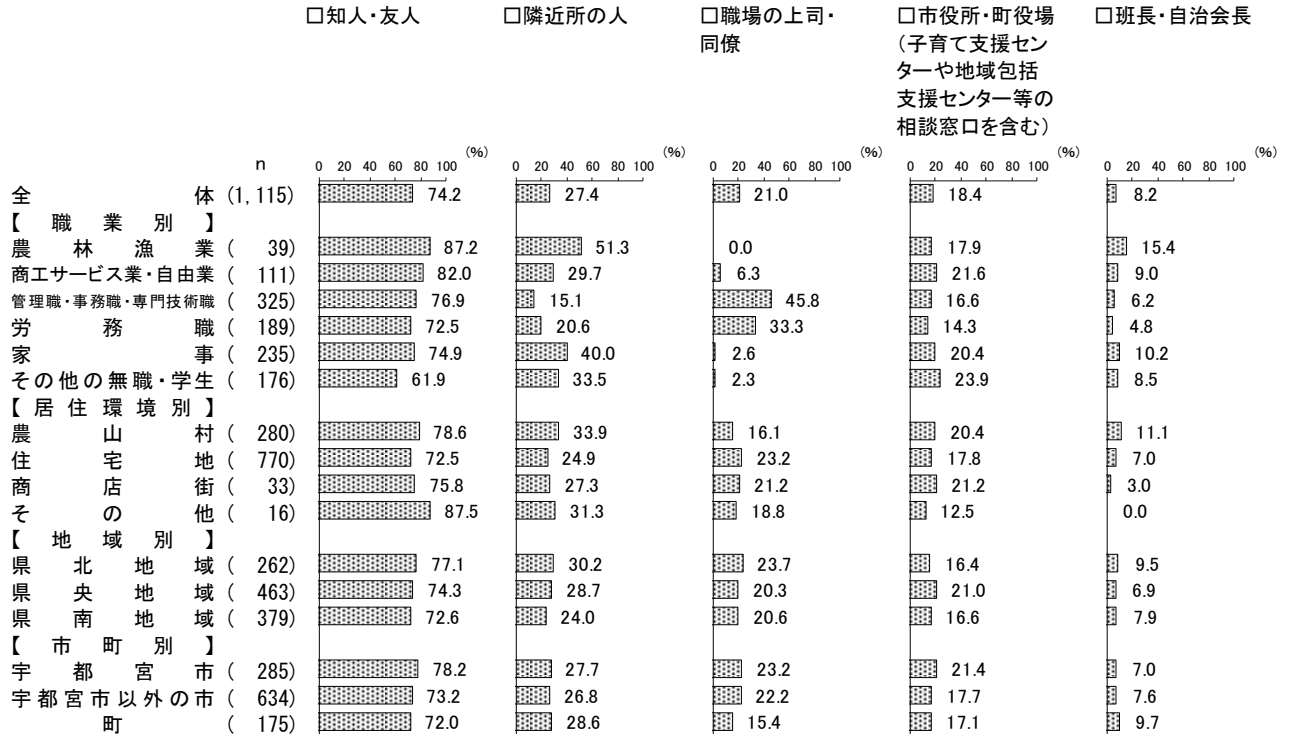
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「知人・友人」では〈女性〉(77.5%)が〈男性〉(71.8%)より5.7ポイント高くなっている。一方、「職場の上司・同僚」では〈男性〉(24.2%)が〈女性〉(18.9%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「知人・友人」では〈男性30歳代〉が87.5%と高くなっている。「隣近所の人」では〈女性65～69歳〉が46.2%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈男性30歳代〉が62.5%と高くなっている。「相談できるところ(相手)はない」では〈男性50歳代〉が22.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「知人・友人」では〈農林漁業〉が87.2%と高くなっている。「隣近所の人」では〈農林漁業〉が51.3%と高くなっている。「職場の上司・同僚」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が45.8%と高くなっている。「市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）」では〈その他の無職・学生〉が23.9%と高くなっている。「班長・自治会長」では〈農林漁業〉が15.4%と高くなっている。「相談できるところ（相手）はない」では〈その他の無職・学生〉が17.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「隣近所の人」では〈農山村〉が33.9%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

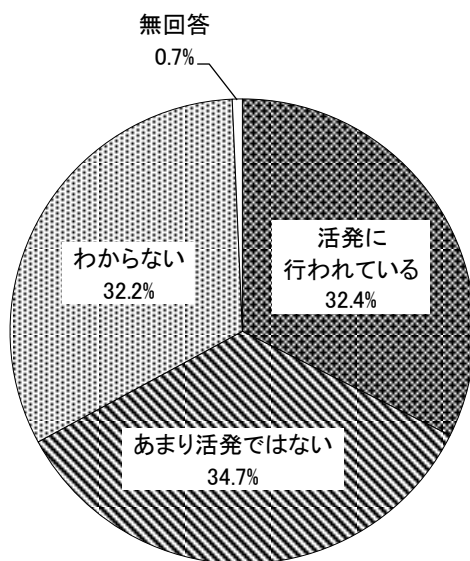


## 11 地域活動について

### (1) 地域活動が活発に行われているか

問31 あなたの住んでいる地域では、地域活動が活発に行われていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

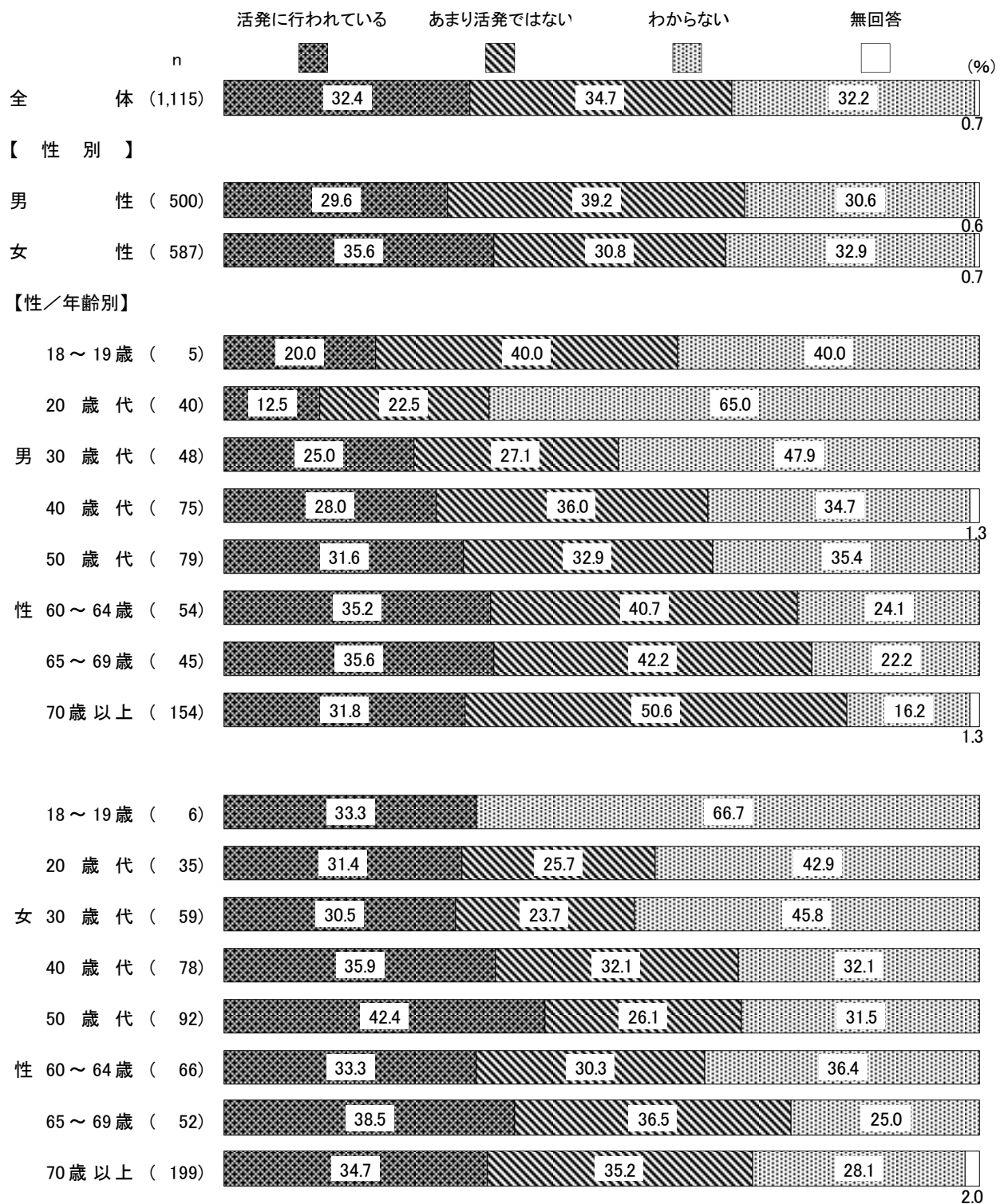
1 活発に行われている	32.4%
2 あまり活発ではない	34.7
3 わからない	32.2
(無回答)	0.7



(n=1,115)

全体で見ると、「活発に行われている」(32.4%)が3割強、「あまり活発ではない」(34.7%)が3割台半ば近くとなっている。

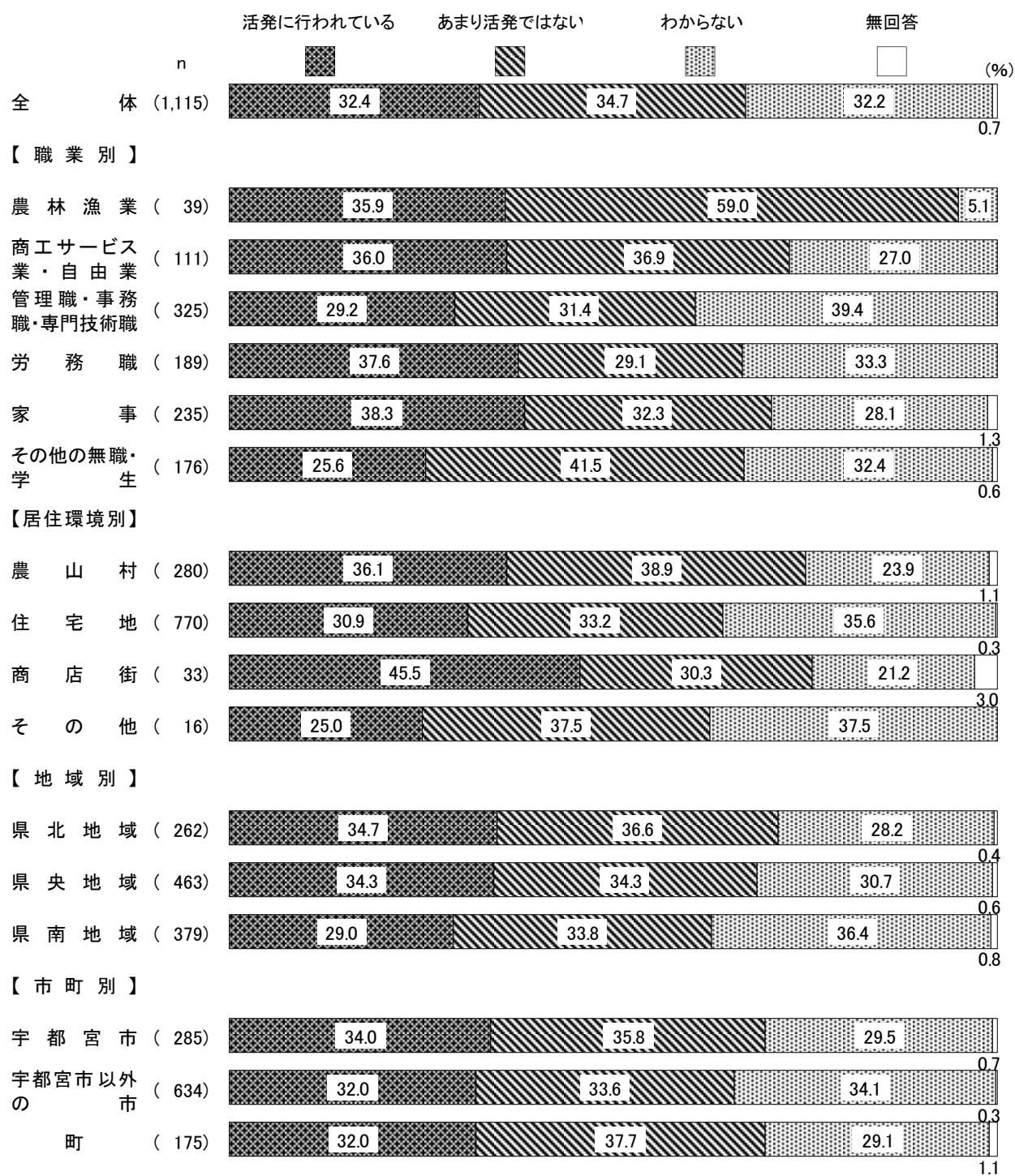
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「活発に行われている」では〈女性〉(35.6%)が〈男性〉(29.6%)より6.0ポイント高くなっている。一方、「あまり活発ではない」では〈男性〉(39.2%)が〈女性〉(30.8%)より8.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「活発に行われている」では〈女性50歳代〉が42.4%と高くなっている。「あまり活発ではない」では〈男性70歳以上〉が50.6%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「活発に行われている」では〈家事〉が38.3%、〈労務職〉が37.6%、〈商工サービス業・自由業〉が36.0%、〈農林漁業〉が35.9%と高くなっている。「あまり活発ではない」では〈農林漁業〉が59.0%、〈その他の無職・学生〉が41.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「活発に行われている」では〈商店街〉が45.5%と高くなっている。

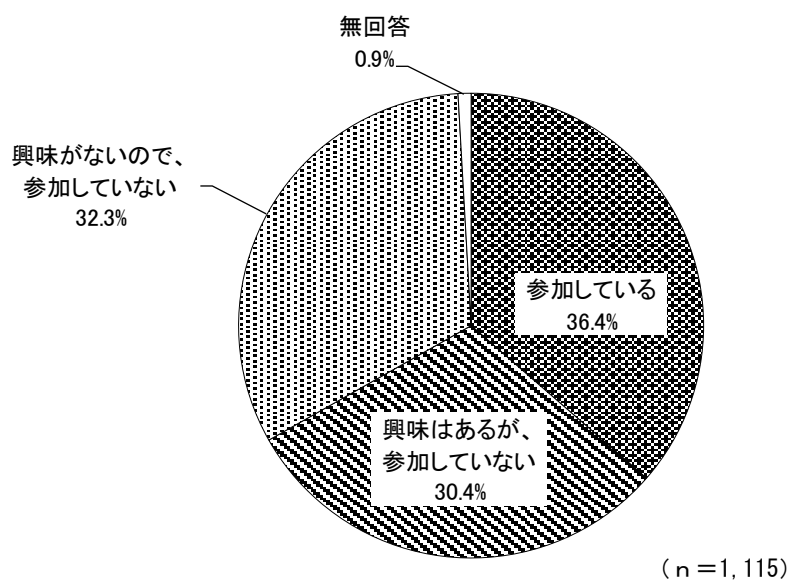
地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 地域活動への参加状況

問32 あなたは、地域活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

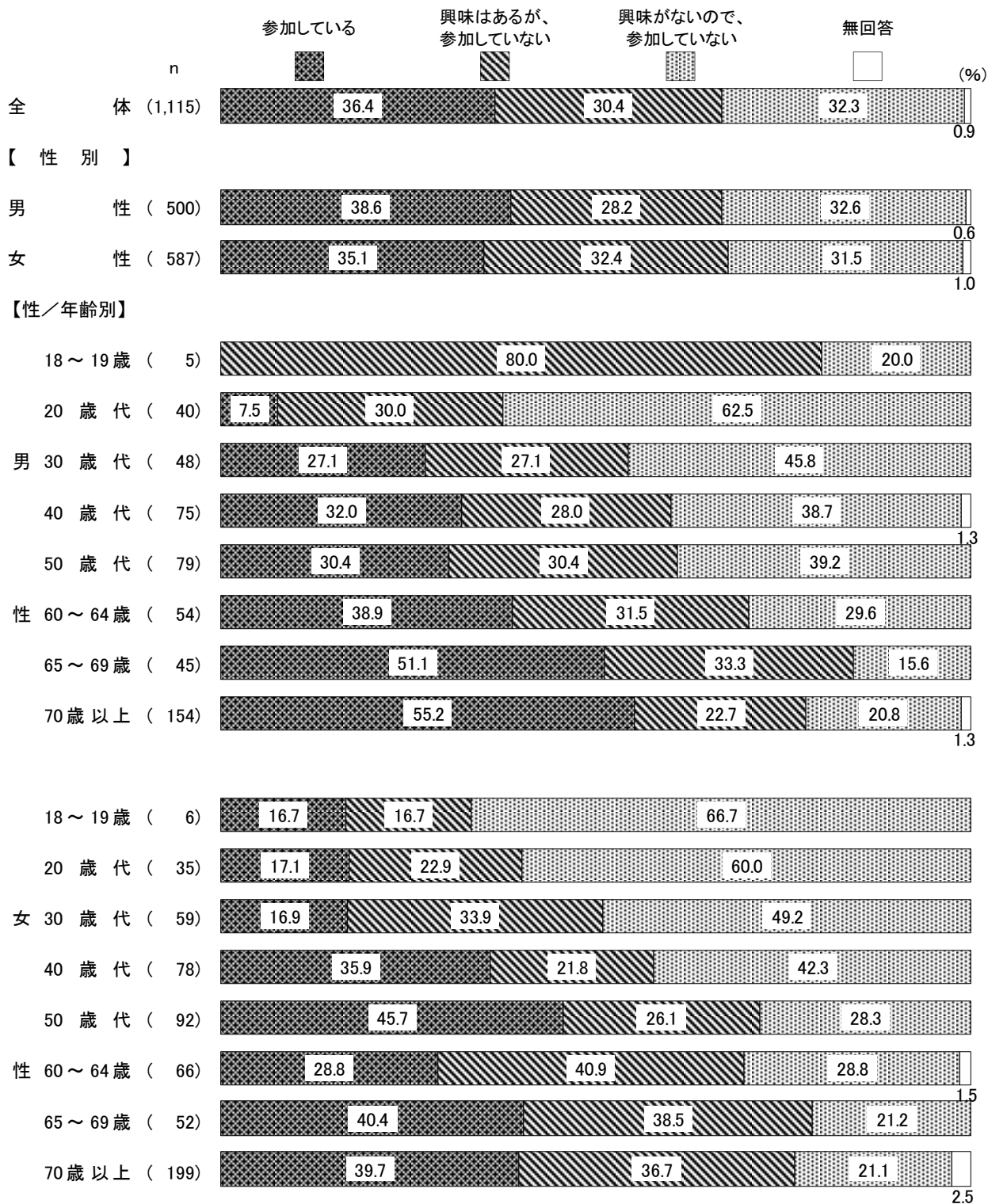
[n=1,115]

1 参加している	36.4%
2 興味はあるが、参加していない	30.4
3 興味がないので、参加していない	32.3
(無回答)	0.9



全体で見ると、「参加している」(36.4%)が3割台半ばを超え、「興味がないので、参加していない」(32.3%)が3割強、「興味はあるが、参加していない」(30.4%)が約3割となっている。

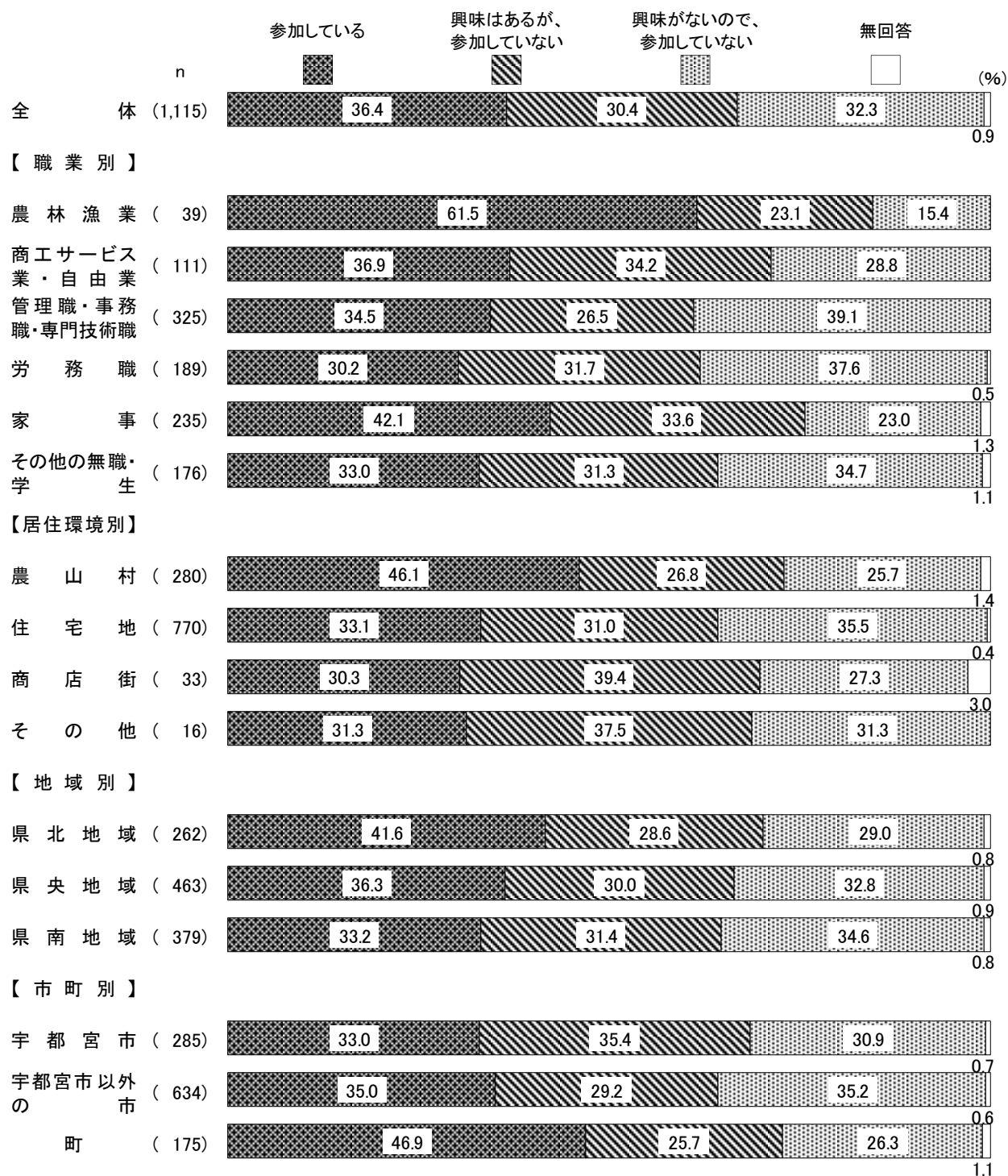
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「参加している」では〈男性70歳以上〉が55.2%、〈男性65～69歳〉が51.1%と高くなっている。「興味はあるが、参加していない」では〈女性60～64歳〉が40.9%、〈女性65～69歳〉が38.5%、〈女性70歳以上〉が36.7%と高くなっている。「興味がないので、参加していない」では〈男性20歳代〉が62.5%、〈女性20歳代〉が60.0%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「参加している」では〈農林漁業〉が61.5%と高くなっている。「興味がないので、参加していない」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が39.1%、〈労務職〉が37.6%と高くなっている。

居住環境別でみると、「参加している」では〈農山村〉が46.1%と高くなっている。「興味はあるが、参加していない」では〈商店街〉が39.4%と高くなっている。

地域別でみると、「参加している」では〈県北地域〉が41.6%と高くなっている。

市町別でみると、「参加している」では〈町〉が46.9%と高くなっている。「興味はあるが、参加していない」では〈宇都宮市〉が35.4%と高くなっている。

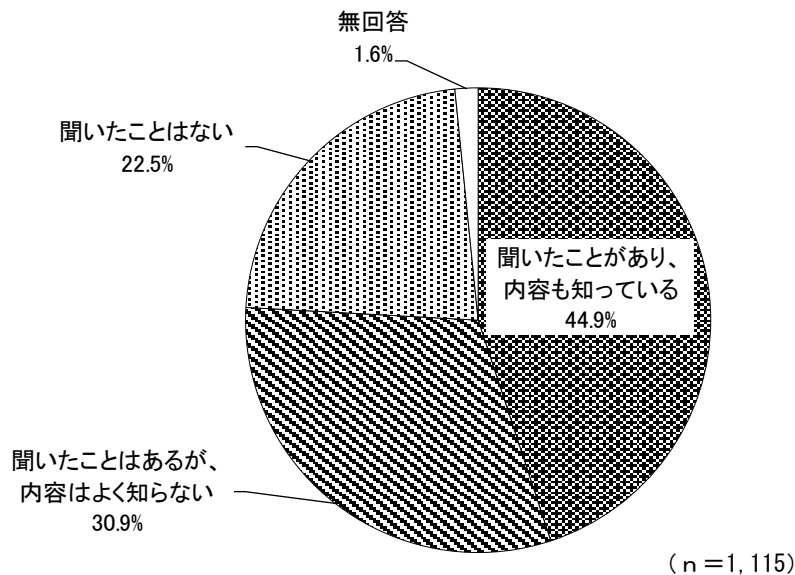
## 12 ケアラーについて

### (1) 「ケアラー」という言葉の認知度

問33 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っているかどうか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

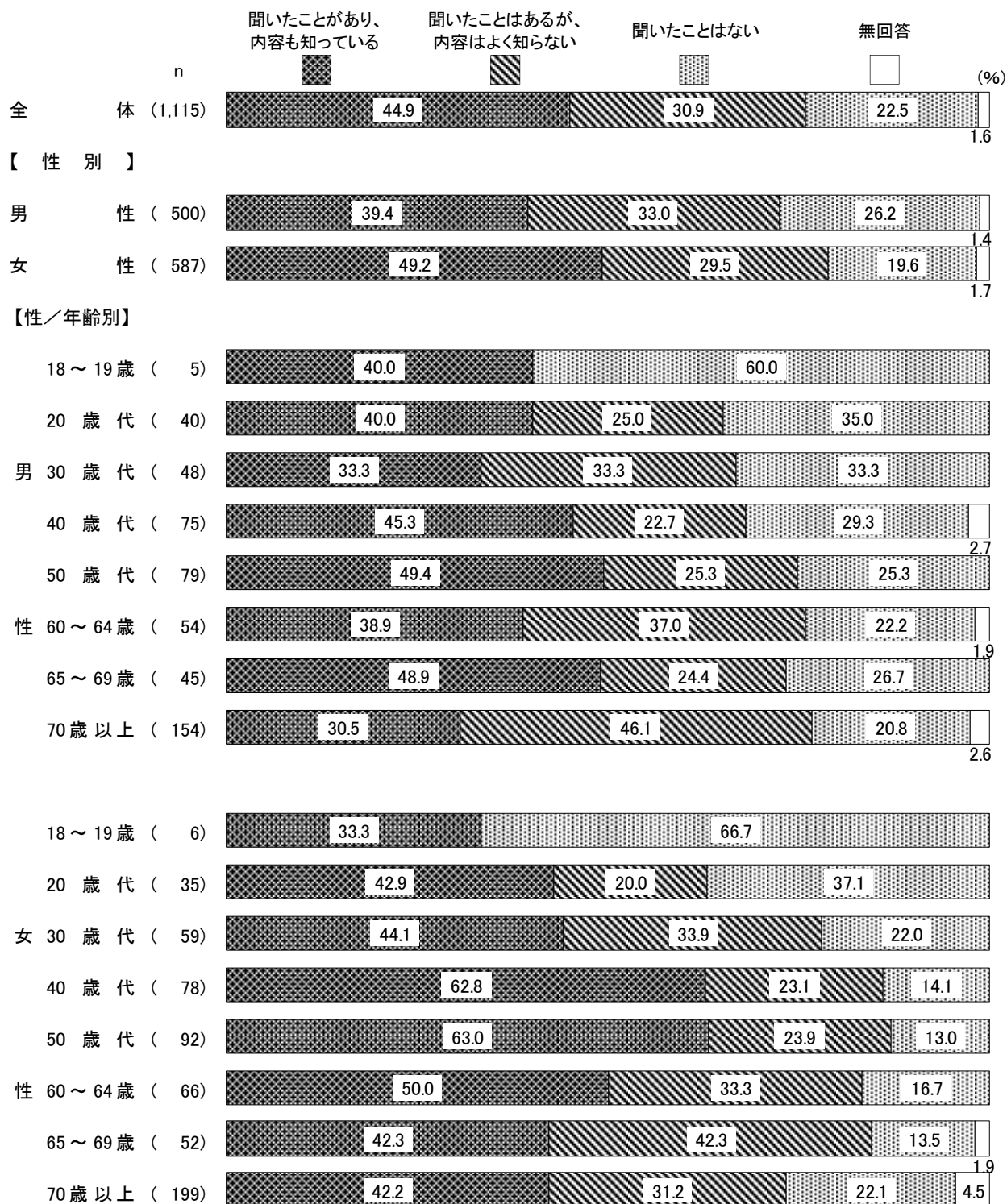
※ 栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

1 聞いたことがあります、内容も知っている	44.9%
2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない	30.9%
3 聞いたことはない	22.5%
(無回答)	1.6%



全体で見ると、「聞いたことがあります、内容も知っている」（44.9%）が4割台半ば近く、「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」（30.9%）が約3割、「聞いたことはない」（22.5%）が2割強となっている。

[性別・性／年齢別]

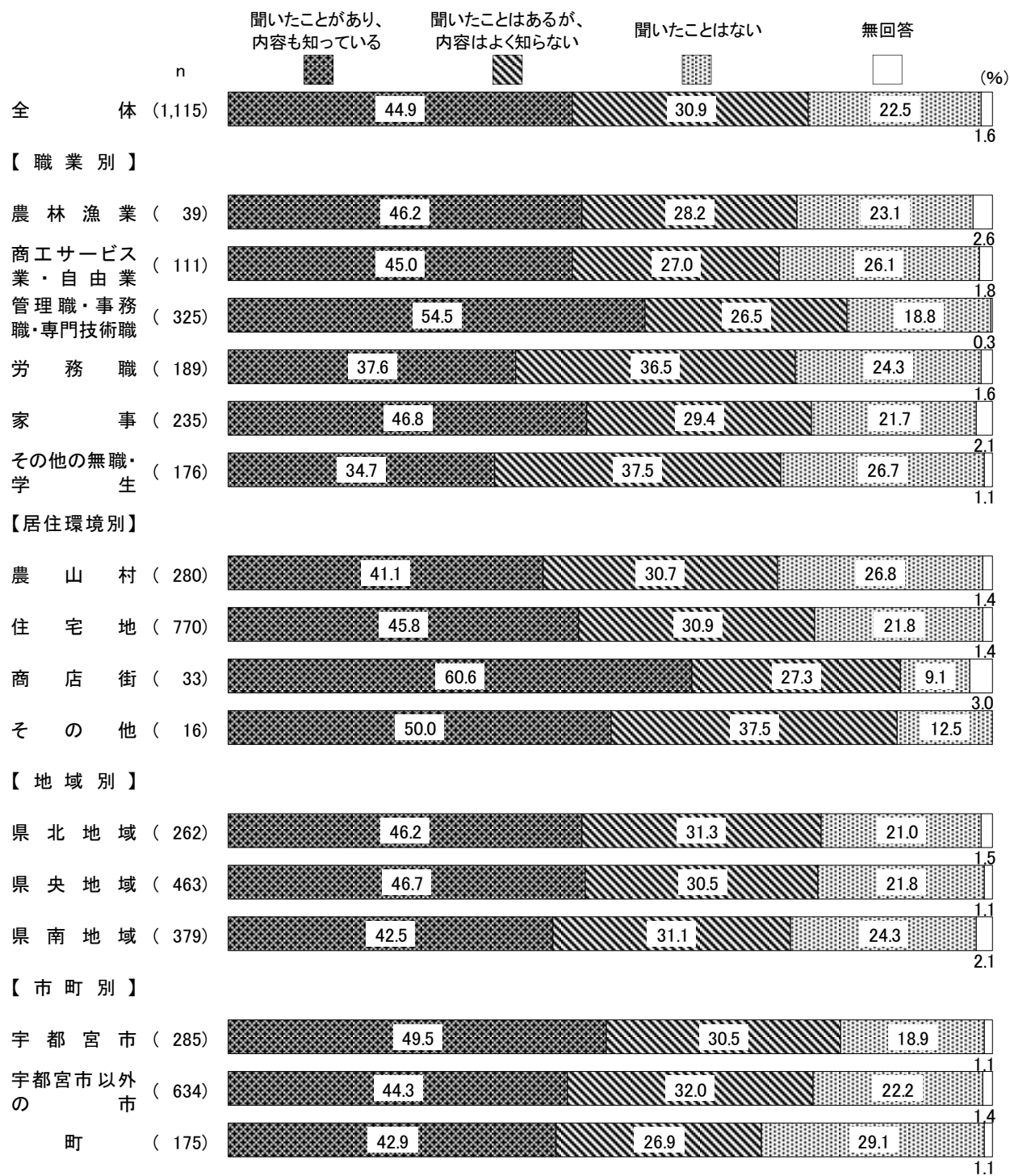


性別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性〉(49.2%)が〈男性〉(39.4%)より9.8ポイント高くなっている。一方、「聞いたことはない」では〈男性〉(26.2%)が〈女性〉(19.6%)より6.6ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈女性50歳代〉が63.0%、〈女性40歳代〉が62.8%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈男性70歳以上〉が46.1%、〈女性65～69歳〉が42.3%と高くなっている。「聞いたことはない」では〈女性20歳代〉が37.1%、〈男性20歳代〉が35.0%、〈男性30歳代〉が33.3%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が54.5%と高くなっている。「聞いたことはあるが、内容はよく知らない」では〈その他の無職・学生〉が37.5%、〈労務職〉が36.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「聞いたことがあり、内容も知っている」では〈商店街〉が60.6%と高くなっている。

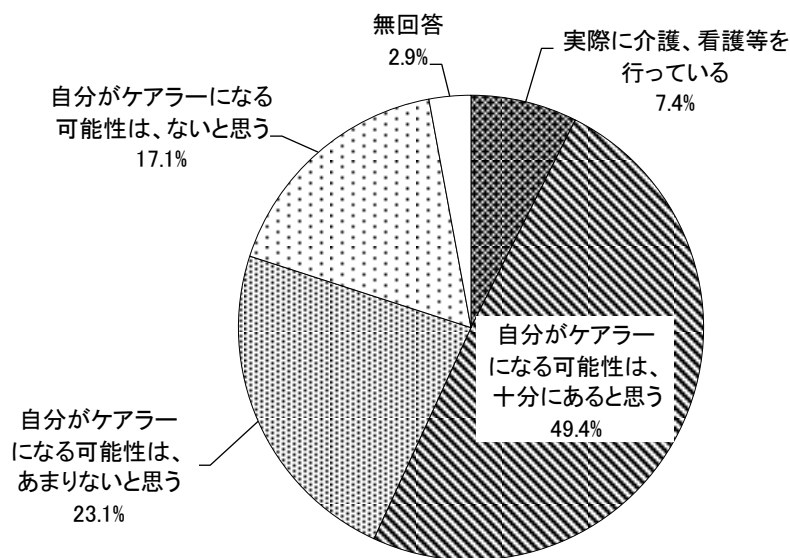
地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「聞いたことはない」では〈町〉が29.1%と高くなっている。

## (2) ケアラー当事者になる可能性

問34 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

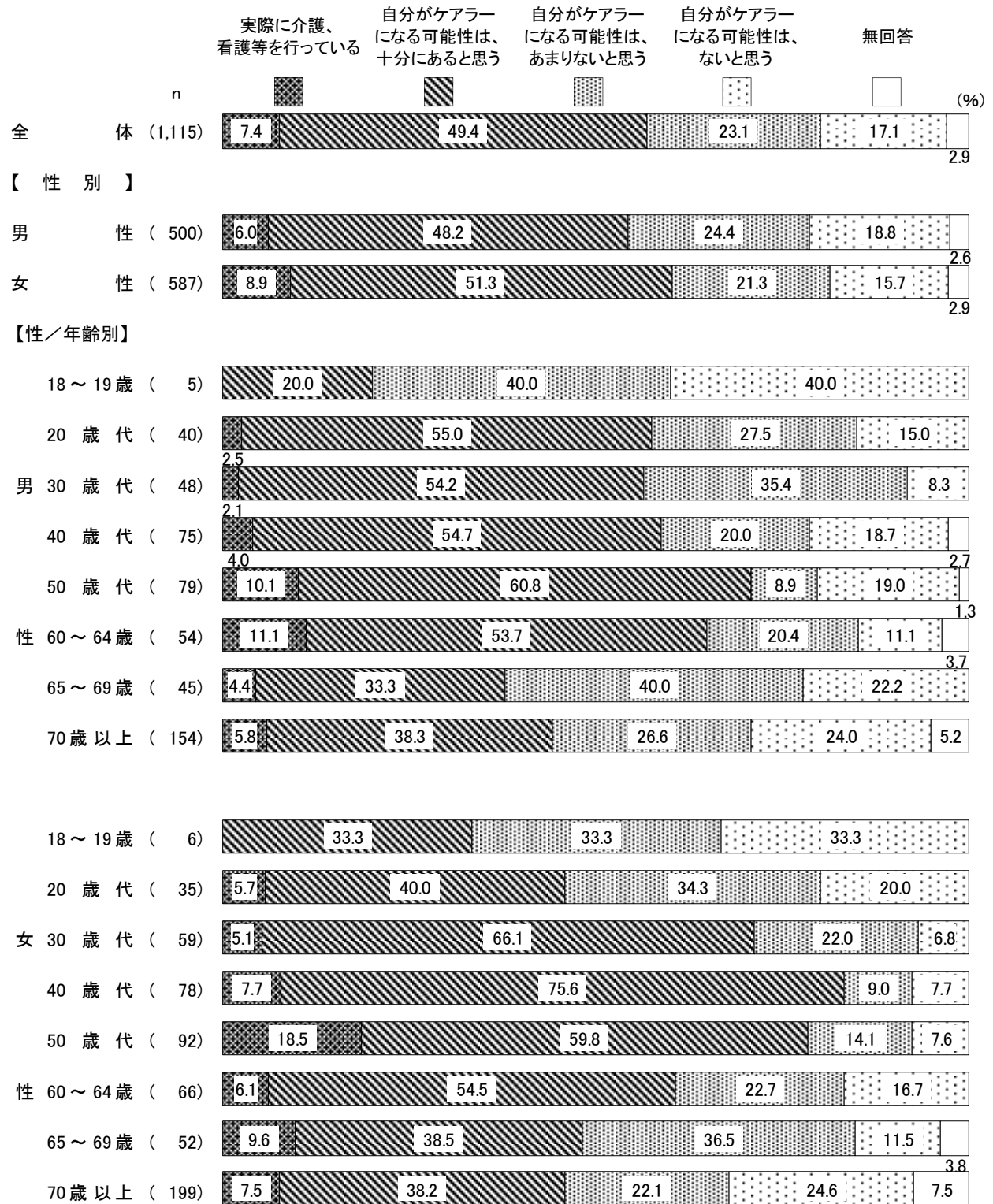
1 実際に介護、看護等を行っている	7.4%
2 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う	49.4
3 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う	23.1
4 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う	17.1
(無回答)	2.9



(n=1,115)

全体で見ると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」(49.4%)が5割弱、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」(23.1%)が2割台半ば近く、「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」(17.1%)が1割台半ばを超え、「実際に介護、看護等を行っている」(7.4%)が1割未満となっている。

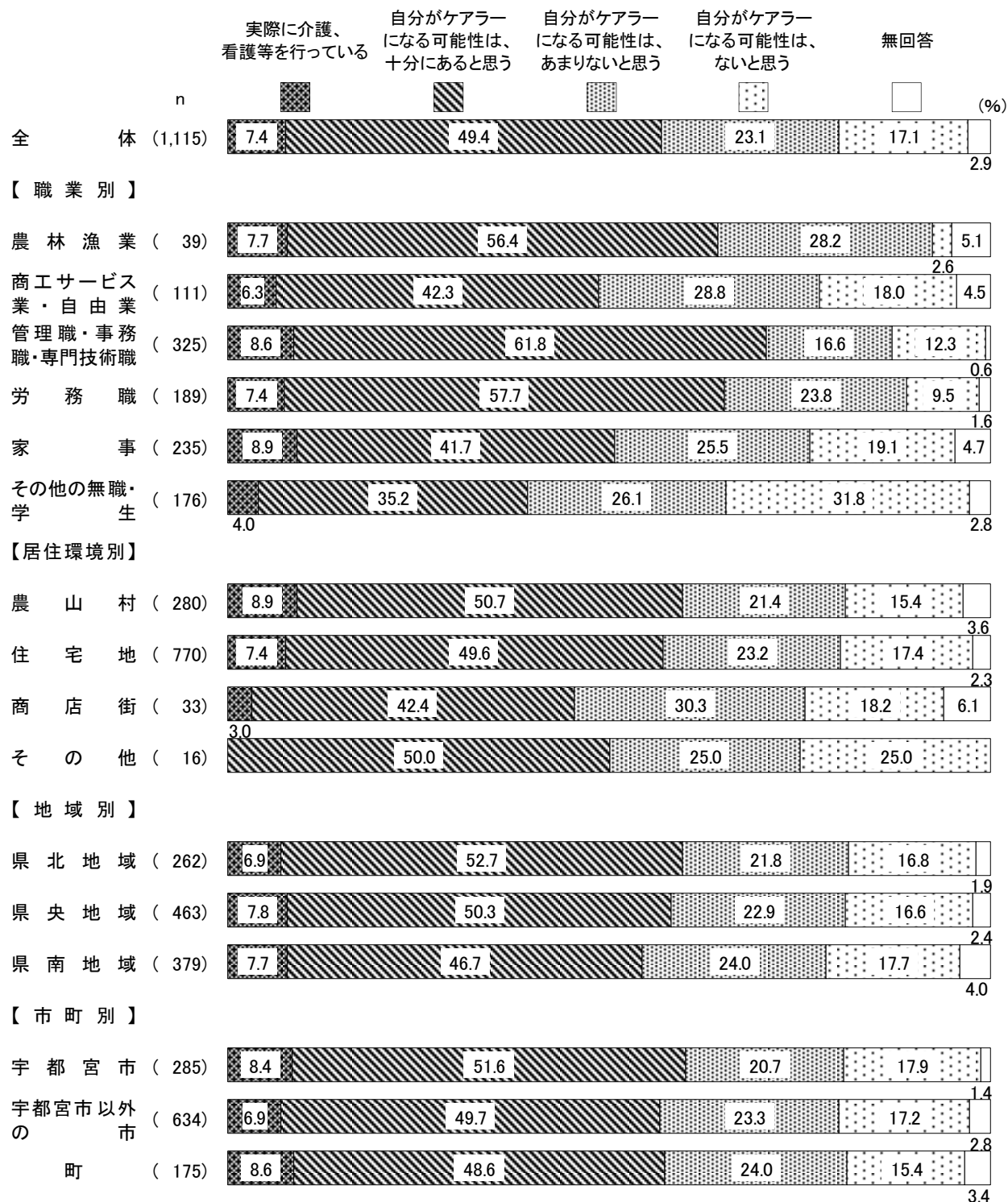
[性別・性／年齢別]



性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈女性40歳代〉が75.6%、〈女性30歳代〉が66.1%、〈男性50歳代〉が60.8%、〈女性50歳代〉が59.8%と高くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈男性65～69歳〉が40.0%、〈女性65～69歳〉が36.5%、〈男性30歳代〉が35.4%、〈女性20歳代〉が34.3%と高くなっている。「実際に介護、看護等を行っている」では〈女性50歳代〉が18.5%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が61.8%、〈労務職〉が57.7%、〈農林漁業〉が56.4%と高くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈商工サービス業・自由業〉が28.8%、〈農林漁業〉が28.2%と高くなっている。「自分がケアラーになる可能性は、ないと思う」では〈その他の無職・学生〉が31.8%と高くなっている。

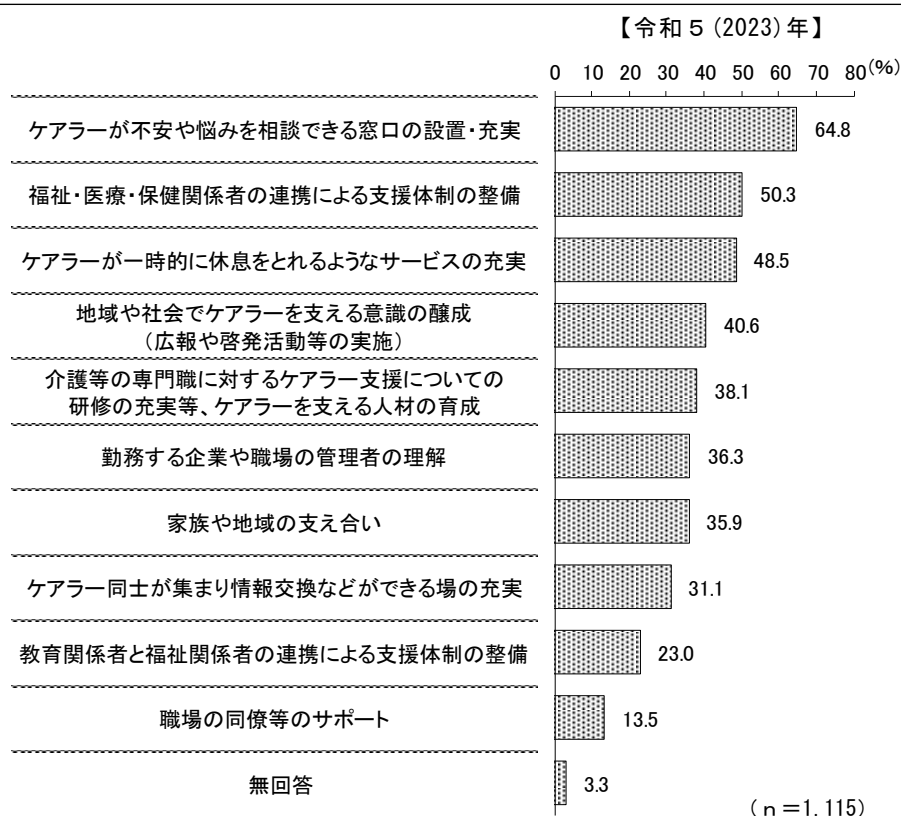
居住環境別でみると、「自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う」では〈商店街〉が30.3%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) ケアラーへの支援策

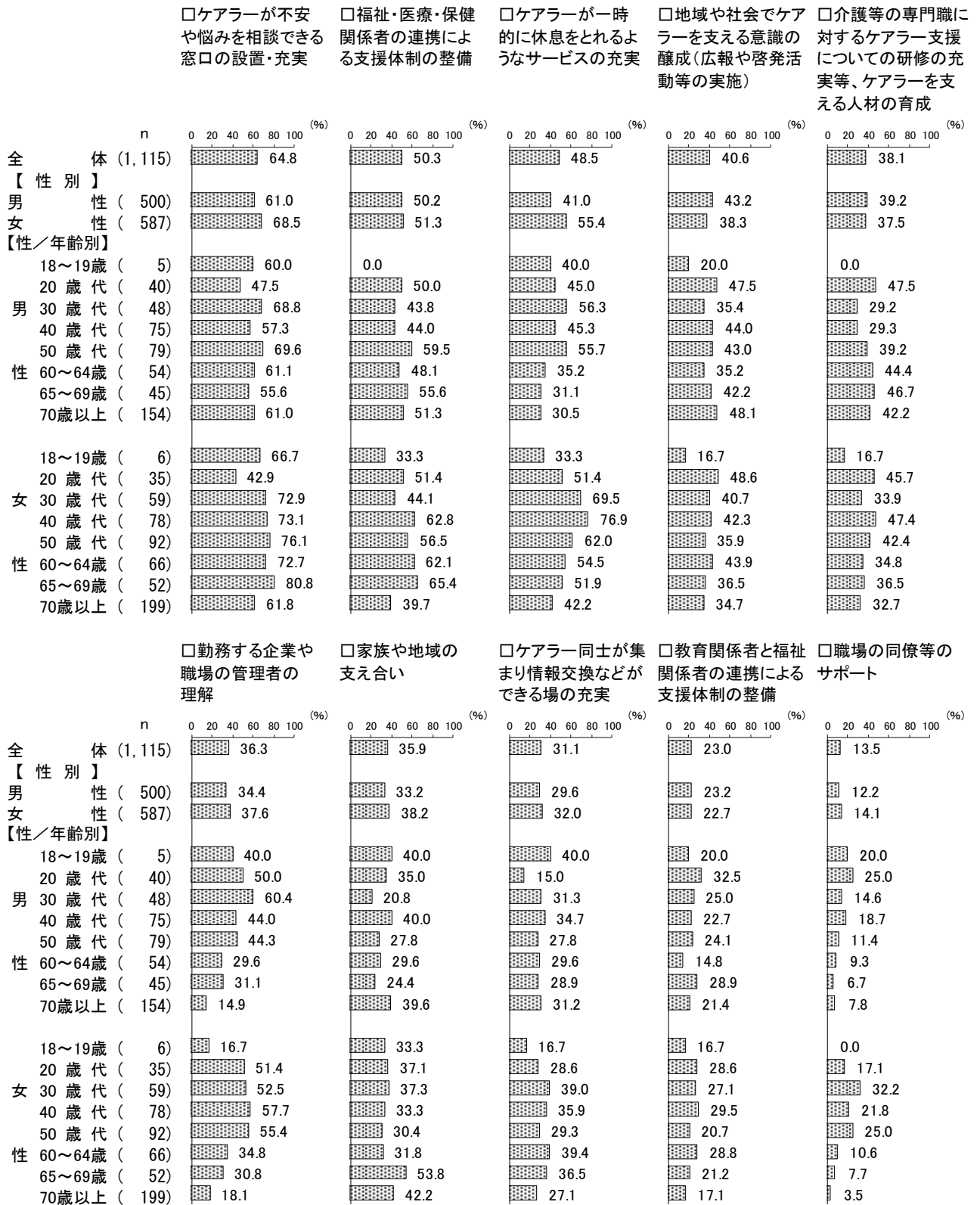
問35 ケアラーが社会から孤立することなく、安心して生活するために、今後、どのような支援策が必要だと考えますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

1	地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）	40.6%
2	ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実	64.8
3	ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実	48.5
4	ケアラー同士が集まり情報交換などができる場の充実	31.1
5	介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成	38.1
6	教育関係者と福祉関係者の連携による支援体制の整備	23.0
7	福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備	50.3
8	家族や地域の支え合い	35.9
9	勤務する企業や職場の管理者の理解	36.3
10	職場の同僚等のサポート	13.5
	(無回答)	3.3



全体でみると、「ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実」（64.8%）が6割台半ば近くで最も高くなっている。次いで、「福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備」（50.3%）、「ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実」（48.5%）、「地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）」（40.6%）、「介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成」（38.1%）の順となっている。

[性別・性／年齢別]

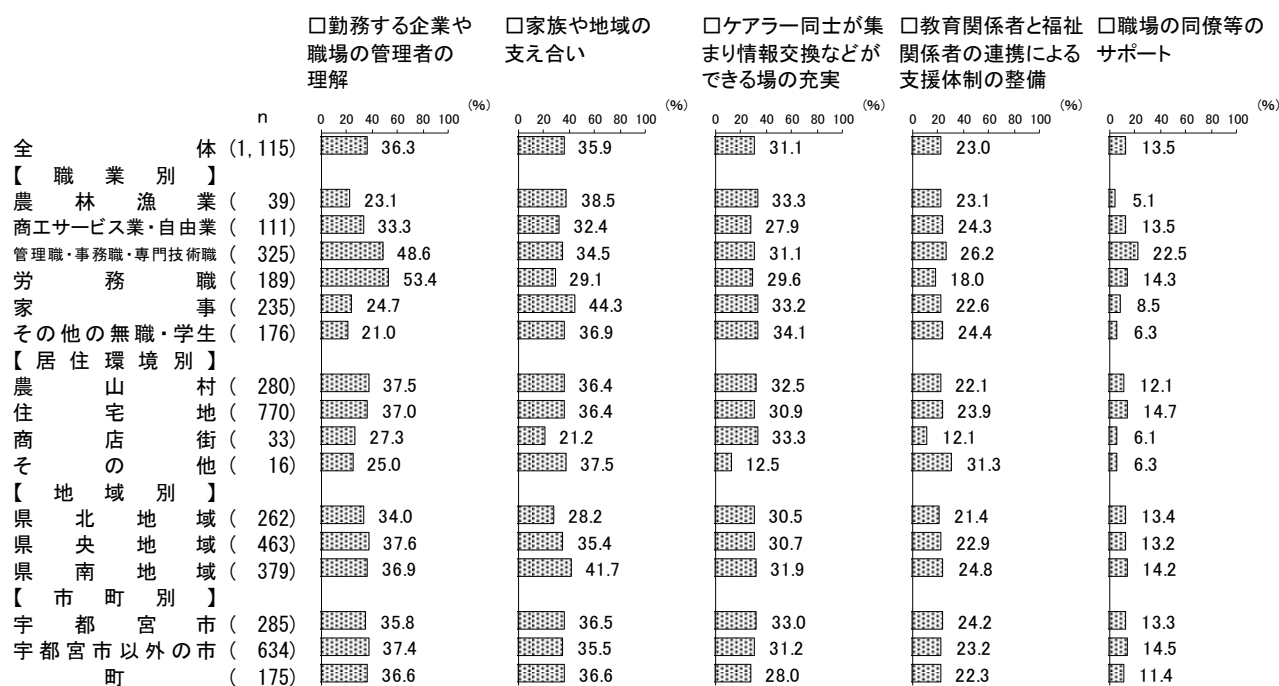
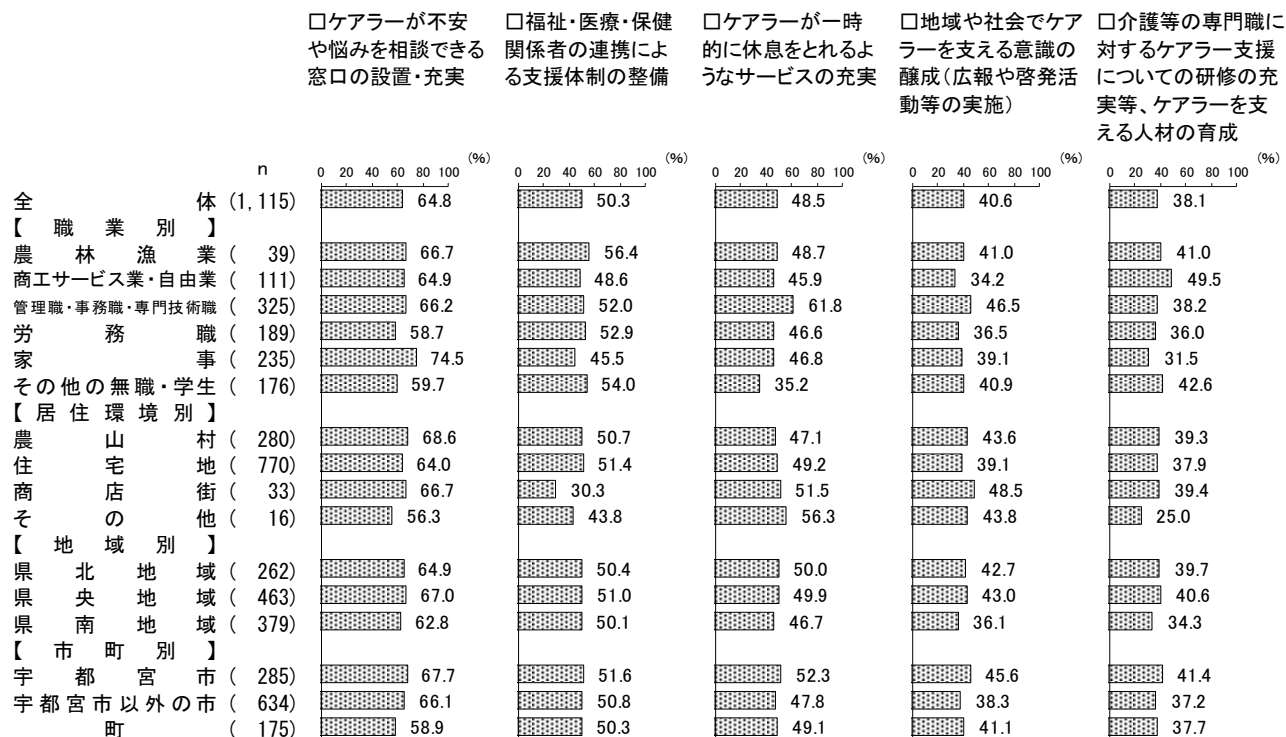


性別で見ると、「ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実」では〈女性〉(55.4%)が〈男性〉(41.0%)より14.4ポイント高くなっている。「ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実」では〈女性〉(68.5%)が〈男性〉(61.0%)より7.5ポイント高くなっている。「家族や地域の支え合い」では〈女性〉(38.2%)が〈男性〉(33.2%)より5.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、「ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実」では〈女性65~69歳〉

が80.8%と高くなっている。「福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備」では〈女性65～69歳〉が65.4%と高くなっている。「ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実」では〈女性40歳代〉が76.9%と高くなっている。「勤務する企業や職場の管理者の理解」では〈男性30歳代〉が60.4%と高くなっている。「家族や地域の支え合い」では〈女性65～69歳〉が53.8%と高くなっている。「職場の同僚等のサポート」では〈女性30歳代〉が32.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別で見ると、「ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実」では〈家事〉が74.5%と高くなっている。「福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備」では〈農林漁業〉が56.4%

と高くなっている。「ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が61.8%と高くなっている。「地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が46.5%と高くなっている。「介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成」では〈商工サービス業・自由業〉が49.5%と高くなっている。「勤務する企業や職場の管理者の理解」では〈労務職〉が53.4%と高くなっている。「家族や地域の支え合い」では〈家事〉が44.3%と高くなっている。「職場の同僚等のサポート」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が22.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）」では〈商店街〉が48.5%と高くなっている。

地域別でみると、「家族や地域の支え合い」では〈県南地域〉が41.7%と高くなっている。

市町別でみると、「地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）」では〈宇都宮市〉が45.6%と高くなっている。

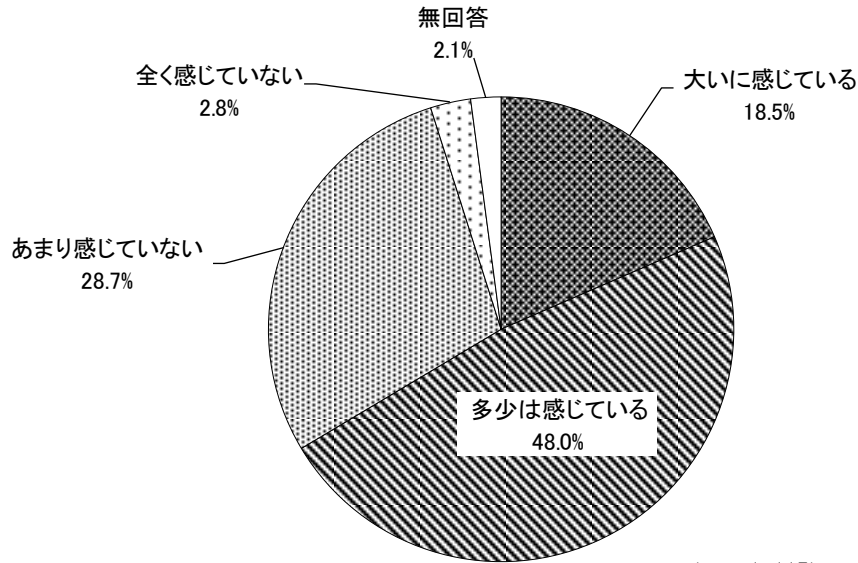


### 13 食の安全・安心について

#### (1) 食品の安全性に対する不安

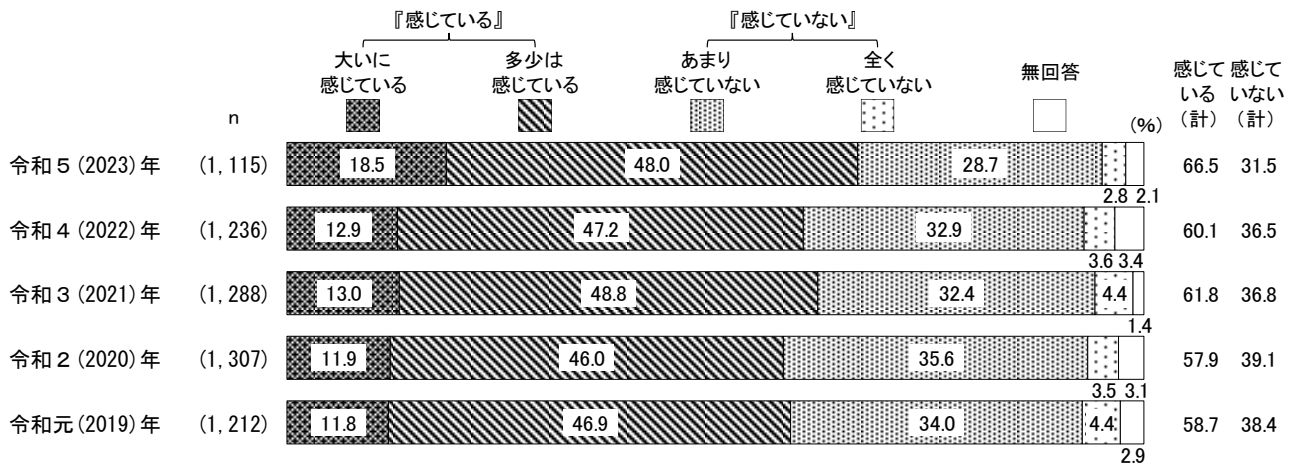
問36 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 大いに感じている	18.5%	3 あまり感じていない	28.7%
2 多少は感じている	48.0	4 全く感じていない	2.8
		(無回答)	2.1



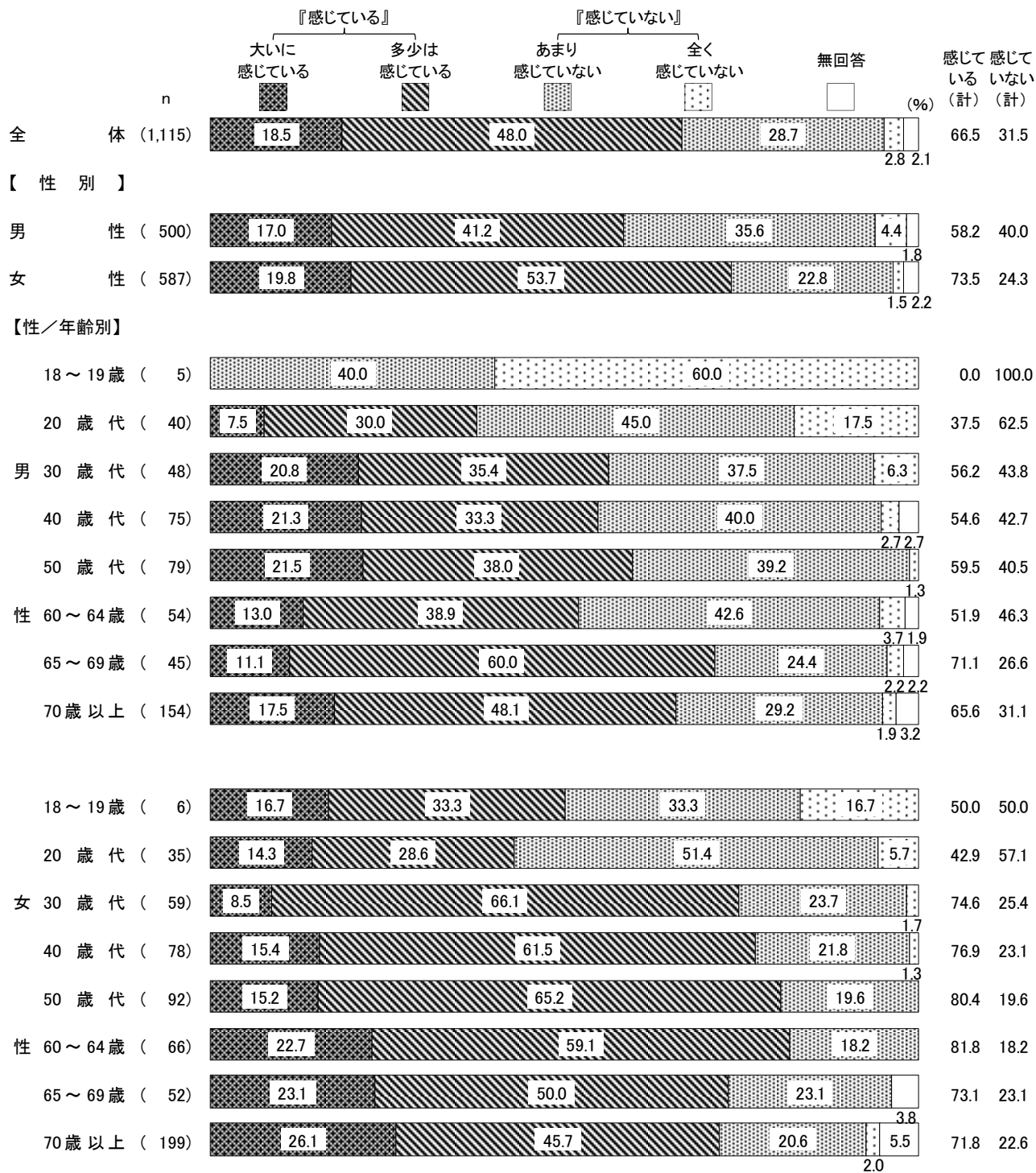
(n=1,115)

全体で見ると、「大いに感じている」(18.5%)と「多少は感じている」(48.0%)の2つを合わせた『感じている』(66.5%)が6割台半ばを超えている。一方、「あまり感じていない」(28.7%)と「全く感じていない」(2.8%)の2つを合わせた『感じていない』(31.5%)が3割強となっている。



過去の調査結果と比較すると、『感じている』が前回(令和4(2022)年)より6.4ポイント増加している。一方、『感じていない』が前回(令和4(2022)年)より5.0ポイント減少している。

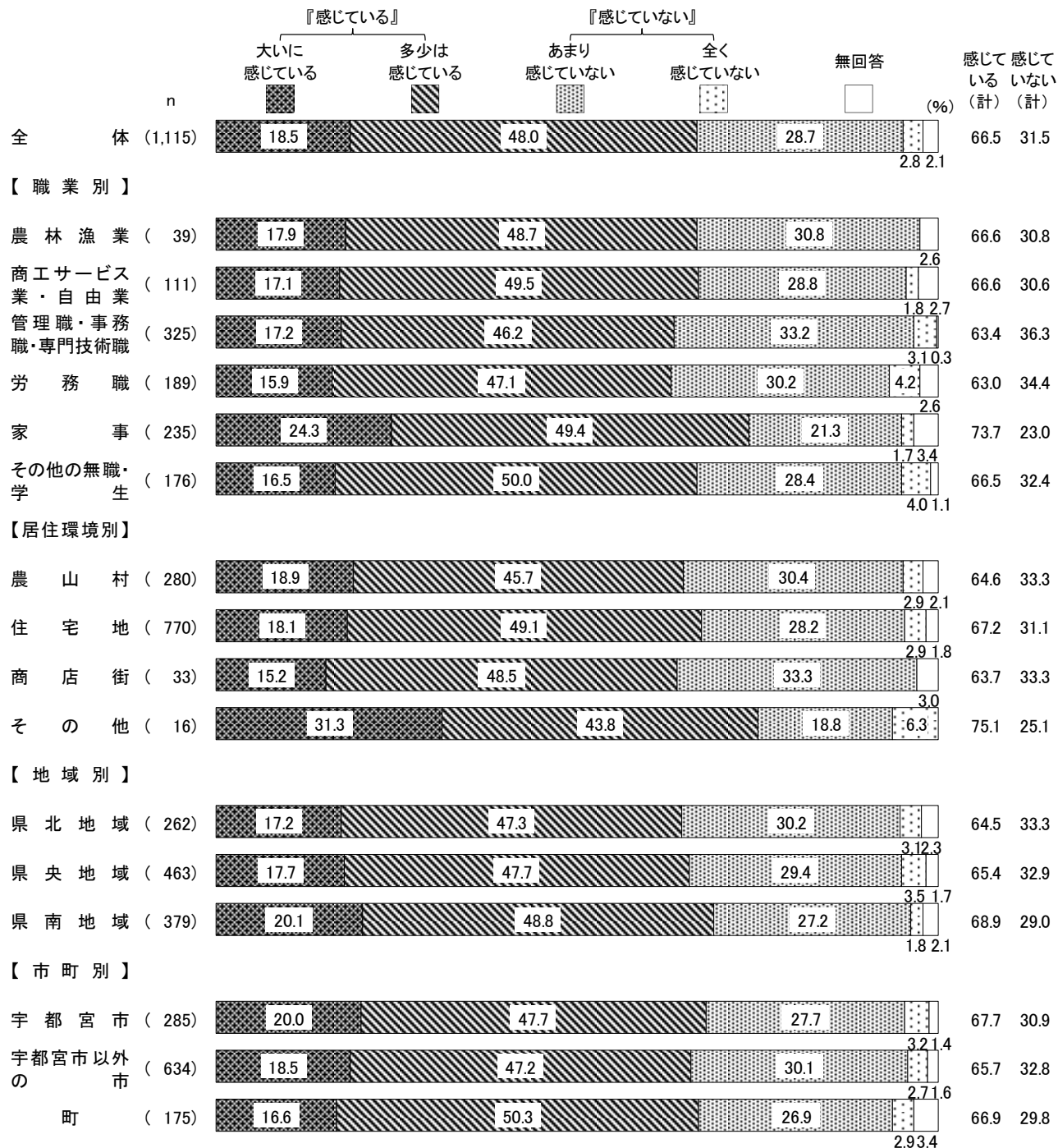
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『感じている』では〈女性〉(73.5%)が〈男性〉(58.2%)より15.3ポイント高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性〉(40.0%)が〈女性〉(24.3%)より15.7ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『感じている』では〈女性60～64歳〉が81.8%、〈女性50歳代〉が80.4%、〈女性40歳代〉が76.9%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈男性20歳代〉が62.5%、〈女性20歳代〉が57.1%、〈男性60～64歳〉が46.3%、〈男性30歳代〉が43.8%、〈男性40歳代〉が42.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が73.7%と高くなっている。

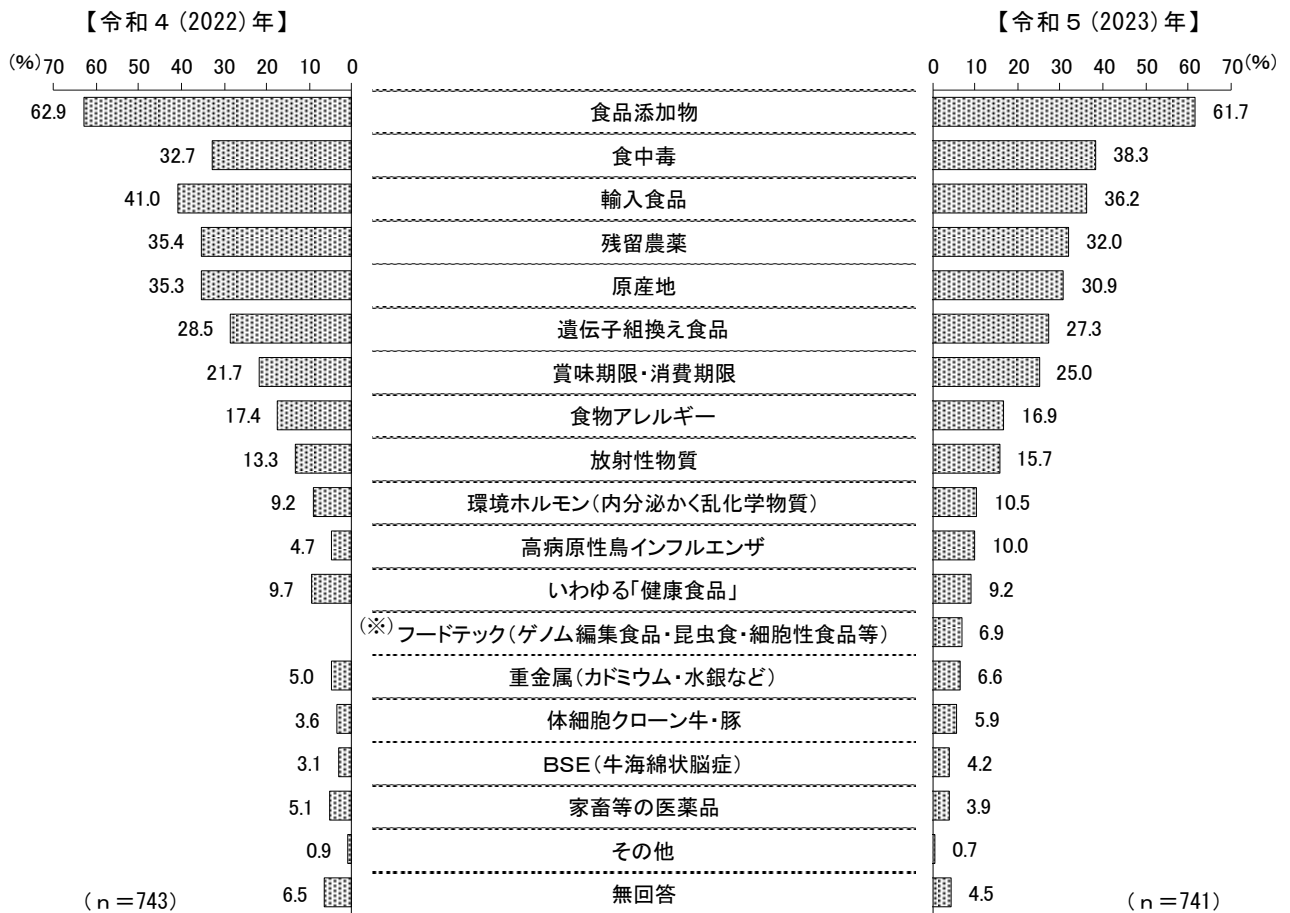
居住環境別・地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問36で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問37 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=741]

1 食中毒	38.3%	11 輸入食品	36.2%
2 食品添加物	61.7	12 BSE(牛海綿状脳症)	4.2
3 いわゆる「健康食品」	9.2	13 高病原性鳥インフルエンザ	10.0
4 放射性物質	15.7	14 体細胞クローン牛・豚	5.9
5 重金属(カドミウム・水銀など)	6.6	15 家畜等の医薬品	3.9
6 残留農薬	32.0	16 環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	10.5
7 食物アレルギー	16.9	17 フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)	6.9
8 賞味期限・消費期限	25.0	18 その他	0.7
9 原産地	30.9	18 (無回答)	4.5
10 遺伝子組換え食品	27.3		

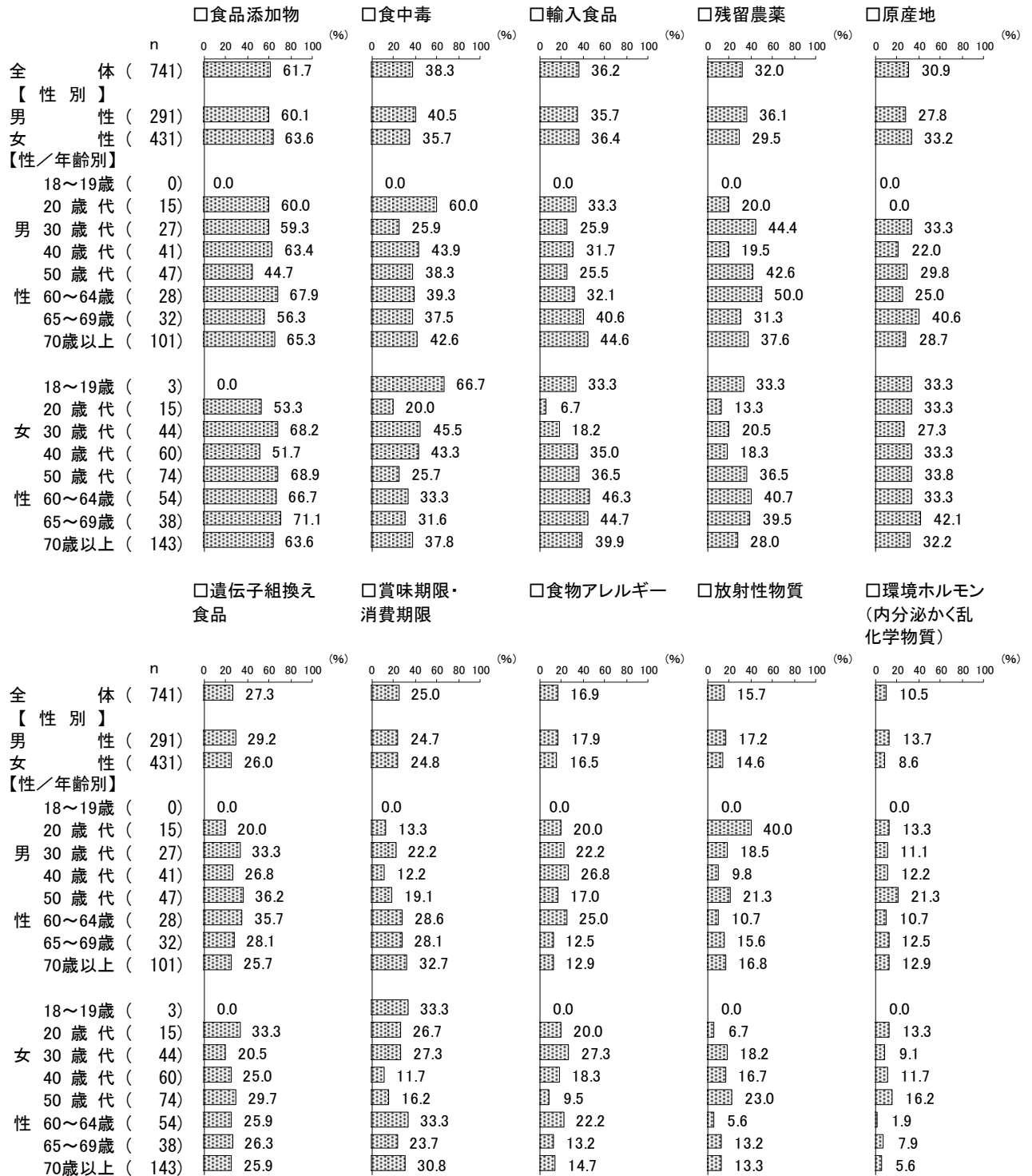


(※) 「フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)」は令和5年で追加された項目。

全体でみると、「食品添加物」(61.7%)が6割強で最も高く、次いで「食中毒」(38.3%)、「輸入食品」(36.2%)、「残留農薬」(32.0%)、「原産地」(30.9%)の順となっている。

前回(令和4(2022)年)の調査結果と比較すると、「食中毒」が5.6ポイント、「高病原性鳥インフルエンザ」が5.3ポイント、それぞれ増加している。一方、「輸入食品」が4.8ポイント、「原産地」が4.4ポイント、それぞれ減少している。

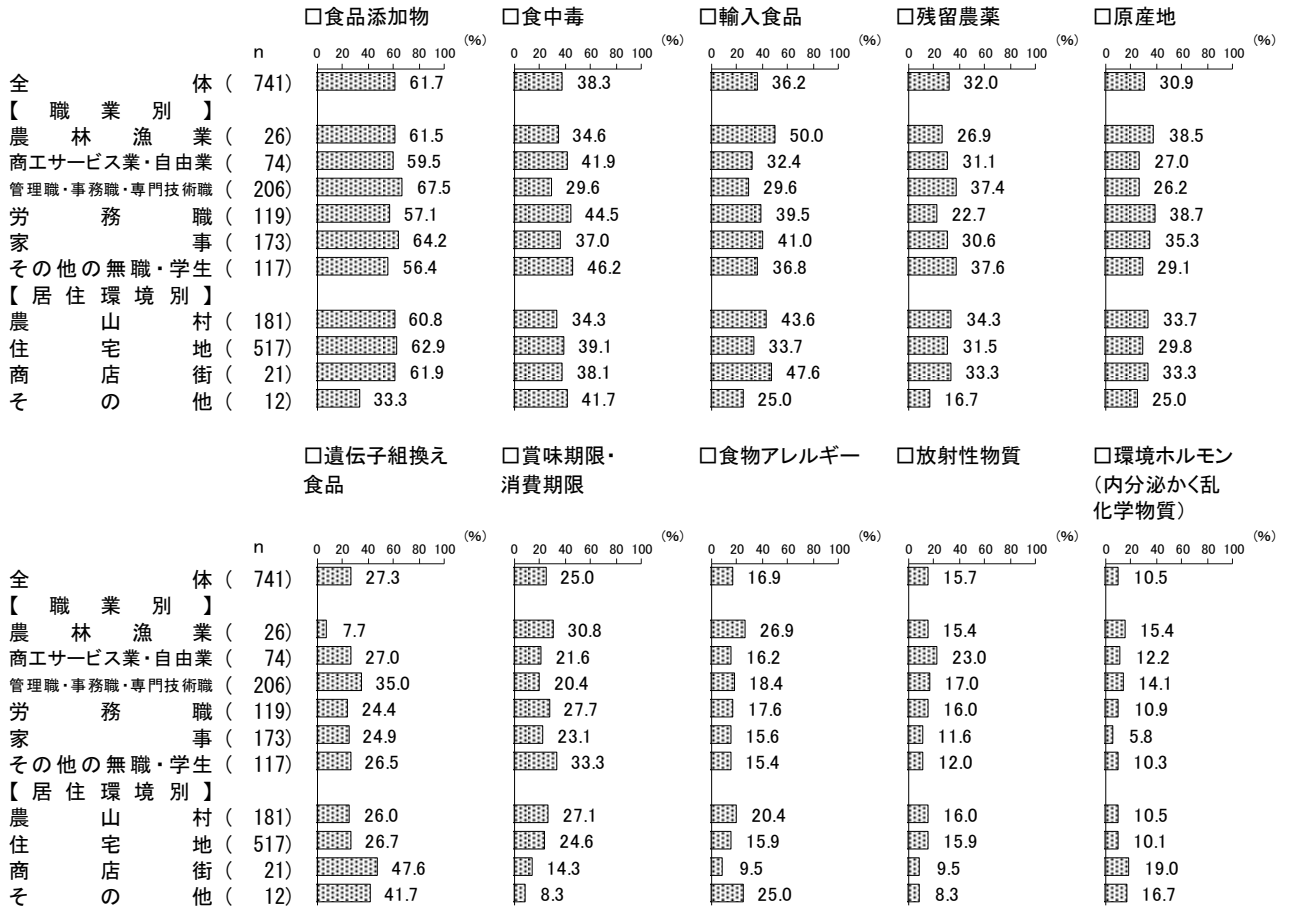
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別でみると、「残留農薬」では〈男性〉(36.1%)が〈女性〉(29.5%)より6.6ポイント高くなっている。「環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)」では〈男性〉(13.7%)が〈女性〉(8.6%)より5.1ポイント高くなっている。一方、「原産地」では〈女性〉(33.2%)が〈男性〉(27.8%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「食中毒」では〈男性20歳代〉が60.0%と高くなっている。「輸入食品」では〈女性60~64歳〉が46.3%と高くなっている。「残留農薬」では〈男性60~64歳〉が50.0%と高くなっている。「原産地」では〈女性65~69歳〉が42.1%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈女性30歳代〉が27.3%と高くなっている。「放射性物質」では〈男性20歳代〉が40.0%と高くなっている。「環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)」では〈男性50歳代〉が21.3%と高くなっている。

[職業別・居住環境別] (上位10項目)



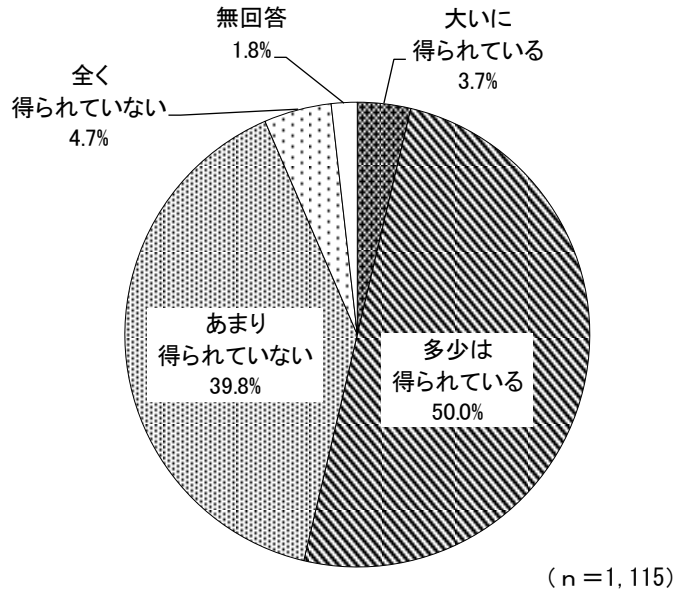
職業別でみると、「食品添加物」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が67.5%と高くなっている。「食中毒」では〈労務職〉が44.5%と高くなっている。「輸入食品」では〈農林漁業〉が50.0%と高くなっている。「残留農薬」では〈その他の無職・学生〉が37.6%と高くなっている。「原産地」では〈労務職〉が38.7%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が35.0%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が33.3%と高くなっている。「食物アレルギー」では〈農林漁業〉が26.9%と高くなっている。「放射性物質」では〈商工サービス業・自由業〉が23.0%と高くなっている。

居住環境別でみると、「輸入食品」では〈商店街〉が47.6%と高くなっている。「遺伝子組換え食品」では〈商店街〉が47.6%と高くなっている。「環境ホルモン (内分泌かく乱化学物質)」では〈商店街〉が19.0%と高くなっている。

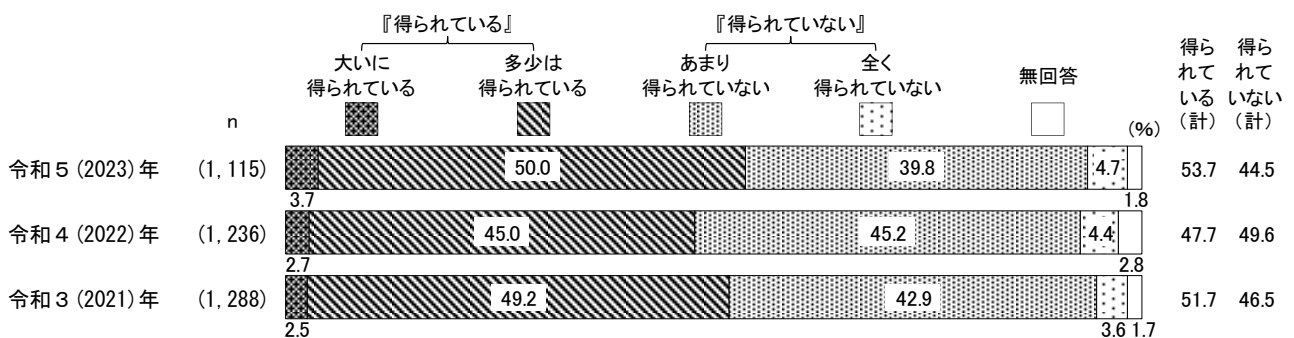
### (3) 食の安全に関する情報を得られているか

問38 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1 大いに得られている	3.7%	3 あまり得られていない	39.8%
2 多少は得られている	50.0	4 全く得られていない	4.7
		(無回答)	1.8

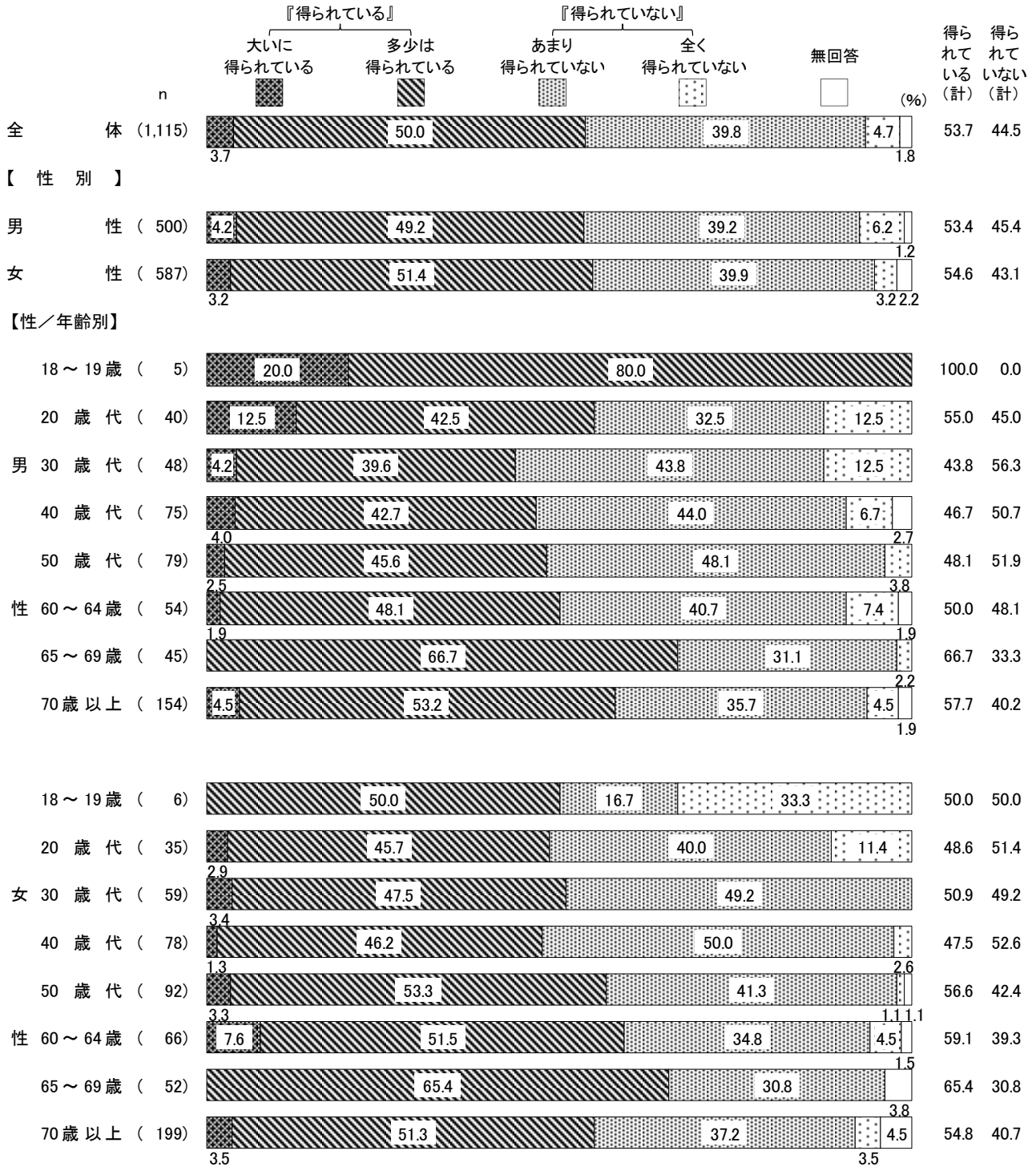


全体で見ると、「大いに得られている」(3.7%)と「多少は得られている」(50.0%)の2つを合わせた『得られている』(53.7%)が5割台半ば近くとなっている。一方、「あまり得られていない」(39.8%)、「全く得られていない」(4.7%)の2つを合わせた『得られていない』(44.5%)が4割台半ば近くとなっている。



過去の調査結果と比較すると、『得られている』が前回(令和4(2022)年)より6.0ポイント増加している。一方、『得られていない』が前回(令和4(2022)年)より5.1ポイント減少している。

[性別・性／年齢別]

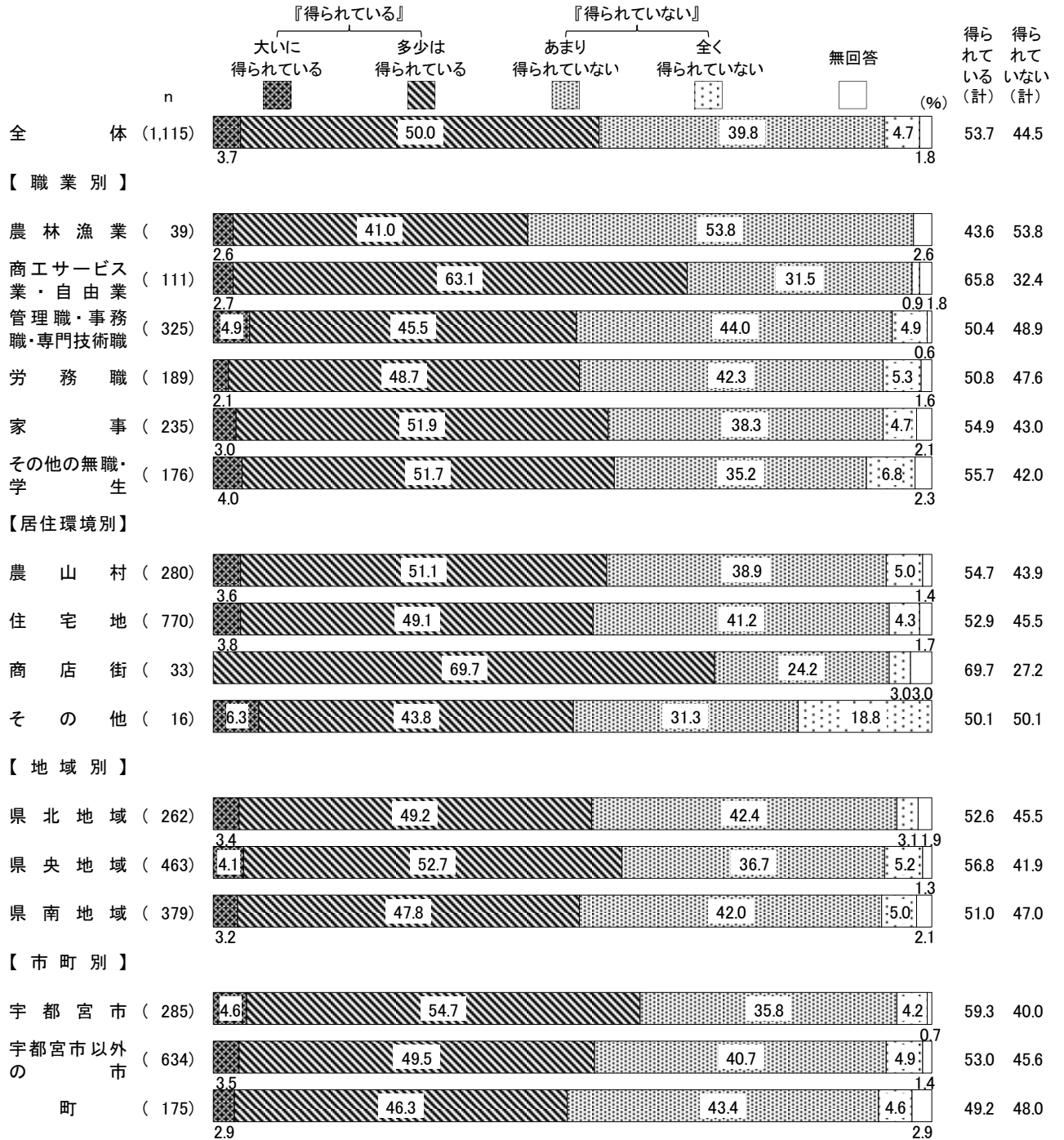


性別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

性／年齢別でみると、『得られている』では〈男性65～69歳〉が66.7%、〈女性65～69歳〉が65.4%と高くなっている。『得られていない』では〈男性30歳代〉が56.3%と高くなっている。



[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『得られている』では〈商工サービス業・自由業〉が65.8%と高くなっている。『得られていない』では〈農林漁業〉が53.8%と高くなっている。

居住環境別でみると、『得られている』では〈商店街〉が69.7%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

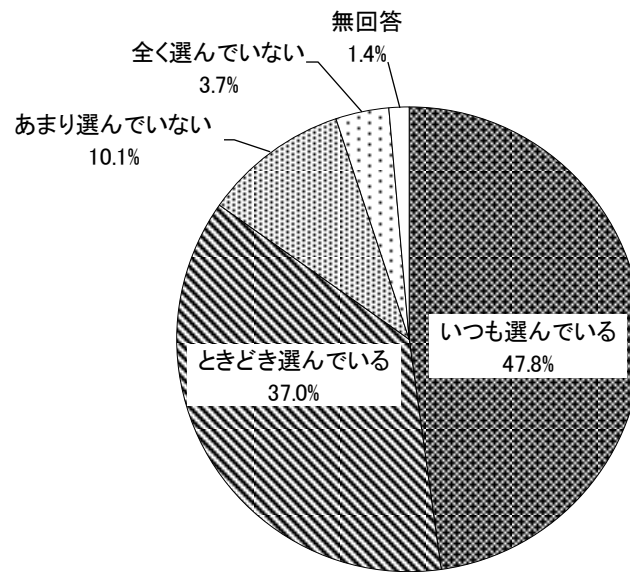
市町別でみると、『得られている』では〈宇都宮市〉が59.3%と高くなっている。

## 14 食に関する意識と実践について

### (1) 生鮮食品購入の際、産地を確認しているか

問39 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

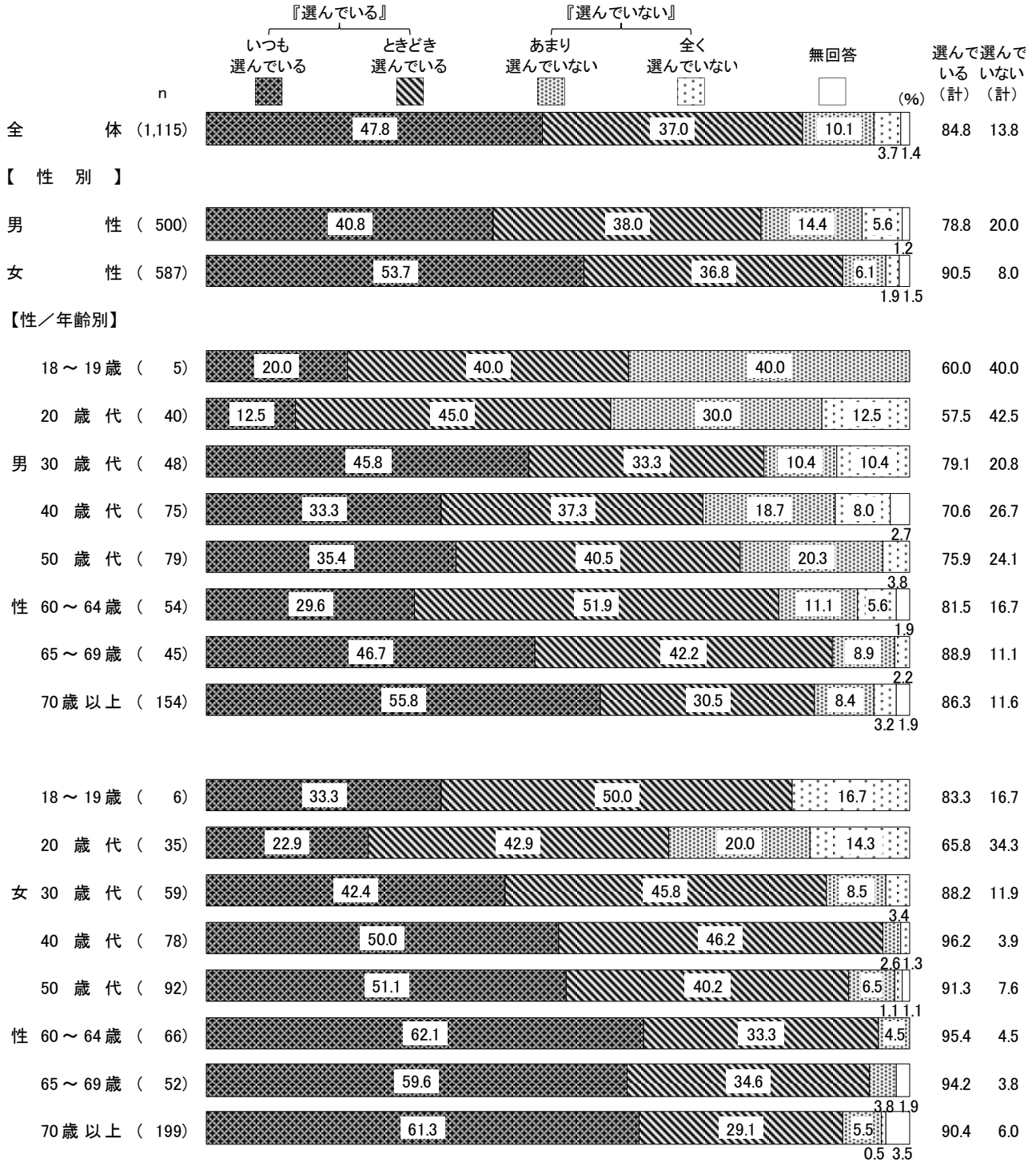
1	いつも選んでいる	47.8%	3	あまり選んでいない	10.1
2	ときどき選んでいる	37.0	4	全く選んでいない	3.7
				(無回答)	1.4



(n=1,115)

全体で見ると、「いつも選んでいる」(47.8%)と「ときどき選んでいる」(37.0%)の2つを合わせた『選んでいる』(84.8%)が8割台半ば近くとなっている。一方、「あまり選んでいない」(10.1%)、「全く選んでいない」(3.7%)の2つを合わせた『選んでいない』(13.8%)が1割台半ば近くとなっている。

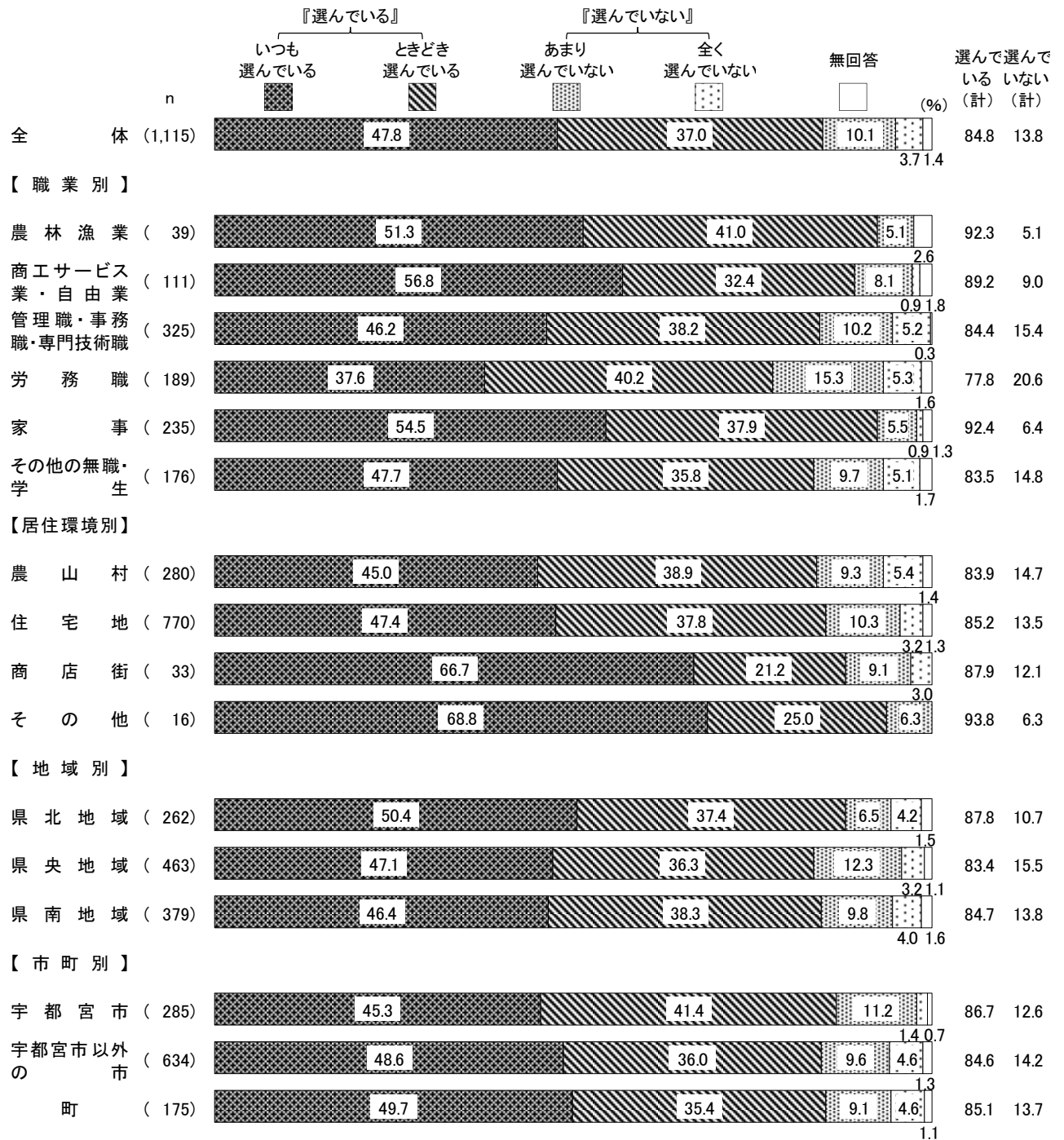
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、『選んでいる』では〈女性〉(90.5%)が〈男性〉(78.8%)より11.7ポイント高くなっている。一方、『選んでいない』では〈男性〉(20.0%)が〈女性〉(8.0%)より12.0ポイント高くなっている。

性／年齢別で見ると、『選んでいる』では〈女性40歳代〉が96.2%、〈女性60～64歳〉が95.4%と高くなっている。『選んでいない』では〈男性20歳代〉が42.5%、〈女性20歳代〉が34.3%、〈男性40歳代〉が26.7%、〈男性50歳代〉が24.1%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『選んでいる』では〈家事〉が 92.4%、〈農林漁業〉が 92.3%と高くなっている。

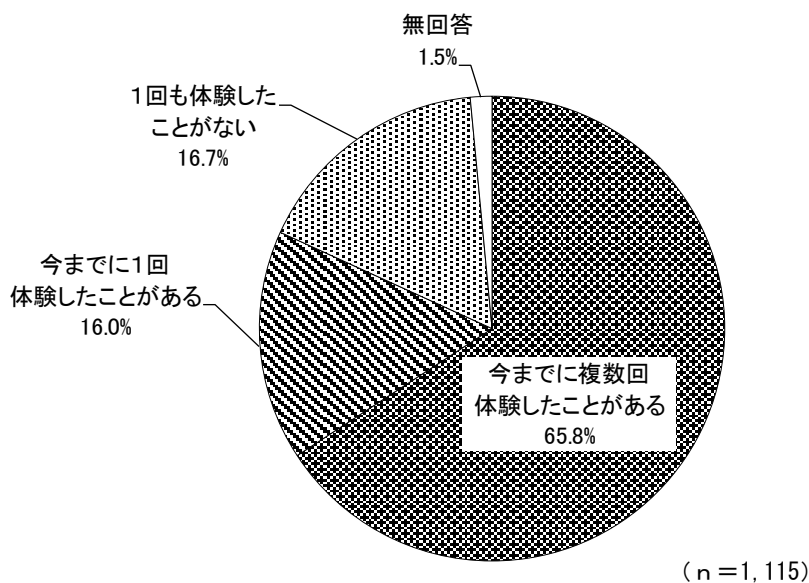
『選んでいない』では〈労務職〉が 20.6%と高くなっている。

居住環境別・地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

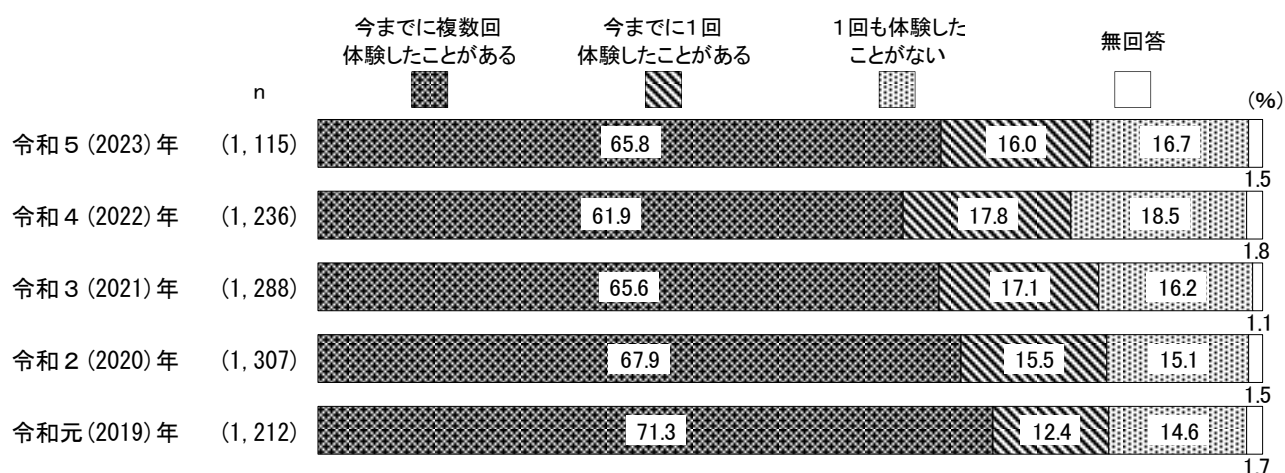
## (2) 農業体験をした経験

問40 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,115]

1	今までに複数回体験したことがある	65.8%
2	今までに1回体験したことがある	16.0%
3	1回も体験したことがない	16.7%
	(無回答)	1.5%

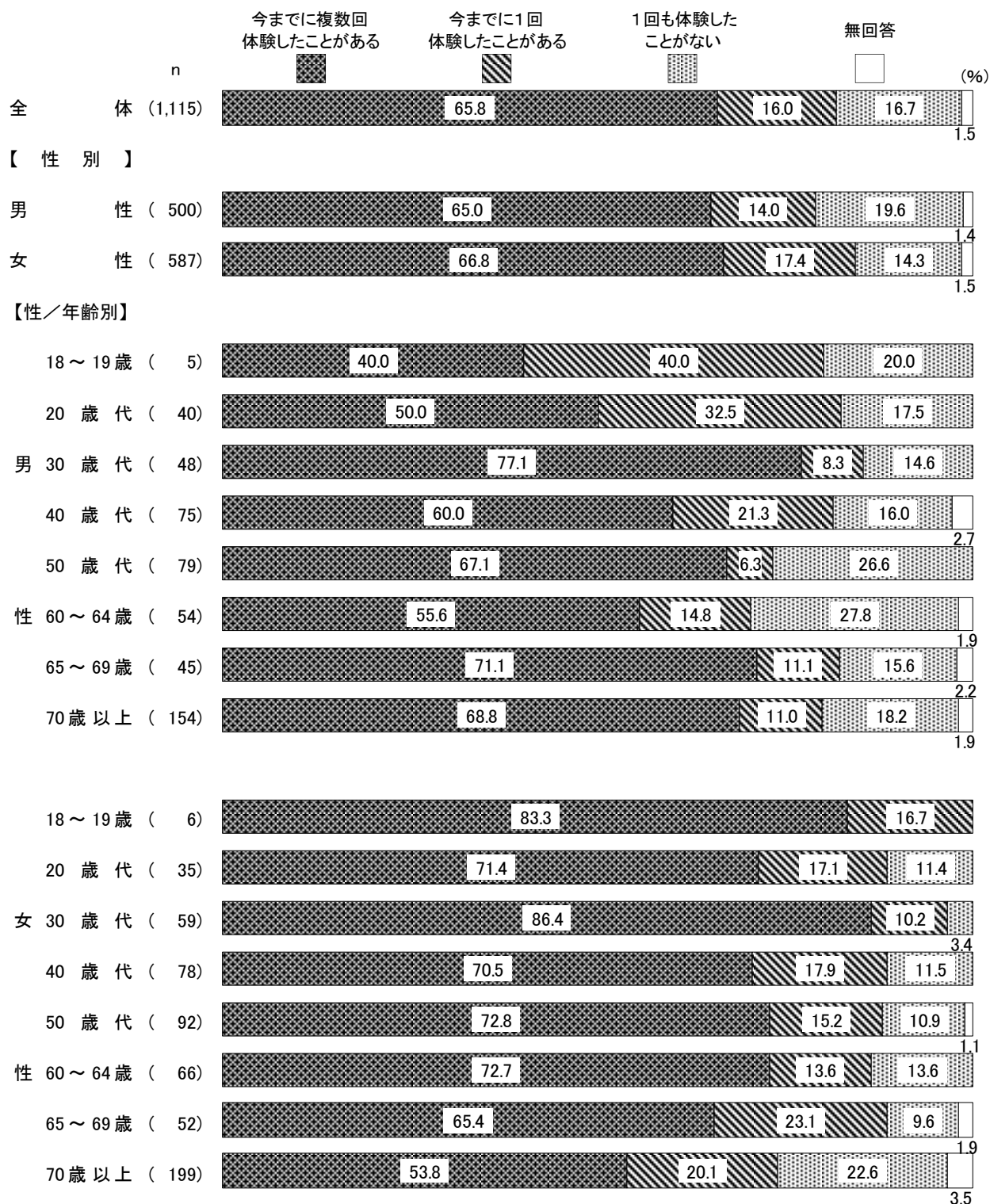


全体で見ると、「今までに複数回体験したことがある」(65.8%)が6割台半ば、「1回も体験したことがない」(16.7%)、「今までに1回体験したことがある」(16.0%)がそれぞれ1割台半ばを超えている。



過去の調査結果と比較すると、「今までに複数回体験したことがある」が前回(令和4(2022)年)より3.9ポイント増加している。

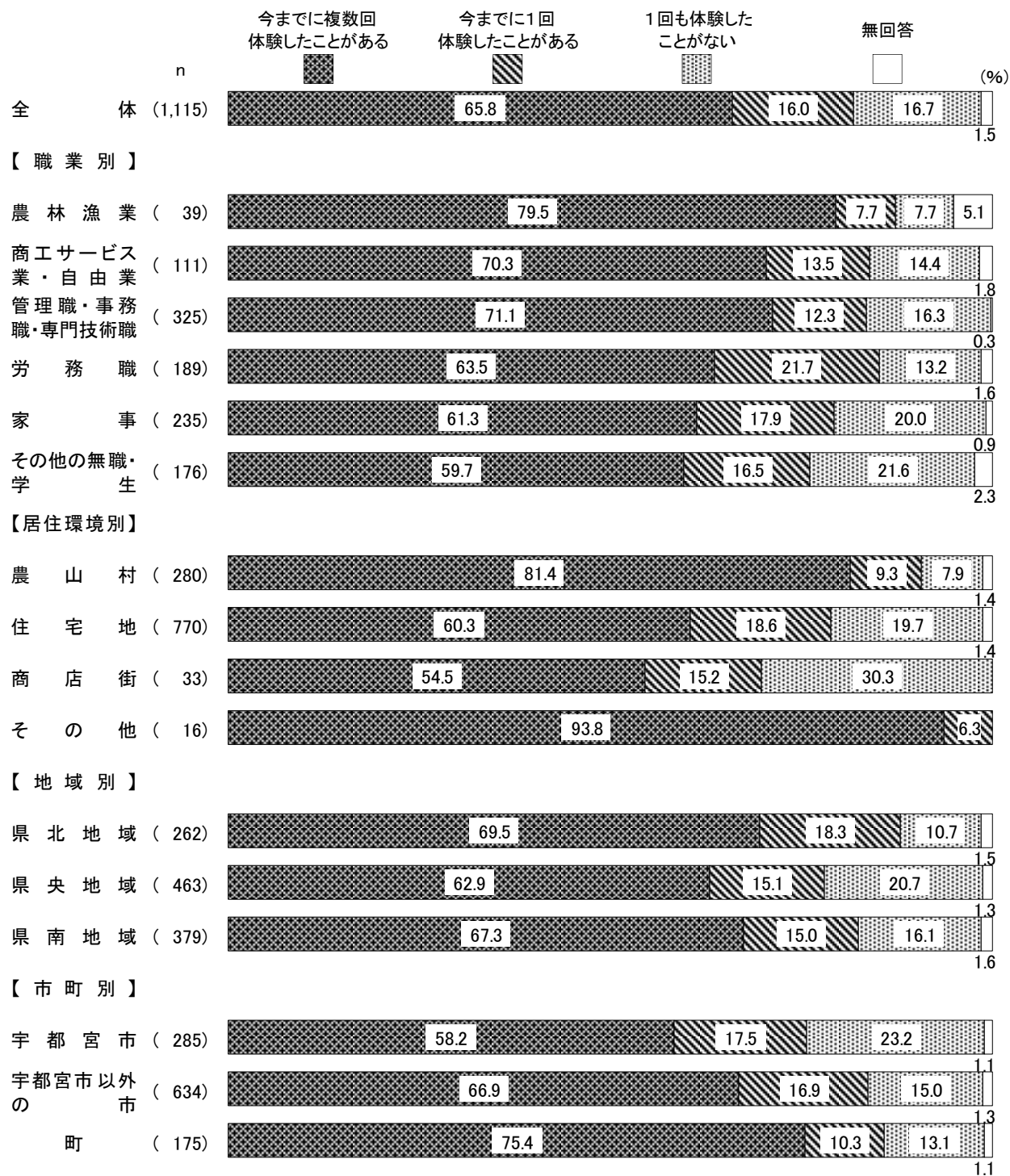
[性別・性／年齢別]



性別でみると、「1回も体験したことがない」では〈男性〉(19.6%)が〈女性〉(14.3%)より5.3ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈女性30歳代〉が86.4%、〈男性30歳代〉が77.1%と高くなっている。「今までに1回体験したことがある」では〈男性20歳代〉が32.5%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈男性60～64歳〉が27.8%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農林漁業〉が79.5%、〈管理職・事務職・専門技術職〉が71.1%と高くなっている。「今までに1回体験したことがある」では〈労務職〉が21.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈農山村〉が81.4%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈商店街〉が30.3%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

市町別でみると、「今までに複数回体験したことがある」では〈町〉が75.4%と高くなっている。「1回も体験したことがない」では〈宇都宮市〉が23.2%と高くなっている。

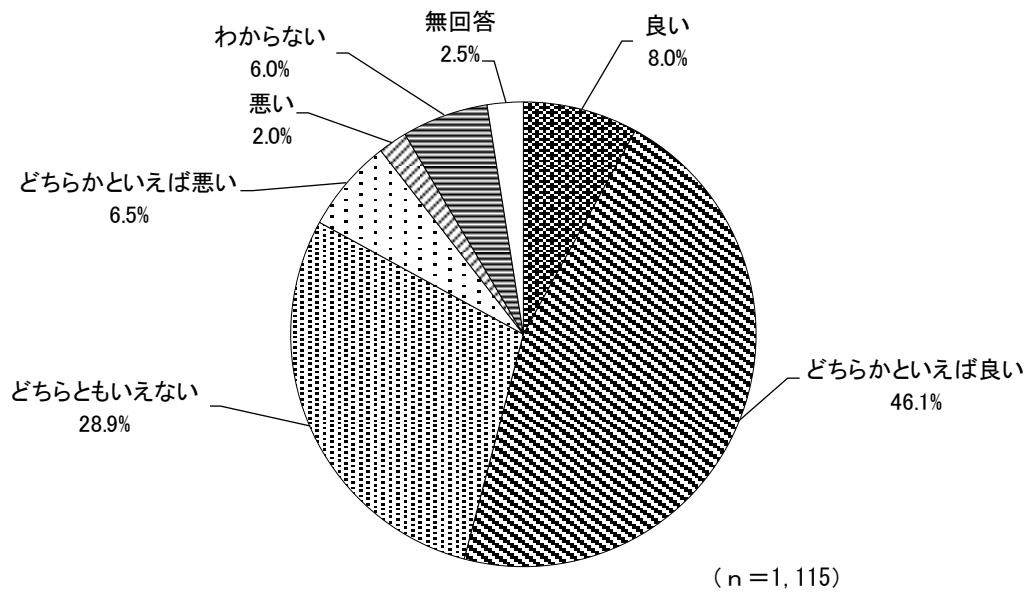
## 15 犯罪と治安対策について

### (1) 県内の治安状況への認識

問41 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

[n=1,115]

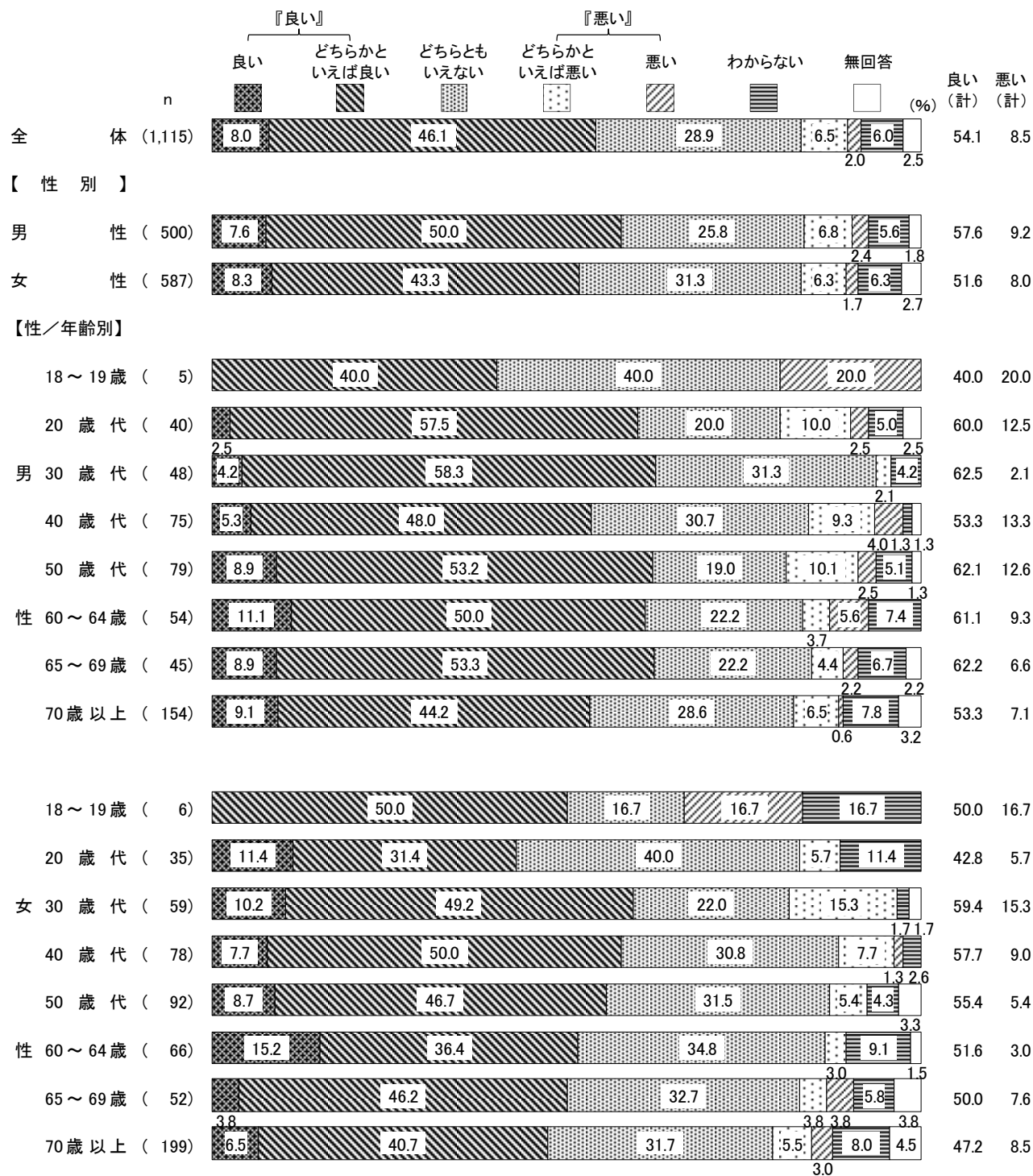
1 良い	8.0%	4 どちらかといえば悪い	6.5%
2 どちらかといえば良い	46.1	5 悪い	2.0
3 どちらともいえない	28.9	6 わからない	6.0
		(無回答)	2.5



全体でみると、「良い」(8.0%)と「どちらかといえば良い」(46.1%)の2つを合わせた『良い』(54.1%)が5割台半ば近くとなっている。一方、「どちらかといえば悪い」(6.5%)と「悪い」(2.0%)の2つを合わせた『悪い』(8.5%)が1割近くとなっている。また、「どちらともいえない」(28.9%)が3割近くとなっている。

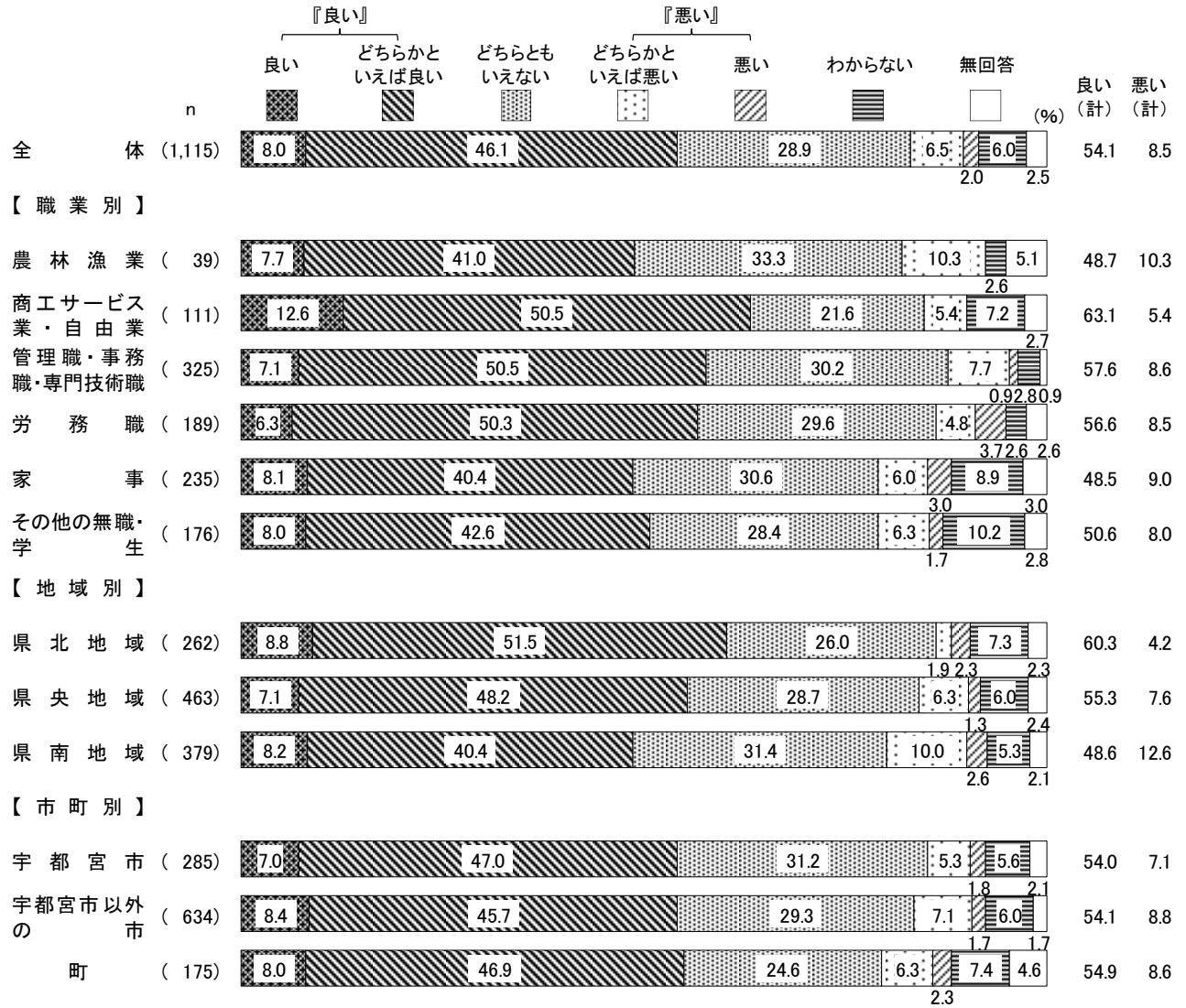


[性別・性／年齢別]



性別でみると、『良い』では〈男性〉(57.6%)が〈女性〉(51.6%)より6.0ポイント高くなっている。  
 性／年齢別でみると、「どちらかといえば良い」では〈男性30歳代〉が58.3%、〈男性20歳代〉が57.5%と高くなっている。「どちらともいえない」では〈女性20歳代〉が40.0%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別]



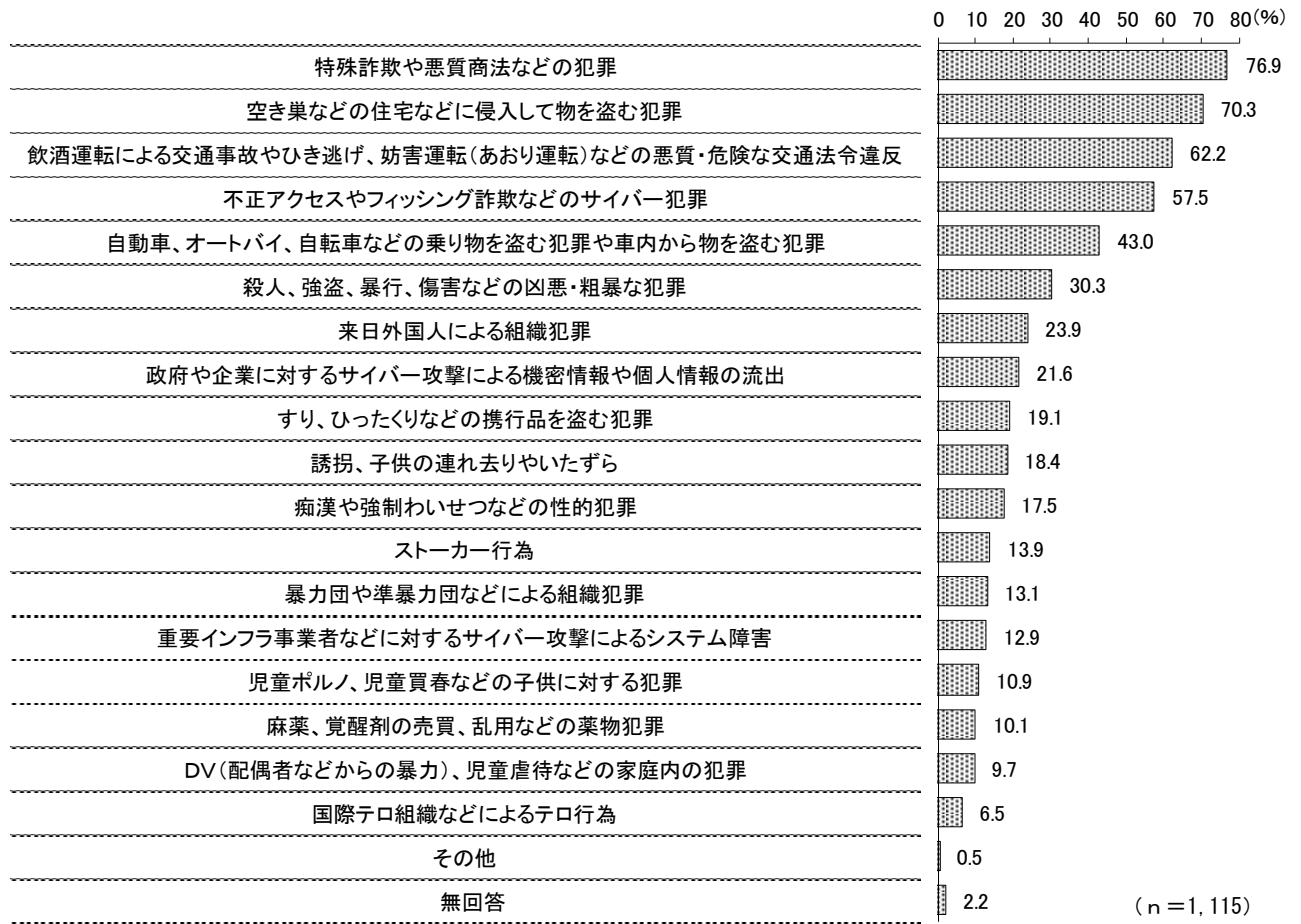
職業別でみると、『良い』では〈商工サービス業・自由業〉が63.1%と高くなっている。  
 地域別でみると、『良い』では〈県北地域〉が60.3%と高くなっている。  
 市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

## (2) 不安を感じる犯罪

問42 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

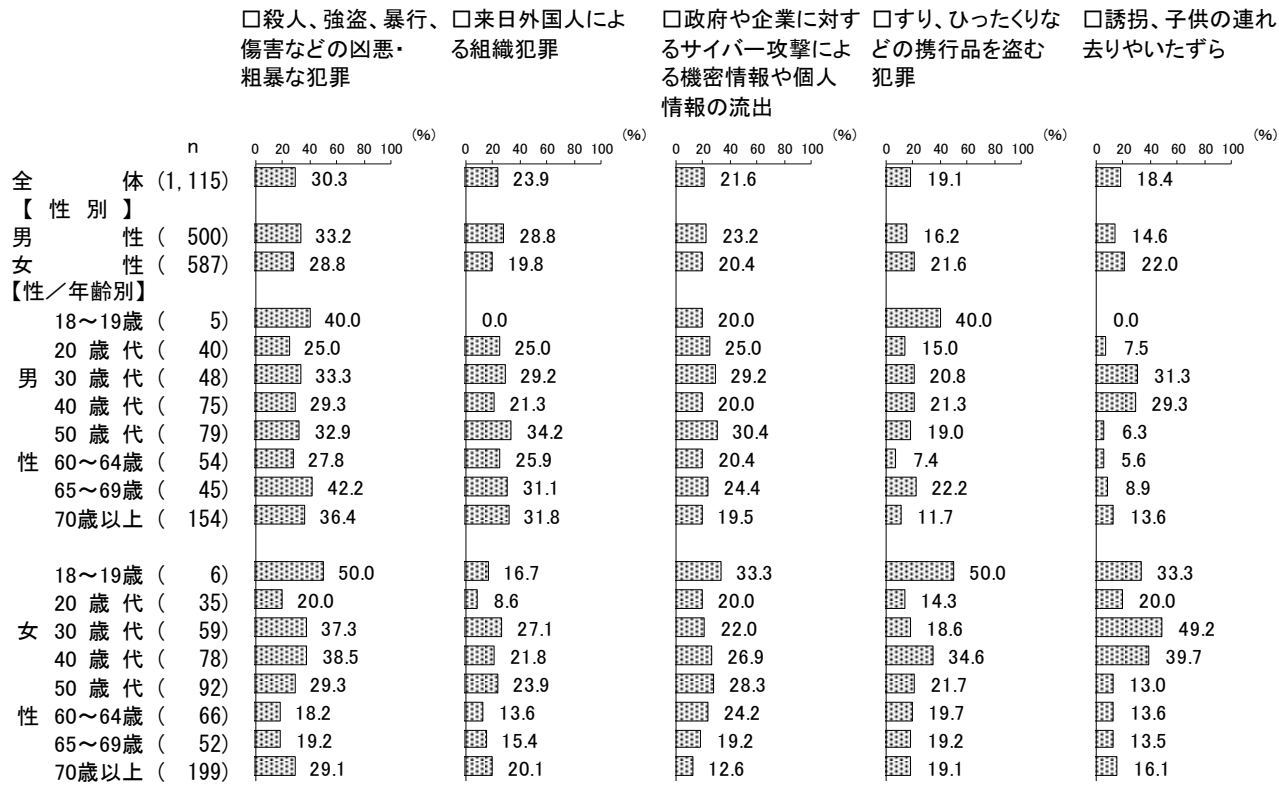
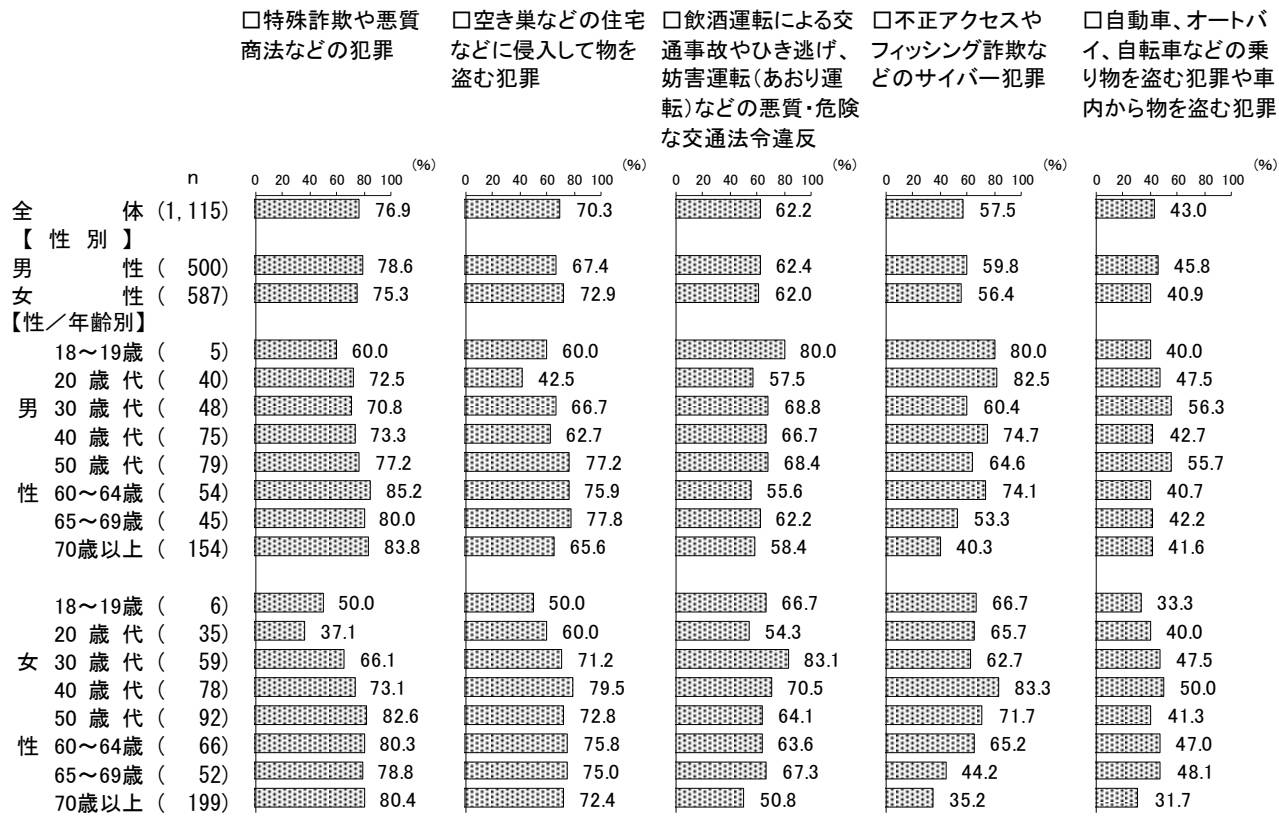
1	特殊詐欺や悪質商法などの犯罪	76.9%
2	不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪	57.5
3	飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反	62.2
4	殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪	30.3
5	空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪	70.3
6	自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪	43.0
7	政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出	21.6
8	DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪	9.7
9	誘拐、子供の連れ去りやいたずら	18.4
10	麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪	10.1
11	来日外国人による組織犯罪	23.9
12	すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪	19.1
13	児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪	10.9
14	痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪	17.5
15	重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害	12.9
16	ストーカー行為	13.9
17	国際テロ組織などによるテロ行為	6.5
18	暴力団や準暴力団などによる組織犯罪	13.1
19	その他	0.5
	(無回答)	2.2

【令和5(2023)年】



全体で見ると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」(76.9%)が7割台半ばを超えて最も高く、次いで「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」(70.3%)、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反」(62.2%)、「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」(57.5%)、「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」(43.0%)の順となっている。

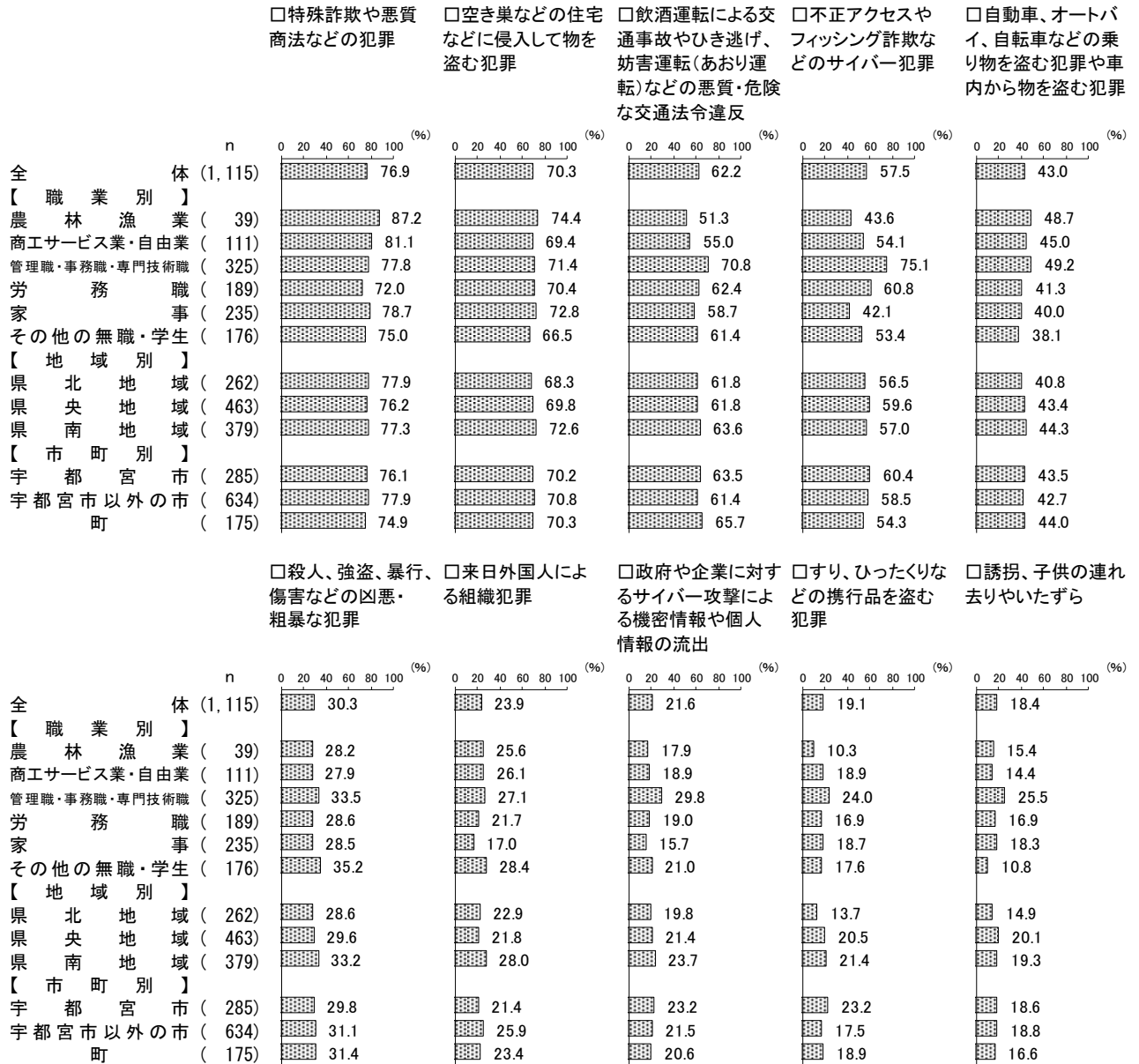
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別で見ると、「来日外国人による組織犯罪」では〈男性〉(28.8%)が〈女性〉(19.8%)より9.0ポイント高くなっている。一方、「誘拐、子供の連れ去りやいたづら」では〈女性〉(22.0%)が〈男性〉(14.6%)より7.4ポイント高くなっている。「空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪」では〈女性〉(72.9%)が〈男性〉(67.4%)より5.5ポイント高くなっている。「すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪」では〈女性〉(21.6%)が〈男性〉(16.2%)より5.4ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反」では〈女性30歳代〉が83.1%と高くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈女性40歳代〉が83.3%と高くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈男性30歳代〉が56.3%と高くなっている。「殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪」では〈男性65～69歳〉が42.2%と高くなっている。「来日外国人による組織犯罪」では〈男性50歳代〉が34.2%と高くなっている。「すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪」では〈女性40歳代〉が34.6%と高くなっている。「誘拐、子供の連れ去りやいたずら」では〈女性30歳代〉が49.2%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)



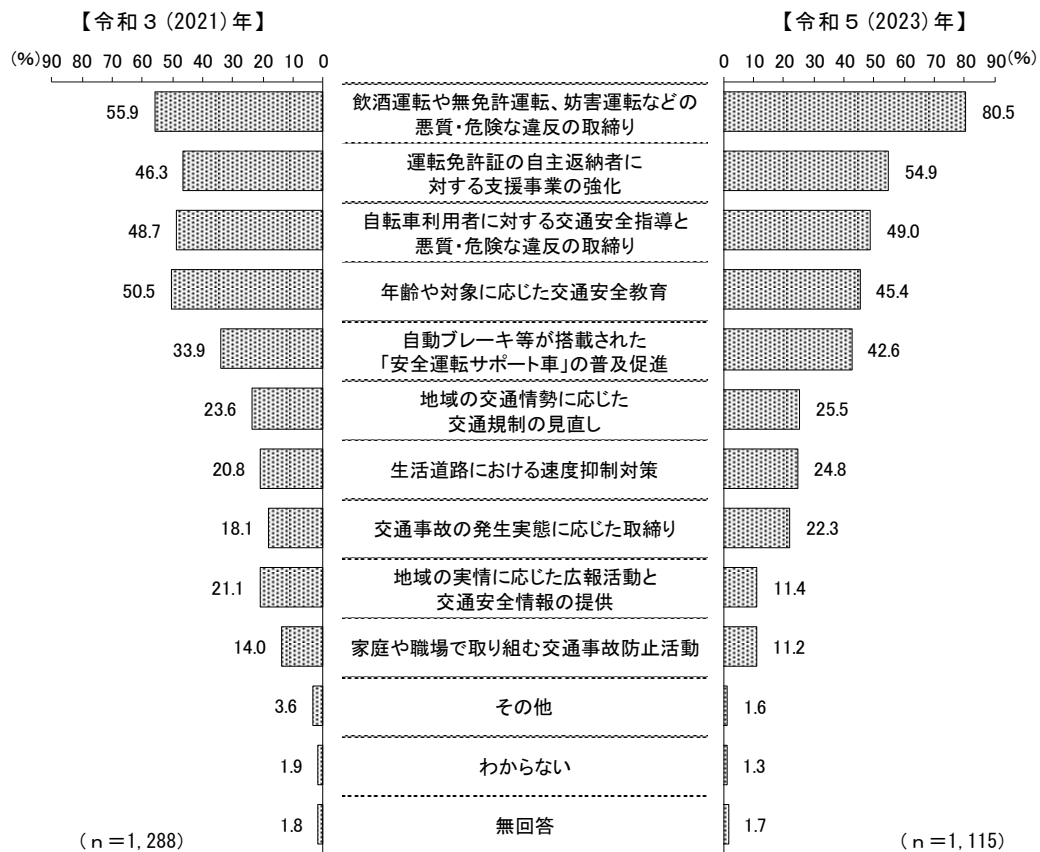
職業別でみると、「特殊詐欺や悪質商法などの犯罪」では〈農林漁業〉が87.2%と高くなっている。「飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転(あおり運転)などの悪質・危険な交通法令違反」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が70.8%と高くなっている。「不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が75.1%と高くなっている。「自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が49.2%と高くなっている。「政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が29.8%と高くなっている。「誘拐、子供の連れ去りやいたずら」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が25.5%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

### (3) 交通事故を抑止するための対策

問43 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。次の中からいくつでも選んでください。 [n=1,115]

1	飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り	80.5%
2	年齢や対象に応じた交通安全教育	45.4
3	自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り	49.0
4	運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化	54.9
5	自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進	42.6
6	地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し	25.5
7	地域の实情に応じた広報活動と交通安全情報の提供	11.4
8	生活道路における速度抑制対策	24.8
9	交通事故の発生実態に応じた取締り	22.3
10	家庭や職場で取り組む交通事故防止活動	11.2
11	その他	1.6
12	わからない	1.3
	(無回答)	1.7

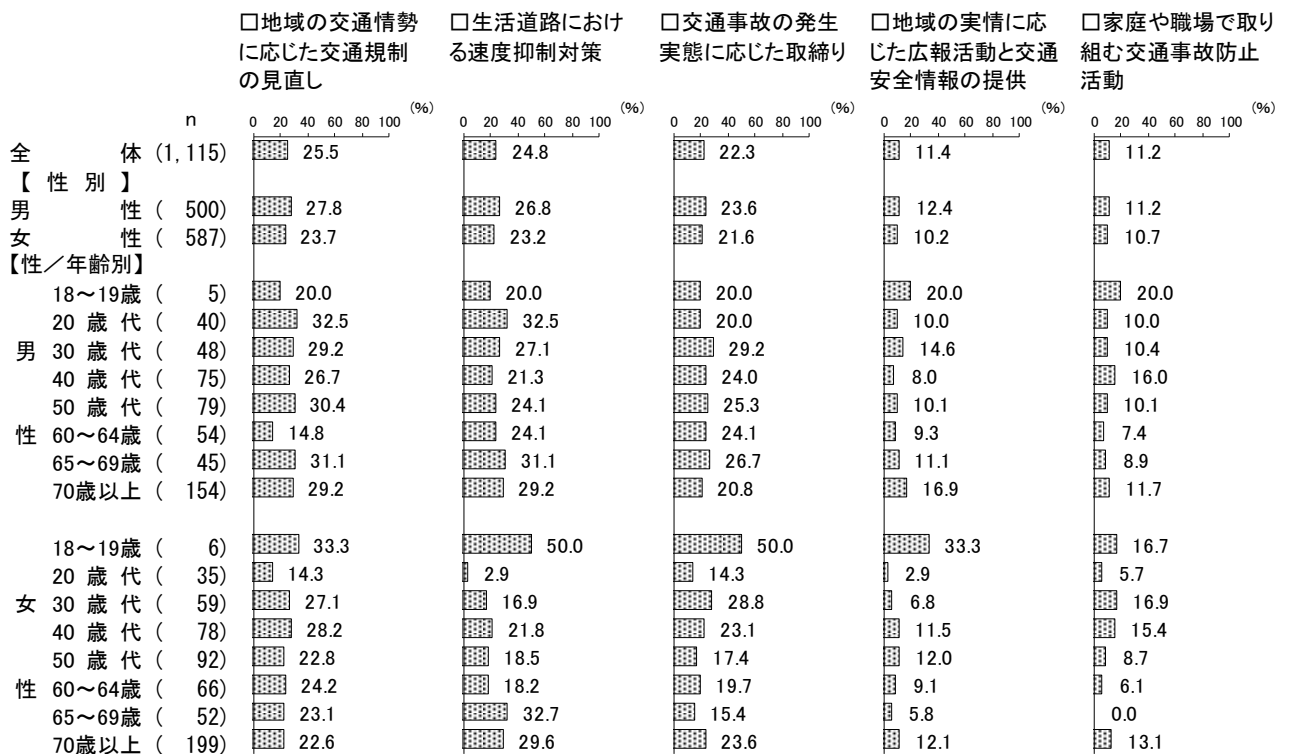
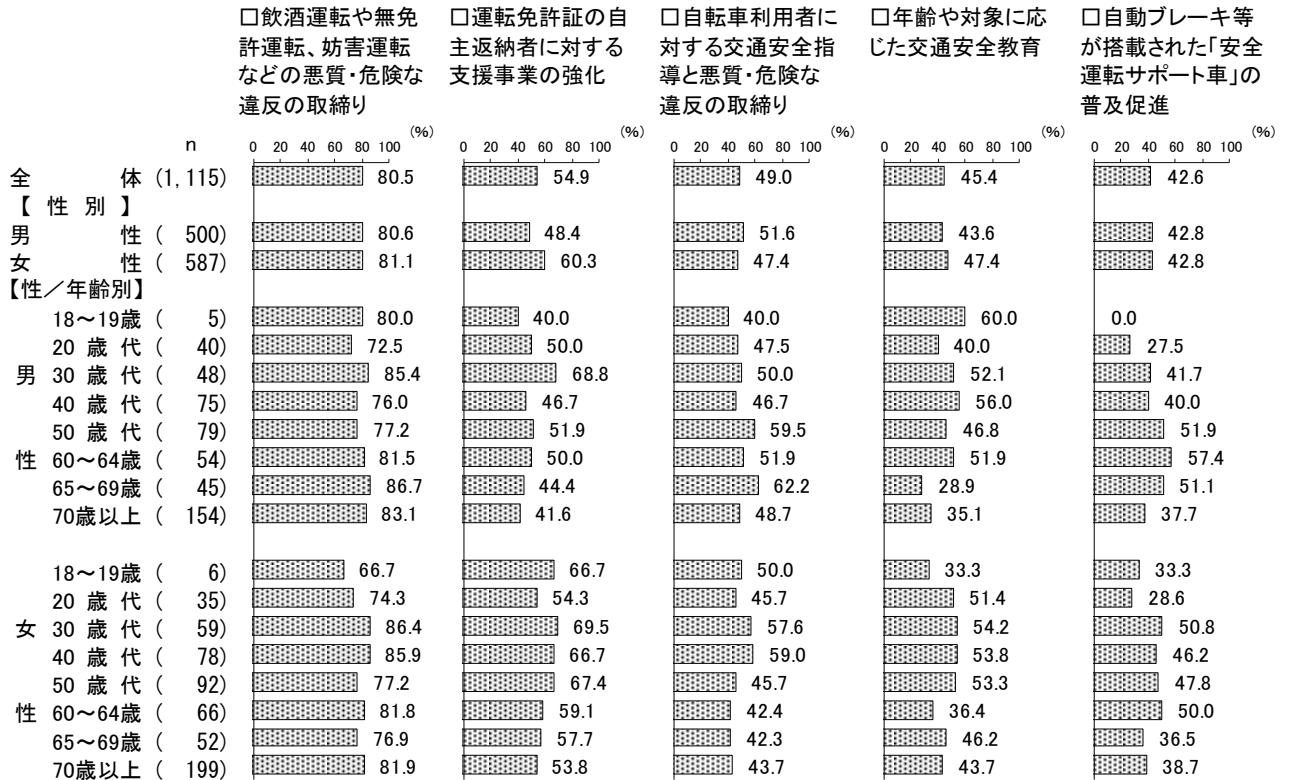


全体でみると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」(80.5%)が約8割で最も高くなっている。次いで、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」(54.9%)、「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」(49.0%)、「年齢や対象に応じた交通安全教育」(45.4%)、「自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進」(42.6%)の順となっている。



前々回（令和3（2021）年）の調査結果と比較すると、「飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り」が24.6ポイント、「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」が8.7ポイント、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」が8.6ポイント、それぞれ増加している。一方、「地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供」が9.7ポイント減少している。

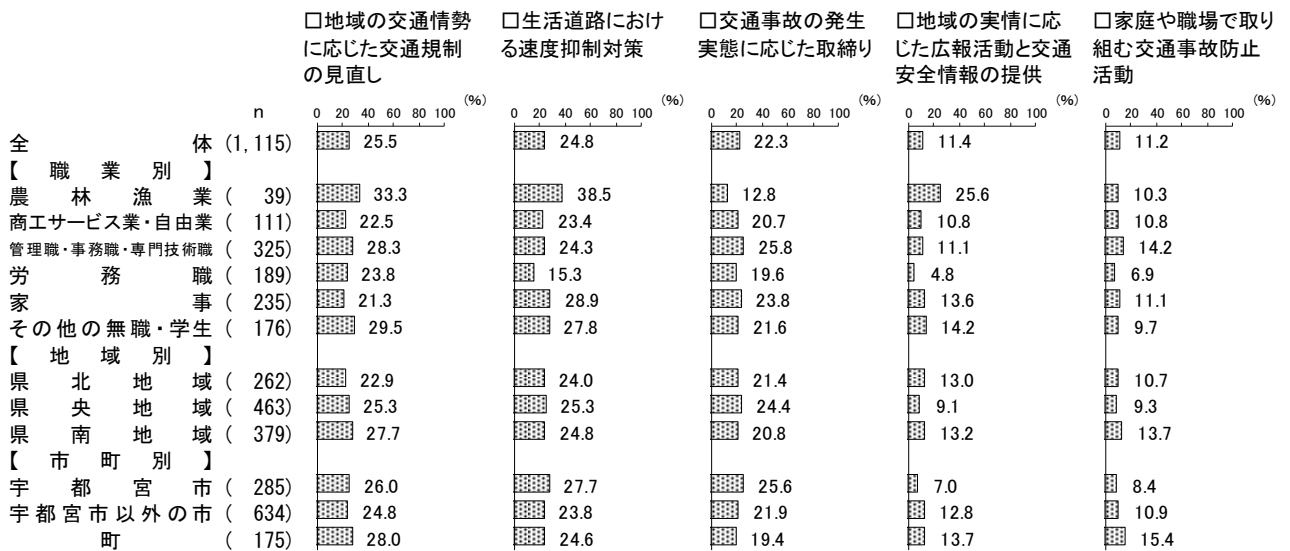
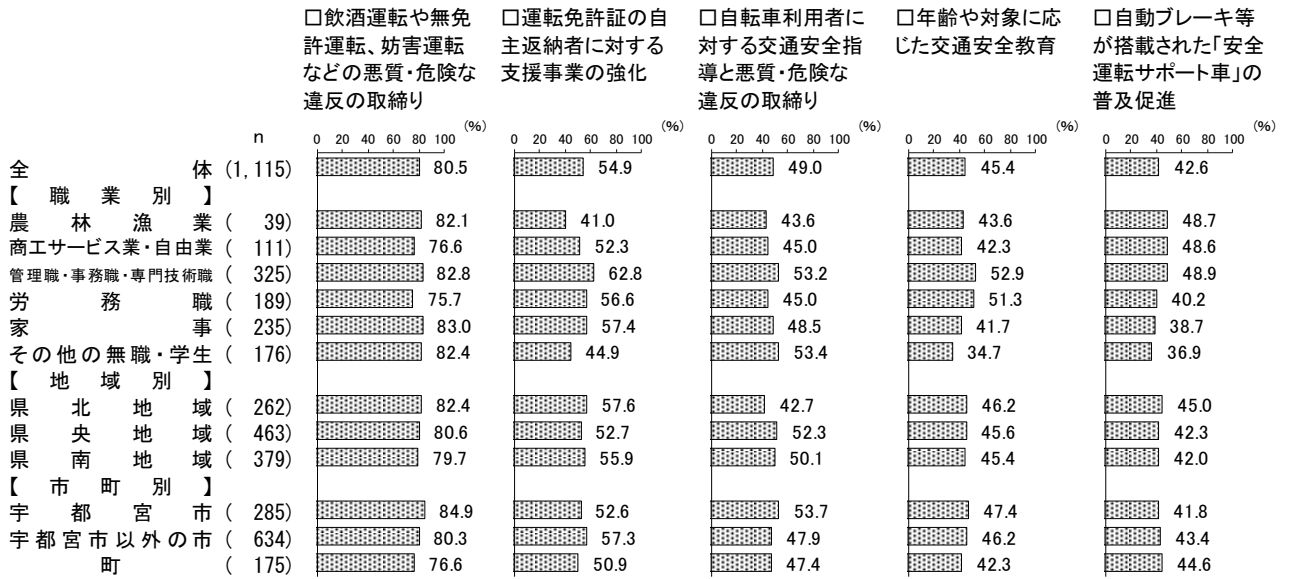
[性別・性／年齢別] (上位10項目)



性別でみると、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈女性〉(60.3%)が〈男性〉(48.4%)より11.9ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈女性30歳代〉が69.5%と高くなっている。「自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り」では〈男性65～69歳〉が62.2%と高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈男性40歳代〉が56.0%と高くなっている。「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」では〈男性60～64歳〉が57.4%と高くなっている。

[職業別・地域別・市町別] (上位10項目)



職業別でみると、「運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が62.8%と高くなっている。「年齢や対象に応じた交通安全教育」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が52.9%と高くなっている。「自動ブレーキ等が搭載された『安全運転サポート車』の普及促進」では〈管理職・事務職・専門技術職〉が48.9%と高くなっている。「地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し」では〈農林漁業〉が33.3%と高くなっている。「生活道路における速度抑制対策」では〈農林漁業〉が38.5%と高くなっている。「地域の实情に応じた広報活動と交通安全情報の提供」では〈農林漁業〉が25.6%と高くなっている。

地域別・市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。



## V 調查票





## 栃木県政世論調査

令和5（2023）年6月

＜ ご回答にあたってのお願い ＞

○ 令和5年6月30日(金)までにご回答をお願いします。

ご回答いただいた県政世論調査結果は様々な計画等の策定に活用されます。  
一部の回答でも結構です。皆様のご意見をお聴かせください。

どちらかを選んでご回答ください

【インターネットで回答する場合】

回答用ID： \_\_\_\_\_

パスワード： \_\_\_\_\_

・別紙「インターネットでの回答方法」をご覧ください。

【郵送で回答する場合】

・ お答えは、1つだけ回答していただくものと、複数回答していただくものがありますので、説明に従って回答してください。1つだけ回答していただくものは、当てはまる選択肢の番号を囲むように○印をつけてください。例) ①  
複数回答していただくものは、回答欄に当てはまる番号を記入してください。

また、お答えが「その他」に当てはまる場合は、( )内にその内容を具体的に記入してください。

・ ご記入いただきました調査票は、3つ折りにして同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、ポストに投函してください。（お名前やご住所の記入は不要です）

※回答期限の1週間前頃に、調査票を郵送したすべての方に御協力のお礼とお願いのハガキを送付予定です。行き違いで回答いただいた場合はご容赦ください。







### [文化・芸術活動について]

問7 あなたが日ごろ行っている文化・芸術活動（鑑賞を含む）は、どのようなものですか。  
次の中からいくつでも選んでください。

- |   |                                       |   |
|---|---------------------------------------|---|
| 1 | 文学、音楽、絵画、陶芸、写真、演劇、舞踊などの芸術活動           |   |
| 2 | 映画、漫画、アニメーション、CGなどのメディア芸術活動           |   |
| 3 | 雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊などの伝統的芸能活動             |   |
| 4 | 講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱などの芸能活動              |   |
| 5 | 茶道、華道、書道、食文化、和洋裁、盆栽、園芸、囲碁、将棋などの文化活動   |   |
| 6 | 年中行事、伝統工芸、伝統芸能などの地域の伝統的文化の保存・継承に関する活動 |   |
| 7 | 文化遺産の保護・活用に関する活動                      |   |
| 8 | その他（                                  | ） |
| 9 | 何も行っていない                              |   |

### [スポーツ活動について]

問8 あなたは、この1年間にどの程度運動やスポーツ（※）を行いましたか。  
次の中から1つ選んでください。

※ 運動やスポーツには、ウォーキング（散歩、ぶらぶら歩き、一駅歩きなど）、階段昇降（2アップ3ダウンなど）、ジョギング、水泳、体操（ラジオ体操、エアロビクスなど）、室内運動器具を使ってする運動、レクリエーションスポーツ（フライングディスク、スポーツチャンバラなど）、ゲートボール、登山、ゴルフ、釣り、サイクリングのほか、子どもとの体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすことなどを含みます。

- |   |                  |   |                  |
|---|------------------|---|------------------|
| 1 | 週に3日以上（年151日以上）  | 4 | 3か月に1～2日（年4～11日） |
| 2 | 週に1～2日（年51～150日） | 5 | 年に1～3日           |
| 3 | 月に1～3日（年12～50日）  | 6 | 運動やスポーツを行わなかった   |

### [住んでいる地域について]

問9 あなたは、住んでいる地域にこれからも住み続けたいと思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

- |   |           |
|---|-----------|
| 1 | そう思う      |
| 2 | ややそう思う    |
| 3 | あまりそう思わない |
| 4 | そう思わない    |
| 5 | どちらともいえない |

### 〔社会貢献活動について〕

問10 あなたは、この1年間に社会貢献活動（※）に参加しましたか。また、今後参加したいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

※ 社会貢献活動とは、例えば、募金、寄附、プルタブ・エコキャップなどの物品収集、公園清掃などの活動、ボランティアやNPO（非営利活動団体）活動、コミュニティ活動、自治会、育成会などの地域活動などをいいます。

- 1 参加した。また今後も参加したい
- 2 参加したが、今後参加するかどうかわからない
- 3 参加したが、今後参加するつもりはない
- 4 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加したい
- 5 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するかどうかわからない
- 6 参加していないが、過去に参加したことがあり、今後参加するつもりはない
- 7 今まで参加したことはないが、今後参加したい
- 8 今まで参加したことはなく、今後も参加するかどうかわからない
- 9 今まで参加したことはなく、今後も参加するつもりはない

### 〔県政に関する情報の入手方法の把握について〕

問11 あなたは、県の事業や催し、案内などの情報をどのような方法でお知りになりますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 広報紙「とちぎ県民だより」
- 2 テレビ
- 3 ラジオ
- 4 県ホームページ
- 5 SNS（LINE、Twitter、Facebook等）
- 6 新聞
- 7 ニュースサイト（下野新聞 SOON、Yahoo!ニュース、スマートニュース等）
- 8 ポスターやチラシ
- 9 その他（）
- 10 県の情報は知らない

問12 あなたは、県のどのような情報を知りたいですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                   |                               |
|-------------------|-------------------------------|
| 1 県事業の内容や進捗状況     | 6 県の観光・レジャー情報                 |
| 2 申請や届出などの事務手続の情報 | 7 防災・災害情報                     |
| 3 各種調査結果や統計資料     | 8 その他（ <input type="text"/> ） |
| 4 県の行事や催しなどのお知らせ  | 9 特になし                        |
| 5 県の歴史や文化、伝統工芸    |                               |

【栃木県への愛着と誇りについて】

問13 あなたは、「栃木県」に対してどの程度愛着を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 とても愛着がある | 4 あまり愛着がない  |
| 2 やや愛着がある  | 5 まったく愛着がない |
| 3 どちらでもない  |             |

(問13で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください)

→ 問14 あなたが愛着を感じる理由は何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 地元の祭りや行事に参加したから          |
| 2 家庭や学校で地域の良さを教えられたから      |
| 3 郷土の歴史や文化が素晴らしいと感じるから     |
| 4 他の地域に住んでみて栃木県の良さに気づいたから  |
| 5 住み慣れているから                |
| 6 人と人とのつながりを感じるから          |
| 7 環境や食事が自分に合っているから         |
| 8 テレビ番組や新聞で栃木県が取り上げられたから   |
| 9 県外の友人・知人から栃木県のことをほめられたから |
| 10 県内の観光地を訪れたから            |
| 11 県の特産品を食べたり飲んだりしたから      |
| 12 栃木県出身の人が活躍した場面を見たから     |
| 13 その他 ( )                 |
| 14 特に理由がない、理由を考えたことがない     |

問15 あなたが栃木県の魅力として自慢できるものは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1 山・川・湖などの自然     | 12 郷土料理やご当地グルメなどの食 |
| 2 温泉・宿泊施設        | 13 人のやさしさやおもてなし    |
| 3 公園やレジャー施設      | 14 方言・なまり          |
| 4 スポーツ施設         | 15 住みやすさ・生活環境      |
| 5 商店街や商業施設       | 16 都心へのアクセスの良さ     |
| 6 博物館・美術館などの文化施設 | 17 ご当地キャラクター       |
| 7 祭や伝統芸能・イベント    | 18 プロスポーツやスポーツ選手   |
| 8 景観や街並み         | 19 栃木県出身の著名人・有名人   |
| 9 歴史文化遺産         | 20 その他 ( )         |
| 10 伝統工芸品         | 21 特にない            |
| 11 農産物           |                    |

## [SDGs(エスディージーズ)について]

問16 あなたは、SDGs(エスディージーズ)という言葉を知っていますか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 知っている
- 2 知らない(今回の調査で初めて知った)

(問16で選択肢「1」を選んだ方のみお答えください)

→ 問17 SDGs(エスディージーズ)について、どのようなことを知っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 国連で決められた2030年を期限とする世界共通の目標である
- 2 SDGsを表すロゴ・アイコンがある
- 3 17のゴール(目標)がある
- 4 ゴール(目標)を達成するための169のターゲットがある
- 5 経済、社会、環境の3側面が調和した、持続可能で誰一人取り残さない社会の実現を目指している
- 6 ゴール(目標)の達成に向けて、行政、企業、NPO、個人一人ひとりに至るまで、あらゆる主体の行動が求められている
- 7 17のゴール(目標)の内容を知っている

(参考) SDGsのロゴ・アイコン

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS



## 【地域防災について】

問18 あなたの家庭では、災害に対してどのような備えをしていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1 消火器の設置              | 8 感震ブレーカー (※) の設置・点検 |
| 2 火災警報器の設置            | 9 避難経路や避難場所、避難所の確認   |
| 3 家具の転倒防止対策           | 10 県や市などの防災メールへの登録   |
| 4 ガラスの飛散防止対策          | 11 自宅付近の危険箇所の把握      |
| 5 飲料水や食料の備蓄           | 12 その他 ( )           |
| 6 携帯ラジオ、懐中電灯、医薬品などの準備 | 13 特に何もしていない         |
| 7 非常持ち出し用品の衣類や毛布などの準備 |                      |

※ 感震ブレーカーとは、地震の揺れをセンサーが感知し、あらかじめ設定しておいた震度以上の場合に電力の供給を遮断する器具をいいます。

問19 あなたは、災害の際に必要な情報について、どのようなことを知っていますか。

次の中からいくつでも選んでください。

- |                                     |
|-------------------------------------|
| 1 高齢者等避難、避難指示、緊急安全確保等（5段階の警戒レベル）の意味 |
| 2 自宅近くの避難所と安全な避難経路                  |
| 3 自宅が土砂災害警戒区域に含まれているかどうか            |
| 4 自宅が浸水想定区域に含まれているかどうか              |
| 5 災害用伝言ダイヤルの番号や使い方                  |
| 6 特にない                              |

問20 あなたは、県や市町、自治会、企業などが行っている防災訓練に参加したことがありますか。

また、今後参加したいと思いませんか。次の中から1つ選んでください。

- |                            |
|----------------------------|
| 1 参加したことがあります、また参加したい      |
| 2 参加したことはあるが、また参加したいとは思わない |
| 3 参加したことはないが、機会があれば今後参加したい |
| 4 参加したことはなく、今後も参加したいとは思わない |

## [男女平等意識について]

問21 あなたは、現在、社会全体の中で、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。  
次の中から1つ選んでください。

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

問22 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」との考え方について、どのように思いますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 賛成
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 反対
- 5 わからない

問23 あなたは、現在、働く場において、男女の地位はどの程度平等になっていると思いますか。  
次の中から1つ選んでください。（現在働いていない方も、イメージでお答えください。）

- 1 男性の方が優遇されている
- 2 どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- 3 平等になっている
- 4 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- 5 女性の方が優遇されている
- 6 わからない

残り半分まる♪♪



## 【とちぎの元気な森づくり県民税について】

問24 森林には、様々な働きがあります。あなたが特に重要だと考える森林の働きはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 山崩れなどの災害を防止する働き
- 2 雨水を蓄え、洪水や渇水を防ぐ働き
- 3 二酸化炭素を吸収し、地球温暖化を防止する働き
- 4 空気をきれいにしたり、騒音を和らげるなど環境を快適に保つ働き
- 5 生活に必要な木材や燃料チップ、きのこなどを供給する働き
- 6 多様な生物の生育・生息の場としての働き
- 7 自然に親しみ、人の心を和ませ安らぎを与える働き
- 8 自然と人との関わりを学ぶなどの教育の場としての働き
- 9 その他 ( )
- 10 わからない

問25 栃木県では、「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して、本県の森林を元気な姿で将来へ引き継いでいくための様々な取組を行っています。

「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組の中で、あなたが特に重要と思うものはどれですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 高齢化した森林の若返りを進めるため、伐採後の植栽や下草刈り、シカによる苗木の被害など獣害対策への支援をすること
- 2 手入れのできない針葉樹林を管理の容易な広葉樹林へ転換していくこと
- 3 通学路等の見通しを良くしたり、イノシシなどの野生獣を人里に近付けないようにするため、身近な里山林の整備を支援すること
- 4 里山林で活動するボランティアの育成や、地域での森づくり活動等への支援をすること
- 5 所有者や境界が不明な森林を適正に管理していく仕組みをつくること
- 6 森林の働きや「とちぎの元気な森づくり県民税」の取組を普及啓発すること
- 7 わからない





## 【気候変動対策について】

問26 近年、地球温暖化による気候変動の影響と思われる事象などが、栃木県でも発生しています。あなたが強く感じている気候変動による影響は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

- 1 農作物の品質低下や不作
- 2 水質の悪化
- 3 渇水の増加
- 4 野生生物や植物の生息域の変化
- 5 洪水などの自然災害の増加
- 6 熱中症の増加
- 7 感染症の増加（デング熱など）
- 8 自然資源を活用したレジャーへの影響（雪山、森林など）
- 9 交通や水道などのインフラ・ライフラインへの影響（豪雨による浸水や停電など）
- 10 ヒートアイランド現象

問27 気候変動に対処するためには、二酸化炭素などの温室効果ガス排出量削減のための取組（緩和策）を行うことが必要です。あなたは、緩和策の長期的な目標である「カーボンニュートラル」という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 知っている
- 2 知らない（今回の調査で初めて知った）

※カーボンニュートラルとは、温室効果ガスの「排出量」から、森林などによる「吸収量」を差し引いて、温室効果ガス排出量を実質的にゼロにする考え方で、栃木県では、2050年までのカーボンニュートラル実現を目指し、県や事業者・県民の皆さんのオールとちぎで取り組んでいく行動などを条例に定めています（栃木県カーボンニュートラル実現条例：令和5年4月1日施行）。



### [地域のつながりについて]

問29 あなたは現在、ご近所（両隣など）の方とどのような関係ですか。

次の中から1つ選んでください。

- 1 家族構成や人となりなどもよく知っていて、親しく付き合っている
- 2 顔と名前が分かり挨拶をする程度である
- 3 ほとんど、もしくは全く付き合っていない

問30 日常生活で困ったときに、家族・親族以外で相談できるところ（相手）はどこ（誰）ですか。

次の中からいくつでも選んでください。

- 1 知人・友人
- 2 隣近所の人
- 3 民生委員・児童委員
- 4 班長・自治会長
- 5 社会福祉協議会
- 6 市役所・町役場（子育て支援センターや地域包括支援センター等の相談窓口を含む）
- 7 福祉サービス事業者（社会福祉法人、NPO法人等）
- 8 学校の先生・スクールカウンセラー（卒業後を含む）
- 9 職場の上司・同僚
- 10 その他（SNSを含む）
- 11 相談できるところ（相手）はない

### [地域活動について]

「地域活動」とは、地域の課題等を解決しながら自分たちが住んでいる地域を住みやすく、より良い地域に変えていく営みのことです。例えば、自治会（町内会）、老人会、婦人会、子ども会育成会、青年団、小・中学校 PTA、社会福祉協議会、体育協会、ボランティア団体、NPO 法人等による活動があります。

問 31 あなたの住んでいる地域では、地域活動が活発に行われていますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 活発に行われている
- 2 あまり活発ではない
- 3 わからない

問 32 あなたは、地域活動に参加していますか。次の中から1つ選んでください。

- 1 参加している
- 2 興味はあるが、参加していない
- 3 興味がないので、参加していない

## 【ケアラーについて】

問33 あなたは、「ケアラー」（18歳未満のヤングケアラーを含む。）（※）という言葉を知っていますか。次の中から1つ選んでください。

※ 栃木県では、全てのケアラーが個人として尊重され、社会から孤立することなく、安心して生活することができる地域社会の実現に向けて、令和5年4月に栃木県ケアラー支援条例を施行しました。この条例において、「ケアラー」とは、「高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する」方と定義しており、「ヤングケアラー」とは、このうち18歳未満の方をいいます。

- 1 聞いたことがあり、内容も知っている
- 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 3 聞いたことはない

問34 今後、あなたがケアラー当事者となる可能性について、どのようにお考えですか。あなたの考えに最も近いものを、次の中から1つ選んでください。

- 1 実際に介護、看護等を行っている
- 2 自分がケアラーになる可能性は、十分にあると思う
- 3 自分がケアラーになる可能性は、あまりないと思う
- 4 自分がケアラーになる可能性は、ないと思う

問35 ケアラーが社会から孤立することなく、安心して生活するために、今後、どのような支援策が必要だと考えますか。次の中からいくつでも選んでください。

- 1 地域や社会でケアラーを支える意識の醸成（広報や啓発活動等の実施）
- 2 ケアラーが不安や悩みを相談できる窓口の設置・充実
- 3 ケアラーが一時的に休息をとれるようなサービスの充実
- 4 ケアラー同士が集まり情報交換などができる場の充実
- 5 介護等の専門職に対するケアラー支援についての研修の充実等、ケアラーを支える人材の育成
- 6 教育関係者と福祉関係者の連携による支援体制の整備
- 7 福祉・医療・保健関係者の連携による支援体制の整備
- 8 家族や地域の支え合い
- 9 勤務する企業や職場の管理者の理解
- 10 職場の同僚等のサポート

### [食の安全・安心について]

問36 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |            |             |
|------------|-------------|
| 1 大いに感じている | 3 あまり感じていない |
| 2 多少は感じている | 4 全く感じていない  |

(問36で選択肢「1」、「2」を選んだ方のみお答えください)

→問37 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。

- |                    |                                |
|--------------------|--------------------------------|
| 1 食中毒              | 10 遺伝子組換え食品                    |
| 2 食品添加物            | 11 輸入食品                        |
| 3 いわゆる「健康食品」       | 12 BSE (牛海綿状脳症)                |
| 4 放射性物質            | 13 高病原性鳥インフルエンザ                |
| 5 重金属 (カドミウム・水銀など) | 14 体細胞クローン牛・豚                  |
| 6 残留農薬             | 15 家畜等の医薬品                     |
| 7 食物アレルギー          | 16 環境ホルモン (内分泌かく乱化学物質)         |
| 8 賞味期限・消費期限        | 17 フードテック (ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等) |
| 9 原産地              | 18 その他 ( )                     |

問38 あなたは、食の安全に関する正しい知識や情報を得られていると感じていますか。次の中から1つ選んでください。

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1 大いに得られている | 3 あまり得られていない |
| 2 多少は得られている | 4 全く得られていない  |

### [食に関する意識と実践について]

問39 あなたは、お米や野菜、果物などの生鮮食品を購入する際、国産や県産など産地を意識して選んでいますか。次の中から1つ選んでください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 いつも選んでいる  | 3 あまり選んでいない |
| 2 ときどき選んでいる | 4 全く選んでいない  |

問40 あなたは、田植えやいちご狩り、乳搾りなど、農業体験をしたことがありますか。次の中から1つ選んでください。

- |                    |
|--------------------|
| 1 今までに複数回体験したことがある |
| 2 今までに1回体験したことがある  |
| 3 1回も体験したことがない     |

## [犯罪と治安対策について]

問41 あなたは、県内の治安についてどう感じますか。次の中から1つ選んでください。

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1 良い         | 4 どちらかといえば悪い |
| 2 どちらかといえば良い | 5 悪い         |
| 3 どちらともいえない  | 6 わからない      |

問42 社会が変化する中、あなたが、自分や身近な人が被害に遭うかもしれないと不安になる犯罪などは何ですか。次の中からいくつでも選んでください。

- |   |
|---|
| 1 特殊詐欺や悪質商法などの犯罪                              |
| 2 不正アクセスやフィッシング詐欺などのサイバー犯罪                    |
| 3 飲酒運転による交通事故やひき逃げ、妨害運転（あおり運転）などの悪質・危険な交通法令違反 |
| 4 殺人、強盗、暴行、傷害などの凶悪・粗暴な犯罪                      |
| 5 空き巣などの住宅などに侵入して物を盗む犯罪                       |
| 6 自動車、オートバイ、自転車などの乗り物を盗む犯罪や車内から物を盗む犯罪         |
| 7 政府や企業に対するサイバー攻撃による機密情報や個人情報の流出              |
| 8 DV（配偶者などからの暴力）、児童虐待などの家庭内の犯罪                |
| 9 誘拐、子供の連れ去りやいたずら                             |
| 10 麻薬、覚醒剤の売買、乱用などの薬物犯罪                        |
| 11 来日外国人による組織犯罪                               |
| 12 すり、ひったくりなどの携行品を盗む犯罪                        |
| 13 児童ポルノ、児童買春などの子供に対する犯罪                      |
| 14 痴漢や強制わいせつなどの性的犯罪                           |
| 15 重要インフラ事業者などに対するサイバー攻撃によるシステム障害             |
| 16 ストーカー行為                                    |
| 17 国際テロ組織などによるテロ行為                            |
| 18 暴力団や準暴力団などによる組織犯罪                          |
| 19 その他（ <span style="float: right;">）</span>  |

問 43 交通事故を抑止する上で、あなたはどのような対策が効果的だと思いますか。  
次の中からいくつでも選んでください。

- 1 飲酒運転や無免許運転、妨害運転などの悪質・危険な違反の取締り
- 2 年齢や対象に応じた交通安全教育
- 3 自転車利用者に対する交通安全指導と悪質・危険な違反の取締り
- 4 運転免許証の自主返納者に対する支援事業の強化
- 5 自動ブレーキ等が搭載された「安全運転サポート車」の普及促進
- 6 地域の交通情勢に応じた交通規制の見直し
- 7 地域の実情に応じた広報活動と交通安全情報の提供
- 8 生活道路における速度抑制対策
- 9 交通事故の発生実態に応じた取締り
- 10 家庭や職場で取り組む交通事故防止活動
- 11 その他 ( )
- 12 わからない

残りもう少しまる！  
よろしくおねがいするまる☆☆



**【あなたご自身やご家族について】**

最後に、お答えいただいたことを統計的に分析するため、あなたご自身やご家族についてお答えください。

F 1 あなたの性別は。

1 男性
2 女性
3 回答しない

F 2 あなたの年齢は、次の中のどれに当てはまりますか。

1 18歳～19歳	3 30歳～39歳	5 50歳～59歳	7 65歳～69歳
2 20歳～29歳	4 40歳～49歳	6 60歳～64歳	8 70歳以上

F 3 あなたの職業は、次の中のどれに当てはまりますか。

(自営・家族従業)		(勤めている)		(無 職)	
1 農林漁業	2 商工サービス業・自由業	3 管理職・事務職 ・専門技術職	4 労務職	5 家事	6 その他の無職 ・学生

F 4 あなたは、栃木県でお生まれになりましたか。

1 はい	2 いいえ
------	-------

F 5 あなたは、栃木県に通算して何年お住まいですか。

1 1年未満	4 5年～9年
2 1年～2年	5 10年～19年
3 3年～4年	6 20年以上

F 6 現在、あなたのご住居は、次の中のどれに当たりますか。

1 持家の一戸建	5 民間の賃貸アパート・マンション
2 持家の集合住宅（分譲マンションなど）	6 社宅・官舎
3 借家の一戸建	7 その他
4 公社・公営の賃貸住宅	( )



F 7 あなたがお住まいの周囲の環境は、次の中のどれに当たりますか。

1 農山村	3 商店街
2 住宅地	4 その他 ( )

F 8 あなたがお住まいの地域は、次の中のどれに当たりますか。

1 県北地域 (日光市、大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町)
2 県央地域 (宇都宮市、鹿沼市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町、壬生町)
3 県南地域 (足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、野木町)

F 9 あなたのご住所は、次の中のどれに当たりますか。

1 宇都宮市	2 宇都宮市以外の市	3 町
--------	------------	-----

◎長時間にわたり、ご協力ありがとうございました。お手数ですが、添付の返信用封筒 (切手不要) に入れて、6月30日 (金) までにご投函ください。



150

栃木県誕生150年  
みんなで創る、未来のとちぎ



**栃木県誕生150年**  
みんなで創る、未来のとちぎ

栃 木 県 政 世 論 調 査

令和5（2023）年10月

栃木県総合政策部広報課

宇都宮市塙田1-1-20

電話（028）623-2158